長野県松本市

松本城三の丸跡

DOIJIRI

土居尻

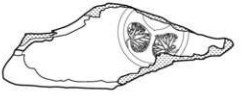
－第１次発掘調査報告書－

（遺構編・遺物編２　第１分冊）

DAIMYOCHO

大名町

－第３次発掘調査報告書－



2023.12

松本市教育委員会

例　言

1　本書は、平成３年度と令和元年度に実施した、長野県松本市大手２丁目・３丁目に所在する松本城三の丸跡の土居尻第１次発掘調査報告書（遺構編・遺物編１）と大名町第３次発掘調査報告書である。

2　土居尻第１次調査については、平成14年３月に刊行された『松本城三の丸跡土居尻第１次緊急発掘調査報告書～遺物編２（木器編）～』において、４分冊構成を予定していたが、大名町第３次調査と合わせて整理作業（一部再整理）を実施し２分冊構成となったものである。

3　本調査は、松本市による（仮称）大手駐車場建設事業（平成３年度）・基幹博物館整備事業（令和元年度）に伴う緊急発掘調査であり、松本市教育委員会が発掘調査、整理・報告書作成を実施した。

4　本書の執筆分担は次のとおりである。

第Ⅱ章・第Ⅳ章第２節・第Ⅴ章第７節を髙山いず美、第Ⅴ章第１節を大西理美、第Ⅴ章第２節を伊藤祓之介、第Ⅴ章第３・４節・第Ⅵ章を壬生量子、第Ⅴ章第８節を西村奈美、その他を原田健司が行った。

5　本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。

遺物洗浄・注記・保存処理・接合復元　市川二三夫・佐々木正子・竹内直美、洞澤文江

遺物実測・トレース・拓本

（土器・陶磁器）赤羽幸子・大西理美・竹内直美・竹平悦子・辻章江・直井知導・前沢里江・柳澤千代美
株式会社こうそく

（瓦）竹内直美・前沢里江　**（木製品）**富岡享子・丸山恵・壬生量子　**（石製品）**白鳥文彦・直井知導・原田健司

（金属製品）赤羽幸子・古幡大治朗・前沢里江・柳澤千代美　**（その他遺物）**竹平悦子、直井知導

遺物実測図版組　竹平悦子・直井知導・原田健司・髙山いず美・壬生量子

第Ⅴ章第７節の表作成　西村奈美　**遺構図整理・トレース・版組・一覧表作成**　荒井留美子

写真撮影（遺構）髙山いず美・原田健司・壬生量子　**（空中写真・オルソ画像）**株式会社アンドー

（遺物）壬生量子（漆器顕微鏡写真）、宮嶋洋一

DTP・編集　原田健司　**その他**　竹内靖長、竹原学、廣田早和子、宮島義和、吉澤せり子の助力を得た。

6　本書で用いた略記は次のとおりである。

松本城三の丸跡土居尻第１次調査→土居尻１、松本城三の丸跡大名町第３次調査→大名町３、第○検出面→○検、第○号建物跡→建○、第○号溝状遺構→溝○、第○号土坑→土○、第○号ピット→Ｐ○、第○号焼土範囲→焼土○、第○号木樋・竹管→木樋・竹管○、第○号井戸跡→井戸○、第○号埋設甕→甕○

7　図中で使用した方位は真北を示す。なお、図表中には調査時に設定した任意の座標系の数字を用いた箇所がある。国家座標との対応関係は第Ⅲ章第１節・第Ⅳ章第１節を参照されたい。

8　本書では以下のものを遺構図にスクリーントーンで表した。

焼土　粘土　・━・━ 撹乱　－－－ 推定ライン

9　土層色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』に準拠している。

10　土器・陶磁器実測図の断面の塗り分けは、白：土師質土器、黒：陶磁器・瓦質土器である。

11　石製品の一部について、信州大学大塚勉特任教授による石材鑑定を受けた。

12　発掘調査実施と報告書作成にあたり次の方々からご指導、ご助言をいただいた。記して感謝申しあげる。

市川隆之、大橋康二、河西克造、金子健一、後藤芳孝、嶋谷和彦、住田正、髙山優、中川治雄、中嶌茂、松井一明、山下峰司、山本文子、綿田弘実、関西近世考古学研究会

13　引用・参考文献は、各節の最後に記載した。

14　本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市中山3738-1　TEL 0263-86-4710　FAX 0263-86-9189）に収蔵・保管されている。

目　次

例言
目次
第Ⅰ章　調査の経過
　第１節　調査の経緯 …… 5
　第２節　調査体制 …… 5
第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史
　第１節　地理的環境 …… 7
　第２節　歴史的環境 …… 10
第Ⅲ章　調査成果（土居尻１）
　第１節　調査の概要 …… 15
　第２節　遺構 …… 16
第Ⅳ章　調査成果（大名町３）
　第１節　調査の概要 …… 57
　第２節　遺構 …… 58
第Ⅴ章　遺物
　第１節　土器・陶磁器 …… 90
　第２節　瓦 …… 151
　第３節　木製品 …… 157
　第４節　漆器・漆工用具 …… 164
　第５節　石製品 …… 168
　第６節　金属製品 …… 175
　第７節　ガラス製品・その他材質製品 …… 181
　第８節　自然遺物 …… 184
第Ⅵ章　漆器の考察 …… 186
第Ⅶ章　調査のまとめ …… 193
写真図版
報告書抄録

図１　調査地に建つ新博物館の外観（令和５年10月７日開館）

第Ⅰ章　調査の経過

第１節　調査の経緯

1　平成３年度（土居尻１）

松本市による（仮称）大手駐車場建設事業が計画され、周知の埋蔵文化財包蔵地である松本城跡（三の丸土居尻）に計画された。そのため松本市教育委員会（以下「市教委」という。）では、試掘調査を実施したところ、遺構・遺物が確認されたため、開発担当部局（松本市商工課）と遺跡保護協議を行い、破壊が避けられない範囲について発掘調査を実施し、記録による遺跡の保存を図ることとした。土地所有者の承諾書が市教委へ提出され、発掘調査を市教委が実施した。

現地での発掘調査は、平成３年４月９日から平成３年７月19日の期間まで実施した。調査終了後、平成３年７月22日付で長野県教育委員会（以下「県教委」という。）に発掘調査終了報告書を提出した。また平成３年７月22日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、平成３年８月26日付で県教委より埋蔵物文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。

平成４年度に一部の成果のみを掲載した概要報告書を刊行した。概要報告にとどめざるを得なかった理由は、整理用テンバコ120箱以上に達した膨大な出土遺物の整理作業にかかる費用、作業スペース、人員確保などが困難で、報告書刊行まで長期に及ぶ見込みであったからである。概要報告書刊行後も継続的に整理作業を続けた結果、平成13年度に「遺物編２（木器編）」の報告書を刊行するに至った。その後、平成31年度に同調査地を含め一帯が再開発されることになり、発掘調査（大名町３）を実施したため、その整理作業と合わせ令和３年度から本次調査分の整理作業を再開したものである。

2　令和元年度（大名町３）

上記市営駐車場北棟跡地において松本市による基幹博物館整備事業が計画され、周知の埋蔵文化財包蔵地である松本城跡（三の丸大名町）に計画された。そのため市教委では、開発担当部局と遺跡保護協議を行い、破壊が避けられない範囲について発掘調査を実施し、記録による遺跡の保存を図ることとした。なお、開発範囲のおおよそ西側半分は、市営松本城大手門駐車場建設に先立ち上記のとおり平成３年度に記録保存が図られている。土地所有者の承諾書が市教委へ提出され、発掘調査を市教委が実施した。

現地での発掘調査は、平成31年４月15日から令和２年２月14日まで実施した。調査終了後、令和２年３月24日付で県教委に発掘調査終了報告書を提出した。また令和２年２月21日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、令和２年３月３日付で県教委より埋蔵物文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。それを受け令和２年９月２日付で出土文化財譲与申請書を県教委に提出し、令和２年９月８日付で出土文化財の譲与についての通知を受けた。

第２節　調査体制

〈平成３年度（土居尻１）〉

調査団長：松村　好雄（松本市教育長）

調査担当：竹内靖長（主事）、伊丹早苗（嘱託）、市川　温（同）、和田政雄（同）

指導者：桐原　健

調査員：松尾明恵、宮嶋洋一

発掘協力者

因幡美津子、青木俊江、青木雅志、赤沼淳夫、赤沼哲子、赤羽包子、荒木潮彦、飯田三男、五十嵐周子、石合英子、

井上優、太田千尋、大谷成嘉、大塚袈裟六、岡部登喜子、荻野目竹男、荻野目良子、小沢公洋、小沢松栄、開嶋八重子、上條尚美、神沢ひとみ、北沢達二、窪田由美、久根下三枝子、小池愛子、小池直人、小岩井美代子、奥喜義、小松正子、斉藤節子、斉藤延子、斉藤政雄、新谷禮子、瀬川長弘、袖山勝美、武田次良、竹田寿子、竹田徹、武田睦恵、田口吉重、田中幸子、谷本達治、堤加代子、鶴川登、出井久美子、出井建二、出井志都子、戸部清和、戸部慶隆、直井ヌガ子、中沢美登子、中島新嗣、中村恵子、中村安雄、中村文一、西村好、服部寛、花岡芳昭、林昭雄、原田賢一、平林薫、藤井源吾、藤井久子、藤井マツエ、藤沢ミツ、藤本嘉平、洞沢文江、牧久雄、松井恵美子、松尾さだ子、丸山恵子、三沢元太郎、三井千明、宮本清志、村松到子、村山牧枝、甕国成、百瀬二三子、森井柳三郎、山口卓美、横山恒雄、横山真理、横山保子、吉田勝、米山泰正、和田裕一

〈平成 4 年度（土居尻 1 概要報告書刊行）〉

調査団長：守屋立秋（松本市教育長）

調査担当：竹内靖長（主事）

調査員：宮嶋洋一

〈平成 13 年度（土居尻 1 報告書 - 遺物編 2（木器編）- 刊行）〉

調査団長：竹淵　公章（松本市教育長）

報告担当者：竹内靖長（主任）、太田万喜子（嘱託）、廣田早和子（二種臨時）

整理協力者：林和子、福島紀子、松山あずさ、村田昇司

〈令和元年度（大名町 3）〉

調査団長：赤羽郁夫（松本市教育長）

調査担当：原田健司（主事）、吉澤せり子（事務員）、髙山いず美（会計年度任用職員）、壬生量子（同）

発掘協力者

芦澤雅量、太田行信、鹿住浩、加藤朝夫、金井秀雄、川崎勝英、児玉雅世、坂口ふみ代、清水陽子、鈴木高、関口滋、関谷昌也、曽根原裕、田中勇一郎、田中雄次、島井和幸、長岩千晴、西村一敏、林秋好、古屋美江、三谷久美子、道浦久美子

〈令和 3 ～ 5 年度（整理作業）〉

調査団長：伊佐治裕子（松本市教育長）

整理・報告書担当：原田健司（主任）、西村奈美（会計年度任用職員　R5.4 ～）、大西理美（同）髙山いず美（同）、壬生量子（同）、伊藤蔵之介（同　～ R5.3）

調査員：宮嶋洋一

整理協力者

赤羽幸子、荒井留美子、内城悦子、内田和子、小林秀行、佐々木正子、竹内直美、竹平悦子、辻彰江、富岡享子、直井知導、中澤温子、古幡大治朗、洞澤文江、前沢里江、丸山恵、三澤栄子、村山牧江、柳澤千代美

事務局

〈平成 3・4 年度〉

松本市教育委員会社会教育課

荒井　寛（社会教育課長）、田口　勝（課長補佐）、熊谷康治（課係長）、直井雅尚（主事）、関沢　聡（同）、木下　守（同）、久保田剛（事務員）、荒井由美（嘱託）、山岸弥生（同）

〈平成 14 年度〉

事務局：松本市教育委員会文化課

有賀一誠（課長）、熊谷康治（課長補佐　文化財担当係長）、田口博敏（同）、直井雅尚（主査）、武井義正（主任）、久保田剛（主任）、渡邊陽子（嘱託）、塚原祐一（同）

〈令和元・3 ～ 5 年度〉

松本市教育委員会文化財課

大竹永明（課長　～ R2.3）、竹原　学（課長　R2.4 ～）、竹内靖長（埋蔵文化財担当係長　～ R 元 .3）、百瀬耕司（埋蔵文化財担当係長・主査）、草間厚伸（主任・主査　R3.4 ～）、吉見寿美恵（会計年度任用職員）

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史

第１節　地理的環境

１　松本城周辺の地形・地質

松本城が位置する松本盆地は、南北約 50㎞、東西約 10㎞、西部の北アルプスおよび東部の筑摩山地に挟まれた南北に長い盆地である。中心市街地は海抜 600m の等高線が円形に取り囲み、市内で最も標高が低くなっている。ここに田川・女鳥羽川・薄川などの河川が流れ込み、複合扇状地を形成している。

女鳥羽川は元々稲倉から岡田松岡に流れ、神沢の西から城山の山頂部を流れていたと思われる（古女鳥羽川）。市街地の地盤沈降と城山方面の隆起により川筋がしだいに東側へ移動して水没方面へ流路を変えていったものと考えられ、そのため、女鳥羽川扇状地を開析して右岸には河岸段丘の発達が見られる。市街地の沈降地帯には一時四方から河川が流れ込み、低湿地（深志湖または沼と仮称）が形成された。薄川は三峰山北西斜面に源を発し、大小の支流を集めて西流し、田川に注ぐ。中流部は河岸段丘が発達し、下流部では舟付橋付近を扇頂として扇状地ができている。女鳥羽川扇状地と薄川扇状地の扇端部付近に築城された松本城は、扇状地の伏流水を利用して堀を造り、豊富な地下水や湧水は城内外の水源として利用されてきた。

ボーリング調査の結果によれば、市街地の地盤は地表面付近では河川の礫が、基盤となる第三紀層の上には 100m 前後の河川堆積物がのっている。深さ 40m 以下では、梓川の礫の混入がみられ、深くなるにつれ次第にその量が増加している。

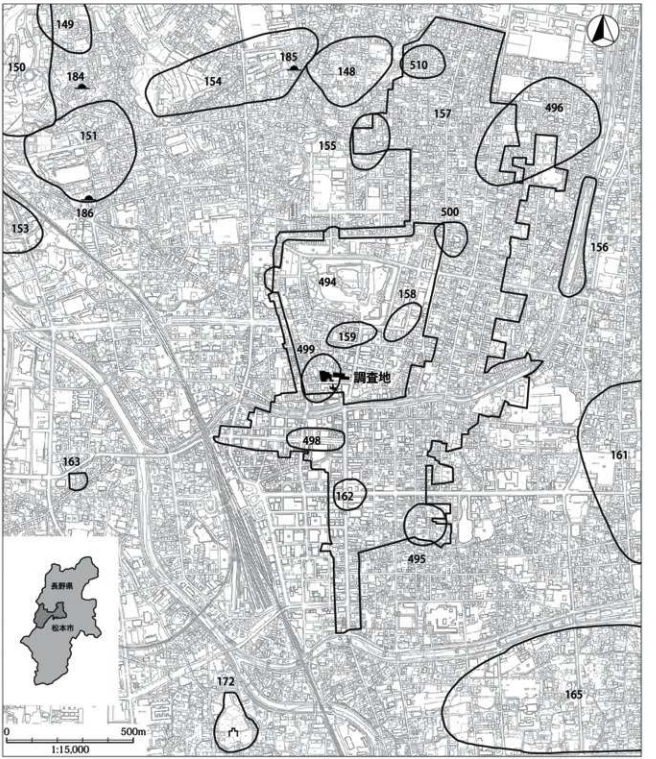
２　調査地点の地形・地質

調査地点は松本市大手２・３丁目にあり、松本城天守の南約 370m、標高約 587m 前後に位置する。南側約 120m の位置には女鳥羽川が西流する。付近の旧地形は、三の丸全体で北東から南西にかけて緩やかに傾斜している。調査地点の現地形は概ね平坦であるが、西側へ緩く傾斜している。

土居尻１北区では、戦国時代末～現代までの整地土層が地山面を最大約 140cm 覆う。基本構成は現地表から -20cm までが砕石等現代の整地土層、-80cm までが明治期以降の整地土層、-140cm が幕末以前の整地土層である。出土遺物から、Ⅰ検は明治期以降、Ⅱ検は 18 世紀後半～幕末、Ⅲ検は 16 世紀末～ 18 世紀、Ⅳ検は 16 世紀後半～ 17 世紀前半であると考えられる。

大名町３では、戦国時代末～現代までの整地土層が地山面を最大 100cm 覆う。基本構成は、現地表から -30cm までが近代以降の建築基礎構造物等に伴う撹乱・砕石であり、地山層を掘り込むものもある。その直下 -30cm ～ -60cm までが幕末～明治期の整地土層、-90cm までが近世の整地土層である。Ⅰ検は幕末～近代、Ⅱ検は松本城築城期（16 世紀末）～幕末以前、Ⅲ検は 16 世紀末頃～ 17 世紀中葉と考えられる。Ⅱ検は出土遺物の時期幅が非常に長く、一方で整地盛土は約 20cm 程度と、土居尻１や他の三の丸跡調査でみられたような近世の厚い造成土と比較するとごく浅い。これは、調査地の旧地形は東側が微高地状であったため、西側では火災や住み替えの際に盛土造成を行ったことに対し、東側の大名町では地面を削平して整地を行ったことによるものと推察される。

土居尻１地点ではⅣ検直下、大名町３地点ではⅢ検直下において、地山である腐食した植物繊維を多く含むシルト層、粘質土層を確認した。大名町３Ⅲ検の遺構からは９世紀代の土器片が出土しており、調査地周辺では古代に何らかの土地利用があったと考えられる。

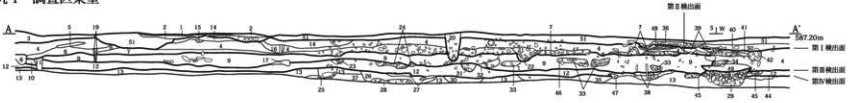


※数字は松本市遺跡台帳記載の遺跡番号

148	沢村遺跡	156	女鳥羽川遺跡	165	筑摩遺跡	496	岡の宮遺跡
149	放光寺遺跡	157	松本城下町跡	172	井川城址	498	伊勢町遺跡
150	犬甘城址	158	丸の内遺跡	184	開き松古墳	499	土居尻遺跡
151	城山腰遺跡	159	大名町遺跡	185	殿頭塚古墳	500	片端遺跡
153	宮渕本村遺跡	161	県町遺跡	186	勢多賀神社裏古墳	510	堂町遺跡
154	蟻ケ崎遺跡	162	本町南遺跡	494	松本城跡		
155	田町遺跡	163	渚城址	495	天神西遺跡		

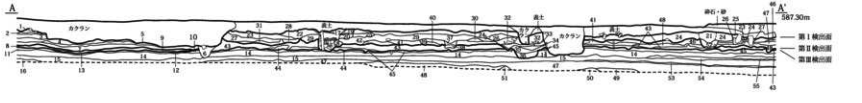
図２　調査地の位置と周辺遺跡 (S＝1/15000)

土居尻１　調査区東壁

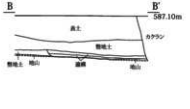


1：暗褐砂礫土（～5cm 礫）　アスファルト下砂礫層
2：暗褐砂礫土　明治以降整地層
3：黄褐砂礫層（～5cm 礫）　明治以降整地層
4：暗灰褐砂礫土（～2cm 礫）第１検出面
5：淡褐砂礫土（炭化物）
6：暗茶褐砂礫土（～20cm 礫）
7：赤褐砂礫土（～5cm 礫）　明治期整地層
8：暗灰褐砂礫土（～20cm 礫・砂粒）
9：灰褐粘質土（砂粒・炭化物）第２検出面
10：灰褐粘質土（砂粒・～5cm 礫・炭化物）第２検出面
11：灰褐粘質土（～10cm 礫・砂粒）第３検出面
12：灰褐粘質土（炭化物・砂粒・鉄分沈殿）第３検出面
13：暗灰粘質土（砂粒）第４検出面
14：暗灰褐砂質土（～5cm 礫・炭化物）第１検出面
15：暗灰粘質土（砂粒）
16：暗褐灰砂礫土（～1cm 礫・炭化物）
17：暗灰褐粘質土（砂粒・炭化物・鉄分）
18：暗灰褐粘質土（炭化物・砂粒）
19：暗茶褐砂質土（～5cm 礫）
20：暗褐砂質土（～5cm 礫）
21：暗灰褐砂質土（～5cm 礫・焼土・炭化物）
22：暗灰褐砂質土（～3cm 礫・炭化物・焼土）
23：暗灰粘質土（赤褐砂質土・～20cm 礫）
24：褐砂質土（～5cm 礫・炭化物）
25：暗灰粘質土（炭化物・砂粒）
26：暗灰粘質土（炭化物・焼土・砂粒）
27：暗茶褐粘質土（木片）第４検出面～掘込ねゴミ穴
28：黄褐砂礫土（～10cm 礫）
29：黄褐砂礫土（～20cm 礫）
30：茶褐粘質土（木片・炭化物）　ゴミ穴
31：茶褐砂質土（～10cm 礫）
32：暗黄褐砂質土（～5cm 礫・炭化物）
33：暗黄褐砂質土（炭砂質土・焼土・炭化物）
34：暗灰砂礫土（～10cm 礫）
35：暗灰粘質土（炭化物・木片・砂粒）　ゴミ穴
36：黄褐砂礫土
37：黒粘質土（植物片）
38：暗灰粘質土（焼土・炭化物地）
39：暗灰褐砂質土（炭化物・焼土・ガラス片）
40：暗灰褐砂礫土（～10cm 礫・炭化物）
41：暗赤褐砂質土
42：暗黄褐砂質土（焼土・炭化物・アスファルト片）
43：暗灰褐砂質土（炭化物・鉄分沈殿）
44：暗灰褐砂礫土（～2cm 礫・鉄分）
45：黄褐砂礫土（～5cm 礫）
46：暗灰褐砂礫土（鉄分）
47：暗灰粘質土（鉄分沈殿）
48：暗褐砂質土（～2cm 礫・ガラス片）
49：暗灰褐砂質土（炭化物）
50：暗褐砂礫土（～5cm 礫）
51：暗褐砂礫土（～5cm 礫 多）

大名町３　調査区南壁



大名町３　調査区南壁西端



A-A'

1：2.5Y3/3 暗オリーブ黒粘質シルト（炭・焼土粒・黄白粒・鉄分粒）
2：2.5Y3/2 黒褐砂質シルト（黄褐砂粒・炭・焼土粒・～1cm 礫）
3：5Y3/1 黒粘質土（赤褐土粒・炭・焼土粒・～3cm 礫）
4：5Y3/1 黒粘質土（～0.5cm 礫・焼土粒・炭）
5：5Y3/2 オリーブ黒シルト質（炭・黄白砂粒）
6：5Y2/1 黒粘質シルト（灰砂粒・黄褐土粒・焼土粒・植物片）
7：2.5Y2/1 黒粘質土（灰砂粒・黒粘質塊）
8：10YR2/1 黒粘質土（灰シルト粒・灰砂粒・植物片）
9：5Y3/1 黒シルト質（植物片）
10：2.5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト（植物片・灰砂粒・灰白シルト粒）
11：2.5Y2/1 黒粘質土（灰砂粒・植物片）
12：2.5Y2/1 黒粘質土
13：5Y3/2 オリーブ黒粘質土（植物片）
14：5Y2/1 黒粘質シルト（黒粘質土粒・植物片・白粒）
15：7.5Y2/1 黒粘質シルト（植物片・灰砂粒）
16：5Y3/1 オリーブ黒砂粒層（黒粘質土粒・植物片）
17：5Y3/2 オリーブ黒シルト質（炭・～1.5cm 礫）
18：5Y3/2 オリーブ黒粘質シルト（鉄分粒）
19：2.5Y3/3 オリーブ褐砂質シルト（黄褐砂粒・炭）
20：2.5Y3/2 黒褐シルト質（黄褐砂粒・～0.5cm 礫）
21：2.5Y3/1 黒褐粘質シルト（黄褐砂粒・～15cm 礫）
22：2.5Y4/2 暗灰黄シルト質（黄砂粒・炭・焼土粒・～3cm 礫）
23：2.5Y3/2 黒褐砂質シルト（黄褐砂粒・炭・焼土粒・黄褐シルト粒・～3cm 礫）
24：2.5Y3/2 黒褐砂質シルト（炭・黄褐シルト粒）
25：2.5Y3/3 明オリーブ黒シルト粒（黄褐砂粒・黄褐土塊・炭）
26：2.5Y3/2 黒褐シルト質（灰砂粒・～10cm 礫・炭）
27：5Y3/1 オリーブ黒シルト質（黄灰砂粒・炭・焼土粒・～3cm 礫）
28：5Y3/1 オリーブ黒シルト質（黄灰砂粒）
29：5Y3/2 オリーブ黒シルト質（黄褐土粒・炭・～1cm 礫）
30：2.5Y5/2 黒褐砂質シルト（黄褐砂粒・炭）
31：5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト（灰砂粒・黄灰砂粒・炭）
32：2.5Y3/2 黒褐砂質シルト（黄褐シルト粒・炭・～5cm 礫）
33：2.5Y2/1 黒粘質シルト（黄褐シルト粒・炭・～1cm 礫）
34：2.5Y3/1 黒粘質シルト（黄褐砂粒・灰砂粒・木片）
35：2.5Y3/1 黒褐粘質シルト（灰砂粒・木片・黒褐シルト粒）
36：2.5Y4/1 炭シルト質（灰砂粒・木片・炭）
37：2.5Y3/2 黒褐シルト質（黄褐シルト粒・炭・焼土粒）
38：2.5Y3/2 黒褐粘質シルト（灰砂粒・木片・～2cm 礫）
39：2.5Y3/2 黒褐粘質シルト（黄褐シルト粒・炭・焼土粒）
40：2.5Y3/2 黒褐粘質シルト（黄褐シルト粒・炭）
41：2.5Y3/2 黒褐粘質シルト（黄褐砂粒・炭・焼土粒）
42：2.5Y3/2 黒褐粘質シルト（黄褐シルト粒・焼土粒）
43：2.5Y3/1 黒褐粘質シルト（灰砂粒・鉄分沈殿）
44：5Y2/ 黒粘質土（灰シルト塊・植物片）
45：2.5Y2/1 黒粘質土（植物片・灰砂粒）
46：2.5Y3/2 黒褐砂質シルト（～3cm 礫・黄灰砂粒・鉄分粒）
47：5Y3/2 オリーブ黒シルト質（灰砂粒・炭シルト塊・植物片）
48：7.5Y4/1 灰砂礫層（鉄分粒・植物片）
49：48 層とほぼ同じ
50：5Y3/2 オリーブ黒砂質シルト（黒褐粘質土塊・植物片）
51：50 層とほぼ同じ
52：2.5Y4/1 黄灰シルト質（黄灰砂粒・～10cm 礫・植物片）
53：5Y2/1 黒粘質土（灰砂粒・植物片）
54：7.5Y2/1 黒粘質シルト（灰シルト塊・植物片）ラミナ層か
55：5Y4/1 灰シルト質（灰白砂粒）

0　S=1/120　4m

図３　土層断面図

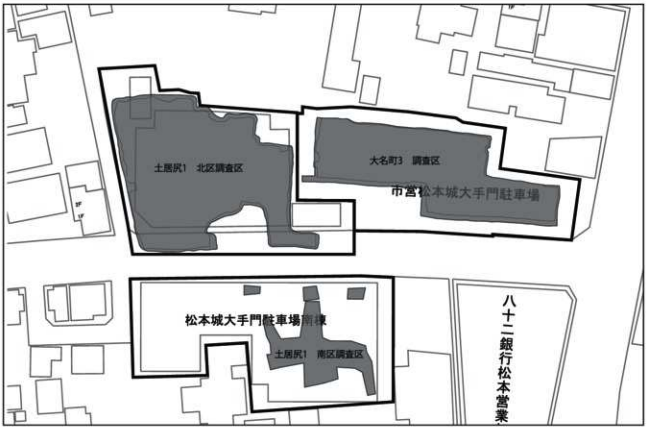


図４　事業対象地と調査区の範囲（S＝1/1000）

第２節　歴史的環境

１　原始～古代の周辺遺跡の概要

丸の内遺跡では日本銀行松本支店建設時に縄文時代中期から後期の土器片、大名町遺跡では縄文時代・中世の遺物、土居尻遺跡では平成 12 年度の調査で古墳時代の集落とみられる遺構を検出している。田町遺跡では縄文時代・古墳時代土器片、本町南遺跡では古墳時代・平安時代土器片、岡の宮遺跡では縄文時代・古墳時代土器片、伊勢町遺跡では中世遺構、片端遺跡では弥生時代土器片、堂町遺跡では古墳時代土器片の出土が現在まで確認されている。また、松本城三の丸跡土居尻５次では、８世紀後半から９世紀後半に帰属する遺物を伴う遺構が松本城三の丸跡内で初めて確認された。近年の三の丸跡の調査でも、松本城三の丸跡大名町２次や松本城三の丸跡土居尻 11 次・16 次で平安時代の土器片を確認している。

２　深志城期

江戸時代、水野氏が編纂した「信府統記」によると、永正元年（1504）に信濃守護小笠原氏の一族である島立右近 (貞永) が、今の松本城辺りに城を移し「深志城」としたと伝えられている。元々は小笠原氏の家臣であった坂西氏が、深志の地に構えていた居館を拡張したと考えられる。この頃小笠原氏の本拠地は井川館 (現在の井川城) から林城へと移転しており、深志城は本拠地を守る城塞の一つとされていた。

天文 19 年（1550）、甲斐の武田晴信 (信玄) が松本平に侵攻以降、深志城は武田氏の信濃侵攻の拠点として拡張整備され、約 32 年間にわたり支配された。この間武田式の城郭整備がなされたとも言われるが、城郭の位置、規模、縄張りなどの詳細は明らかになっていない。近年の発掘調査では、松本城三の丸跡土居

尻２次で 16 世紀前半まで遡る薬研堀が、また松本城三の丸跡大名町１次では 16 世紀末に埋められた堀の跡が確認されているが、深志城に伴うものであるかは定かでない。松本城三の丸跡土居尻５次では、16 世紀代に帰属する遺構・遺物が出土した層位面が、三の丸整備開始以前のものと考えられる。三の丸北東部で行った松本城三の丸跡柳町６次・７次では、近世武家地の下層に 15 世紀末から 16 世紀初頭の遺物を伴う整地層を確認しており、この層からは荷札木簡とみられる木製品も出土している。松本城築城以前のこの一帯は市辻・泥町の推定地にあたり、市があったとされる。このように従来不明とされてきた深志城期の痕跡が少しずつ明らかになっており、今後の調査でより解明が進むことが期待される。

3　松本城築城期

天正 10 年（1582）、武田氏の滅亡および本能寺の変を契機として、小笠原長時の三男貞慶が安曇・筑摩郡を回復し、深志城の名を「松本城」と改め、大規模な城郭整備にとりかかった。「信府統記」には、「*〜其後深志ヲ改メ松本ノ城ト號シ大ニ普請ヲ企テ天正十三年乙酉ヨリ今ノ宿城地割シテ同十五年丁亥マテニ市辻泥町邊ノ町家残ラス本町へ引移シ〜*」と記され、前述の市辻・泥町もこのときに本町へ移されたことがわかる。現在の松本城郭内ならびに城下町の原形はこのとき形成されたと思われるが、実際はどの程度の整備状況であったのかは不明である。その後天正 18 年 (1590) に貞慶の後を継いだ小笠原秀政は、家康の関東移封に伴い、貞慶とともに下総古河へ移された。代わりに豊臣秀吉方の石川数正が入封し、松本の地一円の統治を任された。数正は城の普請や御殿の造営等を行い、その意思を継いだ子康長が天守を建て、郭内外の侍屋敷の整備に加え、総堀を深くし、土塁を築き、ここに近世城郭としての松本城が完成した。

4　近世の松本城

松本城の歴代城主は、石川数正から数え６家 23 人が務めた。石川氏の後は小笠原、戸田、松平、堀田と城主が交代するが在任期間は概ね短い。その後水野氏が６代 83 年間城主として在任、1726 年からは再び戸田氏が治めることとなり、23 代目城主となった光則の代で明治維新を迎えた。

松本城は本丸、二の丸、三の丸の３つの曲輪と、それぞれの曲輪を囲む内堀、外堀、総堀の３重の水堀からなる城郭部分と、その外側に広がる城下町で構成されている。三の丸には家老をはじめとする中級〜上級家臣の屋敷地があり、南には大手門、東・西・北には馬出・門が設けられていたほか、葵馬場や作事所といった藩の施設や陽谷社（松本神社）などが存在していた。藩主がたびたび代われども、総堀より内側の郭内縄張りに大きな改変は行われず、石川氏時代の縄張りが概ね踏襲され続け、現在に至っている。

今回の調査地は三の丸内の南西部、大手門を通り左に折れた土手小路沿いに存在した武家屋敷地に位置する。武家屋敷は武士の身分や役職によって敷地面積や居宅の規模、内部構造、機能などに格段の差がある。城主の交代など様々な要因で住む武士が幾度も変わったため、その度に敷地や建物の配置などが作り変えられている。大名町通りに面した調査地東側には、特に上級武士の屋敷が配置されていた。

享保 13 年 (1728) の絵図では、西から「友成権之丞」、「久米甚五左衛門」、「中村甚左衛門」、「笠井儀兵衛」等の名前が確認できる。18 世紀後半に 250 石を与えられていた大名町の太田庄太夫家の間取りは、屋敷図（図 6）が残されているため敷地面積が 500 坪前後、間口が約 34m、奥行きは南側で最大約 55m もあったことがわかる。その佇まいの様子は、屋敷地の周りを高塀が囲い、大名町に面した表には格式を誇る長屋門がたっていた。広大な敷地に書院造の邸宅をかまえ、そのなかには風雅な数寄屋風の部屋があり、作庭に風流を取りいれるなど、優雅な住生活が営まれていたことをうかがわせる。

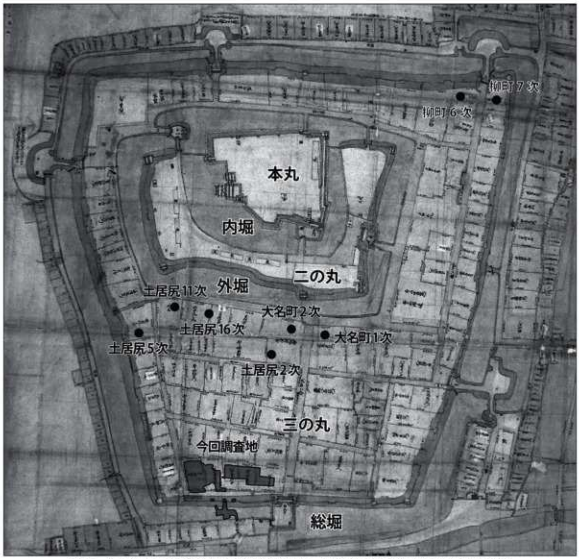


図5 『享保十三年秋改松本城下絵図』（一部加筆・松本市教育委員会所蔵）

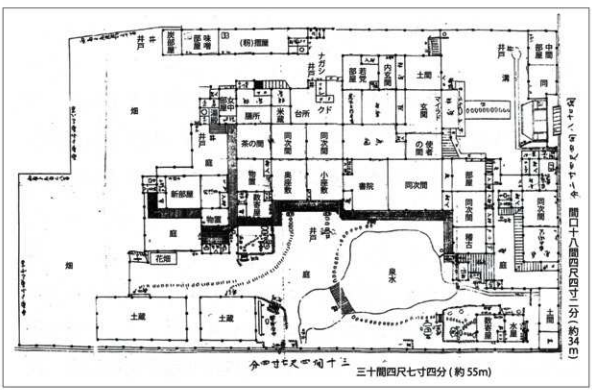


図6 太田庄太夫家の屋敷図（文献4より引用・追記）

5　明治以降の調査地

明治初期作成の絵図（図７）を見ると、「野々山」氏など近世から存在する武家の名前が確認できることから、維新後も引き続き居住していることがわかる。『松本市史』下巻によると、明治９年 10 月に本願寺の出張所が設けられ、明治 13 年に別院に昇格。その際、南総堀や土塁を払下げ埋立敷地としたとされる。明治 15 年に本堂等を竣工、明治 20 年に梵鐘を鋳たが、明治 21 年・23 年に度重なる大火に見舞われ、本堂焼失等の大きな被害があった。その後本堂等は再建され継続、昭和 24 年には本願寺保育園が設置され、昭和 30 年に松本中央幼稚園に改名、昭和 34 年に現在の蟻ケ崎地籍に園舎移転した[文献16]。本願寺自体の移転時期もおそらくこの前後と考えられる。今回の調査では、本願寺松本別院の建築物の痕跡であろう遺構・遺物に加え、子ども用玩具が確認されたことから、土地利用の経緯と発掘調査の成果が一致する結果を得られた。その他、調査地西側付近には近代以降遊郭が存在していたという地元住民の証言を得られた。詳細は文献等では確認できなかったが、政府公認の横田遊郭とは異なる非公認の遊郭だったようである。

本願寺移転後から発掘調査直前までは、宅地や個人商店、駐車場、企業の営業所などが存在していた。

〈引用・参考文献〉

文献１・２　松本市　1933『松本市史』上・下巻

文献３～７　松本市　1995～1997『松本市史』第一巻、第二巻Ⅱ～Ⅳ、第四巻

文献８　江戸遺跡研究会　2001『図説　江戸考古学研究事典』

文献９　笹田雅之　監修・解説　2009『信州松本絵葉書集成』書肆秋櫻舎

文献 10　笹田雅之　2013『近代松本地図集成』書肆秋櫻舎

文献 11　松本市教育委員会　2016『松本城・城下町絵図集』

文献 12　松本市教育委員会　2016『松本城三の丸跡を掘る』松本市文化財調査報告№ 225

文献 13　松本市教育委員会　2019『松本城下町跡本町第８次発掘調査報告書』松本市文化財調査報告№ 234

文献 14　松本市教育委員会　2022『松本城三の丸跡土居尻第５次発掘調査報告書』松本市文化財調査報告№ 246

文献 15　「国宝松本城を世界遺産に」推進対子委員会　2022『松本城のすべて』渓谷文泉閣

文献 16　松本中央幼稚園．"基本情報（あゆみ）"．松本中央幼稚園．
http://www.chuouyouchien.com/aboutus.html,（参照 2023-10-19）

図７　明治時代初期の士族屋敷配置図（『筑摩郡松本図面三枚ノ内』より　松本市立博物館蔵）

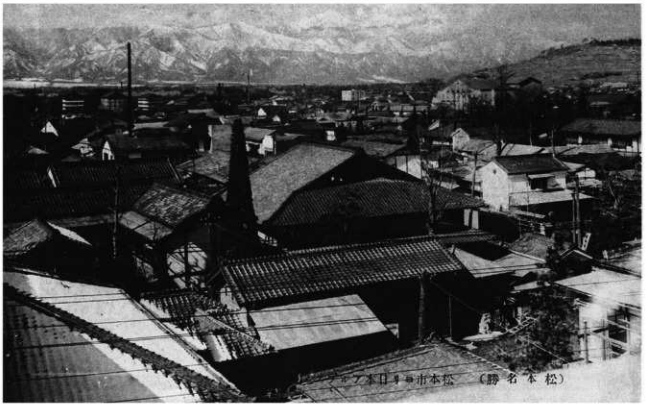


図 8　昭和 10 年頃の本願寺松本別院（写真中央）　南東から撮影 文献 9

図 9　松本市全図（昭和 28 年）文献 10
調査地点に寺院記号が記載されている

図 10　松本市全図（昭和 30 年）文献 10
調査地点から寺院記号が消えている

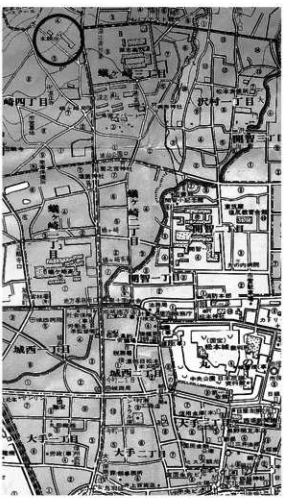


図 11　松本市全図（昭和 45 年）文献 10
現所在地に「本願寺」の名前を確認

第Ⅲ章　調査成果（土居尻 1）

第 1 節　調査の概要

1　調査区の設定

駐車場建設地のうち立体駐車場（北棟・南棟）が建設される範囲を対象とした。

2　発掘手順

パワーショベルを使用して撹乱土を除去し、最上面で検出された生活面をⅠ検とした。その後、人力による検出を行い、検出が完了した遺構から遺構番号を付与し、人力による掘り下げを開始した。なお、遺構番号は、検出面ごとに 1 号から順に付与し、さらに、混乱を避けるために北区Ⅲ検は 301 号から、北区Ⅳ検は 501 号から遺構番号を付与した。掘り下げの終了した遺構は、写真と測量図の作成による記録を行った。すべての遺構の掘り下げと記録が終了した後、重機を使用してⅡ検までの掘り下げを行った。その後、Ⅳ検まで同様の手順を繰り返した。最後に発生土による埋め戻しを行い、発掘調査の現場における工程を終了した。

3　測量・写真記録

遺構測量に係る基準は日本測地系の国家座標を用いたが、本書では大名町 3 と整合させるために世界測地系の座標（第 8 系・東北太平洋沖地震前の値）に変換した。調査地周辺にある街区多角点を基に調査地内に基準点を設置し、これを基に 3m グリッドを設定した。測量基準点は、X=26240.000、Y=-47725.000 を NS0、EW0（大名町 3 と共通）とした。平面図は簡易遣り方測量により作成した。なお、Ⅳ検は、株式会社日研コンサルに委託して写真測量により平面図を作成した。

平面図・断面図の縮尺は 1/20 を原則とし、詳細図が必要なものは 1/10 で作成した。写真は発掘調査の各調査段階と遺構等の遺物出土状況および完掘状況を、一眼レフカメラで撮影した。

4　整理の方法

図面類は平面図・土層断面図の点検・照合を行い、報告書に掲載するものはトレース作業を行った。遺物は洗浄・クリーニングを行った後、土器・陶磁器と瓦は注記（遺跡名、調査次、通し番号、帰属遺構名等）を行い、その他の遺物は台帳登録を行った。その後、遺構とその周辺単位で接合作業を行い、遺存度の良好なものや特徴的な遺物を中心に実測・トレースを行った。

5　調査区と検出面の概要

市営松本城大手門駐車場は道路を挟んで北側と南側の 2 カ所に建設予定であったため、発掘調査も北区と南区に分けて行った。北区は絵図との照合から、武家屋敷地内にあったことから面的な調査を進め、戦国時代末頃から明治時代前半までの 4 つの生活面を検出した。南区は絵図との照合から、南総堀・土塁内であると推定できるため、トレンチ調査を実施し、堀と土坡の位置や規模等を把握した。この調査で確認した堀位置ラインを、駐車場東側店舗前に平面表示した（写真図版 6）。

北区において、Ⅱ検は上層のⅠ検で検出された建物跡や水道遺構の掘方部分等が当該検出面で検出・調査されている例はいくつかあり、整理段階で把握できたものについてはⅠ検に振り替えを行った。また、Ⅰ・Ⅱ検の検出面レベルはわずかであるため、Ⅰ検では検出できなかったが、出土遺物の時期からⅠ検に振り替えた遺構もある。

第２節　遺構

計４面の遺構検出面において、合計 711 の遺構が検出された。土坑・ピットについては、検出段階で長径 50cm以上の遺構を土坑、それ未満のものをピットとした。そのため、遺構掘り下げ中に範囲が広がり、完掘状況が必ずしもこれにあっていないものもある。遺構名等の振替は、遺物保管との整合性のため、基本的には行わないが、異なる検出面で同遺構が異なる遺構名・番号が付されているケースは、上位検出面の遺構に統一したものや各検出面の遺構名称を統一した。また、整理段階で遺構名とその機能に大きな乖離がみられたものはその名称を変更した。

以下、各検出面について特徴的な遺構を中心に詳細を述べていく。

1　北区Ⅰ検の遺構

建物跡６軒、埋設甕 14 基、土坑１基、ピット 16 基、甕 14 基、石列７条、木材１か所を検出した。出土遺物から、当該面は近代の生活面と考えられる。

建１・３・４　胴木の上に栗石を敷き、石列を配置した布基礎である。本址と建２や土１等の基礎の軸はいずれも同じであるため、同一母屋の各部屋であると考えられる。

建２　上記と同様に布基礎であるが、胴木が認められず、栗石と石列のみ確認できた。

建６　４間×３間の礎石立ち建物である。礎石の下部に栗石はなく、直接地面の上に据えられている。位置関係から母屋から離れた場所に建てられた別棟ないし土蔵であったと推測される。

石列Ａ～Ｈ　上記の建物跡の他に７条が確認できている。その位置関係から敷地境（石列Ａ）や排水溝（石列Ｇ・Ｈ）、建物の付属施設（石列Ｂ・Ｅ・Ｆ）等に関わると想定される。

埋設甕　計 14 基が検出された。甕のサイズは規格化されているとみられ、いずれも径は 60cm程を測る。２基ないし３基並ぶものもみられる。用途は便槽用等が考えられる。

木材Ａ　南北方向に延びる布基礎の胴木と思われる。胴木の先には埋設甕が設置されていることや、建１等を含む母屋とは軸が異なることから屋外の厠跡か、別建物の厠跡である可能性が考えられる。

土１　最大幅約 2.7m、深さ約 0.4m を測り、底面から東西に延びる胴木が確認された。後世の攪乱等により上部の栗石や石列が認められず、掘方が非常に不明瞭であるが、検出状況から付近の建物群を構成する布基礎跡の一部である可能性が高い。

P1・2　礫が多量に投げ込まれており、礎石基盤の栗石の可能性が考えられるが、土の混入も多く断定は難しい。

P3　礎石と考えられる大型の礫が検出された。建物跡の一部と考えられるが、本址と対応する礎石は確認されていない。

P4・7・8・10・12　礫が多量に出土し土の混ざりは少ないため、礎石の基盤である栗石の可能性がある。

P16　礎石が検出され、その直下には栗石が敷き詰められている。

2　北区Ⅱ検の遺構

井戸跡９基、集水桝跡４基、木樋を伴う水道遺構９条、竹管を伴う水道遺構 10 条、桶６基、土坑９基、ピット 36 基、埋設甕９基を検出した。出土遺物から、当該面は 18 世紀後半から末頃の生活面と考えられる。

井戸１・４・７～12　桶底に竹管を接続するための穿孔が認められるものや地下に延びる竹管が検出されるもの、桶と竹管の両方が検出されるものがある。いずれも自噴井戸跡と考えられる。自噴井戸は、18 世紀前半に江戸で初めてその掘削技術が現れ、その後各地域に広まったとされ[文献1]、当検出面と時期的な整合

性がみられる。井戸８は桶底から大正時代のゴム印が出土しているため、廃絶はⅠ検造成に伴う時期であったと言える。

井戸５　掘方を完掘していないため詳細は不明だが、検出した直径約 70㎝の結桶の底面の内側に別の結桶の上部がわずかに確認できたため、結桶を積み重ねて井戸枠としたものと考えられる。

木樋・竹管（水道遺構）　導水のための管は、竹製のもの（竹管）と丸太を刳り貫いたもの（木樋）の２種類が確認できる。水道遺構同士で切り合い関係がみられることから、複数の時期が認められる。井戸１と８はそれぞれ竹管２と５に接続しており、井戸水を離れた場所まで供給していることがうかがえる。

桶２～６　桶底に自噴のための穿孔はなく、側面の２か所に高さの違う穿孔が認められ竹樋が接続されているため、水道遺構に伴う桶型の集水桝であると考えられる。

埋設甕　Ⅰ検同様に直径 60㎝程の甕が９基みつかった。２基対になるように並んで検出される傾向が多くみられる（甕 15・16、甕 17・18、甕 21・22）。

土１　サイズや遺物の出土状況からゴミ穴であると考えられる。出土遺物から江戸時代後期に帰属すると推定される。

土３　多量の鉄滓と共に炭化物が出土している。

土４　細かい木片が多量に認められ、ゴミ穴と思われる。

３　北区Ⅲ検の遺構

当該面で検出された遺構番号は、上位面との混乱を防ぐため 301 から付されている。建物跡３軒、池状遺構１基、木樋（水道施設）３条、竹管（水道施設）６条、溝状遺構４条、井戸跡５基、桶９基、集石遺構１基、土坑 126 基、ピット 111 基を検出した。すべての検出面の中で最も遺構密度が濃く、帰属時期も幅広い。出土遺物から、当該面は 16 世紀末～ 18 世紀の生活面と考えられる。

建 301　調査区北東隅に位置し、北側と東側は調査区外へ続く。ちょうど桶 305 が囲われるように幅約 0.4m、深さ 0.1 ～ 0.15m の溝が検出され、南側中央は幅 0.3m の隙間がみられる。南東隅あたりから溝が東に延び、さらに約 1.5m 南には東西に平行する溝（溝 304）も検出されており、これらも含め建物の布基礎跡と考えられる。

建 302　調査区中央西寄りに位置し、６間（東西）× 5.5 間（南北）の建物が想定される。南端と西端の一部において、礎石の下に胴木が設置されていた。

建 303　調査区中央東寄りに位置し、3 間（東西）× 5 間（南北）で南東に張出しがある建物が想定される。建 302 と比べると礎石の利用もしくは残存が少ない。

井戸 304・308　直径約 65㎝の結桶を積み重ねた井戸枠をもつ。井戸 304 は、結桶の上部に方形状に組まれた板材が設置されている。

井戸 306　隅柱に縦板や横桟等の枠材で組み立てた井戸枠をもつものである。掘方と井戸枠の間は掘削の際に発生したと考えられる砂礫で充填されていた。深さは 4.8m 以上を測る。

井戸 309・310　底面に竹筒が埋め込まれた自噴式の井戸跡である。

桶　９基検出された。桶 301 ～ 305 は、貯蔵や便槽等の用途が想定される。桶 306 ～ 309 は、側板に穿孔が認められ、水道遺構の一部である集水桝として使われたと考えられる。桶 306 と 307 はそれぞれ竹管 302 と 303 に接続している。

木樋・竹管（水道施設）　Ⅱ検の水道管と同様、竹管と木樋の２種類が確認できる。出土位置は北西部と南東部に集中している。桶 306 ～ 309 のように桶を用いた集水桝のほか、立方体につくられた箱状の木製集水桝（竹管 301 と竹管 304 の接続部）もみられる。

溝 301　幅 0.8 ～ 1.8m、深さ約 0.4m の溝で両際に多数の杭が打たれていた。さらに、溝の中央部の最深部にも杭が打たれていた箇所が確認できた。絵図との合わせから、屋敷境に設けられた塀の基礎と考えられる。Ⅱ検で検出された集石列が本址と重なることから、同遺構である可能性があり、Ⅱ検時にも同じ位置に屋敷境が存在したとも考えられる。出土遺物から、本址は 16 世紀後半から 17 世紀前半に帰属すると考えられる。

池状遺構　長軸約 10.5m、短軸約 4.5m、深さ約 0.5m を測る。その規模と位置関係から屋敷地の中庭に設けられた池跡であると思われる。しかし、池跡とした場合、排水のための施設が確認できない。埋土からの遺物は比較的少なく、大名町 3 次の池跡（Ⅱ検土 123）とは違い、廃絶時にゴミ穴として使われた形跡がみられない。

集石遺構　調査区東端に位置し、集石列が畝状に配列されている。東側と西側で列の軸が異なる。用途は不明である。

土 352・374・402　いずれも陶磁器や木製品等が多量に出土しており、ゴミ穴として使われたことがうかがえる。出土遺物から、土 352 は 16 世紀後半から 17 世紀前半に帰属すると考えられる。土 374･402 は、陶磁器の出土が少なく帰属時期は不明である。

土 356　礎盤と考えられる大礫が出土している。礎盤下には栗石はみられなかった。

土 371　長軸約 1.6m、短軸約 1.2m の方形に組まれた木枠が検出された。用途は不明である。

土 415　底面から筵を思わせる格子状に組まれた植物繊維が長軸約 1.4m の範囲で検出された。

土 430　遺物が多量に出土しておりゴミ穴と考えられるが、完形の土師質皿 3 点がまとまって出土している。出土遺物から、本址は 17 世紀前半に帰属すると考えられる。

P308　柱材の残る柱穴痕である。柱材は、約 9cm角の角材が使用されている。掘方が確認できないため、柱材を打ち込んで設置したと考えられる。

P387　底面から φ 15cm大の礫が複数出土している。礎石の栗石である可能性がある。

4　北区Ⅳ検の遺構

当該面で検出された遺構の番号は、上位面との混乱を防ぐため 501 から付されている。建物跡 4 軒、溝状遺構 6 条、井戸跡 3、集石遺構 2 基、方形石列 1 基、木材 1 か所、土坑 101 基、ピット 182 基を検出した。出土遺物から、当該面は 16 世紀後～ 17 世紀前の生活面と考えられる。

建 502　調査区南東隅で、柱穴列が T 字状にみつかり、建物の基礎と考えられる。

建 504　東西に延びる溝の中に同軸に胴木が敷かれ、それを固定するように礫がおかれている。建物の布基礎跡であると考えられる。近辺で検出された土 576 や土 604 も関連する遺構と考えられる。

建 505　調査区南西隅に位置する南北に長い建物の柱穴列である。隣接する建 502 と軸が似ていることから、両者が関連するものと思われる。

建 506　調査区南東隅に位置し、建 505 と切り合い関係にある。柱穴列の軸も建 505 と若干異なる。

土坑・ピット列　土 579 を北端に P584 との間で列状に並ぶ一連の土坑・ピットは、上位検出面で確認された敷地境と考えられるⅢ検溝 301 とほぼ同位置にあたる。

柱穴列　上記以外では調査区中央やや北寄りにピットの列がみられる。建物になりうるような配置はなく、塀や柵等の基礎であると推測する。

井戸 501　木製でできた井戸枠で平面形は方形を呈し、四隅に支柱を据え縦板を組んで造られている。軟弱地盤のため底面までは調査が及ばなかったが、深さは少なくとも 2.8m 以上であることがわかった。

井戸 502　長径約 1.7m、深さ 1.2m で、平面形はやや楕円を呈すが、円筒形に掘り込まれている。壁面

がほぼ垂直に立ち上がっていることから、素掘りの井戸跡と扱ったが、井戸 501 と比較すると非常に浅いため、他の可能性も検討する必要がある。例えば、掘方は実際まだ深い可能性、未完成の井戸である可能性、ゴミ穴などの別用途である可能性等が考えられる。埋土の出土遺物から本址は 17 世紀末から 18 世紀に帰属するため、上層の生活面を造成する際に埋められたものであろう。

溝 501　東西に延びる幅 0.5 ～ 0.9m の 2 条の溝で同軸に位置しているため一括に扱った。2 条の溝の間隔は約 1.2m あり、西側の溝の一部のプランは不明瞭であったが、両者ともに同規模の長さを測る。

溝 502　調査区の東西を分断するように南北に長く延びる。付近にある敷地境遺構と推測される土坑・柱穴列やⅢ検溝 301 と同様の用途であると思われる。また、切り合い関係と出土遺物から土坑・ピット列より古く、松本城築城期の敷地境である可能性が高い。

溝 503　幅 0.8 ～ 1.4 m で東西に延びる。西端は溝 505 に切られ、東端はプランが不明瞭になる。溝 501 と似た軸上に位置しているため、両者に関係性が感じられる。出土遺物から、本址は 16 世紀後半から末に帰属すると考えられる。

溝 504　竹樋が検出されていることから水道遺構であると考えられる。出土遺物から、本址は 16 世紀末から 17 世紀前半に帰属すると考えられる。

溝 505　出土遺物から、本址は 15 世紀末から 16 世紀前半に帰属すると考えられる。溝 501・503 と合わせて松本城築城前の中世的な方形区割りに関連する溝状遺構の可能性がうかがえる。

方形石列　一辺約 100㎝の方形状の坑の西側を除く 3 方向の壁面際と底面に直径 20 ～ 30㎝大の円礫が設置されている。礫の表面には被熱等の使用痕跡は認められず、用途は不明である。

集石 501　長軸約 2.7m、短軸約 1.8m を測る不整形の坑に直径 5 ～ 20㎝大の礫が多量に検出された。礫が敷き詰められたというよりは、投げ込まれた様相であった。

土 586　本址内にⅡ検井戸 9 の自噴用の竹管が検出されたため、その掘方である可能性がある。

土 561・P579・P580　建物跡の軸とは異なり、調査区南側の東西の道である土手小路に平行に接するため、敷地境に関する遺構であると考えられる。

5　南区の遺構（総堀・土塁跡）

絵図との照合から、調査対象地は土塁南半から総堀にかけての範囲と推定され、トレンチ調査の結果ほぼ絵図と一致するように総堀北側の立ち上がり部分を検出した。

土塁の盛土上部は近代に削平されているが、基底部付近で厚さ 0.6m の盛土が確認できた。西総堀土塁や他地点でみられる異なる土質の土を混ぜて突き固めた版築土は確認できず、近世整地土に似た粘質土層が認められた。総堀の埋土は砂礫の堆積であった。

土塁法尻と総堀法面との境界と考えられる位置に杭列が検出された。平成 16・17 年度の東総堀跡や西総堀跡、平成 26 年度の土居尻第 5 次調査の際には、杭列が設置される場所はテラス状に造られていることが判明しているが、本次調査では判明するに至らなかった。杭の設置状況や密度は他地点で検出された杭列と酷似した様相がみられる。また、杭列の位置は「享保十三年秋改松本城下絵図」に重ね合わせて（図 5）みると、ほぼ土塁と総堀の接点にあたり、絵図の正確性がよくわかる。

〈参考文献〉

文献 1　鐘方正樹　2003 『井戸の考古学』「ものが語る歴史 8」 同成社

表１　土居尻１　土坑一覧表

検出面	土坑No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅰ	1	不整形	348	308	44	底面に腐木あり	建物基礎か
Ⅱ	1	楕円形	260	98	32		
Ⅱ	2	楕円形	129	100	20		
Ⅱ	3	楕円形	114	58	12		
Ⅱ	4	楕円形	102	68	35		
Ⅱ	5	楕円形	181	86	16		
Ⅱ	6				欠番		
Ⅱ	7	円形	128	111	21		
Ⅱ	8	楕円形	74	56	7		
Ⅱ	9	円形	62	50	8		
Ⅲ	301	楕円形	166	112	30		
Ⅲ	302	不整形	190	114	18		
Ⅲ	303				欠番		
Ⅲ	304	楕円形	83	71	5		
Ⅲ	305	楕円形	126	84	24		
Ⅲ	306	楕円形	68	26	11		
Ⅲ	307	楕円形	77	35	9		
Ⅲ	308	楕円形	49	36	8	木材あり	
Ⅲ	309	円形	56	56	22		
Ⅲ	310	円形	58	56	13		
Ⅲ	311	楕円形	88	54	12		
Ⅲ	312	楕円形	112	96	39		
Ⅲ	313	円形	124	96	10		
Ⅲ	314	楕円形	98	68	12		
Ⅲ	315	円形	118	104	17		
Ⅲ	316	楕円形	100	84	9		
Ⅲ	317				18		
Ⅲ	318	楕円形	132	76	16		
Ⅲ	319				欠番		
Ⅲ	320	不明	-	-	-		
Ⅲ	321	楕円形	97	54	14		
Ⅲ	322	楕円形	104	81	15		
Ⅲ	323	円形？	109	〈81〉	16		
Ⅲ	324	不明	-	-	-		
Ⅲ	325	楕円形	64	54	9		
Ⅲ	326	方形	64	60	7		
Ⅲ	327	楕円形	94	78	56		
Ⅲ	328	円形	102	96	25		
Ⅲ	329	円形	96	88	37		
Ⅲ	330	楕円形	〈160〉	90	15		
Ⅲ	331	円形	55	42	13		
Ⅲ	332	不整形	265	125	14		
Ⅲ	333	円形	61	58	11		
Ⅲ	334	不整形	148	〈106〉	17		
Ⅲ	335	楕円形	77	60	5		
Ⅲ	336	楕円形	123	84	76		
Ⅲ	337	楕円形	68	34	14		
Ⅲ	338	楕円形	150	71	16		
Ⅲ	339				欠番		
Ⅲ	340	楕円形	210	108	64		
Ⅲ	341	隅丸方形	221	171	26		
Ⅲ	342	楕円形	189	84	43		
Ⅲ	343	楕円形	72	54	15		
Ⅲ	344	楕円形	76	58	15		
Ⅲ	345	楕円形	177	131	28		
Ⅲ	346	不整形	188	(90)	9.8		
Ⅲ	347	不整形	221	114	13		
Ⅲ	348	楕円形	80	49	16		
Ⅲ	349	楕円形	54	36	13		
Ⅲ	350	円形	62	54	8		
Ⅲ	351	隅丸方形？	130	101	16		
Ⅲ	352	楕円形	140	80	46	遺物多あり	ゴミ穴か
Ⅲ	353	円形	54	52	38	底面に礫あり	
Ⅲ	354				欠番		
Ⅲ	355	円形	60	53	22		
Ⅲ	356	円形	49	44	20	底面に礫あり	
Ⅲ	357	円形	56	54	21		
Ⅲ	358	円形	118	108	37	底面に礫あり	
Ⅲ	359	円形	78	〈44〉	9		
Ⅲ	360	不整形	84	62	9		
Ⅲ	361	楕円形	72	46	12		
Ⅲ	362	楕円形	231	173	35		
Ⅲ	363	隅丸長方形	152	78	10		
Ⅲ	364	楕円形	130	78	69		
Ⅲ	365	楕円形	266	62	30		
Ⅲ	366	楕円形	73	34	20		
Ⅲ	367	楕円形	76	32	10		

検出面	土坑No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅲ	368	不整形	245	169	46	遺物・骨・礫多あり	
Ⅲ	369	楕円形	67	54	10		
Ⅲ	370	円形	104	82	20		
Ⅲ	371	方形	170	166	61	木枠あり	
Ⅲ	372	楕円形	126	74	9		
Ⅲ	373	楕円形	58	31	16		
Ⅲ	374	楕円形	92	24	20		
Ⅲ	375	円形	64	50	12		
Ⅲ	376	円形	116	114	20		
Ⅲ	377	楕円形	81	63	21		
Ⅲ	378	円形	62	56	15		
Ⅲ	379	円形	96	80	6		
Ⅲ	380	楕円形	121	65	8		
Ⅲ	381	円形	60	50	13	杭あり	
Ⅲ	382	楕円形	83	52	36		
Ⅲ	383	円形	74	70	4		
Ⅲ	384	円形	66	57	6		
Ⅲ	385	円形	96	94	12		
Ⅲ	386				欠番		
Ⅲ	387	円形	54	48	18		
Ⅲ	388	楕円形	78	59	16		
Ⅲ	389	楕円形	100	60	30		
Ⅲ	390	不整形	158	100	10		
Ⅲ	391	円形	56	53	16	杭あり	
Ⅲ	392	円形	50	50	17	礫多あり	
Ⅲ	393	円形	55	48	3		
Ⅲ	394	楕円形	144	90	18		
Ⅲ	395	円形	126	126	29	礫多あり	
Ⅲ	396	円形	68	60	14	杭あり	
Ⅲ	397	円形	60	46	8		
Ⅲ	398				欠番		
Ⅲ	399	楕円形	116	93	17		
Ⅲ	400	不整形	190	150	22		
Ⅲ	401	円形	104	101	17	杭あり	
Ⅲ	402	楕円形	134	94	47	木片多あり	
Ⅲ	403				欠番		
Ⅲ	404	円形	72	68	48		
Ⅲ	405	円形	52	50	8		
Ⅲ	406	円形	82	74	23	礫多あり	
Ⅲ	407	楕円形	123	94	62		柱穴痕か
Ⅲ	408	楕円形	〈97〉	121	58		
Ⅲ	409	円形？	〈63〉	〈62〉	64		
Ⅲ	410	楕円形？	104	〈30〉	8		
Ⅲ	411	楕円形？	66	〈60〉	12		
Ⅲ	412	楕円形	188	39	8		
Ⅲ	413	楕円形	140	70	9		
Ⅲ	414	楕円形	〈87〉	64	40		
Ⅲ	415	楕円形	316	102	56	礫と木片多あり	
Ⅲ	416	不整形	476	133	68		
Ⅲ	417	不明	〈96〉	〈78〉	13		
Ⅲ	418	円形	104	96	58	礫多あり	
Ⅲ	419	円形	94	86	40		
Ⅲ	420				欠番		
Ⅲ	421	楕円形	89	56	18		
Ⅲ	422	楕円形	78	50	6		
Ⅲ	423	円形	90	〈67〉	8		
Ⅲ	424	楕円形？	〈102〉	103	36		
Ⅲ	425	不整形	262	〈162〉	31		
Ⅲ	426	隅丸方形	102	78	25		
Ⅲ	427	楕円形	88	60	41		礎石
Ⅲ	428	楕円形	106	78	20		
Ⅲ	429				欠番		
Ⅲ	430	不整形					
Ⅲ	431	円形	70	64	20		
Ⅲ	432				欠番		
Ⅲ	433	不整形？					
Ⅲ	434	楕円形？					
Ⅲ	435	不整形					
Ⅲ	436	楕円形？					
Ⅳ	501	楕円形	114	34	7		
Ⅳ	502	円形	68	58	13	柱材あり	柱穴痕
Ⅳ	503	円形	52	52	48		建 506
Ⅳ	504				欠番		
Ⅳ	505	楕円形	76	35	12		
Ⅳ	506	円形	134	〈80〉	13		
Ⅳ	507	円形	72	68	40		
Ⅳ	508	円形	56	52	11		
Ⅳ	509	楕円形	40	26	9		
Ⅳ	510	楕円形	118	94	17		

検出面	土坑No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅳ	511	楕円形	57	33	38		建 506
Ⅳ	512	楕円形	158	60	21		
Ⅳ	513	楕円形	106	52	10		
Ⅳ	514	円形	60	58	15		柱穴痕
Ⅳ	515	円形	70	52	8		礎石
Ⅳ	516	円形	65	58	42		礎石
Ⅳ	517	楕円形	-	-	12		
Ⅳ	518	円形	80	60	8		
Ⅳ	519	楕円形	123	86	7		
Ⅳ	520	楕円形	60	38	17		
Ⅳ	521	楕円形	-	-	-		
Ⅳ	522	楕円形	288	142	8	礎多あり	
Ⅳ	523	楕円形	56	30	11	柱材あり	柱穴痕
Ⅳ	524	楕円形	166	80	6	未掘	
Ⅳ	525	円形	74	56	12		
Ⅳ	526	円形	54	51	46		柱穴痕
Ⅳ	527	楕円形	180	112	11		
Ⅳ	528	不整形	-	-	-		
Ⅳ	529	楕円形	122	80	7		
Ⅳ	530	隅丸長方形	146	80	16		
Ⅳ	531	円形？	114	(66)	12		
Ⅳ	532	円形	82	72	32		
Ⅳ	533	円形	120	105	38		
Ⅳ	534	楕円形	104	62	8		
Ⅳ	535	円形	57	45	57		柱穴痕
Ⅳ	536	円形	68	52	9		
Ⅳ	537	楕円形	120	60	7		
Ⅳ	538	楕円形	204	102	14		
Ⅳ	539	円形	〈57〉	58	25		
Ⅳ	540	円形	66	52	11		
Ⅳ	541	楕円形	92	〈46〉	15		
Ⅳ	542	楕円形	92	76	16		
Ⅳ	543		欠番				
Ⅳ	544	楕円形	130	108	63		礎石
Ⅳ	545	長円形	320	65	18		
Ⅳ	546	楕円形	82	72	32		
Ⅳ	547	楕円形	84	56	6		
Ⅳ	548	楕円形	80	34	12		
Ⅳ	549	円形	48	36	17		
Ⅳ	550	楕円形	120	42	14		
Ⅳ	551	楕円形	72	46	12		
Ⅳ	552	円形	54	50	27		
Ⅳ	553	楕円形	(64)	38	21		
Ⅳ	554	楕円形	82	38	11		
Ⅳ	555	楕円形	84	56	12		
Ⅳ	556	円形	106	95	28		
Ⅳ	557	円形	40	24	12		
Ⅳ	558	長円形	184	58	26		
Ⅳ	559	円形	56	50	11		
Ⅳ	560		欠番				
Ⅳ	561	円形	42	42	10		
Ⅳ	562	円形	48	40	22		
Ⅳ	563	円形	43	40	15		
Ⅳ	564	円形	40	40	22		
Ⅳ	565	円形	92	83	33		
Ⅳ	566	円形	54	40	28		
Ⅳ	567	円形	36	〈28〉	15		建 506
Ⅳ	568	楕円形	(76)	48	13		
Ⅳ	569	楕円形	74	〈8〉	26		
Ⅳ	570	不整形	(194)	122	8		
Ⅳ	571	円形	80	64	24	礎多あり	
Ⅳ	572	楕円形	〈136〉	86	17		
Ⅳ	573		欠番				
Ⅳ	574	円形	54	46	30		
Ⅳ	575	円形	63	54	12		礎石
Ⅳ	576	楕円形	83	53	12		礎石
Ⅳ	577	楕円形	116	60	40		
Ⅳ	578	円形	52	34	15	礎多あり	
Ⅳ	579	円形	86	69	25	柱材か	
Ⅳ	580	円形	62	54	25	礎多あり	柱穴痕か
Ⅳ	581	楕円形	(71)	51	36	底面に礎あり	
Ⅳ	582	楕円形	94	70	15		
Ⅳ	583	楕円形	50	30	10		
Ⅳ	584	円形	84	76	52		ゴミ穴か
Ⅳ	585	円形	58	48	5		
Ⅳ	586	楕円形	188	109	112		
Ⅳ	587	円形	46	46	29		
Ⅳ	588	円形	128	114	32		
Ⅳ	589	楕円形	154	91	30		
Ⅳ	590	円形	60	40	18		

検出面	土坑No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅳ	591	楕円形	76	45	10		
Ⅳ	592	円形	70	66	5		
Ⅳ	593	長円形	〈52〉	20	21		
Ⅳ	594	長円形	72	55	12		
Ⅳ	595	円形	88	70	14	礎多あり	建 503
Ⅳ	596	円形	68	58	12		
Ⅳ	597	長円形	〈190〉	76	20		
Ⅳ	598	楕円形	80	48	20		
Ⅳ	599	円形	〈80〉	78	11		
Ⅳ	600	楕円形	73	62	42		
Ⅳ	601		欠番				
Ⅳ	602	楕円形	71	42	-		
Ⅳ	603	楕円形	68	46	-		
Ⅳ	604	楕円形	120	70	-		
Ⅳ	605	円形？	150	〈50〉	-		

※（　）内数値は残存値、〈　〉内数値は推定値を表す

表 2　土居尻 1　ピット一覧表

検出面	PIT No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅰ	1	円形	90	76	38	礎多あり	礎石か
Ⅰ	2	楕円形	120	98	34	礎多あり	
Ⅰ	3	楕円形	80	56	10		礎石か
Ⅰ	4	円形	76	74	26	礎多あり	
Ⅰ	5	楕円形	116	86	26	礎多あり	
Ⅰ	6		欠番				
Ⅰ	7	円形	76	66	21	礎多あり	
Ⅰ	8	円形	84	68	22	礎多あり	
Ⅰ	9	円形	104	82	36	礎多あり	
Ⅰ	10	円形	100	81	17		
Ⅰ	11	円形	83	72	12		
Ⅰ	12	円形	67	61	13		
Ⅰ	13	円形	82	70	12		
Ⅰ	14	楕円形	＜74＞	84	11		
Ⅰ	15	円形	71	66	15		
Ⅰ	16	円形	95	79	56		礎石か
Ⅰ	17		欠番				
Ⅰ	18		欠番				
Ⅱ	19	円形	52	40	8		
Ⅱ	20	円形	45	43	5		
Ⅱ	21	円形	40	39	6		
Ⅱ	22	円形	36	30	8		
Ⅱ	23	円形	40	40	16		
Ⅱ	24	不明	-	-	-		
Ⅱ	25	不明	-	-	-		
Ⅱ	26	楕円形	144	64	12		
Ⅱ	27	円形	121	104	18		
Ⅱ	28	楕円形	61	44	21		
Ⅱ	29	楕円形	81	56	11		
Ⅱ	30	円形	46	40	9		
Ⅱ	31	円形	84	76	9		
Ⅱ	32	楕円形	108	56	9		
Ⅱ	33	円形	60	58	22	礎多あり	
Ⅱ	34	円形	64	49	24	礎多あり	
Ⅱ	35	円形	40	32	14		
Ⅱ	36	円形	64	52	9		
Ⅱ	37	円形	64	46	16		
Ⅱ	38	円形	36	27	16		
Ⅱ	39	円形	24	19	12		
Ⅱ	40	楕円形	94	60	8	礎多あり	
Ⅱ	41	円形	64	64	20		
Ⅱ	42	円形	56	44	13		
Ⅱ	43	円形	56	49	14		
Ⅱ	44	円形	24	22	5		
Ⅱ	45	円形	44	42	22		
Ⅱ	46	円形	30	26	8		
Ⅱ	47	円形	36	31	19		
Ⅱ	48	円形	60	58	11		
Ⅱ	49	円形	35	33	8		
Ⅱ	50	楕円形	90	66	22	礎多あり	
Ⅱ	51	円形	26	24	10		
Ⅱ	52	円形	46	44	8		
Ⅱ	53	円形	26	26	6		
Ⅱ	54	円形	34	28	7		
Ⅲ	301	円形	40	33	6		
Ⅲ	302	円形	36	30	12		
Ⅲ	303	円形	56	42	7		

検出面	PIT No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅲ	304	円形	34	32	12		
Ⅲ	305	欠番					
Ⅲ	306	円形	30	24	7		
Ⅲ	307	円形	21	18	8		
Ⅲ	308	円形	36	34	16	杭あり	
Ⅲ	309～311	欠番					
Ⅲ	312	円形	44	26	22		柱穴痕か
Ⅲ	313	円形	40	39	5		
Ⅲ	314	円形	38	32	5		
Ⅲ	315	円形	30	26	5		
Ⅲ	316	円形	<30>	30	7		
Ⅲ	317	円形	22	20	6		
Ⅲ	318	欠番					
Ⅲ	319	円形	16	12	3		
Ⅲ	320	円形	<20>	20	3		
Ⅲ	321	円形	28	24	4		
Ⅲ	322	円形	42	42	27		
Ⅲ	323	円形	32	<30>	3		
Ⅲ	324	円形	28	26	10		
Ⅲ	325	円形	48	48	8		
Ⅲ	326	円形	36	32	6		
Ⅲ	327	円形	31	24	33		
Ⅲ	328	円形	34	30	14		
Ⅲ	329	円形	30	28	12		
Ⅲ	330	円形	46	41	15		
Ⅲ	331	楕円形	52	38	8		
Ⅲ	332	楕円形	34	23	20		
Ⅲ	333	楕円形	51	40	9		
Ⅲ	334	円形	48	42	11		
Ⅲ	335	円形	19	17	11		
Ⅲ	336	円形	18	15	5		
Ⅲ	337	楕円形	50	30	9		
Ⅲ	338	円形	23	23	10		
Ⅲ	339	円形	36	33	12		
Ⅲ	340	円形	37	36	7		
Ⅲ	341	円形	39	32	7		
Ⅲ	342	円形	49	42	14		
Ⅲ	343	円形	46	42	10		
Ⅲ	344	欠番					
Ⅲ	345	円形	52	50	11		
Ⅲ	346	円形	44	44	15		
Ⅲ	347	円形	36	33	6		
Ⅲ	348	欠番					
Ⅲ	349	欠番					
Ⅲ	350	円形	21	20	5		
Ⅲ	351	円形	39	36	10		
Ⅲ	352	円形	28	26	9		
Ⅲ	353	円形	26	24	11		
Ⅲ	354	円形	40	38	12		
Ⅲ	355	円形	36	34	8		
Ⅲ	356	円形	31	30	8		
Ⅲ	357	円形	34	30	9		
Ⅲ	358	円形	36	30	11		
Ⅲ	359	円形	45	28	4		
Ⅲ	360	円形	26	23	7		
Ⅲ	361	円形	34	34	17	杭あり	
Ⅲ	362	円形	52	50	13		
Ⅲ	363	円形	35	29	4		
Ⅲ	364	欠番					
Ⅲ	365	円形	18	14	5		
Ⅲ	366	円形	45	40	21		
Ⅲ	367	円形	30	28	10		
Ⅲ	368	円形	40	38	39		
Ⅲ	369	円形	37	30	14		
Ⅲ	370	円形	60	<46>	21		
Ⅲ	371	円形	49	48	23		柱穴痕か
Ⅲ	372	円形	32	26	8		
Ⅲ	373	円形	40	36	9		
Ⅲ	374	円形	28	24	8		
Ⅲ	375	楕円形	47	26	14		
Ⅲ	376	円形	36	32	12		
Ⅲ	377	欠番					
Ⅲ	378	円形	42	42	21		
Ⅲ	379	欠番					
Ⅲ	380	欠番					
Ⅲ	381	円形	44	40	15		
Ⅲ	382	円形	27	24	24		
Ⅲ	383	円形	40	38	16		
Ⅲ	384	円形	<44>	40	9		礎石

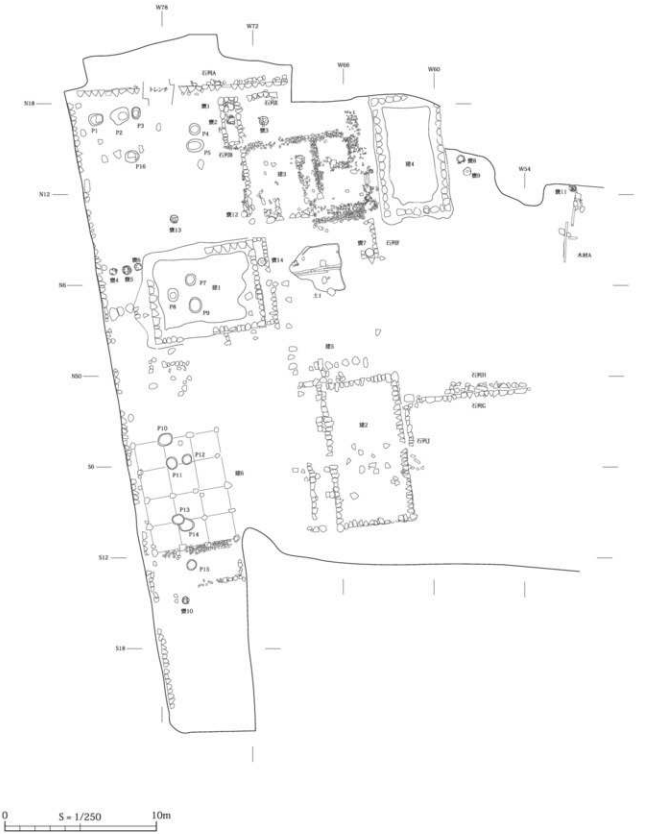
検出面	PIT No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅲ	385	円形	24	24	17		
Ⅲ	386	円形	34	27	16		
Ⅲ	387	円形	44	40	8	礎多あり	
Ⅲ	388	欠番					
Ⅲ	389	円形	40	30	21		
Ⅲ	390	円形	50	50	9		
Ⅲ	391	楕円形	70	51	55		
Ⅲ	392	円形	22	18	10		
Ⅲ	393	円形	24	24	18		
Ⅲ	394	欠番					
Ⅲ	395	円形	34	29	11		
Ⅲ	396	円形	14	14			
Ⅲ	397	円形	12	12	4		
Ⅲ	398	円形	27	25	10		
Ⅲ	399	円形	44	36	3		
Ⅲ	400	円形	28	28	4		
Ⅲ	401	円形	33	32	5		
Ⅲ	402	円形？	<40>	42	12		
Ⅲ	403	欠番					
Ⅲ	404	円形	30	26	9		
Ⅲ	405	円形	34	32	11		
Ⅲ	406	円形	32	25	8		
Ⅲ	407	円形	36	32	24		
Ⅲ	408	円形	40	40	7		
Ⅲ	409	円形	46	38	5		
Ⅲ	410	円形	36	30	7		
Ⅲ	411	円形	44	40	20		
Ⅲ	412	円形	52	34	4		
Ⅲ	413	円形	26	16	13		
Ⅲ	414	円形	46	44	9		
Ⅲ	415	円形	34	28	8		
Ⅲ	416	円形	48	42	26		
Ⅲ	417	欠番					
Ⅲ	418	楕円形	28	18	3		
Ⅲ	419	欠番					
Ⅲ	420	円形	50	38	12		
Ⅲ	421	円形	30	28	10		
Ⅲ	422	円形	28	22	6		
Ⅲ	423	欠番					
Ⅲ	424	欠番					
Ⅲ	425	円形	48	42	28		礎石
Ⅲ	426	円形	30	26	22		
Ⅲ	427	楕円形	68	43	8		
Ⅲ	428	楕円形	40	20	19		
Ⅲ	429	円形	40	39	7		
Ⅲ	430	円形	42	40	8		
Ⅳ	501	円形	20	18	7		
Ⅳ	502	円形	36	32	28		
Ⅳ	503	円形	42	36	23	柱材あり	建 505
Ⅳ	504	円形	44	36	34		建 506
Ⅳ	505	円形	48	47	28		建 506
Ⅳ	506	円形	34	33	26		建 505
Ⅳ	507	円形	16	14	5		
Ⅳ	508	円形	43	42	28	礎石あり	建 506
Ⅳ	509	円形	58	50	7		建 506
Ⅳ	510	円形	42	37	34		建 506
Ⅳ	511	円形	43	54	18		柱穴痕
Ⅳ	512	楕円形	82	28	13		
Ⅳ	513	欠番					
Ⅳ	514	円形	20	20	5		
Ⅳ	515	円形	369	34	15		柱穴痕か
Ⅳ	516	円形	58	42	10		
Ⅳ	517	円形	37	31	45		
Ⅳ	518	円形	36	34	12		
Ⅳ	519	円形	34	34	5		
Ⅳ	520	円形	54	46	7		
Ⅳ	521	円形	32	30	31		
Ⅳ	522	円形	46	42	33		
Ⅳ	523	不明	－	－	－	腐食木材	
Ⅳ	524	楕円形	24	16	9		
Ⅳ	525	円形	45	30	25		
Ⅳ	526	円形	38	36	26		
Ⅳ	527	円形	44	43	20		
Ⅳ	528	楕円形	73	60	11		
Ⅳ	529	円形	42	40	15		
Ⅳ	530	円形	43	40	12		
Ⅳ	531	円形	38	34	5		
Ⅳ	532	円形	40	36	21		礎石か
Ⅳ	533	円形	35	33	18		
Ⅳ	534	円形	44	40	7		

検出面	PIT No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅳ	535	円形	20	16	18		
Ⅳ	536	円形	32	32	7		柱穴痕
Ⅳ	537	円形	62	39	20		
Ⅳ	538	円形	48	38	29		
Ⅳ	539	円形	27	24	28	礎多あり	柱穴痕
Ⅳ	540	円形	47	46	6		
Ⅳ	541	円形	43	41	12		礎盤石
Ⅳ	542	円形	34	33	12	礎盤あり	建 505
Ⅳ	543	円形	53	50	27	礎多あり	建 502
Ⅳ	544	楕円形	18	10			
Ⅳ	545	楕円形	16	8			
Ⅳ	546	円形	30	<18>	10		
Ⅳ	547	円形	46	40	22	礎多あり	建 502
Ⅳ	548	円形	20	20	22		
Ⅳ	549	円形	33	32	8		
Ⅳ	550	円形	35	32	12		
Ⅳ	551	円形	42	39	13		
Ⅳ	552			欠番			
Ⅳ	553	円形	55	48	18	平石あり	建 502
Ⅳ	554	円形	40	32	15		建 502
Ⅳ	555			欠番			
Ⅳ	556	円形	44	42	12		建 502
Ⅳ	557	円形	48	44	7		建 502
Ⅳ	558	円形	44	42	35		礎石
Ⅳ	559	円形	40	33	18		
Ⅳ	560	円形	38	30	10		
Ⅳ	561	円形	36	32	10		柱穴痕
Ⅳ	562	円形	46	36	15		柱穴痕
Ⅳ	563	円形	24	18	34		
Ⅳ	564	円形	46	46	22		
Ⅳ	565	円形	30	<22>	10		
Ⅳ	566	円形	35	30	22		
Ⅳ	567	円形	34	30	11		
Ⅳ	568	円形	32	28	15		
Ⅳ	569	楕円形	67	43	27		
Ⅳ	570	円形	32	28	13		
Ⅳ	571	楕円形	60	40	34		
Ⅳ	572	円形	50	46	21	底面に礎あり	建 502
Ⅳ	573	円形	48	36	18		
Ⅳ	574	円形	56	46	8		
Ⅳ	575	円形	41	40	19	柱材あり	建 506
Ⅳ	576	円形	40	30	11		
Ⅳ	577	円形	40	33			
Ⅳ	578	楕円形	70	39	20	礎多あり	建 506
Ⅳ	579	円形	46	44	12		建 502
Ⅳ	580	円形	53	40	30	礎多あり	建 502
Ⅳ	581	円形	33	27	<42>	平石あり	建 504
Ⅳ	582	円形	38	38	20	底面に礎あり	建 505
Ⅳ	583	円形	40	36			
Ⅳ	584	円形	34	31	22	礎多あり	
Ⅳ	585	円形	48	44	13		
Ⅳ	586	円形	32	30	20		
Ⅳ	587	円形	29	25	16		
Ⅳ	588	円形	29	26	14		
Ⅳ	589	円形	38	36			建 505
Ⅳ	590	円形	40	34	10	底面に礎あり	建 502
Ⅳ	591	円形	53	48	19	底面に礎あり	柱穴痕
Ⅳ	592	円形	58	52	9		
Ⅳ	593			欠番			
Ⅳ	594	円形	<22>	12	4		
Ⅳ	595	円形	30	27	10		建 506
Ⅳ	596	円形	36	33	50	柱材（角材）あり	建 506
Ⅳ	597	円形	19	16			
Ⅳ	598	円形	17	12		柱材（丸太材）あり	
Ⅳ	599	円形	38	36	10		建 505
Ⅳ	600	円形	27	26	27		建 506
Ⅳ	601	円形	37	34	6		建 505
Ⅳ	602	円形	32	30	15		建 505
Ⅳ	603	-	-	-	20	計測不能	
Ⅳ	604		-	-	17	計測不能	礎石
Ⅳ	605	円形	26	22	15		
Ⅳ	606			欠番			
Ⅳ	607	円形？	(50)	46	15		礎石
Ⅳ	608	円形	33	26	17		
Ⅳ	609	円形	44	44	13		
Ⅳ	610	円形	36	34	18	礎多あり	
Ⅳ	611	楕円形	42	26	12		
Ⅳ	612	円形	44	24	16		
Ⅳ	613	円形	36	28	30		

検出面	PIT No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅳ	614	円形	58	50	16		
Ⅳ	615	円形	80	<46>	24	礎多あり	
Ⅳ	616	円形	39	37	18	底面に礎あり	礎盤石
Ⅳ	617	円形	36	32	10		柱穴痕
Ⅳ	618			欠番			
Ⅳ	619	円形	26	22	18		
Ⅳ	620	円形	52	50	7		
Ⅳ	621			欠番			
Ⅳ	622	円形	53	50	12		
Ⅳ	623	楕円形	52	34	30	底面に礎あり	柱穴痕
Ⅳ	624	円形	40	38	18	底面に石白あり	
Ⅳ	625	楕円形	48	32	34	礎多あり	
Ⅳ	626	楕円形	30	22	21		
Ⅳ	627	円形	36	36	22	底面に礎あり	建 505
Ⅳ	628	円形	26	22	<26>		
Ⅳ	629	円形	38	33	22		柱穴痕
Ⅳ	630	楕円形	70	40	16		
Ⅳ	631	円形	20	18	18		
Ⅳ	632	円形	23	18	23		
Ⅳ	633	円形	20	16	22		
Ⅳ	634	円形	28	26	20	底面に礎あり	柱穴痕
Ⅳ	635	楕円形	46	28			
Ⅳ	636	円形	32	26			
Ⅳ	637	円形	36	30			
Ⅳ	638	円形	60	52	60		柱穴痕
Ⅳ	639	楕円形	63	46	42		柱穴痕
Ⅳ	640	楕円形	48	32	19	底面に礎あり	柱穴痕
Ⅳ	641	円形	32	25	8		柱穴痕
Ⅳ	642	円形	57	48	28	底面に礎あり	柱穴痕
Ⅳ	643	円形	30	24	10		柱穴痕
Ⅳ	644	円形	26	26	15		
Ⅳ	645	-	-		26		不明
Ⅳ	646	円形	46	<26>	19		柱穴痕
Ⅳ	647	円形	62	50	12		柱穴痕
Ⅳ	648	円形	40	28			
Ⅳ	649	円形	38	36	32		
Ⅳ	650	円形	26	24	7		柱穴痕
Ⅳ	651	円形	54	44	17		柱穴痕
Ⅳ	652	円形	60	36	7		柱穴痕
Ⅳ	653	円形	22	20	16		
Ⅳ	654	円形	38	33	23	礎多あり	柱穴痕
Ⅳ	655	円形	60	60	21	礎多あり	柱穴痕
Ⅳ	656	円形	<34>	24	16	底面に礎あり	柱穴痕
Ⅳ	657	円形	36	30	15	底面に礎あり	柱穴痕
Ⅳ	658	円形	32	26	6	底面に礎あり	柱穴痕
Ⅳ	659	円形	30	29	27		柱穴痕
Ⅳ	660	円形	11	10	5		
Ⅳ	661	円形	45	44	14	礎あり	
Ⅳ	662	円形	43	42	18		
Ⅳ	663	円形	42	36	10	礎多あり	
Ⅳ	664	円形	43	40	21		建 506
Ⅳ	665	円形	38	36	19	底面に礎あり	建 505
Ⅳ	666	円形	46	40	18	底面に礎あり	建 505
Ⅳ	667	円形	54	50	25		
Ⅳ	668	円形	58	(58)	22	底面に礎あり	建 505
Ⅳ	669	円形	40	38	23	底面に礎あり	建 505
Ⅳ	670	円形	28	20	8		
Ⅳ	671	円形	34	32	22	底面に礎あり	
Ⅳ	672	方形？	35	34	18		
Ⅳ	673	円形	34	25	12		
Ⅳ	674	円形	42	36	22	柄あり	
Ⅳ	675	円形	22	18	9		
Ⅳ	676	円形	53	32	12		
Ⅳ	677	円形	46	30	16		
Ⅳ	678	円形	42	40	8		
Ⅳ	679	円形	30	28	12		
Ⅳ	680	円形	26	22	8		
Ⅳ	681	円形	25	22	10		
Ⅳ	682	円形	38	38	13	礎多あり	
Ⅳ	683	円形	24	22	3		
Ⅳ	684	円形	46	44	14		建 505
Ⅳ	685	楕円形	56	22	18		
Ⅳ	686	円形	32	31	37		柱穴痕
Ⅳ	687	円形	36	36	12		柱穴痕
Ⅳ	688	円形	39	39	13		柱穴痕
Ⅳ	689			欠番			
Ⅳ	690	円形	40	34			
Ⅳ	691	円形	38	28			

※（ ）内数値は残存値、〈 〉内数値は推定値を表す

土居尻１　Ⅰ検全体図



0　S＝1/250　10m

図 12　土居尻１　Ⅰ検全体図

土居尻１　Ⅱ検全体図

W72
W66
W60
W78
W48
W54
N18
N12
N6
N0
S6
S12
S18
竹管1
竹管2
竹管3
竹管4
竹管5
竹管6
竹管7
竹管8
竹管9
竹管10
竹管11
竹管12
竹管13
竹管14
竹管15
竹管16
竹管17
竹管18
竹管19
竹管20
竹管21
竹管22
竹管23
竹管24
竹管25
竹管26
竹管27
竹管28
竹管29
竹管30
竹管31
竹管32
竹管33
竹管34
竹管35
竹管36
竹管37
竹管38
竹管39
竹管40

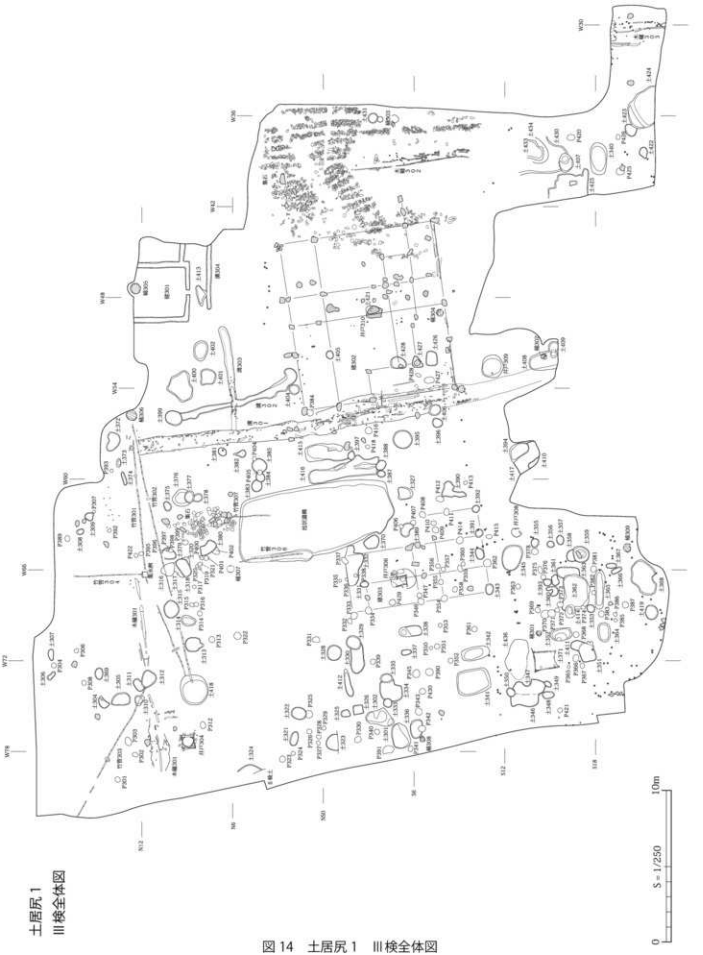


図14　土居尻1　Ⅲ検全体図

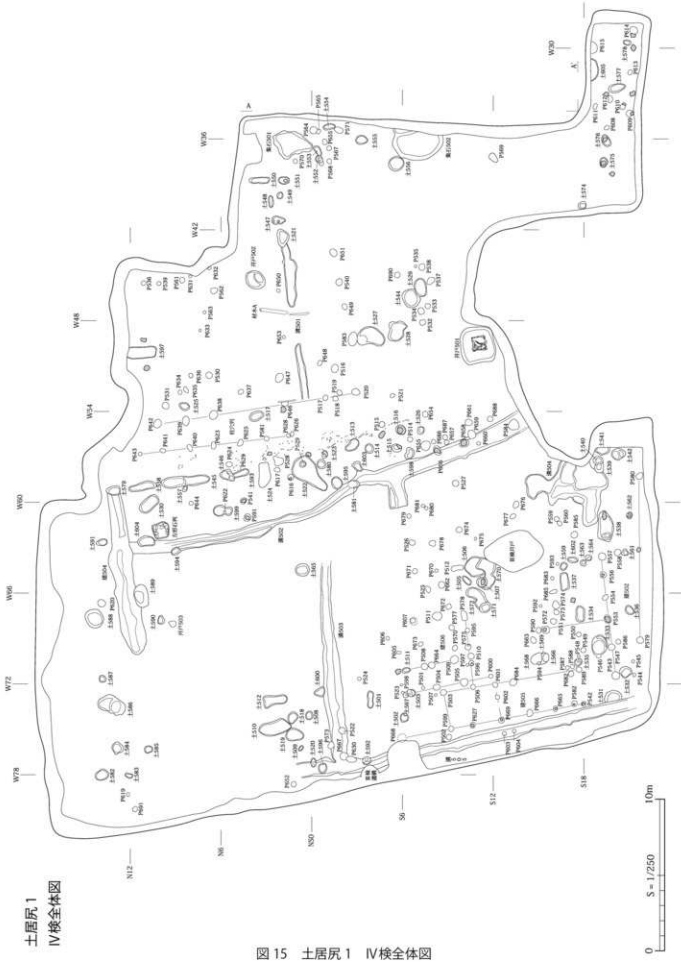


図 15　土居尻 1　Ⅳ検全体図

土居尻１　Ｉ検

建1

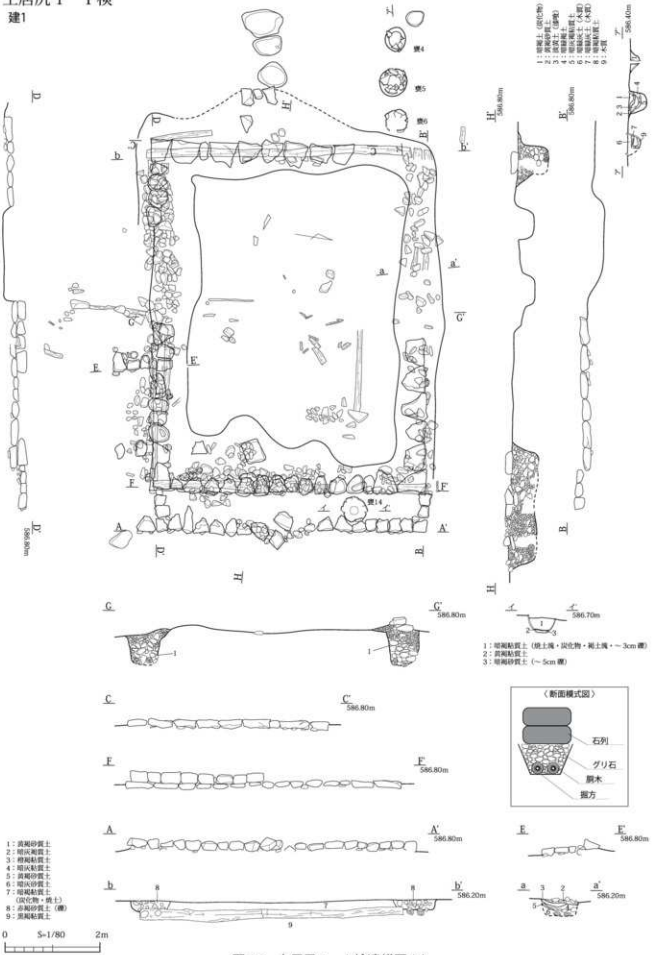
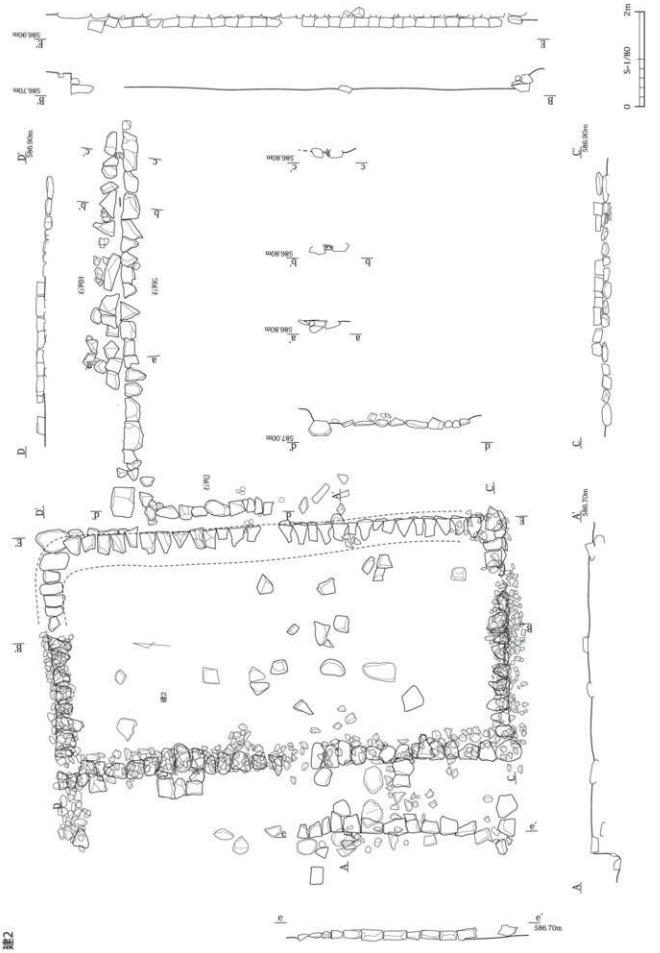


図16　土居尻１　Ｉ検遺構図 (1)


遺2
SK23
SK23
SK23

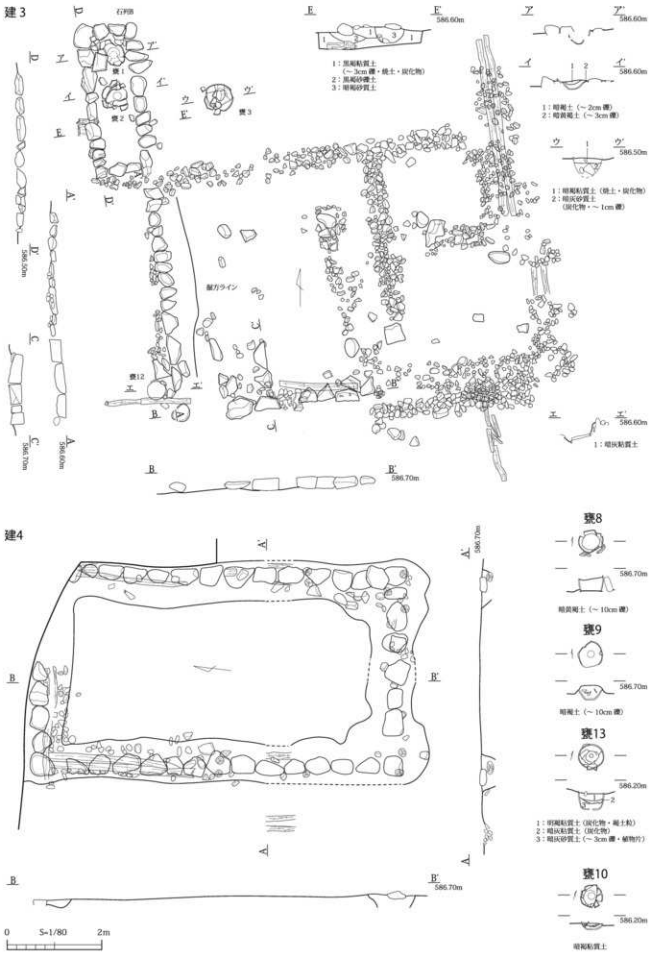


図 18　土居尻 1　Ⅰ検遺構図 (3)

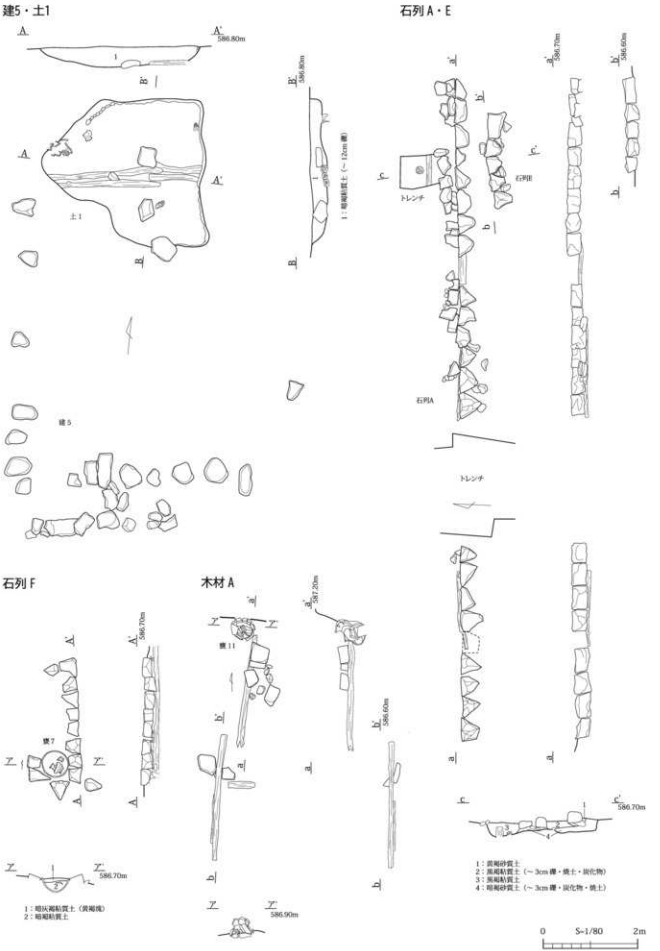


図19　土居尻1　Ⅰ検遺構図(4)

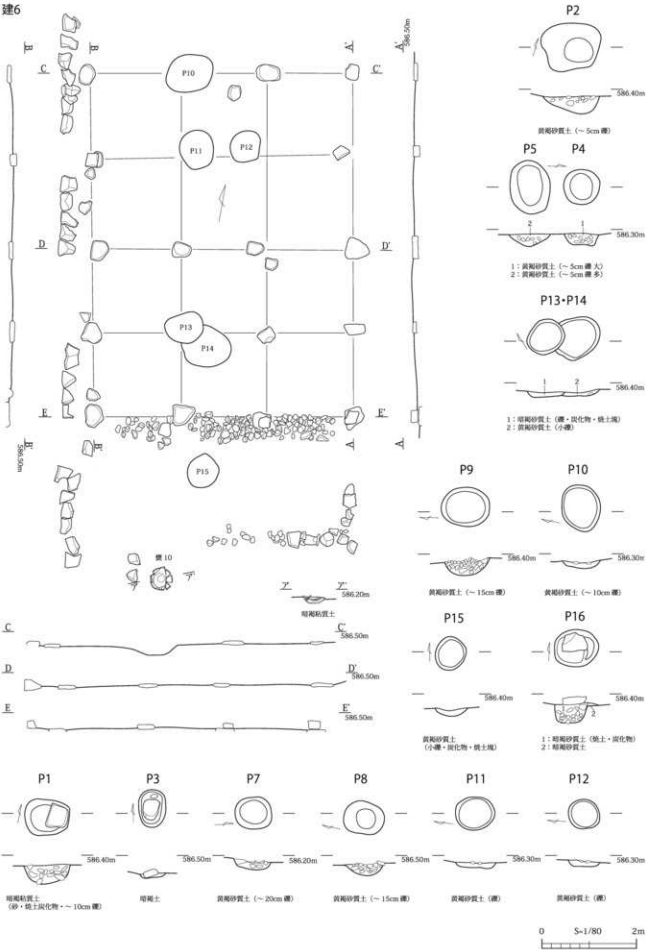


図 20　土居尻 1　I 検遺構図 (5)

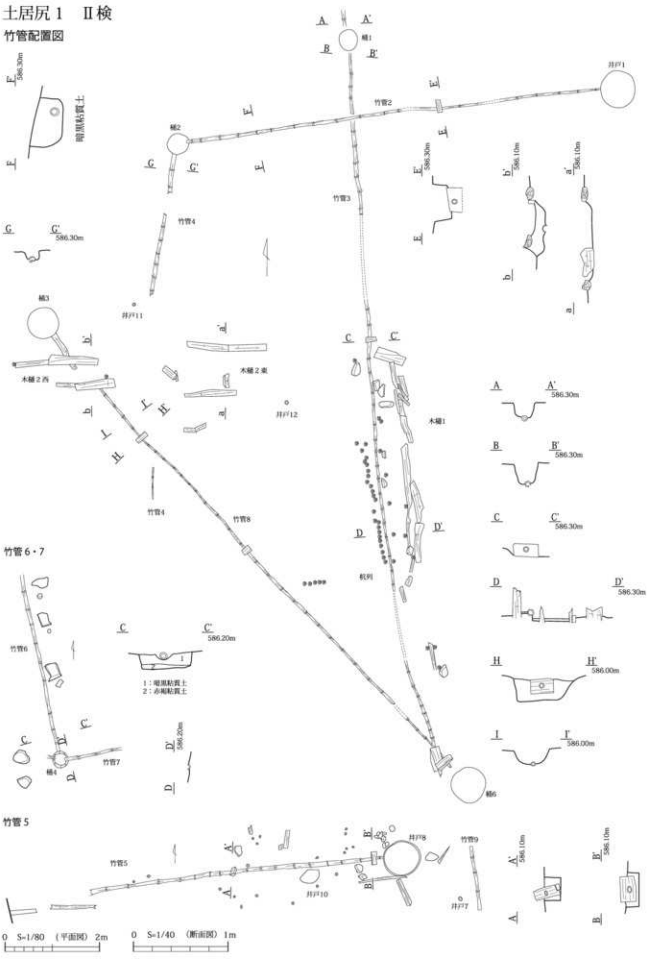
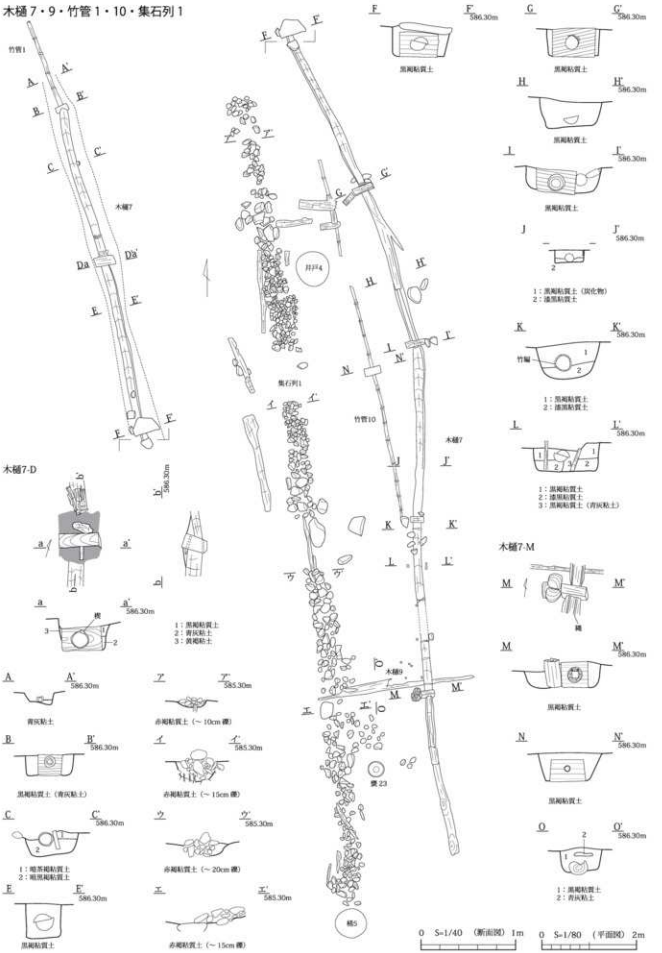


図21　土居尻１　Ⅱ検遺構図(1)


木樋7・9・竹管1・10・集石列1
竹管1
木樋7
井戸4
集石列1
竹管10
木樋9
穴23
柵5
木樋7-D
木樋7-M
黒褐粘質土
1：黒褐粘質土（炭化物）
2：淡黒粘質土
1：黒褐粘質土
2：淡黒粘質土
1：黒褐粘質土
2：淡黒粘質土
3：黒褐粘質土（青灰粘土）
1：黒褐粘質土
2：青灰粘土
1：黒褐粘質土
2：青灰粘土
1：黒褐粘質土
2：青灰粘土

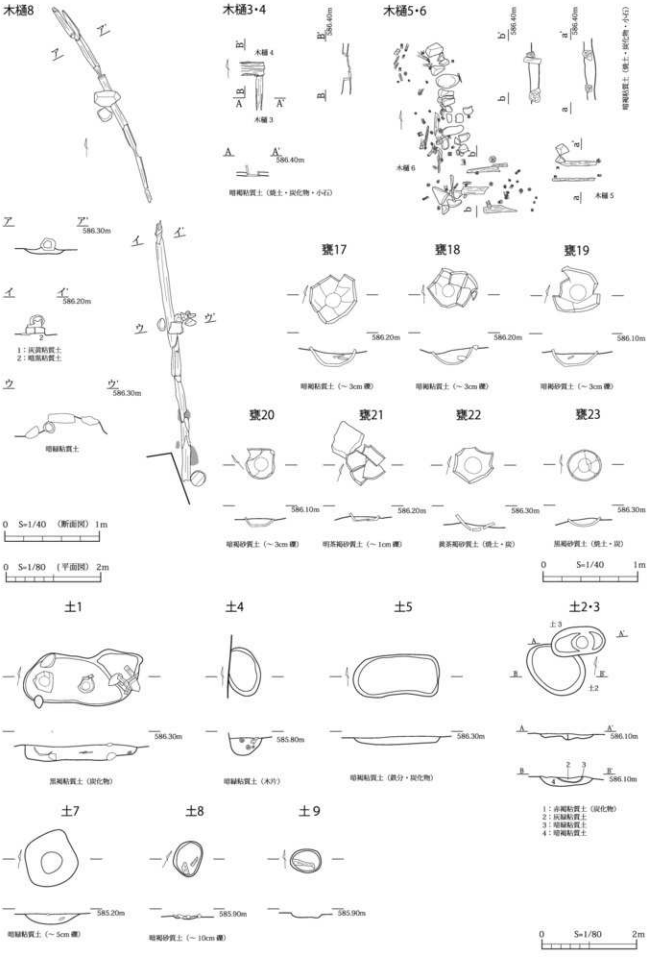


図 23　土居尻 1　II 検遺構図 (3)

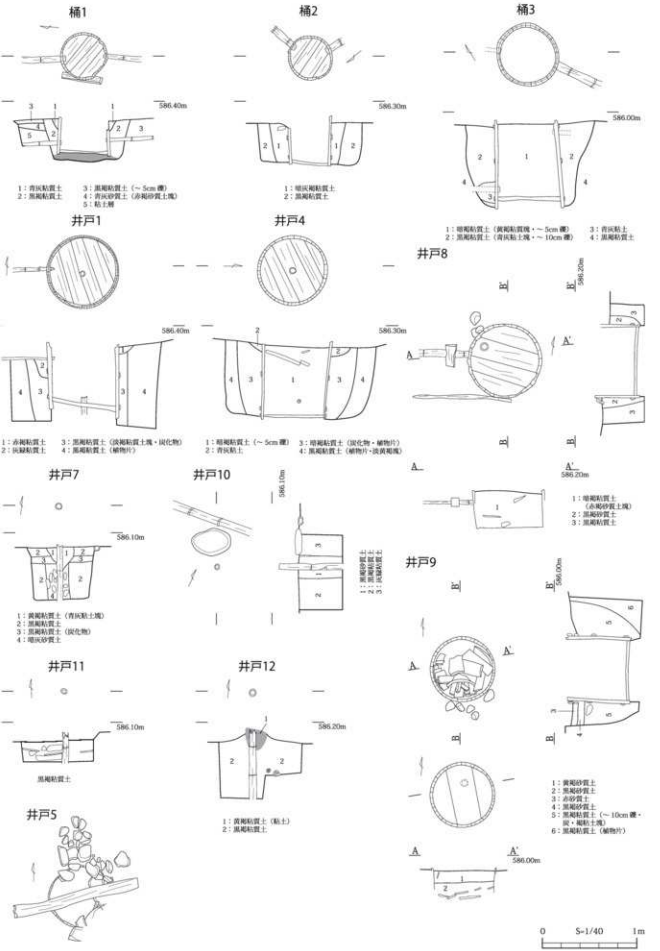


図 24　土居尻 1　II 検遺構図 (4)

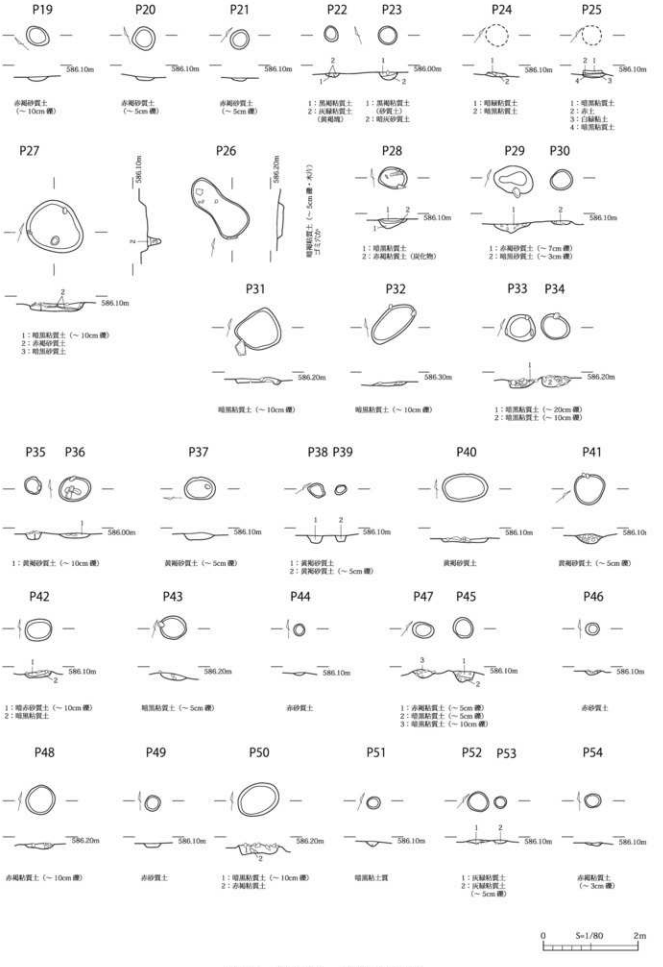


図 25　土居尻 1　II 検遺構図 (5)

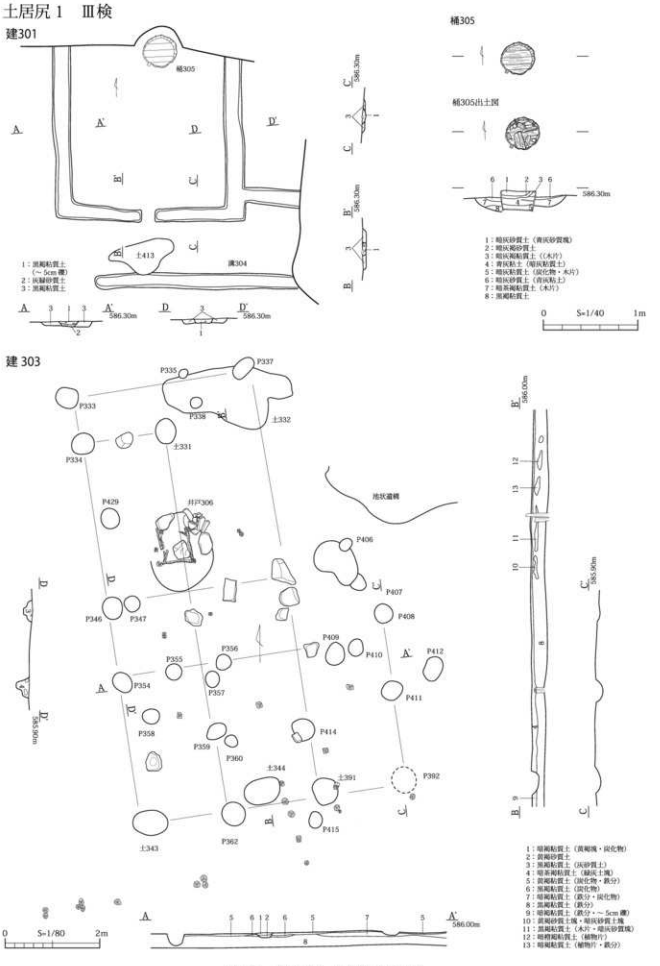


図 26　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (1)

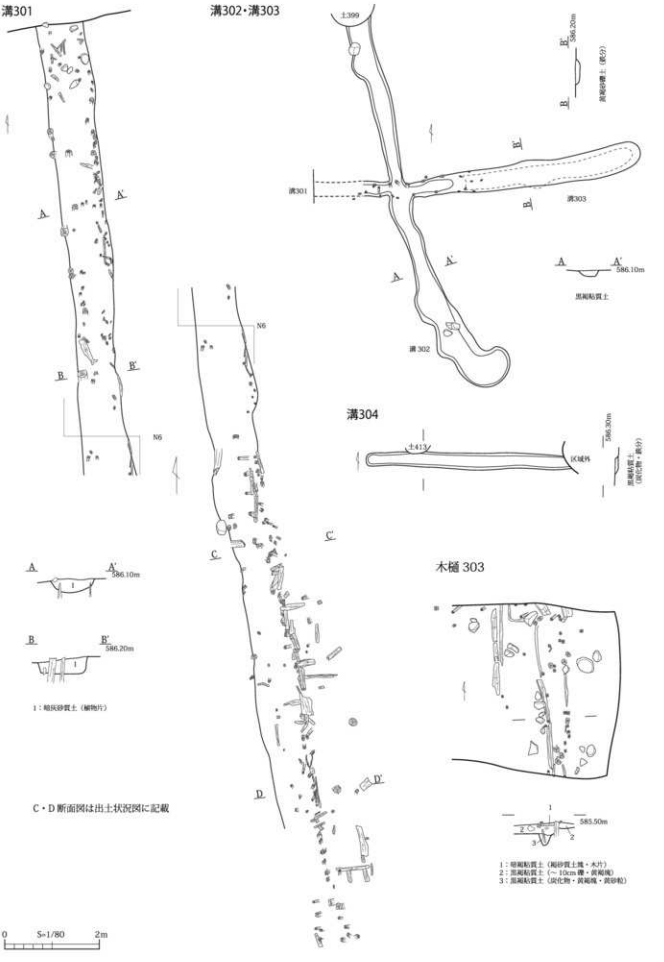


図 27　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (2)

図 28　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (3)

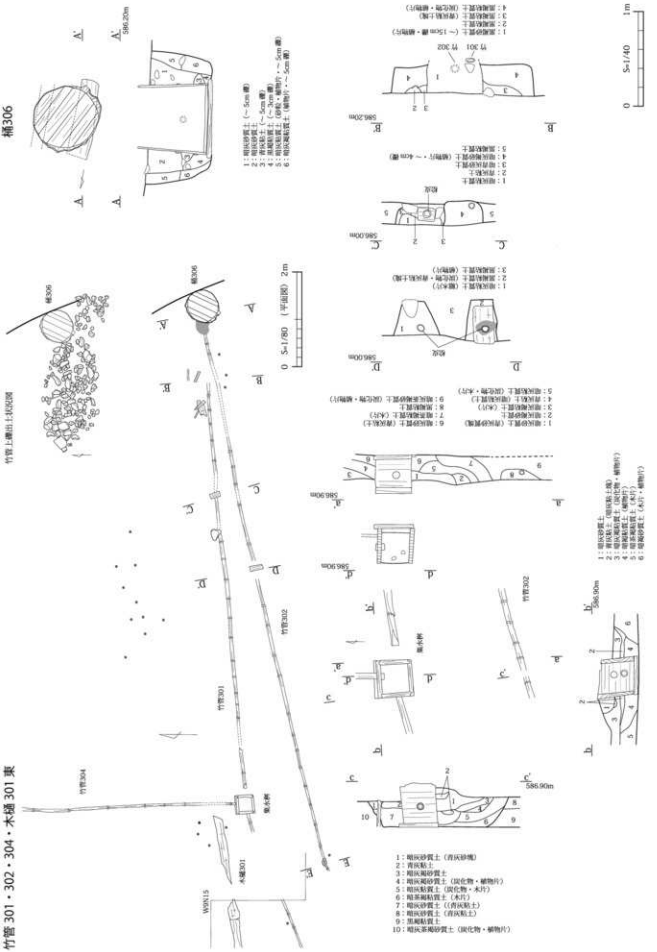


図 29　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (4)

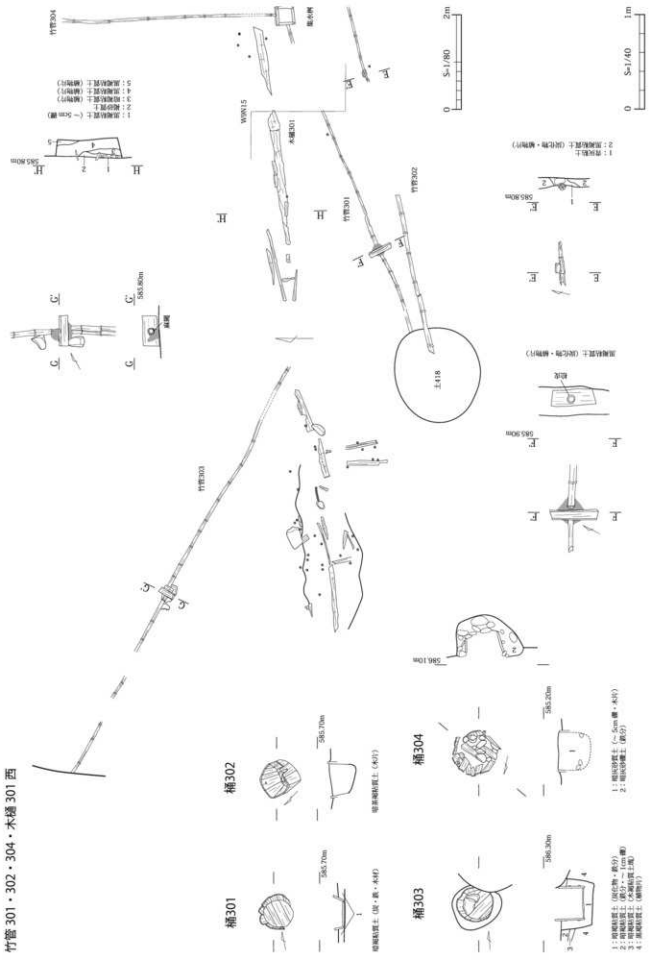


図 30　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (5)

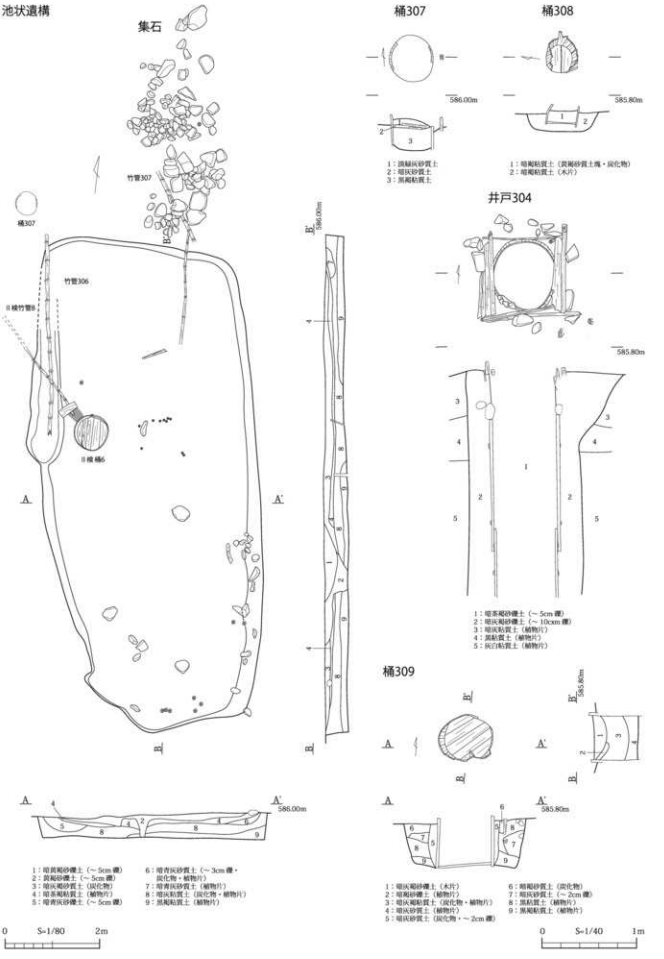


図 31　土居尻 1　III 検遺構図 (6)

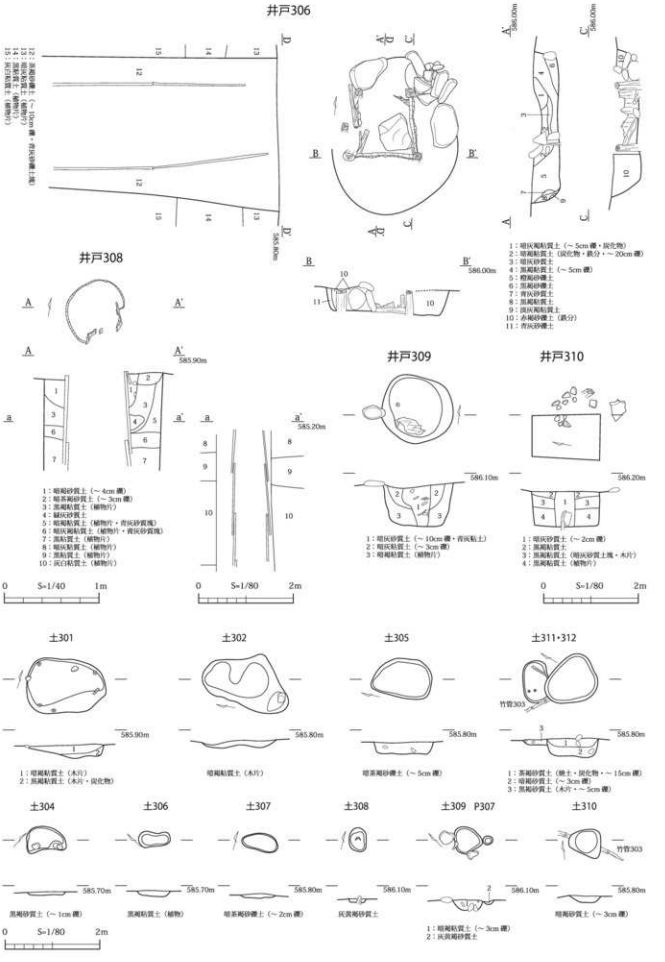


図 32　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (7)

調査区東集石

図 33　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (8)

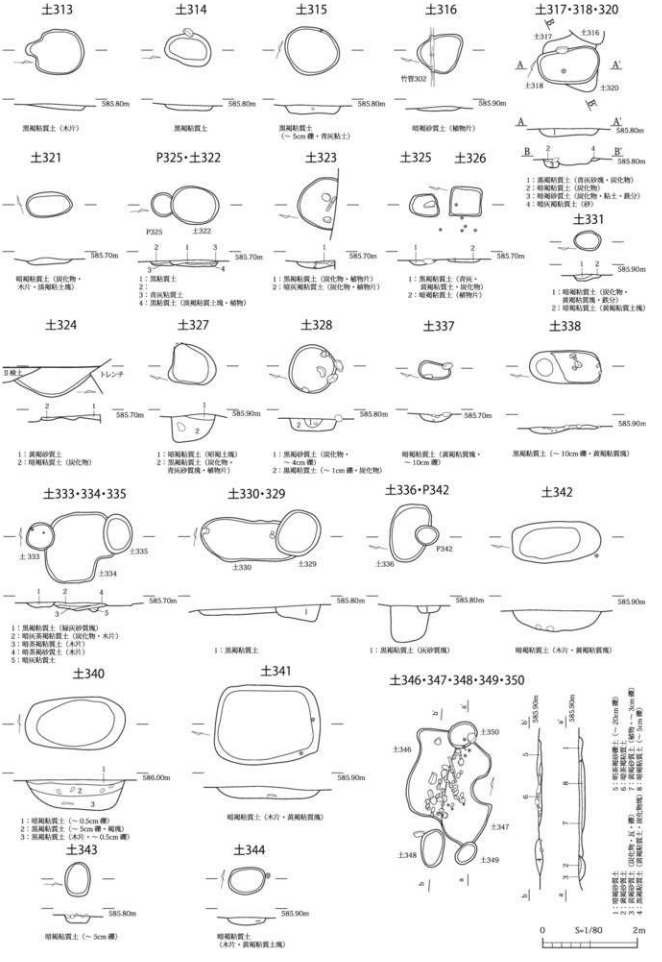


図 34　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (9)

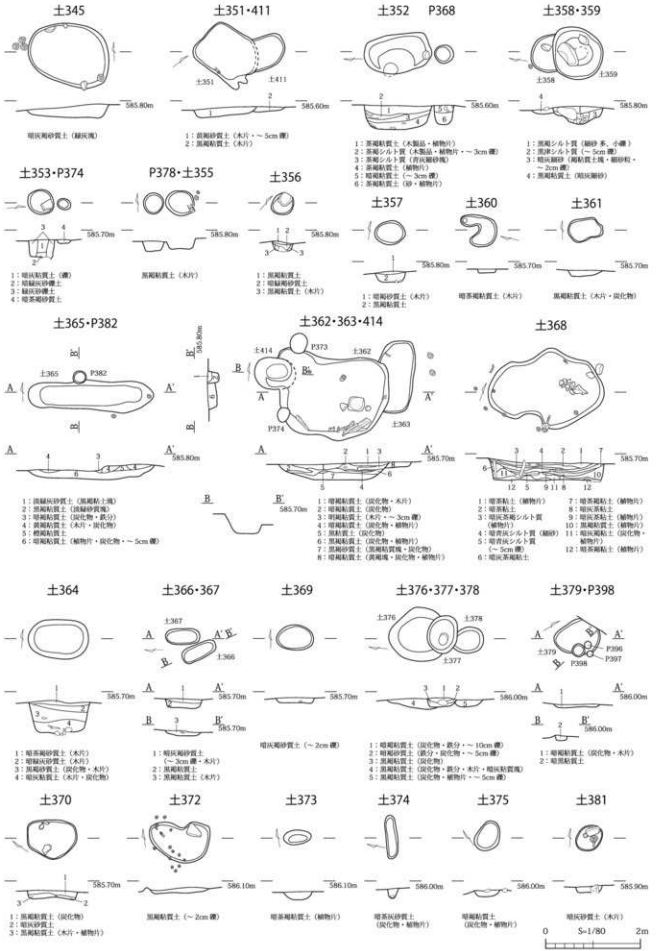


図 35　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (10)

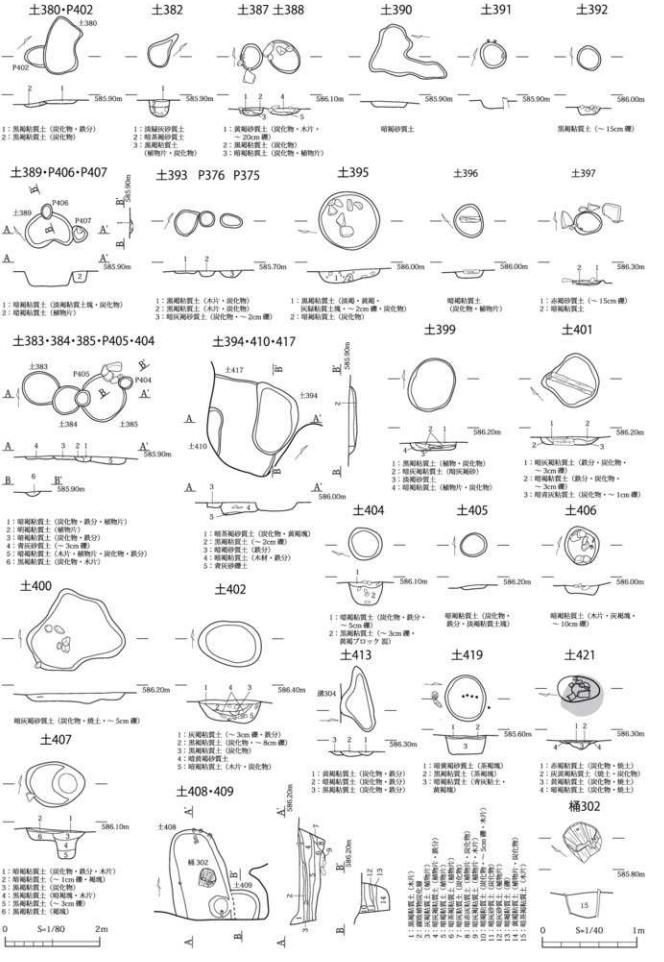


図 36　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (11)

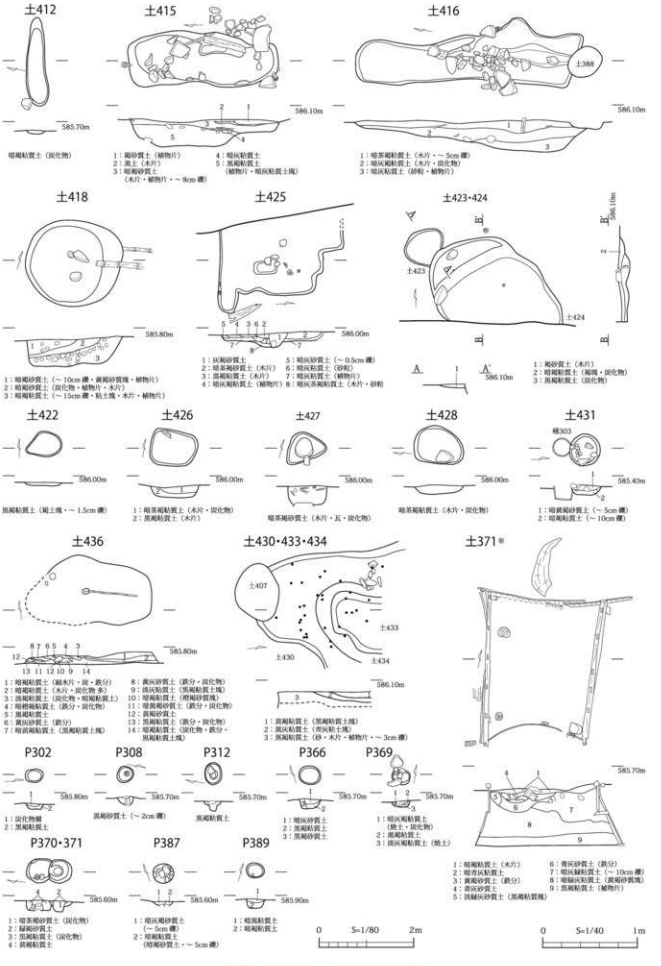
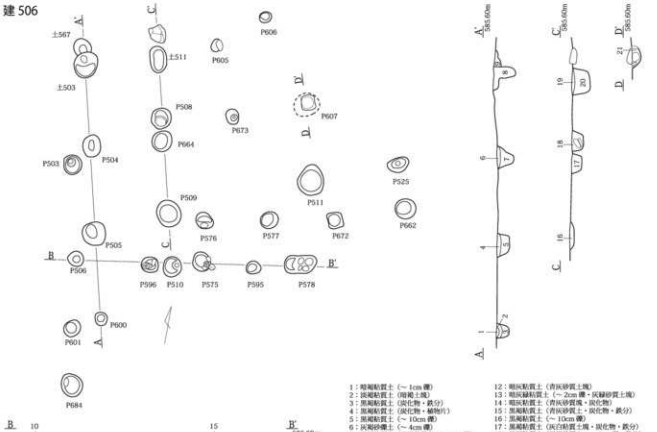


図 37　土居尻 1　Ⅲ検遺構図 (12)

土居尻 1　Ⅳ検

建 506



柱穴列

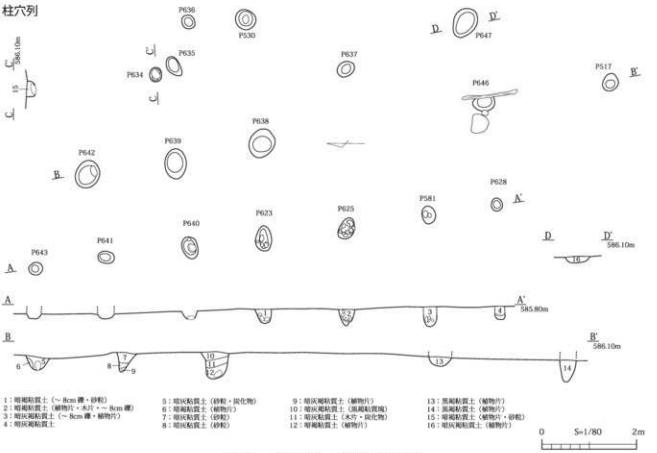


図 38　土居尻 1　Ⅳ検遺構図 (1)

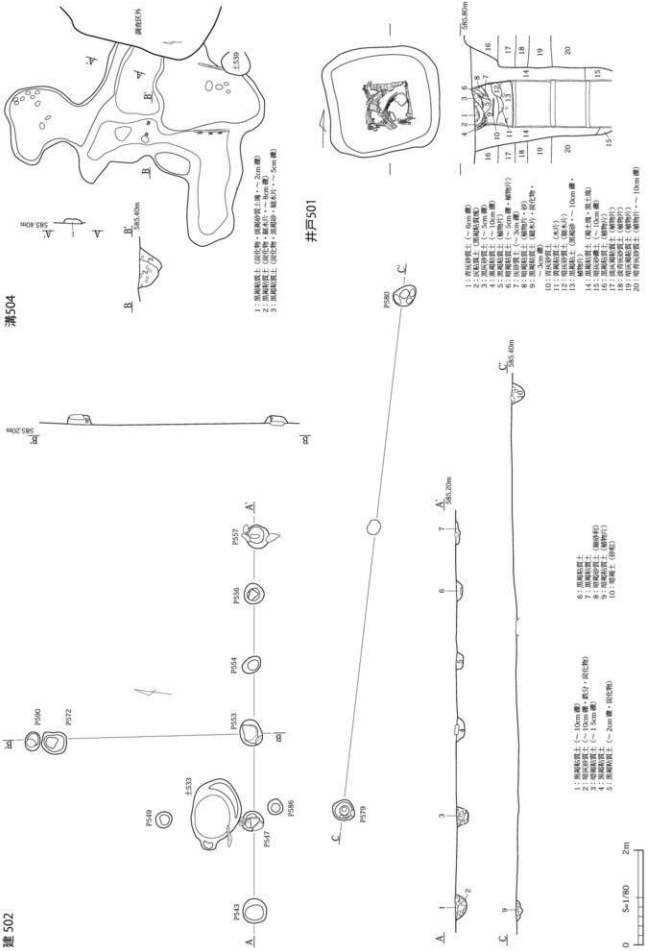


図 39　土居尻 1　Ⅳ検遺構図 (2)

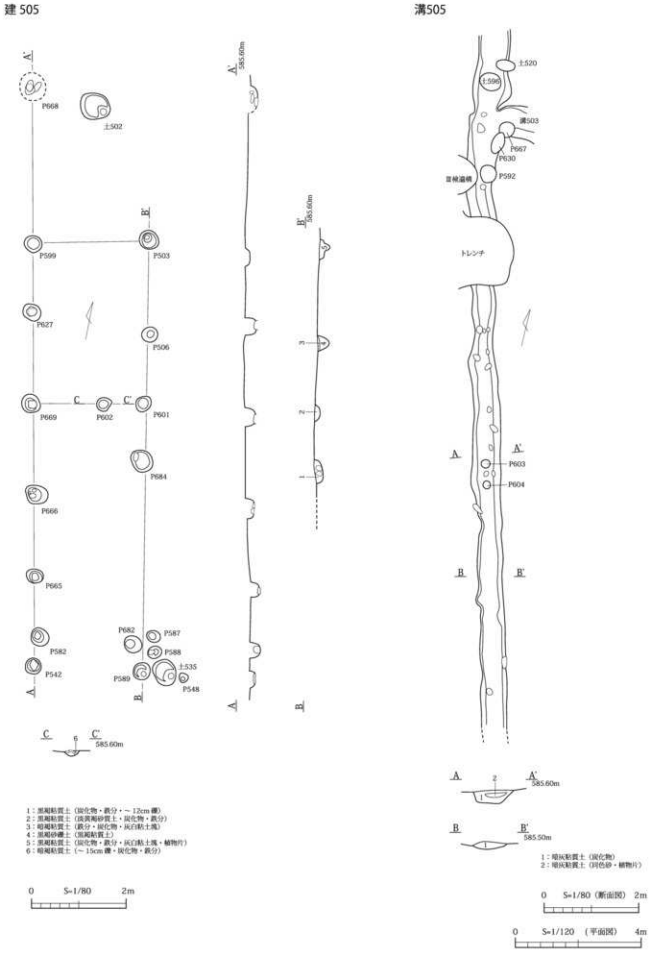


図 40　土居尻 1　Ⅳ検遺構図 (3)

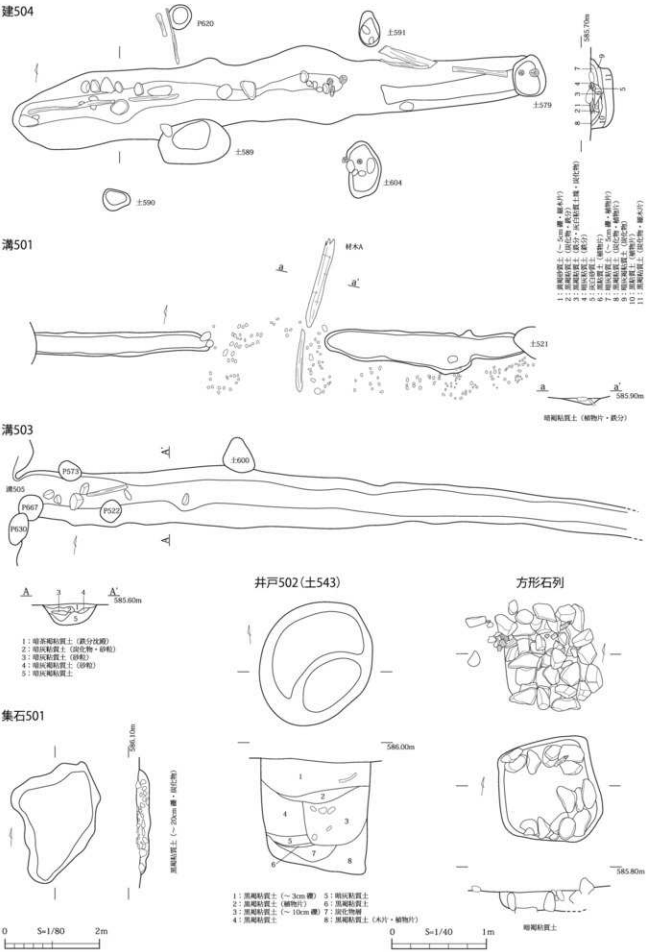


図 41　土居尻 1　Ⅳ検遺構図 (4)

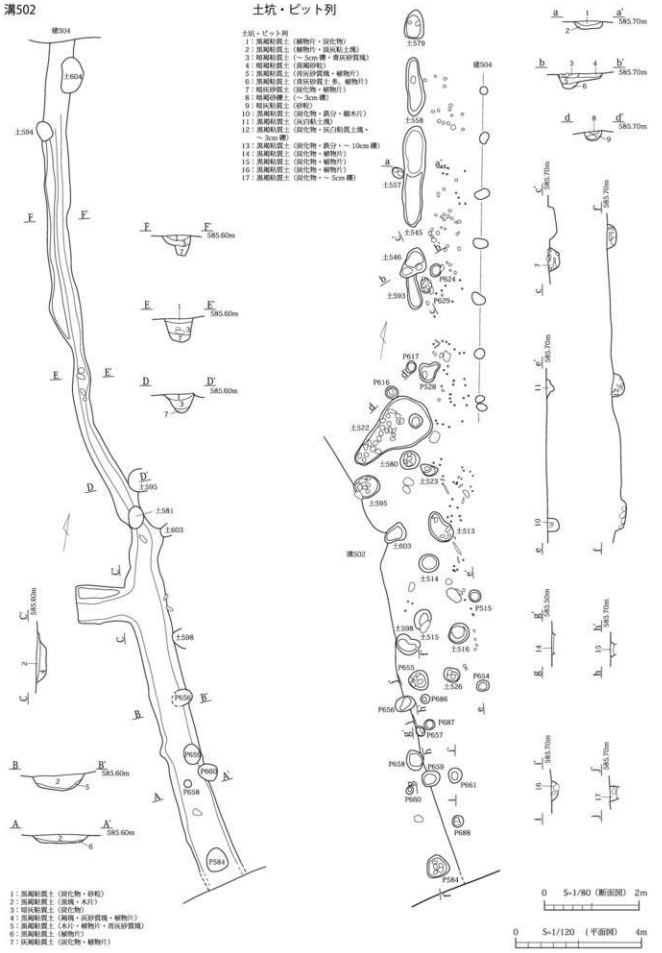


図 42　土居尻 1　Ⅳ検遺構図 (5)

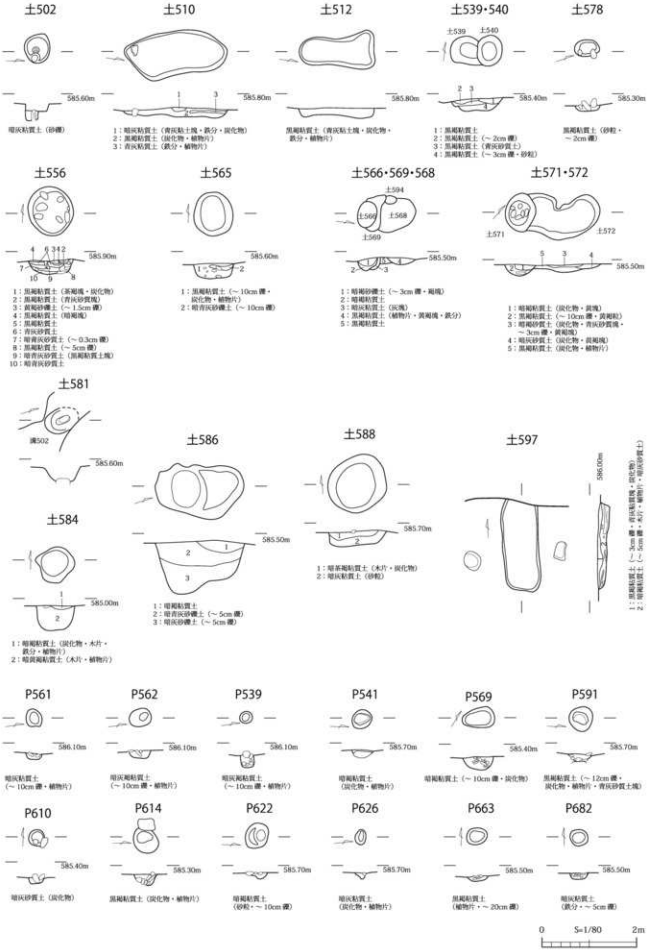


図 43　土居尻 1　Ⅳ検遺構図 (6)

土居尻１　南区

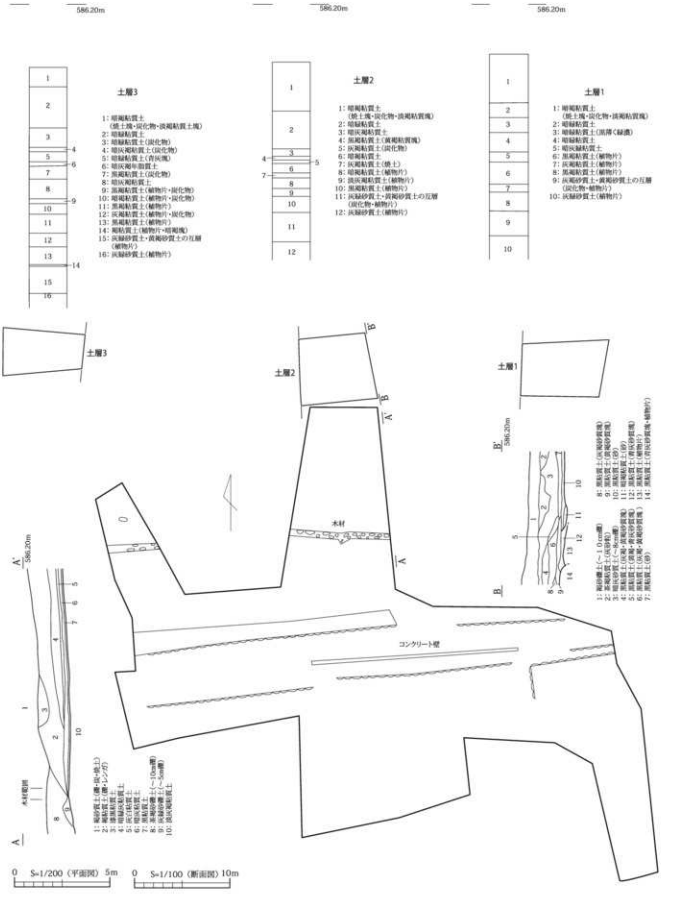


図 45　土居尻１　南区全体図

第Ⅳ章　調査成果（大名町 3）

第 1 節　調査の概要

1　調査区の設定

基幹博物館建設地のうち、土居尻 1 で調査が及んでいない東側を調査対象とし、最大の面積となるように調査区を設定した。この調査により、土居尻 1 と合わせて三の丸南端に位置する土手小路に面している武家屋敷地のほぼ全面を調査することができた。

2　発掘手順

パワーショベルにより撹乱土を除去し、最上面で検出された生活面をⅠ検とした。その後、人力による検出を行い、検出が完了した遺構から遺構番号を付与し、その後は人力により掘り下げた。なお、遺構番号は検出面ごとに 1 号から順に付与した。掘り下げの終了した遺構は写真撮影と測量図の作成による記録を行った。すべての遺構の掘り下げと記録が終了した後、重機を使用してⅡ検までの掘り下げを行った。その後、Ⅲ検まで同様の手順を繰り返した。調査は発生土により埋め戻しを行い、発掘調査の現場における工程を終了した。

3　測量・写真記録

遺構測量に係る基準は国家座標（世界測地系・第 8 系・東北太平洋沖地震後の値）を用いた。調査地周辺にある街区多角点を基に調査地内に基準点を設置し、これを基に 3m グリッドを設定した。測量基準点は、X=26240.000、Y=-47725.000 を NS0、EW0 とした。平面図は簡易遣り方測量により作成し、部分的に光波測距儀を併用した。平面図・断面図の縮尺は 1/20 を原則とし、詳細図が必要なものは 1/10 で作成した。写真は発掘調査の各調査段階と遺構等の遺物出土状況および完掘状況を、一眼レフデジタルカメラ（NIKON D90）・コンパクトデジタルカメラ（RICOH　G700）で撮影した。

4　整理の方法

図面類は平面図・土層断面図の点検・照合を行い、報告書に掲載するものはトレース作業を行った。遺物は洗浄・クリーニングを行った後、土器・陶磁器と瓦は注記（遺跡名、調査次、通し番号、帰属遺構名等）を行い、その他の遺物は台帳登録を行った。その後、遺構とその周辺単位で接合作業を行い、遺存度の良好なものや特徴的な遺物を中心に実測・トレースを行った。

5　調査区と検出面の概要

本調査地は土居尻 1 北区に隣接している。絵図との照合から、調査区の西側概ね 1/3 から 1/2 の範囲は土居尻に属するが、より範囲の大きい大名町の遺跡名で調査を実施した。Ⅰ検は近代の遺構・遺物を検出し、Ⅱ検では近世前期から後期までの遺構が切り合う形で検出された。土居尻 1 のような近世の中で明確な盛土造成の痕跡は確認できないため、同一面を使用し続けたか、わずかに削平しながら生活面を整地した可能性がある。

地山面であるⅢ検まで掘り下げると、Ⅰ・Ⅱ検において展開されていた現代撹乱の多くが除去されたため、Ⅰ・Ⅱ検に帰属するが検出できなかった複数の遺構が検出できた。そのため、出土遺物等の時期から整理段階において本来帰属するであろう検出面へ振り替えを行った。

第２節　遺構

１　Ⅰ検の遺構

出土遺物から、大正から昭和時代のものも若干含まれているが、主に当該面の主は幕末から明治時代に帰属すると考えられる。この時代の主な出来事として、本願寺松本別院が明治15年に竣工され、明治の大火（21年と23年）により損傷し、昭和30年代に蟻ケ崎へ移転したことが挙げられる。出土遺構から、本願寺松本別院の範囲は調査区の東側2/3程度と推定される。出土遺物から、遺構は本願寺竣工以前及び明治の大火前、後の３時期に分けられることがわかった。

溝４・10　溝４は「L」字状に曲がり、北部と西部は攪乱に切られている。覆土には拳大～人頭大の礫が敷きつめられており、雨落ち溝の様子を呈している。溝10は２本の溝が十字状に交差したように検出された。２本の溝に切り合いがみられなかったため、同一遺構として扱った。溝４と溝10の間は攪乱によりそのつながりは不明であるが、合わせて「コ」字状ないしは「ロ」字状につながる可能性があり、明治15年から昭和30年頃まで存在した[文献1]本願寺松本別院の本堂周囲を囲う雨落ち溝とも考えられる。また、本址辺りに本堂があったと記憶している地元住民の証言も得られたことや、出土遺物には幕末～明治期の陶磁器が多く見られることから、前述の本願寺の記録とも合致する。

溝５　「L」字状に曲がり、南側は調査区外に延びる。東側は溝15と切り合い関係にありプランが不明瞭なため、本来は溝15に重なるように南に溝が延びていた可能性がある。北側の東西に延びる溝の端部に礎石と考えられる大礫が確認できたため、建物の布基礎跡であると考えられる。

溝７　幅約40㎝、検出延長は約６ｍで南北に延び、南側は調査区外へ続く。覆土中には拳大の礫が充填され、中央付近を水路１に切られる。上部に基礎石を置く建物基礎か。出土遺物から18世紀末～幕末期に帰属する。

溝14　上端の幅約40㎝で南北に延び、さらに調査区外へと続く。溝の両岸に多数の杭が打たれており、さらに部分的に杭列と岸の間に板材が設置されていた。溝底部から砂層の堆積があったことから、水が流れていたと推測される。似たような事例として江戸武家屋敷跡（千代田区溜池遺跡[文献3]等）で検出された溝状遺構が挙げられ、そこでは排水溝址として扱われている。

溝16　竹管が設置された水道遺構である。竹管は、６～８間隔に設置された木製ジョイントによりつなげられている。検出された範囲は、東半が約28m、西半が約18m弱で、さらに東西に延びると考えられる。土86の桶は、溝16と同軸上に位置しているため、水道遺構の一部であった可能性がある。竹管の一部は銅線を用いて修復され、さらに止水のために粘土で覆われていたことが確認できた。出土遺物から幕末～近代に帰属する。

溝17　幅は約50～90㎝でＬ字状を呈している。覆土上層部は焼土と拳大の礫、Ｌ字角部には上面を平らに整形した60～70cm大の石が据えられ、それを除去すると丸太が組まれていた。溝底面には捨て杭は打たれないが、布堀礎石建物の基礎部分と考えられる。角部の石は礎石の一部か。

水路１　部分的にコンクリートで造られており、本願寺の参道に関わる遺構と考える。推定される本堂の位置と当時の様子を知る地元住民の証言から参道は千歳橋からまっすぐ北に延びた箇所に位置すると考えられるため、本遺構は参道にかかる遺構と推定できる。出土遺物には19世紀～近代の陶磁器、大正～昭和期に生産されたマーブル玉がある。

土５　桶を埋設した自噴式の井戸跡である。底板の穴には廃絶時の息抜き用の鉄管が通されていた。掘方内より16世紀末～17世紀の瀬戸・美濃産陶器が出土するが、自噴式の井戸の登場が幕末期以降のため混入品か。桶内埋土から出土した10円玉から廃絶は昭和30年以降と考える。

土84　東側にこぶし大～人頭大の礫、瓦、陶磁器片等が集中する。南西壁部には４本の杭、底面には３

本の細杭が打たれている。出土遺物から幕末～明治期に帰属する。

土 86　検出時には木桶が確認されていた。西半は攪乱されているが、位置的におおよそ溝 16 の延長線上にあるため、調査区を東西に縦断する水道遺構の一部である可能性がある。

土 87　掘方はごく浅く、土坑中央に礎石と思われる扁平な自然石が据えられていた。本址に対応するほかの礎石は確認されなかった。

土 90　埋設桶が壊れ、底板と側板の一部は失われている。隣接する土 93 との切り合いは確認できなかったため、同一時期に埋設されたものと考えられる。

土 93　埋設桶が良好な状態で残存し、底板・側板に穿孔は見られない。桶の下部には更に別の桶（Ⅱ検土 191 埋設桶）が検出されたが、本址の配置とは合わない。下部遺構は桶を重ねた形式の井戸だが、本址は井戸とは異なる遺構と考えられる。

焼土範囲　調査区の東半にのみ焼土範囲が認められた。明治の大火に伴う焼土と考えたが、出土遺物の大半が 17 世紀～ 18 世紀に帰属し、19 世紀のもはごくわずかであったため、大火に伴う焼土というより、別の火災場所から持ち込まれた造成土である可能性が高いと思われる。

瓦集中部　本願寺本堂の周囲に巡らされた雨落ち溝跡と考えられる溝 4・10 に囲まれた中で検出された。瓦が含まれていた土層に焼土塊や炭化物が多く含まれていたため、火災により焼失した建物の瓦が一括廃棄された可能性がうかがえる。瓦の中には、立沢瀉文、三つ巴文等の家紋瓦が含まれている。「旧松本市史」[文献 1] によると、明治 21 年 1 月と明治 23 年 3 月の 2 度の火災により調査地一帯も含め相当な被害を受けたことから、瓦の廃棄時期は、明治の大火直後と考えられる。

2　Ⅱ検の遺構

出土遺物は 16 世紀後半～近代までと幅広いが、当該面は主に松本城築城期頃から幕末以前に帰属すると考えられる。近世の遺構の大半はこのⅡ検に集中している。近世の三の丸は武家屋敷地として利用されており、家主は時代によって変わり、敷地面積や建物の配置も家主の石高に応じて作り変えられた。地点によって整地盛土を行っていることが過去の発掘調査の成果や絵図から判明している。本調査地では旧地形が微高地状であったため、土居尻 1 でみられた盛土による整地ではなく削平を伴う整地を行った結果、幅広い時期の遺構が検出されたと考えられる。

溝 7　調査区北端から真っ直ぐ南へ延び、両端とも調査区外へ続く。中央付近は池状遺構である土 123 に切られている。幅は 40cm ～ 200cm と一定でなく、北半が狭く南半は広い傾向がみられる。埋土中には胴木を伴う人頭大の石列と拳大の自然礫が集中し、礫は胴木下部にも及ぶ。土 123 との切り合い部では掘方は確認できないが、平面プランに併行して杭列が並んでいる。出土遺物から 16 世紀後半～ 17 世紀前半に帰属すると考える。近世の屋敷割とは軸が異なるため、三の丸整備以前の地割に伴う遺構である可能性も考えられる。

溝 16　幅約 20 ～ 70cm、北東から南へくの字状に延び、南側は調査区外へ続く。北半底面部には杭が打ち込まれており、敷地境の溝と考えられる。出土遺物から 18 世紀後半～ 19 世紀初頭に帰属すると考えられる。

溝 31　竹管が設置された水道遺構で、竹管は木製ジョイントに連結する。南北両端には桶形の枡を配置、竹管と接続している。検出範囲は延長約 10 m、北西から南東に延び、さらに東西へ続くと考えられる。多量の遺物が出土しており、陶磁器の制作年代から概ね 18 世紀後半～ 19 世紀初頭に帰属する。

畝状遺構　調査区中央付近で検出。東西に延びる 6 条と南北に延びる 1 条の溝状掘り込みが複合しており、切り合い関係は認められない。長さは東西約 160cm ～ 280cm、南北 410cm、幅は約 25cm ～ 50cm 程であり、

いずれも断面はごく浅い。北から 2 本目の掘方内に自然木が確認されたが用途は不明。18 世紀後半の家主である太田氏の屋敷間取り図[文献2]には畑の位置が記載されているため、本址は畝を作る際にできた痕跡と考えられる。出土遺物から 19 世紀前半以降に帰属すると考えられる。

また、同様に土 125 を切る溝 12 ～ 15、土 142 についても畝状に検出されていることから、同様に太田氏時代の畑跡である可能が高い。

土 44　底面に扁平な自然礫が据えられている。埋土内に堆積する栗石から、柱抜取後の掘立柱建物の柱穴と考える。

土 113　桶が埋設されており、桶底板・側板に穿孔はなく、栗石もない。出土遺物から廃絶年代は 19 世紀以降と考えられる。

土 114　土 113 に隣接し、113 同様桶が埋設されている。桶底板・側板に穿孔は認められない。桶内上層には板状の木材が重なって破棄されていた。

土 123　長軸約 11m で平面不整形を呈する。南半中央底面部にはテラス状の高まりがあり、これを境に東西両側の底面はより深く掘り込まれている一方、北半は浅く平面は不整形である。南東部底面付近で拳大～人頭大の礫集中を確認したが、湧水が確認されたことから本址より古い時期の石組井戸（土 194）の痕跡とした。出土遺物より廃絶期は 18 世紀後半～ 19 世紀初頭に帰属する。陶磁器の他、漆器・木簡等の木製品、刀装具・包丁・簪等金属製品、石臼・碁石等石製品、瓦、ガラス製簪など多岐にわたる多量の遺物が出土した。元来は池として作られたが、屋敷の住み替え等の理由で廃絶された際に廃棄土坑として利用されたものと考えられる。

土 131　桶が埋設され、掘方内には木材が据えられていた。底板、側板に穿孔は見られない。遺物は陶磁器小片の他、桶下部からは硯が出土している。

土 143　長軸約 7 m、平面隅丸長方形を呈する。南北に長く南側は調査区外へ続く。北半底面部がやや深い。多量の遺物が出土しており、土 123 と概ね同様の年代観を持つ。壁はほぼ垂直に立ち上がり、周縁付近で浅いテラス状を呈する。比較的形状が整っていることから、元は別の目的で作られた遺構を最終的に廃棄土坑として利用したものか。

土 182　掘方を地下水脈まで掘り抜き、底板の無い桶を積み重ねた井戸側を持つ井戸跡である。出土遺物から廃絶期は 18 世紀中葉～後半と考えられる。

土 191　底板の無い桶を積み重ねた井戸側を持つ井戸跡である。I 検土 93 埋設桶の下部の桶に相当する。18 世紀中葉の瀬戸産せんじ碗などが出土している。

土 192　埋設された木桶底部に穴を開け、竹管を設置した自噴式の井戸跡である。掘方内出土遺物から、構築年代は幕末以降に帰属すると考えられる。

土 194　掘方を地下水脈まで掘り抜き、拳大～人頭大の自然礫を積み重ねた井戸側を持つ井戸跡である。土 123 の掘り下げ過程で礫集中を確認したため別遺構とした。出土遺物は無い。

土 196　断面台形で深さは約 90cm、埋土内から 17 世紀後半～ 18 世紀陶磁器・土器、木製品などが出土した。本来の機能・性格は判然としないが、未完掘の井戸などの竪穴を廃棄土坑として利用したものと考えられる。

土 197　方形に組んだ木枠の井戸枠を配し、木枠周囲に拳大～人頭大の自然礫・割石を充填した井戸跡である。遺物は 17 世紀後半の磁器、漆器等が出土した。

土 198　断面袋形で深さは約 130cm、埋土内からは 16 世紀後半～ 18 世紀頃の陶器・土器、木製品などが出土した。土 196 と同様、本来の性格は判然としないが、竪穴を廃棄土坑として利用したものか。

土 199　底面の一部が円筒形に深く掘り下げられている。出土遺物は 17 世紀代の陶器、漆器等がある。

出土遺物の多さから廃棄土坑と考えられる。

土 201　掘方円筒形で深く掘り下げられるが、安全面から完掘はしなかった。出土遺物は 17 世紀～ 18 世紀の陶磁器・土器、漆器等がある。素掘りの井戸ないし未完掘の井戸を廃棄土坑として利用したものか。

土 202　廃棄土坑と考えられる。遺物は 16 世紀末～ 17 世紀の陶器・土器が出土した。

3　Ⅲ検の遺構

遺物出土量が少ないものの、時期は 16 世紀末～ 17 世紀中頃までとまとまりがあり、Ⅱ検とも共通する時期である。遺構密度はⅡ検と比較すると少なく、特に調査区中央部ではほとんど検出されなかったが、Ⅱ検で確認した武家地に伴う遺構とは軸が異なる建物址、溝跡が認められた。また掘立柱建物址と見られる土坑の中に栗石や礎盤石を伴うものも確認された。

建物跡（土 101・105・107・108・121・123・124・169・173・175・176）　2 間× 4 間の建物跡 1 棟を確認した。土 105・108・176 には木製の柱材が残存する。これらは掘方底面より下層に打ち込まれていた。土 101・121・123・124・169・173・175 には礫が残存しており、これらは柱材の腐食や軟弱地盤での沈下を防ぐためのものである。出土遺物は土 169 で 16 世紀末～ 17 世紀末の陶磁器、土 108 から 17 世紀後半のものが確認されたが、それ以外は 18 世紀中葉～後半にまとまる。

溝 7　北西から南東へ延びる平面不整形の溝状遺構で、溝 8 等と切りあうが攪乱を受け正確な範囲は特定できない。計測可能な範囲では幅約 60 ～ 130cm で、両端が調査区外へ続いている。出土遺物が少なく時期の特定は難しいが、近世の遺構軸と異なることから三の丸整備以前の可能性も考えられる。

溝 9　幅約 80cm、検出された延長は約 12m 弱で東西に延びる。出土遺物は少ないが、遺構の軸から溝 7 同様三の丸整備以前の可能性も考えられる。

土 8・70・71・89・90・104・135　埋土中～底面付近に拳大程度の自然礫・角礫が集中する。栗石を伴う掘立柱建物の柱穴と考えられる。土 71 は平面不整形を呈するが、切り合い或いは抜取等によるものか。土 135 には柱材と思われる木材の一部が残存する。出土遺物は少量で時期を比定できるものはない。

土 58・75・131・139・172　底面部に扁平な面を持つ自然礫が 1 つないし複数据えられている。礎盤石を伴う掘立柱建物の柱穴と考えられる。土 139 は礎盤石上に中心が腐食し空洞化した柱材が残存していた。土 172 のみ埋土内から連房期の陶器片が出土する。

土 69・88・160・166　埋土中に拳大程度の自然礫が集中し、底面部には扁平な面を持つものや人頭大の礎盤石が据えられている。土 69 のみ底面に 2 か所の礫集中と打ち込まれた杭が認められる。切り合いないし作り変えのためと考えられる。出土遺物はほとんどなく、時期の特定は難しい。

土 40・54　土層断面から柱痕跡が確認できたが、木質は残存しておらず、柱抜取後に埋土したと考えられる。

〈参考・引用文献〉

文献 1　松本市教育委員会　1933 『松本市史』上巻

文献 2　松本市教育委員会　1995 『松本市史』第二巻歴史編Ⅱ近世

文献 3　公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団　東京都埋蔵文化財センター　2011 『溜池遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 258

文献 4　江戸遺跡研究会　2001 『図説　江戸考古学研究辞典』 柏書房

文献 5　鐘方正樹　2003 『井戸の考古学』「ものが語る歴史　8」 同成社

表 3　大名町 3　土坑一覧表

検出面	土坑No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅰ	1	楕円形	55	41	11		
Ⅰ	2				欠番		
Ⅰ	3	不明	154	(34)	20		
Ⅰ	4	楕円形	116	80	27		
Ⅰ	5	楕円形	142	(85)	43	柱	
Ⅰ	6	不明	120	(31)	6		
Ⅰ	7				欠番		
Ⅰ	8	円形	43	＜38＞	28	柱	撹乱に切られる
Ⅰ	9	不成形	318	104	10	礫多あり	
Ⅰ	10	楕円形	148	97	11		
Ⅰ	11				欠番		
Ⅰ	12	楕円形	67	30	6		
Ⅰ	13～20				欠番		
Ⅰ	21	円形	72	55	34	礫・杭あり	
Ⅰ	22				欠番		
Ⅰ	23	方形	55	39	9	木枠あり	
Ⅰ	24	円形	68	50	4		
Ⅰ	25	楕円形	92	81	11		
Ⅰ	26				欠番		
Ⅰ	27	不成形	132	94	9		
Ⅰ	28	円形	31	25	4		
Ⅰ	29	不成形	172	162	5		
Ⅰ	30	不成形	160	109	10		
Ⅰ	31	楕円形	73	45	9		
Ⅰ	32	楕円形	40	20	5		
Ⅰ	33	楕円形	40	＜34＞	13		
Ⅰ	34				欠番		
Ⅰ	35	不成形	183	56	14	礫多	
Ⅰ	36	不成形	214	127	14	礫多	
Ⅰ	37	円形	37	36	5		
Ⅰ	38～39				欠番		
Ⅰ	40	楕円形	52	37	5		
Ⅰ	41	不成形	50	45	13		
Ⅰ	42				欠番		
Ⅰ	43	不成形	103	70	15		
Ⅰ	44	円形	53	51	15		
Ⅰ	45	不成形	110	40	12		
Ⅰ	46	円形	63	43	9		
Ⅰ	47	円形	38	27	4		
Ⅰ	48	楕円形	55	35	9		
Ⅰ	49	円形	35	30	26		
Ⅰ	50	円形	57	57	12		
Ⅰ	51	円形	69	47	51		
Ⅰ	52～53				欠番		
Ⅰ	54	円形	37	20	8		
Ⅰ	55	楕円形	98	40	25		
Ⅰ	56				欠番		
Ⅰ	57	円形	53	51	6		
Ⅰ	58	円形	44	38	10		
Ⅰ	59	円形か	65		65	柱・竹管あり	水道遺構
Ⅰ	60	楕円形	84	42	12		
Ⅰ	61～63				欠番		
Ⅰ	64	楕円形	62	38	7		
Ⅰ	65	円形	55	34	4		
Ⅰ	66	円形	53	50	9		
Ⅰ	67	円形	40	＜38＞	43	礫多あり	
Ⅰ	68				欠番		
Ⅰ	69				欠番		
Ⅰ	70	円形	38	27	12		
Ⅰ	71	円形	36	32	8		
Ⅰ	72	楕円形	81	58	13		
Ⅰ	73	円形	36	30	6		
Ⅰ	74	円形	40	30	9		
Ⅰ	75	楕円形	112	＜75＞	8	礫多あり	
Ⅰ	76				欠番		
Ⅰ	77	円形	52	42	12		
Ⅰ	78	不成形	105	76	11		
Ⅰ	79	楕円形か	90	(90)			
Ⅰ	80	楕円形	71	53	23		
Ⅰ	81	円形	49	43	14		
Ⅰ	82				欠番		
Ⅰ	83				欠番		
Ⅰ	84	不成形	318	148	38	礫・木片等あり	

検出面	土坑No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅰ	85	円形	102	77	10		
Ⅰ	86	不明	58			柱	井戸か
Ⅰ	87	円形か	72	(32)	25		礎石か
Ⅰ	88	楕円形	(274)	134	7		
Ⅰ	89	円形	54	(32)	16		
Ⅰ	90	円形	-	-	-	柱	
Ⅰ	91	不成形	173	70	10		
Ⅰ	92	楕円形	75	59	12	礫多あり	
Ⅰ	93	円形	-	-	-	柱	
Ⅱ	1	円形	39	33	9		
Ⅱ	2	楕円形	143	63	33		
Ⅱ	3	楕円形	42	33	6		
Ⅱ	4	楕円形	91	59	9		
Ⅱ	5	円形	41	33	6		
Ⅱ	6	楕円形	48	38	4		
Ⅱ	7	楕円形	98	54	6		
Ⅱ	8	円形	30	28	6		
Ⅱ	9	円形	22	14	3		
Ⅱ	10	円形	22	17	2		
Ⅱ	11	楕円形	112	94			
Ⅱ	12	円形	23	18	8		
Ⅱ	13	円形	20	(10)	14		
Ⅱ	14				欠番		
Ⅱ	15				欠番		
Ⅱ	16	楕円形	50	26	2		
Ⅱ	17	楕円形	97	25	5		
Ⅱ	18	円形	16	(8)	11		
Ⅱ	19	楕円形	68	50	8		
Ⅱ	20	円形	28	26	3		
Ⅱ	21	円形	48	38	3		
Ⅱ	22	円形	20	18	8		
Ⅱ	23	円形	27	18	4		
Ⅱ	24	円形	23	14	3		
Ⅱ	25	円形	18	16	4		
Ⅱ	26	楕円形	111	36	6		
Ⅱ	27	楕円形	150	76	14		
Ⅱ	28	円形	63	58	35	礫多あり	
Ⅱ	29	楕円形	162	84	10		
Ⅱ	30	円形	33	28	16		
Ⅱ	31	円形	20	12	7		
Ⅱ	32	円形	38	32	7		
Ⅱ	33	円形	22	22	4		
Ⅱ	34	円形	26	24	8		
Ⅱ	35	円形	31	30	6		
Ⅱ	36	円形	36	33	4		
Ⅱ	37	楕円形	106	40	62	礫多あり	柱穴痕
Ⅱ	38	不整形	158	68	9		
Ⅱ	39	楕円形	60	41	6		
Ⅱ	40	円形	178	146	20		
Ⅱ	41	円形	48	46	16		
Ⅱ	42	円形	39	38	21		
Ⅱ	43				欠番		
Ⅱ	44	円形	42	42	38	礫多あり	柱穴痕
Ⅱ	45	円形	50	(22)	21		礎石か
Ⅱ	46	円形	48	40	6		
Ⅱ	47	方形	118	110	10	礫一面あり	
Ⅱ	48	円形	25	(14)	18	杭あり	
Ⅱ	49	円形	134	(70)	13		
Ⅱ	50	楕円形	(90)	(21)	5		
Ⅱ	51	円形	48	37	16		
Ⅱ	52	不整形	142	134	36	礫・木多あり	
Ⅱ	53	円形	94	80	19		
Ⅱ	54	楕円形？	(40)	31	10		撹乱に切られる
Ⅱ	55	楕円形	104	58	20		
Ⅱ	56	楕円形	74	32	9		
Ⅱ	57				欠番		
Ⅱ	58	楕円形	64	46	17		
Ⅱ	59	円形	32	29	7		
Ⅱ	60	円形	26	24	8		
Ⅱ	61	円形	40	34	3		
Ⅱ	62	楕円形	30	14	2		
Ⅱ	63	円形	57	42	8		
Ⅱ	64	楕円形	290	99	10		
Ⅱ	65	円形	49	40	10		
Ⅱ	66	楕円形	53	30	12		
Ⅱ	67	円形	54	44	52	礫多あり	柱穴痕か
Ⅱ	68	円形	46	44	76	礫多あり	柱穴痕か
Ⅱ	69	円形	60	52	49		柱穴痕か
Ⅱ	70	円形	38	28	9		

検出面	土抗No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅱ	71	円形	66	62	56	底面に礫あり	柱穴痕か
Ⅱ	72	円形	38	40	10		
Ⅱ	73	楕円形	83	48	13		
Ⅱ	74	不整形	168	74	7		
Ⅱ	75	円形	97	76	13		
Ⅱ	76	円形	70	63	15		
Ⅱ	77				欠番		
Ⅱ	78	不整形	96	82	5		
Ⅱ	79	円形	60	57	44		柱穴痕か
Ⅱ	80						未掘
Ⅱ	81	円形	18	17	8		
Ⅱ	82	円形	34	29	9		
Ⅱ	83	円形	22	19	5		
Ⅱ	84	円形	45	37	7		
Ⅱ	85	楕円形	220	127	18	桶	
Ⅱ	86	楕円形	124	105	36		
Ⅱ	87				欠番		
Ⅱ	88	楕円形	236	74	5		
Ⅱ	89	不整形	(300)	168	14		
Ⅱ	90	円形	66	56	10		
Ⅱ	91	円形	55	40	13		
Ⅱ	92	円形	61	57	16		
Ⅱ	93	円形	28	26	16		
Ⅱ	94	円形	61	53	14		
Ⅱ	95				欠番		
Ⅱ	96	円形	(20)	29	26		柱穴痕
Ⅱ	97	円形	46	35	4		
Ⅱ	98	円形	42	40	16	礫多あり	
Ⅱ	99	円形	38	36	8		
Ⅱ	100	楕円形	55	22	4		
Ⅱ	101	円形	57	48	12		
Ⅱ	102	楕円形	54	204	8		
Ⅱ	103	長方形	(108)	64	14		
Ⅱ	104	円形	26	21	2		
Ⅱ	105	不明	-	-	-		未掘
Ⅱ	106	円形	95	84	10		
Ⅱ	107	円形	49	33	9	礫多あり	
Ⅱ	108	円形	30	29	4		
Ⅱ	109	円形	44	39	8	礫多あり	
Ⅱ	110	不整形	60	40	12		
Ⅱ	111	円形	34	33	6		
Ⅱ	112	円形	52	42	5		
Ⅱ	113	円形	86	84	29	桶	
Ⅱ	114	楕円形	116	110	40	桶	
Ⅱ	115				欠番		
Ⅱ	116	円形	43	(34)	33		礎石か
Ⅱ	117	円形	46	33	4		
Ⅱ	118				欠番		
Ⅱ	119	不整形	(130)	(120)	84		
Ⅱ	120	楕円形	49	26	5		
Ⅱ	121	円形	33	18	5		
Ⅱ	122	楕円形	103	74	9		
Ⅱ	123	不整形	1040	972	98		池状遺構
Ⅱ	124	円形	127	102	24		
Ⅱ	125	楕円形	(123)	62	19		
Ⅱ	126	楕円形	54	21	8		
Ⅱ	127	楕円形	58	23	6		
Ⅱ	128	円形	60	46	12		
Ⅱ	129	楕円形	126	120	50		
Ⅱ	130	円形	74	<47>	22		
Ⅱ	131	円形	94	84	30	桶	
Ⅱ	132	不明	-	-	-		未掘
Ⅱ	133	円形	48	35	24		
Ⅱ	134				欠番		
Ⅱ	135				欠番		
Ⅱ	136	楕円形	(74)	28	12		
Ⅱ	137	楕円形	64	33	13	杭２本あり	
Ⅱ	138				欠番		
Ⅱ	139	不整形	200	(140)	4		
Ⅱ	140	楕円形	125	108	10		
Ⅱ	141	円形	32	(15)	(47)		柱穴痕か
Ⅱ	142	不整形	694	274	20		
Ⅱ	143	楕円形	718	369	63		
Ⅱ	144	楕円形	115	96	5	木多あり	
Ⅱ	145				欠番		
Ⅱ	146	不整形	(154)	150	10		
Ⅱ	147	不整形	(260)	180	43		
Ⅱ	148	円形	(42)	35	11		
Ⅱ	149	円形	112	96	33	礫多あり	
Ⅱ	150				欠番		

検出面	土抗No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅱ	151	円形	67	52	15		
Ⅱ	152	楕円形	40	17	5		
Ⅱ	153	不整形	(95)	83	7		溝及に切られる
Ⅱ	154	円形	44	27	5		
Ⅱ	155				欠番		
Ⅱ	156	円形	40	27	3		
Ⅱ	157	楕円形	50	43	1		
Ⅱ	158	円形	29	28	1		
Ⅱ	159	楕円形	43	13	2		
Ⅱ	160	楕円形	60	38	11		
Ⅱ	161	不整形	366	206	4		水路に切られる
Ⅱ	162	楕円形	83	23	3		
Ⅱ	163	楕円形	90	43	3		
Ⅱ	164	円形	43	40	6		
Ⅱ	165	円形	33	30	13		
Ⅱ	166	楕円形	102	57	8		
Ⅱ	167	楕円形	39	30	5		
Ⅱ	168	楕円形	82	67	10		
Ⅱ	169	楕円形	349	260	42		
Ⅱ	170	楕円形	137	41	12		
Ⅱ	171				欠番		
Ⅱ	172	円形	71	56	11		
Ⅱ	173	不整形	150	142	7		
Ⅱ	174	円形	57	50	6		
Ⅱ	175	円形	88	53	5		
Ⅱ	176	円形	36	35	5		
Ⅱ	177	長方形	117	72	6		
Ⅱ	178	楕円形	76	49	(68)		
Ⅱ	179	楕円形	51	25	10		
Ⅱ	180						未掘
Ⅱ	181				欠番		
Ⅱ	182	円形	213	200	(200)	桶	結桶組型井戸跡
Ⅱ	183	不整形	(370)	(190)	13	骨範囲１	
Ⅱ	184	不整形	296	170	13		
Ⅱ	185	楕円形	(210)	95	9		
Ⅱ	186	不整形	122	93	9		
Ⅱ	187	円形	39	38	3		
Ⅱ	188	円形	94	78	9		
Ⅱ	189	円形	46	46	5		
Ⅱ	190	円形	95	(70)	23		
Ⅱ	191	円形	(220)	(164)	(75)	桶	
Ⅱ	192	楕円形	(223)	(193)	90	桶	白壁式井戸跡
Ⅱ	193	楕円形	62	34	48		
Ⅱ	194	楕円形	227	208	(160)		石組型井戸跡
Ⅱ	195	不整形	(160)	(63)	32		
Ⅱ	196	円形	162	155	87		
Ⅱ	197	楕円形	168	150	240以上		方形縦板組型井戸跡
Ⅱ	198	方形	214	202	129		
Ⅱ	199	楕円形	292	203	127		
Ⅱ	200	楕円形か	271	126	63		
Ⅱ	201	円形	251	200	(170)		
Ⅱ	202	楕円形	277	(190)	55		
Ⅱ	203	楕円形	516	413	46		
Ⅱ	204	円形	<50>	<43>	61	杭あり	柱穴痕
Ⅱ	205	円形	73	62	45		
Ⅲ	1	円形か	56	(30)	5		
Ⅲ	2	不整形	52	43	7		
Ⅲ	3				欠番		
Ⅲ	4				欠番		
Ⅲ	5	楕円形	74	42	6		
Ⅲ	6	円形	41	32	4		
Ⅲ	7				欠番		
Ⅲ	8	円形	32	27	26		柱穴痕か
Ⅲ	9				欠番		
Ⅲ	10				欠番		
Ⅲ	11	楕円形	118	101	5		
Ⅲ	12	楕円形？	(30)	30	4		
Ⅲ	13				欠番		
Ⅲ	14	円形？	<190>	(77)	17		
Ⅲ	15	不整形	(170)	87	9		
Ⅲ	16	楕円形	117	58	4		
Ⅲ	17				欠番		
Ⅲ	18	円形	40	34	11		
Ⅲ	19	円形	31	30	20		
Ⅲ	20	楕円形	40	26	22		
Ⅲ	21	円形	46	34	5		
Ⅲ	22				欠番		

検出面	土抗No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅲ	23	楕円形	120	53	6		
Ⅲ	24				欠番		
Ⅲ	25				欠番		
Ⅲ	26	円形	37	35	3		
Ⅲ	27	楕円形	78	33	6		
Ⅲ	28～32				欠番		
Ⅲ	33	円形	36	34	12		
Ⅲ	34	隅丸長方形か	(44)	52	<45>		
Ⅲ	35～37				欠番		
Ⅲ	38	円形	14	14	8		
Ⅲ	39	円形？	35	(10)	13		
Ⅲ	40	円形	32	23	20		柱穴痕
Ⅲ	41	円形	40	33	15		
Ⅲ	42	円形	39	28	9		
Ⅲ	43	不整形	(260)	127	(17)		
Ⅲ	44				欠番		
Ⅲ	45	円形	28	23	11		
Ⅲ	46	円形	25	25	5		
Ⅲ	47				欠番		
Ⅲ	48	楕円形	125	105	10		
Ⅲ	49				欠番		
Ⅲ	50	楕円形？	116	(75)	10		
Ⅲ	51	楕円形	115	74	7		
Ⅲ	52	円形	41	41	6		
Ⅲ	53	楕円形？	64	(20)	33		
Ⅲ	54	円形	50	38	24		
Ⅲ	55				欠番		
Ⅲ	56	不整形	391	70	27		
Ⅲ	57	円形	35	24	6	礫２個あり	
Ⅲ	58	円形	33	27	20	底面に礫あり	柱穴痕か
Ⅲ	59				欠番		
Ⅲ	60	円形	27	21	7		
Ⅲ	61	円形	39	29	10		
Ⅲ	62	円形	30	19	11		
Ⅲ	63	円形	28	16	5		
Ⅲ	64				欠番		
Ⅲ	65				欠番		
Ⅲ	66	不整形	132	45	13		
Ⅲ	67	円形	44	36	4		
Ⅲ	68				欠番		
Ⅲ	69	隅丸長方形	162	103	38	礫・杭多あり	
Ⅲ	70	円形	40	40	30	底面に礫多あり	
Ⅲ	71	不整形	168	43	38	礫多あり	
Ⅲ	72				欠番		
Ⅲ	73	楕円形か	(98)	45	14		
Ⅲ	74	円形	25	(13)	33		
Ⅲ	75	円形	20	(10)	18	礫あり	
Ⅲ	76	楕円形	80	55	23		
Ⅲ	77				欠番		
Ⅲ	78	円形	70	67	23		
Ⅲ	79	円形	32	20	15		
Ⅲ	80	円形	24	22	7		
Ⅲ	81	円形	16	15	14		礎石か
Ⅲ	82	円形	32	23	3		
Ⅲ	83				欠番		
Ⅲ	84	円形	32	30	22		
Ⅲ	85				欠番		
Ⅲ	86	楕円形	72	53	15		
Ⅲ	87	円形	105	96	28	礫多あり	
Ⅲ	88	円形	61	59	31		礎石か
Ⅲ	89	円形	35	(20)	31		
Ⅲ	90	円形	50	48	40	礫多あり	
Ⅲ	91	円形	16	13	8		
Ⅲ	92	円形	14	11	7		
Ⅲ	93	円形	(19)	18	10		
Ⅲ	94	円形	40	35	13		
Ⅲ	95	円形	24	18	10		
Ⅲ	96～98				欠番		
Ⅲ	99	円形	33	26	8		
Ⅲ	100	不整形	215	145	10		半分未掘
Ⅲ	101	楕円形か	(43)	58	31		建物址１
Ⅲ	102						未掘
Ⅲ	103	円形	16	15	5		
Ⅲ	104	円形	40	35	30	礫多あり	
Ⅲ	105	円形	55	49	24	柱材あり	建物址１

検出面	土抗No.	平面形	規模（cm）			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅲ	106	円形	65	45	5		
Ⅲ	107	円形	58	58	10		建物址１
Ⅲ	108	円形	58	54	25	柱材あり	建物址１
Ⅲ	109	円形	48	37	23	礫多あり	
Ⅲ	110	円形	43	33	6		
Ⅲ	111				欠番		
Ⅲ	112	楕円形	128	75	8		
Ⅲ	113	円形	33	30	20	底面に礫あり	
Ⅲ	114	楕円形	45	25	12		
Ⅲ	115	楕円形	52	30	16		
Ⅲ	116	楕円形	64	40	35	底面に礫あり	
Ⅲ	117	円形	40	40	38		
Ⅲ	118	円形	23	21	17		
Ⅲ	119	円形	28	20	11		
Ⅲ	120	円形	28	26	8		
Ⅲ	121	円形	55	51	34		建物址１
Ⅲ	122	円形	27	26	17		
Ⅲ	123	不整形	69	59	70		建物址１
Ⅲ	124	円形	49	48	30		建物址１
Ⅲ	125	円形	32	27	24		
Ⅲ	126	楕円形	54	33	27	礫多あり	
Ⅲ	127				欠番		
Ⅲ	128	円形	90	72	14		
Ⅲ	129	不整形	225	112	13	Ⅱ検土197に切られる	
Ⅲ	130	楕円形	113	65	10		
Ⅲ	131	円形	36	33	30	底面に礫あり	
Ⅲ	132	楕円形	55	36	47		柱穴痕か
Ⅲ	133				欠番		
Ⅲ	134				欠番		
Ⅲ	135	円形？	35	(27)	20	杭と礫あり	
Ⅲ	136				欠番		
Ⅲ	137	円形	33	24	9	礫あり	
Ⅲ	138				欠番		
Ⅲ	139	円形	<54>	41	37	底面の礫上に杭	
Ⅲ	140	楕円形	80	32	5		
Ⅲ	141	楕円形	66	40	22	木片多・礫あり	
Ⅲ	142				欠番		
Ⅲ	143	円形	34	28	15		
Ⅲ	144	円形	22	18	11		
Ⅲ	145	不整形	125	63	37	杭あり	
Ⅲ	146	円形	30	28	15	礫あり	
Ⅲ	147				欠番		
Ⅲ	148	円形	39	36	9		
Ⅲ	149	円形	29	28	13	礫多あり	
Ⅲ	150	円形	67	55	16	礫多あり	
Ⅲ	151	楕円形	(105)	81	5		
Ⅲ	152	円形	43	38	27		柱穴痕か
Ⅲ	153				欠番		
Ⅲ	154	円形	38	36	45		
Ⅲ	155	不整形	56	32	34		
Ⅲ	156	円形	41	35	16		
Ⅲ	157	円形	54	(32)	52		
Ⅲ	158	円形	77	77	48	杭・礫大２個	
Ⅲ	159				欠番		
Ⅲ	160	円形？	(24)	22	36	礫多あり	
Ⅲ	161～165				欠番		
Ⅲ	166	円形	55	48	20	礫多あり	
Ⅲ	167	楕円形か	<92>	(56)	45	杭あり	
Ⅲ	168				欠番		
Ⅲ	169	円形か	57	(37)	50		建物址１
Ⅲ	170	円形	24	24	18		
Ⅲ	171	楕円形	(36)	32	28		
Ⅲ	172	円形	57	55	22		礎石か
Ⅲ	173	円形か	47	(29)	48		建物址１
Ⅲ	174				欠番		
Ⅲ	175	円形	47	45	28		建物址１
Ⅲ	176	円形か	39	(29)	22	柱材あり	建物址１
Ⅲ	177	円形	22	22	7		
Ⅲ	178	円形	27	26	12		
Ⅲ	179				欠番		
Ⅲ	180	不整形	215	(118)	26	Ⅱ検土192に切られる	
Ⅲ	181				欠番		

※（　）内数値は残存値、〈　〉内数値は推定値を表す

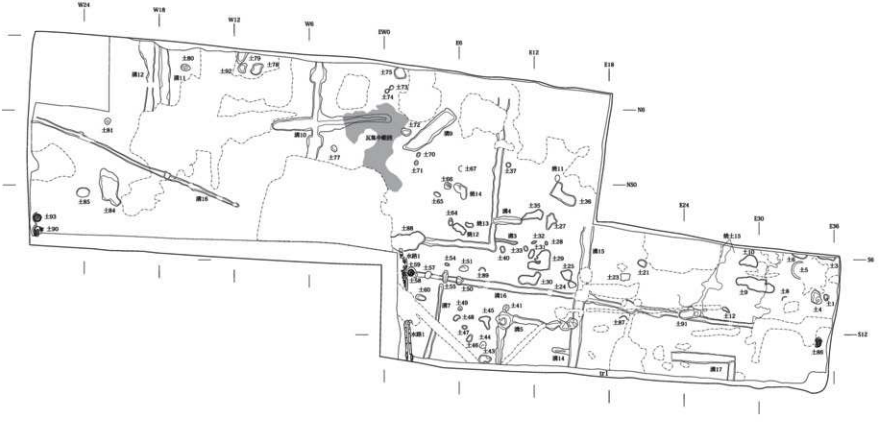
表 4　大名町 3　焼土範囲一覧表

検出面	No.	平面形	備考	その他
Ⅰ	1	欠番（焼土 15 に統一）		
Ⅰ	2	欠番		
Ⅰ	3	欠番		
Ⅰ	4	欠番		
Ⅰ	5	欠番（焼土 15 に統一）		
Ⅰ	6	欠番（焼土 15 に統一）		
Ⅰ	7	欠番（焼土 15 に統一）		
Ⅰ	8	欠番（焼土 15 に統一）		
Ⅰ	9	欠番		
Ⅰ	10	欠番		
Ⅰ	11	楕円形		焼土塊が混入した搬入土と推定
Ⅰ	12	不整形	礫多あり	焼土塊が混入した搬入土と推定
Ⅰ	13	不整形	焼土塊少ない	焼土塊が混入した搬入土と推定
Ⅰ	14	不整形		焼土塊が混入した搬入土と推定
Ⅰ	15	不整形	焼土塊多い	焼土塊が混入した搬入土と推定

表 5　大名町 3　溝状遺構一覧表

検出面	No.	新旧関係		備考	その他
		旧	新		
Ⅰ	1	欠番			
Ⅰ	2	欠番			
Ⅰ	3		溝		
Ⅰ	4		水路 1・土 88		
Ⅰ	5	溝 15			
Ⅰ	6	欠番			
Ⅰ	7				
Ⅰ	8	欠番			
Ⅰ	9				
Ⅰ	10				
Ⅰ	11				
Ⅰ	12				
Ⅰ	13	欠番			
Ⅰ	14		溝 15		
Ⅰ	15	溝 14	溝 5		
Ⅰ	16		土 50・55・57・58・91・水路 1	竹管あり	水道遺構
Ⅰ	17				
Ⅱ	1				撹乱に切られる
Ⅱ	2	土 179?・土 19	土 179・土 19		
Ⅱ	3	欠番			
Ⅱ	4	欠番			
Ⅱ	5	土 86	溝 7		
Ⅱ	6	土 180	溝 7	礫多あり	
Ⅱ	7	溝 5・6・11・土 180	溝 31・土 88・123・142・193	礫多・木多あり	
Ⅱ	8	溝 9		礫多・木多あり	
Ⅱ	9		溝 8	礫多・木多あり	
Ⅱ	10				
Ⅱ	11		溝 7		
Ⅱ	12				
Ⅱ	13	土 123			
Ⅱ	14	土 123			
Ⅱ	15	土 123			
Ⅱ	16	土 111・139・142・溝 16		杭列あり	排水溝跡か
Ⅱ	17	溝 18	溝 16		
Ⅱ	18		溝 17		
Ⅱ	19	溝 20・土 146			
Ⅱ	20	溝 21・土 184	溝 19		
Ⅱ	21	土 184	溝 20	礫多あり	
Ⅱ	22	欠番			
Ⅱ	23		土 169		
Ⅱ	24				
Ⅱ	25				
Ⅱ	26	欠番			
Ⅱ	27	欠番			
Ⅱ	28	欠番			
Ⅱ	29	欠番			
Ⅱ	30				
Ⅱ	31		土 123・125・130・192・溝 7・32	牛・竹管あり	水道遺構
Ⅱ	32		溝 31・土 183		
Ⅱ	33	土 185・143			
Ⅲ	1		土 171・172		
Ⅲ	2	土 12			
Ⅲ	3				
Ⅲ	4				
Ⅲ	5				
Ⅲ	6				
Ⅲ	7	溝 8			
Ⅲ	8		土 168・土 98・102・溝 7		未掘
Ⅲ	9	土 102	溝 13・土 121・109・108・Ⅱ検土 196		
Ⅲ	10				
Ⅲ	11	欠番			
Ⅲ	12				撹乱に切られる
Ⅲ	13	土 100・溝 9			

大名町３　Ⅰ検全体図



0　S=1/300　10m

図 45　大名町３　Ⅰ検全体図

大名町３　Ⅱ検全体図

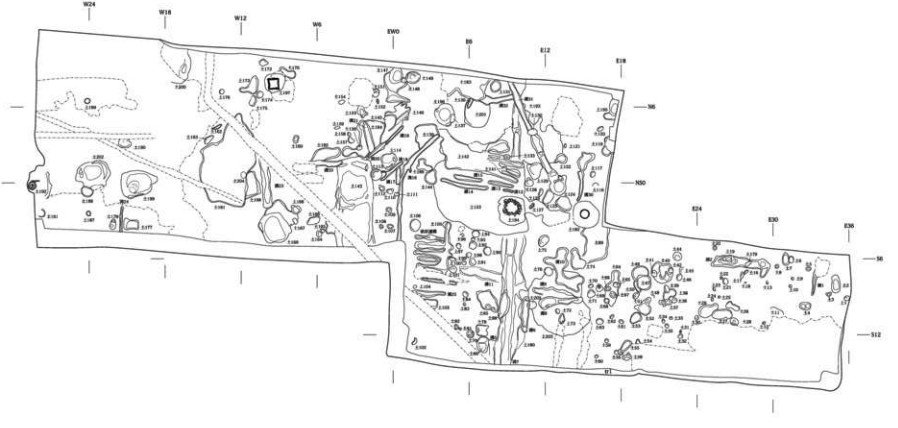
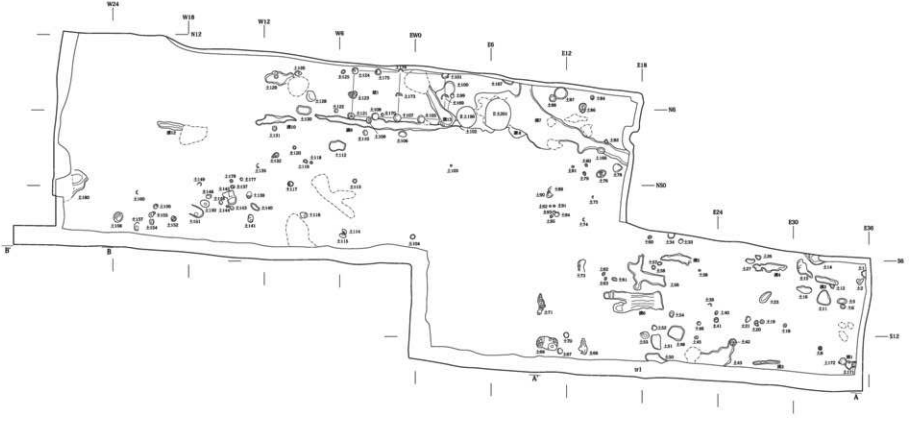


図 46　大名町３　Ⅱ検全体図

大名町３　Ⅲ検全体図



0　S=1/300　10m

図 47　大名町３　Ⅲ検全体図

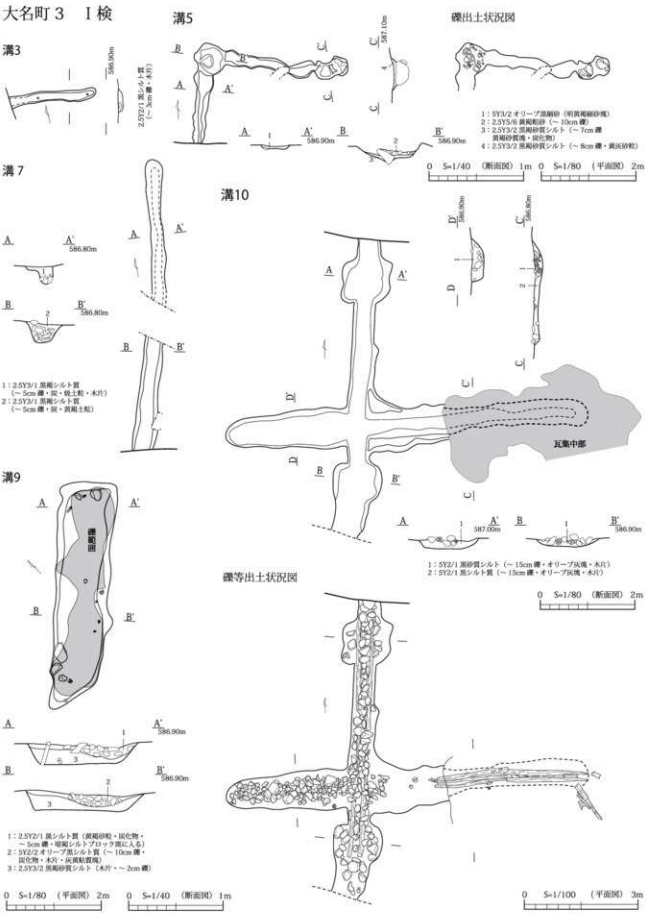


図 48　大名町３　Ⅰ検遺構図 (1)

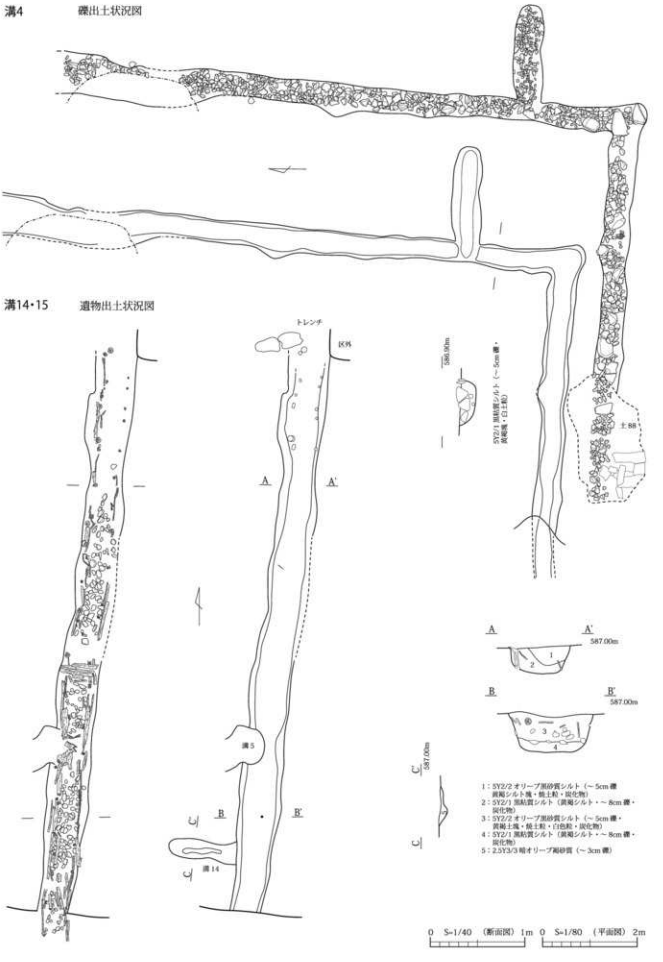


図 49　大名町 3　Ⅰ検遺構図 (2)

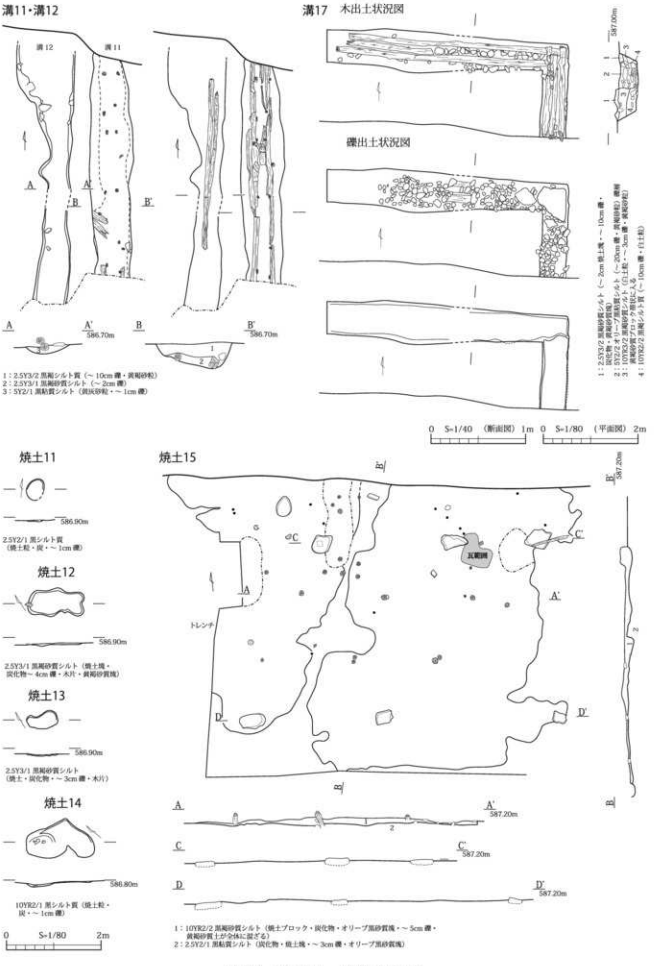


図 50　大名町 3　Ⅰ検遺構図 (3)

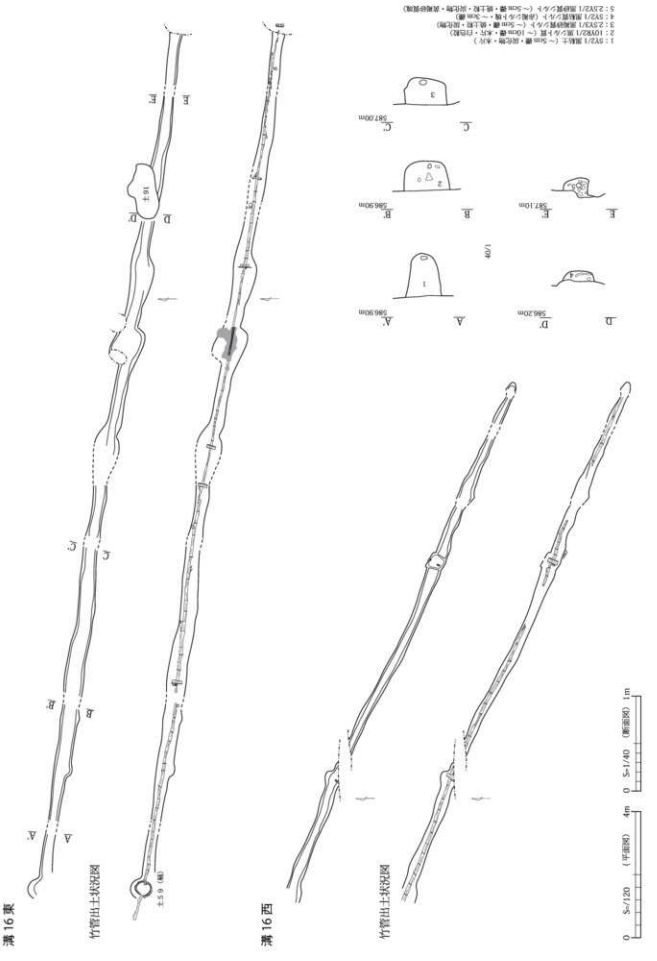


図 51　大名町 3　Ⅰ検遺構図 (4)

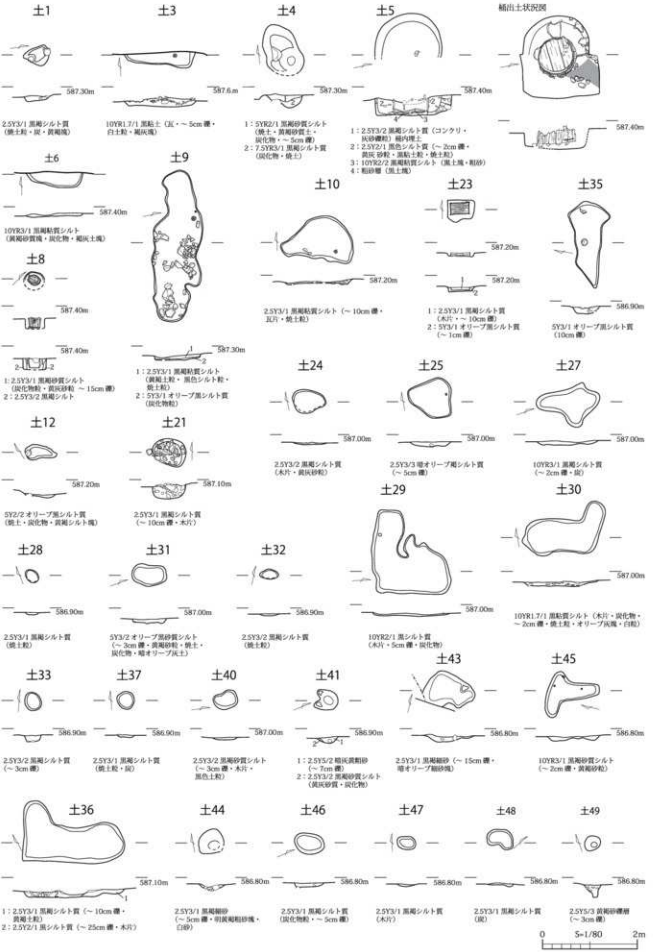


図 52　大名町 3　Ⅰ検遺構図 (5)

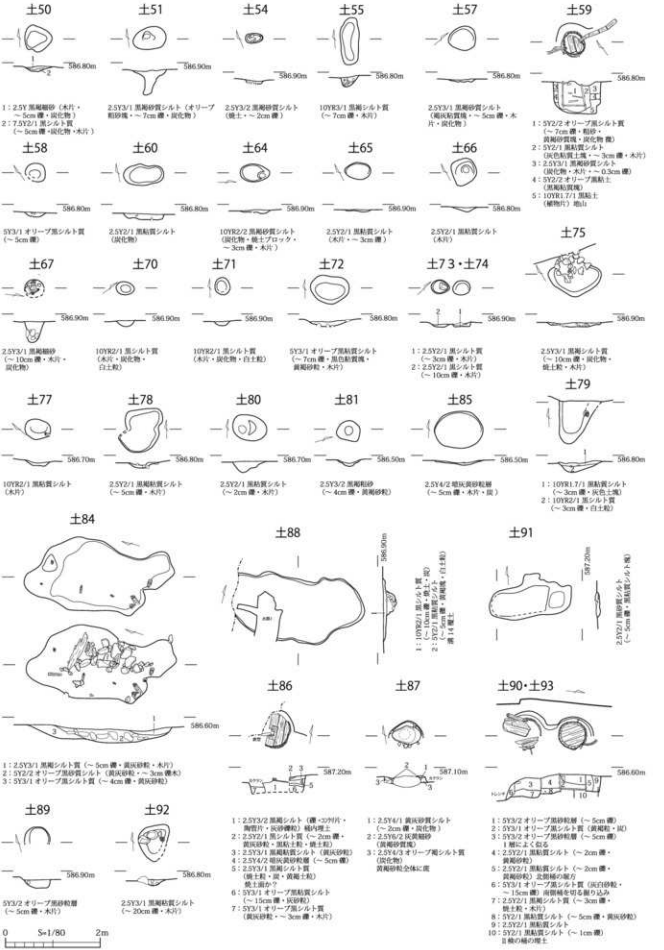


図 53　大名町 3　Ⅰ検遺構図 (6)

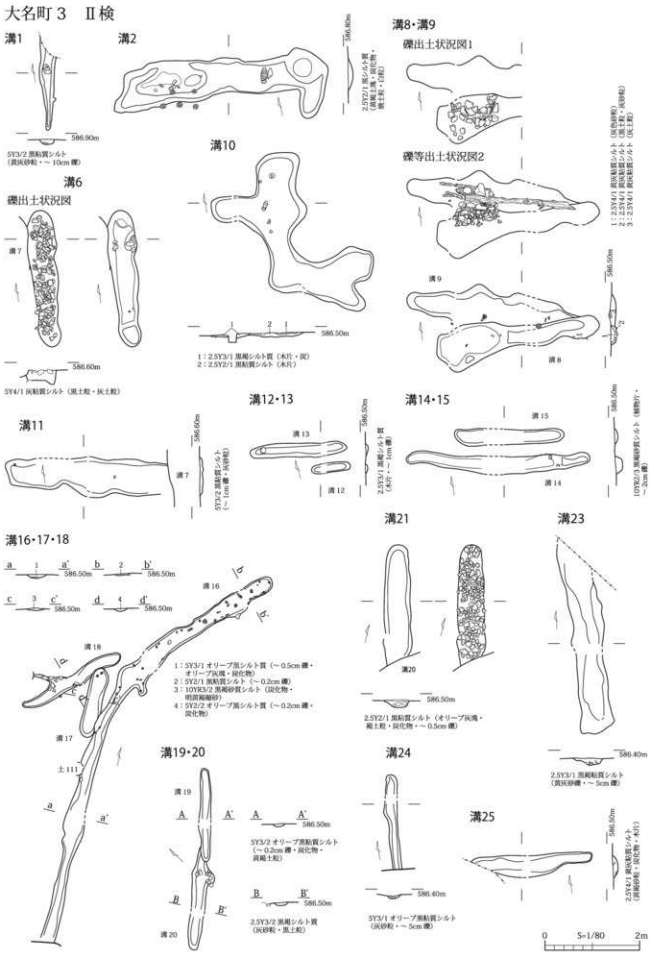


図 54　大名町３　Ⅱ検遺構図 (1)

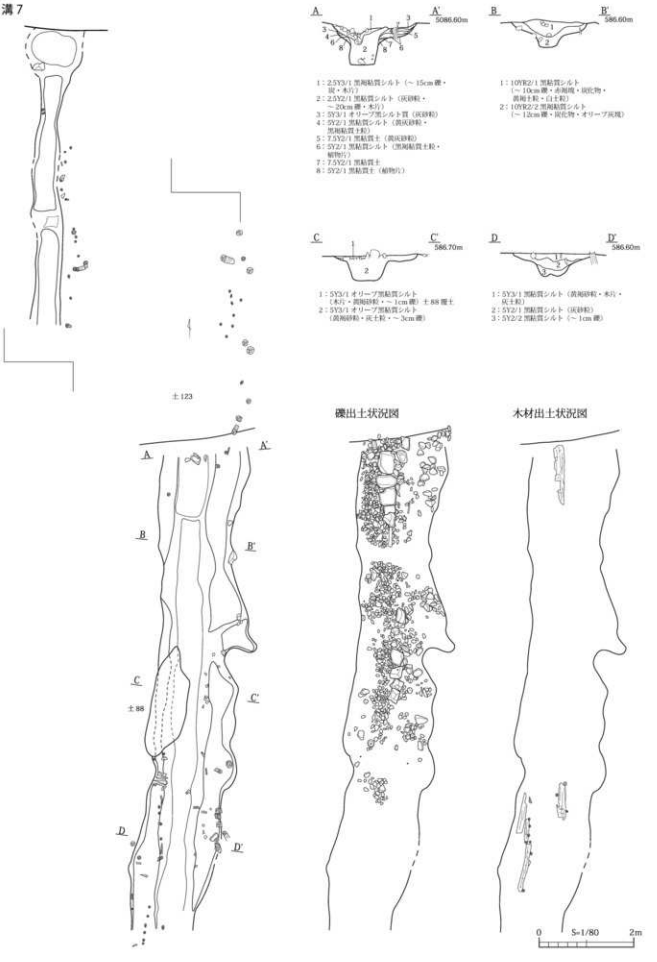


図 55　大名町 3　II 検遺構図 (2)

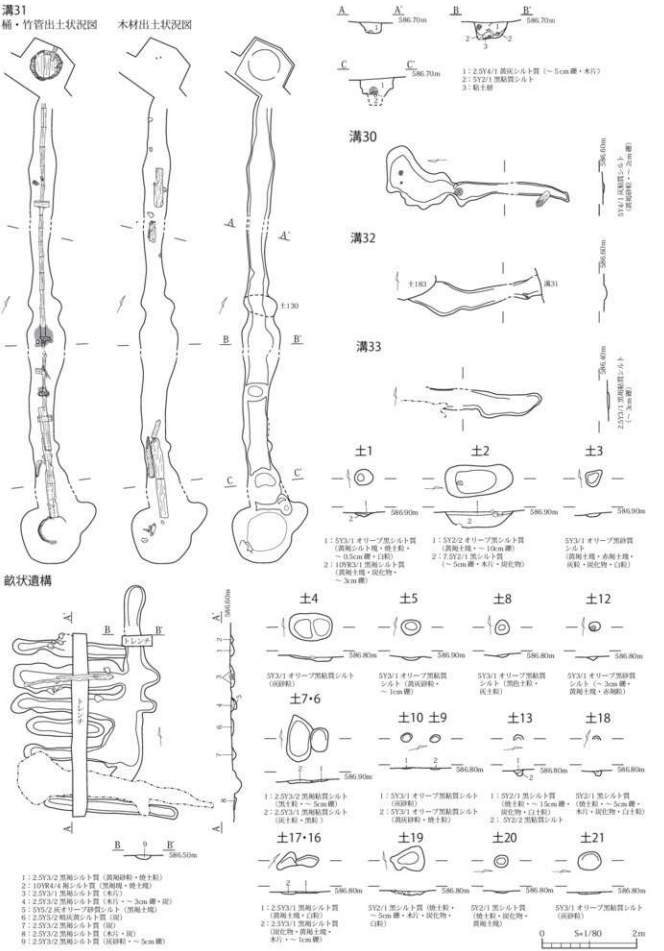


図 56　大名町 3　II 検遺構図 (3)

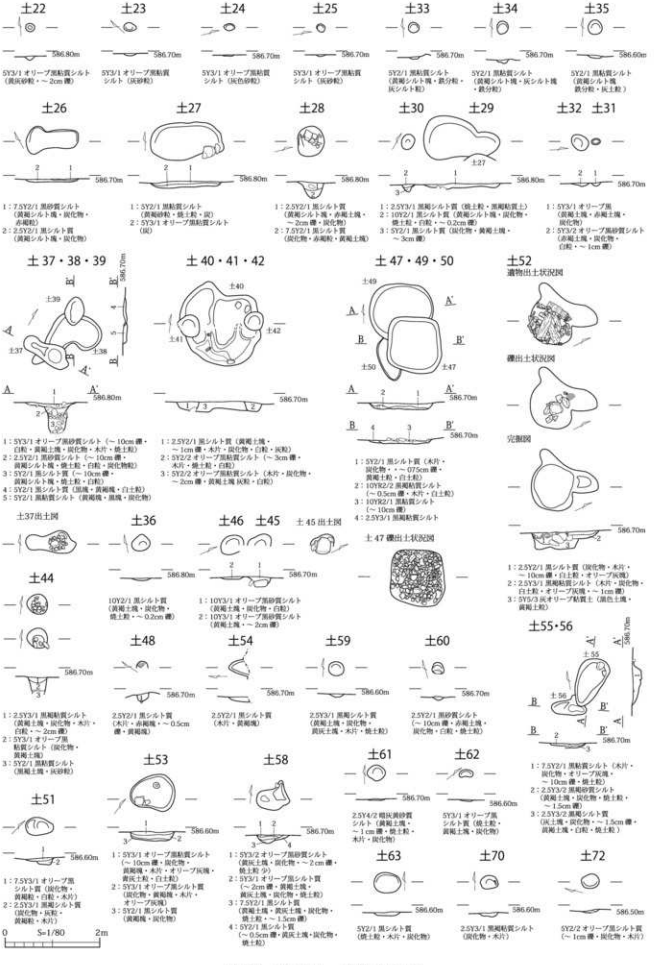


図 57　大名町 3　II 検遺構図 (4)

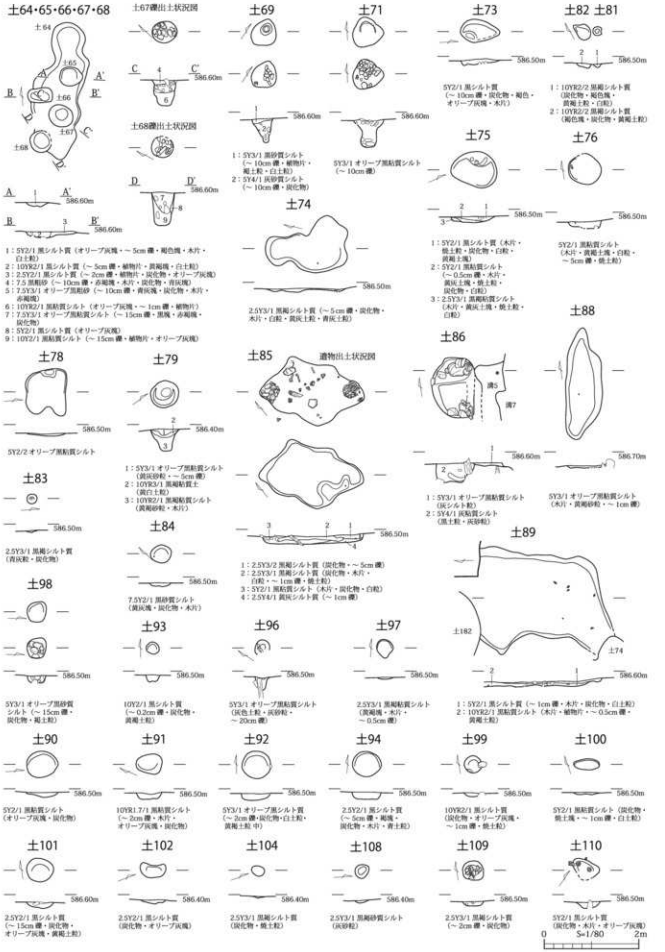


図 58　大名町 3　II 検遺構図 (5)

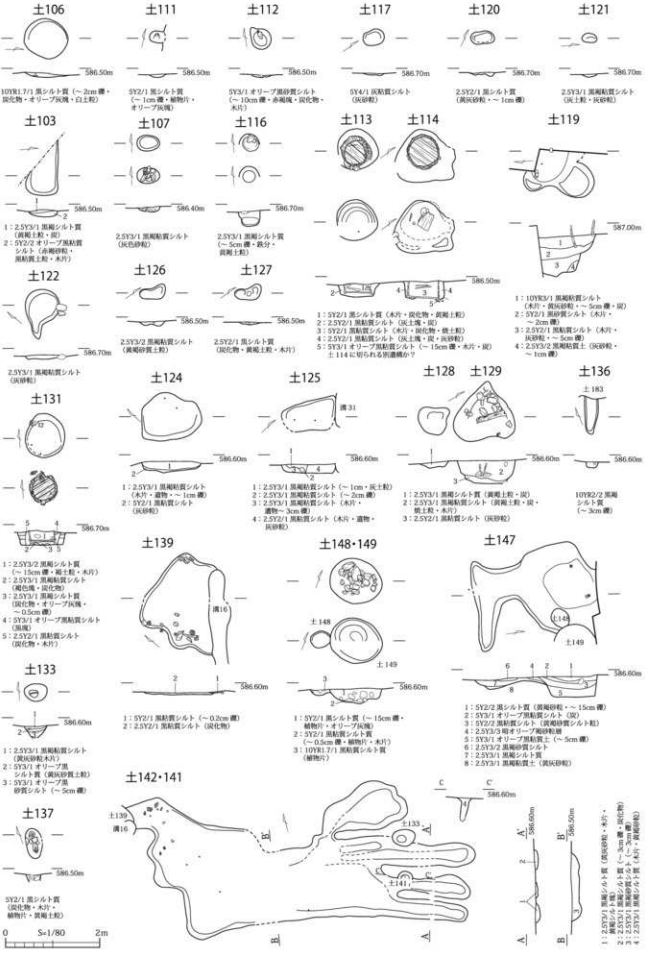


図 59　大名町 3　Ⅱ検遺構図 (6)

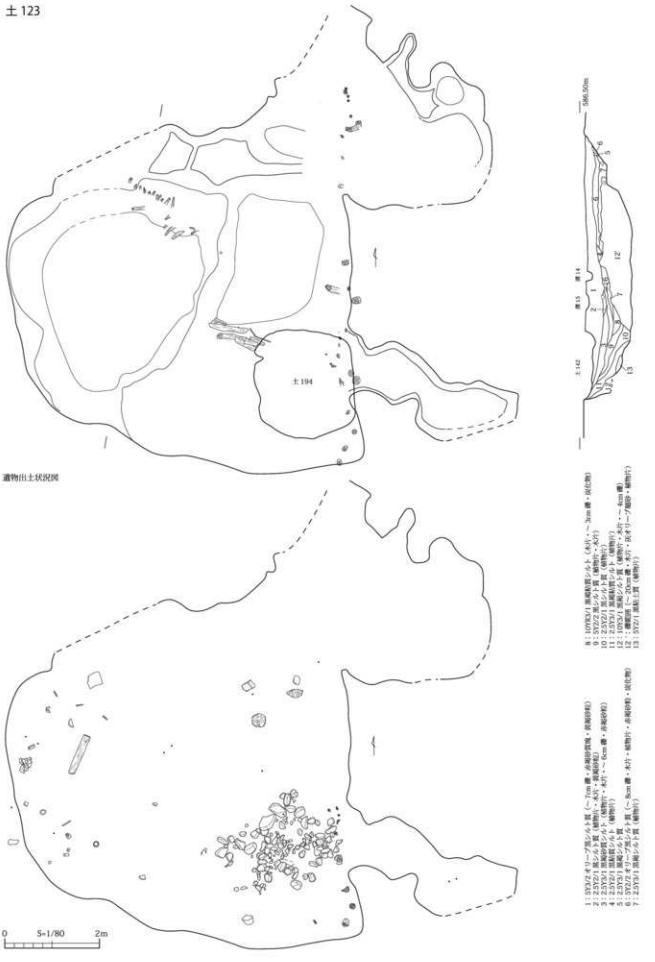


図60　大名町3　Ⅱ検遺構図(7)

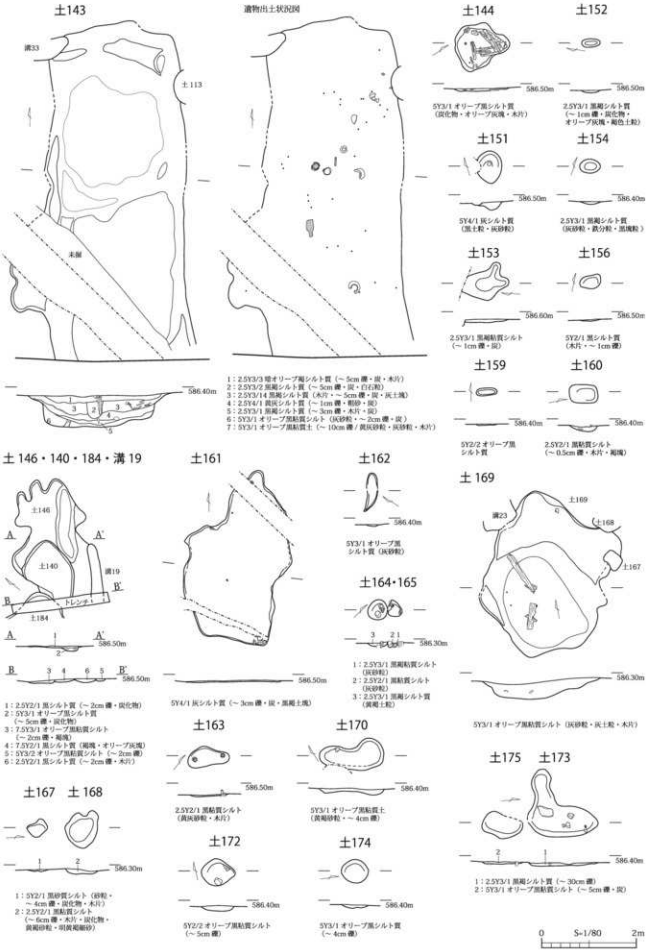


図 61　大名町 3　II 検遺構図 (8)

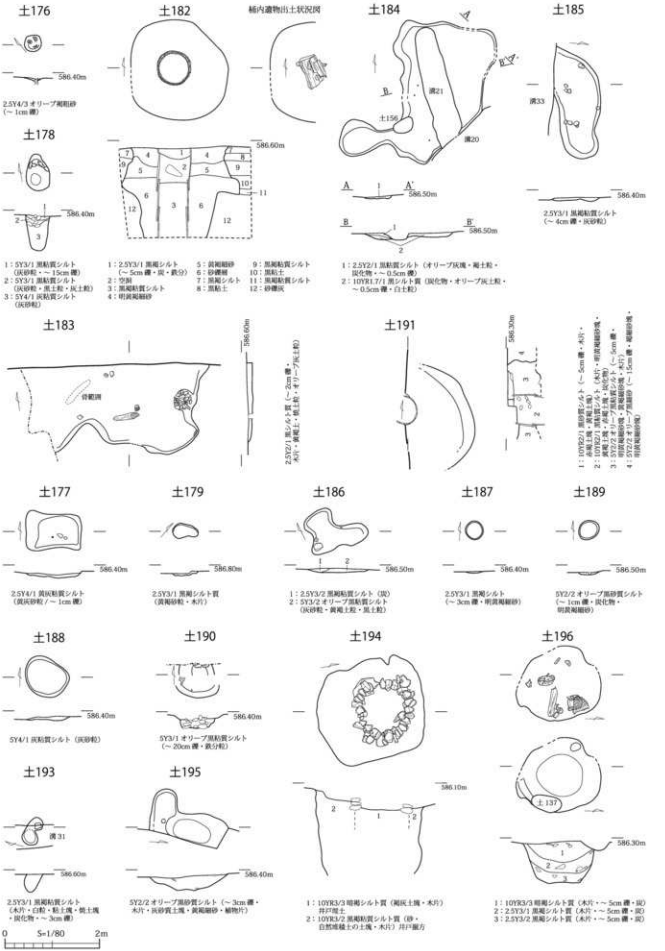


図 62　大名町 3　II 検遺構図 (9)

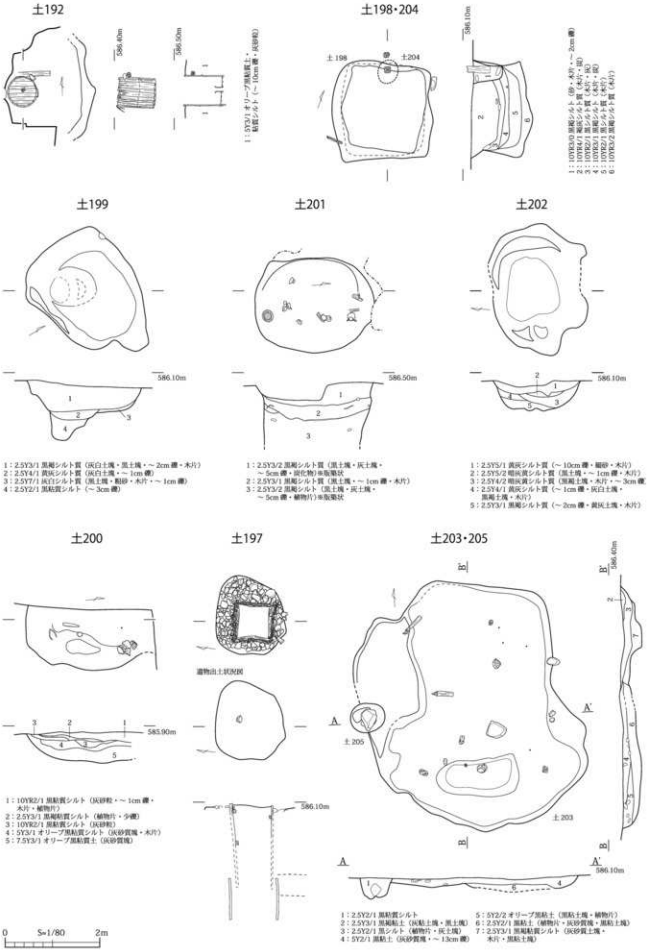


図 63　大名町 3　Ⅱ検遺構図 (10)

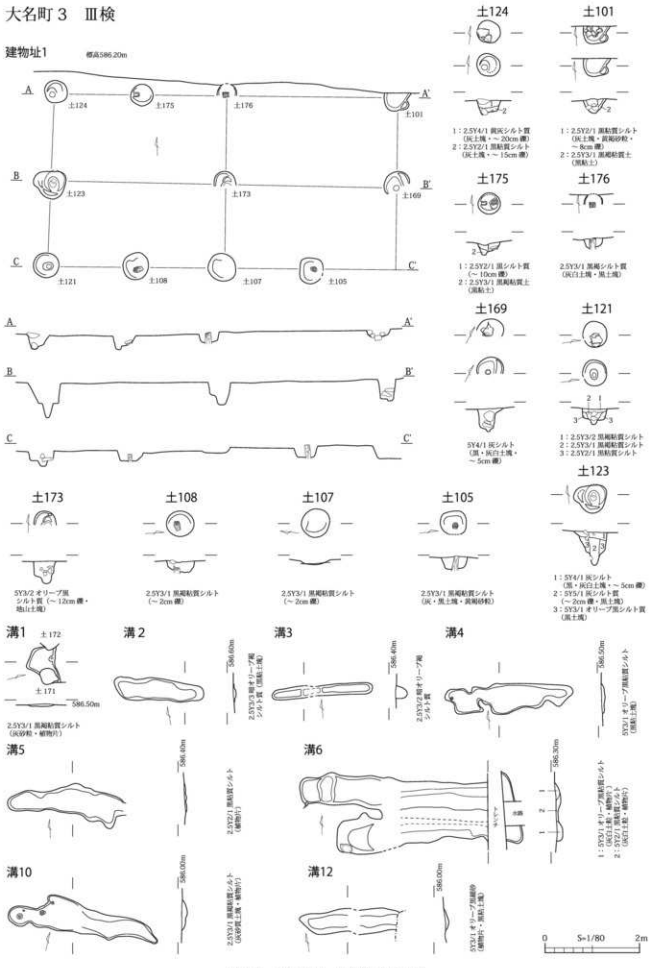


図 64　大名町３　Ⅲ検遺構図 (1)

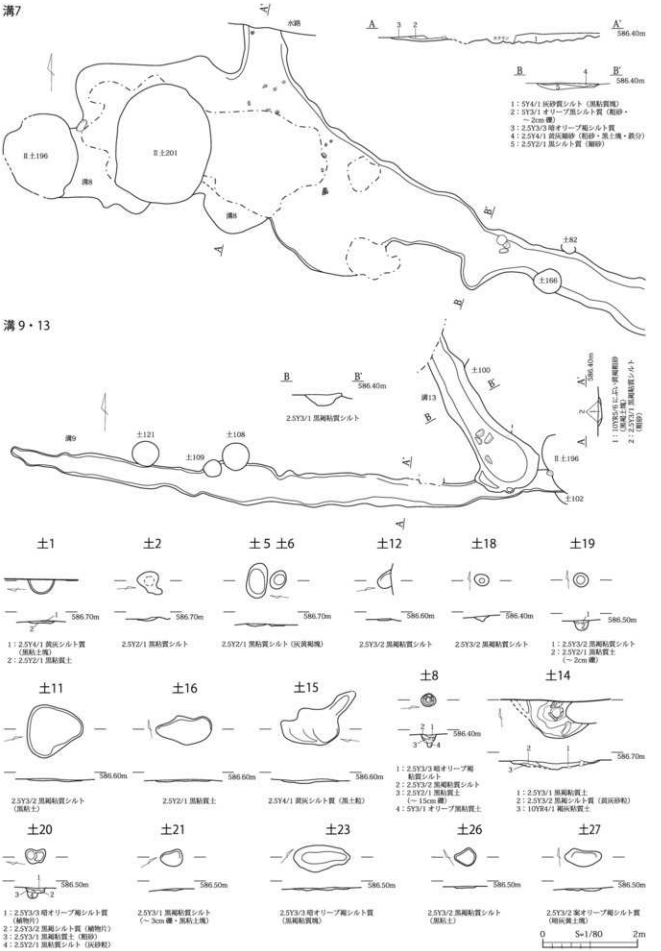


図 65　大名町 3　Ⅲ検遺構図 (2)

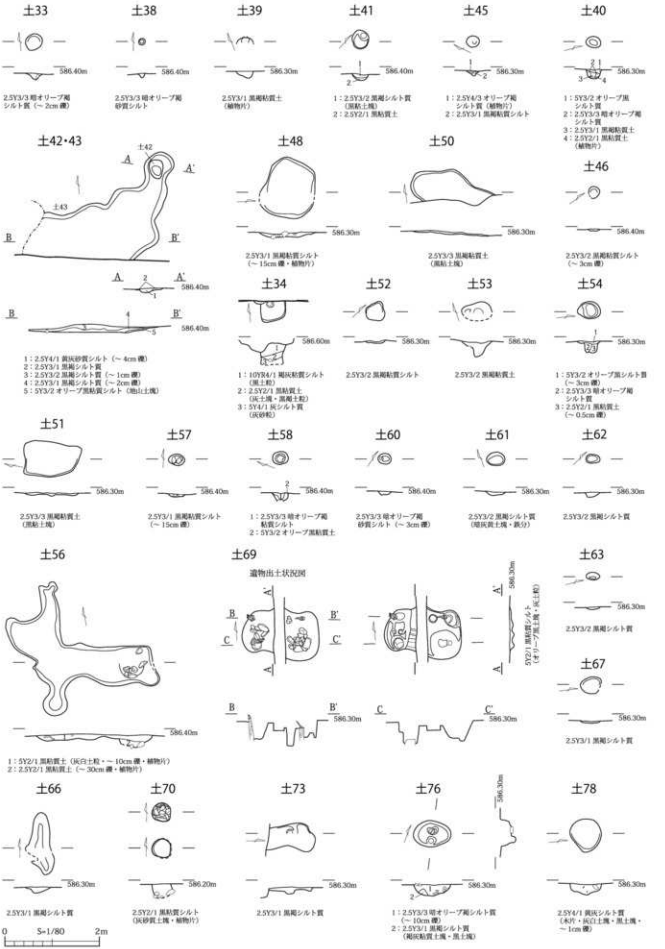


図 66　大名町 3　Ⅲ検遺構図 (3)

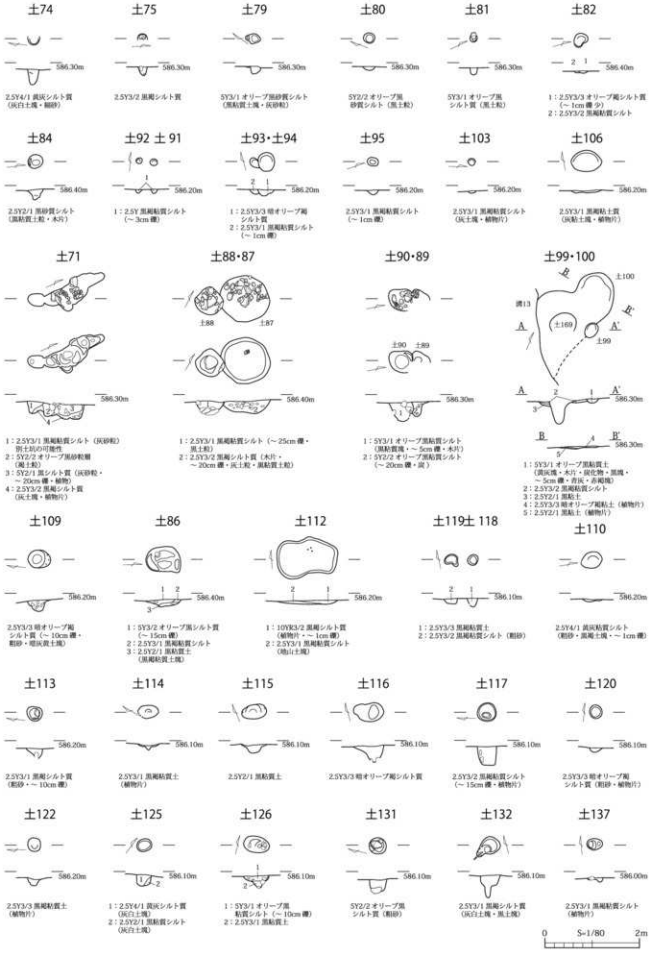


図 67　大名町 3　Ⅲ検遺構図 (4)

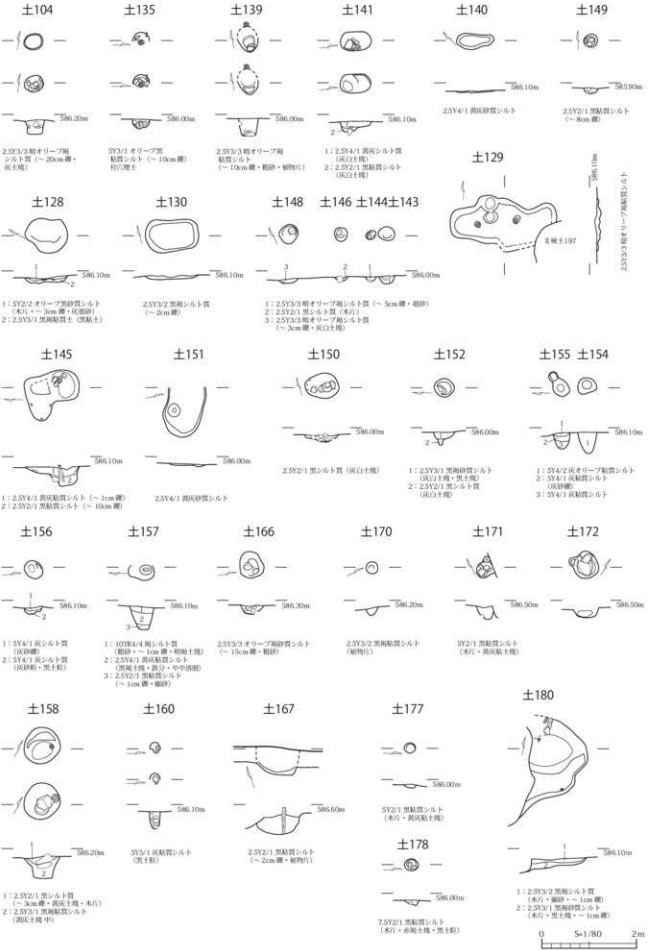


図 68　大名町 3　Ⅲ検遺構図 (5)

第Ⅴ章　遺物

第１節　土器・陶磁器

1　土居尻１（表 6、図 69 ～ 88、写真図版 11 ～ 14）

今回の調査では、4 層の整地層および各面の遺構から多量の土器・陶磁器が出土した。遺物点数が多いため、遺存率が良好なものを中心に、各遺構の器種や産地組成を考慮しながら 474 点を選出し実測図を提示した。種別内訳は、磁器 140 点、陶器 216 点、土器 101 点、土製品 17 点である。以下に検出面ごとの概要を記す。なお、陶磁器の製作年代判定と判断基準は、肥前産は大橋康二氏の編年を参照し、不明な箇所については大橋康二氏・山本文子氏のご助力を得た。瀬戸・美濃系は藤澤良祐氏の編年を参照し、金子健一氏、中嶌茂氏にご指導いただいた。京焼系やその他産地については、関西近世考古学研究会の大会の際にご指導を賜った。

(1)　土居尻１　Ⅰ検

Ⅰ検から出土した資料のうち 62 点を図示した。種別内訳は、磁器 36 点、陶器 19 点、土器 3 点、土製品 4 点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、京、備前、万古、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は 5 点あり、全体の 8.1% を占める。製作年代は幅広く、17 世紀～近代までを含む。石列 F の 27 は微塵唐草文の輪花皿で 18 世紀末～幕末の所産である。検出面の 42 は近代のイゲ皿で、底面に「城岩」の窯印がある。51 の陶器の碗が最も古く 17 世紀前半に比定される。

瀬戸・美濃産は 38 点あり、全体の 61.3% を占める。種別内訳は磁器 30 点、陶器 7 点、土製品 1 点である。大半が近代の所産であるが、近世の製品も少量含まれている。建 1 の 3 や建 6 の 20 は明治の銅版転写の染付皿である。建 2 の 8 や検出面の 39・40 の型打皿は幕末～明治初頭の所産である。建 3 の 13 はゴム印判と機械ロクロを用いた鉢で、昭和まで下る可能性がある。石列 A の 21、検出面の 41 などは型紙摺絵の染付で、明治 10 年代の美濃産である。石列 F の 26 の皿は幕末の所産とみられる。甕 9 のどんぶりと高田徳利は大正～昭和まで下る可能性がある。また、製作年代は判然としないものの、建 1 の 6 の擂鉢は高台に「尾州品野加藤鏹助製」の刻印があり、下品野村洞窯組の製品とわかる。

在地産は 4 点あり、全体の 6.5% を占める。54 は小型の擂鉢で 19 世紀以降の所産とみられる。他に、建 4 に五徳と目皿、検出面に焜炉がある。

その他の産地では、京焼と思われる亀の土製品 1 点、備前産と思われる灯明皿 1 点、万古焼と思われる急須 1 点を図示した。この他、全体の 19.4% にあたる 12 点を産地不明とした。

陶磁器の製作年代をみると、遺構から出土した遺物の大半は近代の所産である。明治を主体として、一部には大正～昭和と推定される遺物もみられる。一方、検出面一括の中には、幕末など近世の製品も僅かに含まれていた。検出面の遺物は副次的に扱うものとして、遺構からの出土遺物を優先して判断すると、Ⅰ検の推定年代観は明治～昭和と考えられる。

(2)　土居尻１　Ⅱ検

Ⅱ検から出土した資料のうち 98 点を図示した。種別内訳は、磁器 54 点、陶器 23 点、土器 19 点、土製品 2 点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、九谷、三田、京、信楽、益子、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は 30 点あり、全体の 30.6% を占める。このうち 1 点が陶器で、残る 29 点はすべて磁器である。陶器 1 点は白泥による巻刷毛目を施した 126 の碗で 17 世紀末～ 18 世紀前半の所産とみられる。磁器は染付が主体である。年代別では、17 世紀の製品に 98・99 のような口縁が鍔状に外反する皿がある。103 の青磁は 17 世紀後半の波佐見産と考えられる。コンニャク印判を用いた 84・85・113 は、17 世紀末～ 18

世紀にかけての所産である。87 は 17 世紀末～ 18 世紀前半の比較的初期のくらわんか碗と考えられる。点数では、18 世紀末～幕末までの製品が最も多く、77 の広東形の小杯・82・83 の丸碗などがある。108 の蛸唐草文の段重・112 の線香筒・115 の散蓮華などもこの時期の製品と考えられる。これらの肥前産陶磁はいずれも幕末までの所産で、近代のものは検出されなかった。また、30 点中 4 点に修復の痕跡があり、113 のコンニャク印判の水滴には漆継の痕が、107 の段重・109 の合子・115 の散蓮華には焼継の痕がみられる。115 の底面には、焼継印と思われる「松岡」の文字が確認できる。

瀬戸・美濃産は 31 点あり、全体の 31.6% を占める。種別内訳は磁器 18 点、陶器 13 点である。磁器のうち半数以上は近代の所産とみられ、72 ～ 75 は明治初頭の小杯である。94 の陰刻型打皿も同時期のものと考えられる。井戸 8 の 67 は機械ロクロを用いた皿であり、大正まで下る可能性がある。110 の植木鉢・111 の御神酒徳利などは幕末～明治初頭に比定される。近世の製品は 6 点あり、79・80 は 19 世紀前葉の端反碗で、93 の寿文皿に代表される 90 ～ 92 などの型打皿は幕末の所産とみられる。一方、陶器 13 点はすべて近世の所産で、18 世紀後半以降の製品が多数を占める。132 の石皿・133 の擂鉢・137 の瓶掛・142 の秉燭は 19 世紀～幕末の瀬戸産である。127 の天目茶碗・128 の仏飯器は 17 世紀の所産とみられる。131 の折縁皿は 16 世紀末～ 17 世紀初頭の大窯に比定され、最も年代が古い。

在地産は 15 点あり、全体の 15.3% を占める。種別内訳は陶器 2 点、瓦器 1 点、土器 12 点である。器種はかわらけを中心に、焙烙、五徳、火鉢などがある。

その他国内の産地は、九谷焼の色絵碗 1 点と植木鉢 1 点、三田焼とみられる染付 2 点、京焼の人形 1 点、信楽産の小杉碗 1 点、益子焼とみられる卸皿 1 点を図示した。外国産は中国の青磁碗 1 点と青花皿 2 点を図示した。89 は 15 世紀後半～ 16 世紀前半の龍泉窯系の青磁碗で伝世品とみられる。101・102 は明末清初の青花で、102 は漳州窯系である。この他、全体の 12.2% にあたる 12 点を産地不明とした。このうち、150 ～ 152 のかわらけ 3 点は、在地産に比べて薄手で胎土が白っぽく、ロクロ成形ではあるが、底部を回転糸切りした後に手持ちヘラ削りを施している点が特異なため、非在地産とした。

Ⅱ検の陶磁器は、井戸 4・井戸 8 で出土した 7 点を除けば、その多くが遺構外の出土である。このため、遺構の年代を陶磁器から判断することは難しい。遺構外で検出された陶磁器は、江戸後期～幕末の点数が最も多く、次いで江戸中期のもの、明治のものが数点ずつある。ただし明治の遺物についてはⅠ検からの混入品とみられる。以上のことから、Ⅱ検の推定年代観は 18 世紀後半～幕末と考えられる。

(3) 土居尻 1　Ⅲ検

Ⅲ検から出土した資料のうち 261 点を図示した。種別内訳は、磁器 43 点、陶器 142 点、土器 67 点、土製品 9 点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、志戸呂、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は 37 点あり、全体の 14.2% を占める。種別内訳は磁器 27 点、陶器 10 点である。磁器の大半は 17 世紀中葉～ 18 世紀前半の所産である。土 424 の 289 は 17 世紀中葉の古九谷様式の色絵碗である。土 418 の 284、検出面の 320 も同時期の色絵製品と考えられる。土 342 の 221、検出面の 313・318 には、17 世紀末に出現するコンニャク印判が確認できる。324 の皿の内面に描かれた牡丹唐草文と五弁花文、銘「二重角に渦福」の組み合わせは 17 世紀末～ 18 世紀中葉の製品によくみられる特徴である。また、321 の紅皿のように幕末前後に比定される製品が数点みられるが、いずれも遺構外出土のため上層からの混入品と考えられる。陶器は 17 世紀が主体で、検出面の 372 の皿が最も古く 17 世紀初頭に比定される。溝 301 の 171、土 362 の 233、検出面の 345・373 は 17 世紀前半の絵唐津である。土 400 の 253 は叩き成形が特徴の壺もしくは小型甕で、17 世紀の所産である。374 は見込み部の銅緑釉を蛇の目状に剥いだ皿で、17 世紀後半の内野山北窯の製品とみられる。

瀬戸・美濃産は136点あり、全体の52.1%を占める。種別内訳は磁器9点、陶器125点、土製品2点である。磁器9点は幕末～明治の所産で、井戸309の193・194の小杯・195・196の型打皿などがある。検出面一括で取り上げた磁器も同じく幕末～明治の様相を呈している。このうち315は窯内に染付で風景を描いた掛け分けの端反碗で、高台に灰釉の陶片を呼継した珍しい例である。陶器は124点を図示した。溝301は13点中4点が大窯の製品である。164の天目茶碗が最も古く、大窯第1段階の15世紀末～16世紀前半に比定される。165の天目茶碗・167の内禿皿・172の黄瀬戸鉢は16世紀後半以降の大窯製品である。このうち172は線彫りと鉄彩・胆礬が施された黄瀬戸鉢で、漆継が施されている。対して162の長石釉丸碗・169の鉄絵皿・170の反り皿・173の擂鉢などはいずれも連房式登窯の製品で17世紀初頭～前半に比定される。池状遺構からは18世紀後半の美濃産陶器3点が出土した。土362の232は17世紀初頭の黒織部の沓茶碗である。これとは別に検出面からは、瀬戸黒もしくは織部黒とみられる344の碗が出土している。土376の240は茶入れ、241は鹿を象った水滴で、いずれも17世紀の所産とみられる。土400の247の天目茶碗や248～250の輪禿皿は17世紀前半の所産である。土416の274・275は17世紀前半の天目茶碗で、275の底面には「見里」の墨書がある。276～278は大窯第4段階の丸皿や志野の鉢である。土430から出土した294～300はいずれも17世紀前半の所産で、長石釉小碗・天目茶碗・反り皿・灰釉緑釉流しの鉢などがある。この他にも各土坑から少量ずつ瀬戸・美濃産陶磁器が出土している。また、検出面一括からは50点を図示したが、その製作年代は16世紀後半～近代まで幅広い。古いものでは大窯第3段階後半～第4段階末にかけての美濃産の天目茶碗、折縁皿、内禿皿、黄瀬戸鉢、志野の蓋などがある。これに続く登窯1・2小期、すなわち17世紀前半の製品には、天目茶碗、輪禿皿、長石釉菊皿、鉄絵皿などがある。天目茶碗のうち342は段付天目で、内外面に灰釉を流し掛けている。364は葵文が描かれた青織部の皿で17世紀初頭の美濃産である。一方、片口や擂鉢といった調理具は江戸中期のものが多い。382は17世紀後半～18世紀前半の美濃産の鬢水入れで、外面に型紙摺絵で紅葉文が描かれる。江戸後期の製品は、陶胎染付の仏飯器、灯明受皿、飼猪口、御神酒徳利、三組鋺、秉燭などがある。351は広東形の碗で、淡黄褐の胎土の内面を白化粧し、外面にはイッチン技法で折枝梅が描かれる。

在地産は68点あり、全体の26.1%を占める。種別内訳は瓦器2点、土器63点、土製品3点である。瓦器2点は土341の220の軟質瓦質の火鉢と、検出面の396の硬質瓦質の焜炉である。土器はかわらけ、涼炉、五徳、植木鉢がある。Ⅲ検からは在地産と思われるかわらけが大量に出土しており、そのうちの60点を図示した。かわらけの多くには、灯明皿としての使用痕がみられる。また、405は底部中央部に焼成後穿孔をもつ。墨書されたかわらけは7点ある。403は「御志ヤ水」と読めるが、404も器形や被熱痕がよく似ているため同様の墨書をもつ揃いの皿とみられる。このうち404には口縁部と底部に研磨痕が残る。407は外面に唐草文、内面に「花鳥月」と墨書された灯明皿である。灯火具という用途から考えて、これは「花鳥風月」から「風」の一字を意図的に除いたものだと推察される。411の底面には「あ」と墨書されている。また、土430からは12点のかわらけを図示したが、これらの器形と法量にはまとまりがみられ、平均すると口径10.2cm、底径6.2cm、器高2.9cm、外傾指数68.7[注1]となる。共伴する陶磁器の年代から、17世紀前半の在地産かわらけの様相を示す資料と考えられる。

その他国内の産地は、京・信楽産の碗1点、底面に銘「錦光山」のある京焼の花生1点、京焼とみられるミニチュア・人形3点、志戸呂焼と考えられる灯明皿1点を図示した。外国産は中国の青磁碗3点と青花3点がある。土368の237は鎬蓮弁文の青磁碗で13世紀～14世紀の龍泉窯系、検出面の328は15世紀の龍泉窯系の稜花皿である。土424の290の青花は漳州窯系の孔雀文の皿である。この他、全体の3.1%にあたる8点を産地不明とした。溝301の178の焙烙は体部が内湾しているが、この器形は在地にはみられない。また、413のかわらけは、内外面に黒漆が塗られその上に金箔が施されている。ロクロ成形で、

鉄分の少ない緻密な土を用いている。口縁部にはタールが付着しているが、共伴する漆器2点の木質部が炭化していることから、灯明皿の使用痕ではなく、火災による被熱痕である可能性が高い。市内における金箔かわらけの出土事例は他に1例あり、松本城三の丸跡土居尻15次(未報告)から1点が出土している。これも413によく似た緻密な胎土で総金箔貼りと考えられる。金箔かわらけは主に中世の有力大名の居館で出土する事例が多いが、市内の2例は共に近世武家屋敷跡からの出土である。

Ⅲ検から出土した陶磁器は16世紀から明治まで非常に年代幅が広い。このうち近代の遺物が出土した井戸309については、Ⅲ検で調査をしたものの、本来はⅠ検の年代観をもつ遺構とみられる。また、検出面一括の瀬戸・美濃産磁器なども上層からの混入品と考えられる。これらを除いた陶磁器の製作年代は、16世紀後半～18世紀が主体である。さらにその中で、近世を主体として中世末の遺物を含む遺構と、含まない遺構に大きく区分できる。溝301、土362、土416などは中世末の遺物が出土しており、16世紀後半～17世紀前半の様相を示している。その他の遺構は概ね近世の年代観をもつが、近世の中にも幾つかの段階があるものと推察される。土430からは17世紀前半の陶磁器がまとまって出土した。池状遺構からは18世紀後半の陶磁器群が出土しており、これがⅢ検の下限であるとみられる。

(4) 土居尻1　Ⅳ検

Ⅳ検から出土した資料のうち51点を図示した。種別内訳は、磁器6点、陶器31点、土器12点、土製品2点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産2点はいずれも陶器で、全体の3.9%を占める。井戸502の430は現川窯とみられる打刷毛目の碗で、17世紀末～18世紀前半の所産である。検出面の456は17世紀前半の絵唐津の向付である。

瀬戸・美濃産28点はすべて陶器で、全体の54.9%を占める。このうち大窯が17点、連房式登窯が11点ある。大窯のうち、溝505の427の大窯第1段階の端反皿を除けば、残る16点は大窯第3段階後半～第4段階末すなわち16世紀後半～17世紀初頭の製品とみられる。器種は、天目茶碗、折縁皿、内禿皿、丸皿などがある。登窯の製作年代は登窯1・2小期すなわち17世紀前半が主体である。器種は、天目茶碗、長石釉丸皿、灰釉緑釉流しの鉢などがある。一部に江戸後期の製品もみられるがこれは混入品と考えられ、遺構出土に限っていえば、概ね16世紀後半～17世紀前半の範囲に収まる。

在地産は13点あり、全体の25.5%を占める。種別内訳は土器11点、土製品2点である。土器はかわらけと内耳鍋がある。かわらけの多くには灯明皿の使用痕がある。また、土566の434は底部中央部に焼成後穿孔をもつ。Ⅳ検のかわらけは概ね2種類の器形に分類できる。第1群は、体部の開きが強く、内底部と体部の境がナデによって凹み、中心部が盛り上がるタイプ(463・464・465など)である。第2群は、腰が張り、底部から口縁に向かって丸みをもって立ち上がるタイプ(425、467・468など)である。470の内耳鍋は、器形の特徴から16世紀～17世紀の製品と考えられる。土製品は土錘2点を図示した。

外国産は中国産が6点あり、全体の11.8%を占める。青磁が5点、青花が1点あり、青磁は鎬蓮弁文の碗4点と盤とみられる底部破片1点である。すべて13世紀～14世紀の龍泉窯系で、伝世品とみられる。青花は16世紀後半～17世紀初頭の漳州窯系の皿と考えられる。この他、全体の3.9%にあたる2点を産地不明とした。

陶磁器の製作年代は、16世紀後半～17世紀前半が主体となる。さらにその中で、年代別に遺構を以下のように分類した。

16世紀後半　　：溝503・土521・土545・土579・土587　……(a)

16世紀末～17世紀前半：溝502・溝504　……(b)

(a)の溝503と(b)の溝502は軸が異なることから、(b)の段階で新たに敷地に手を加えたものと想像できる。またこれらとは別に、溝505からは15世紀末～16世紀前半の端反皿が出土しており、(a)の

段階、あるいはさらに古い段階の溝とも考えられるが、出土した陶磁器が少なく詳細は不明である。さらに、前述したⅢ検中央部にも 16 世紀末～ 17 世紀前半の年代観をもつ溝 301 があり、これは（a）とも（b）とも軸を異にするため、さらに新たな段階の溝と考えられる。以上のことから、Ⅳ検には 16 世紀後半の生活面及び、17 世紀前半に再整備された武家屋敷の 2 つの年代観が混在するものと推察される。

2　大名町 3(表 7、図 89 ～ 105、写真図版 15 ～ 18)

今回の調査では、3 層の整地層および各面の遺構から土器・陶磁器が出土した。出土総量は約 173.4kg である。種別重量は磁器約 44.1kg・陶器約 97.1kg・土器約 32.0kg・土製品約 0.2kg で、重量別比率は、25%・56%・19%・0.1% 未満となる。遺物点数が多いため、遺存率が良好なものを中心に、各遺構の器種や産地組成を考慮しながら 437 点を選出し実測図を提示した。種別内訳は、磁器 149 点、陶器 202 点、土器 65 点、土製品 21 点である。以下に検出面ごとの概要を記す。なお、陶磁器の製作年代判定と判断基準は、肥前産は大橋康二氏の編年を参照した。瀬戸・美濃系は藤澤良祐氏の編年を参照し、金子健一氏、山下峰司氏、中嶌茂氏にご指導いただいた。

（1）大名町 3　Ⅰ検

Ⅰ検から出土した資料のうち 110 点を図示した。種別内訳は、磁器 54 点、陶器 38 点、土器 13 点、土製品 5 点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は 24 点あり、全体の 21.8% を占める。大半が近世の磁器で、このうち半数以上はⅤ期の年代観をもつ。溝 4 の 477、溝 9 の 493 は矢羽根文の猪口で、見込みに五弁花文をもつことから 18 世紀末～ 19 世紀初頭の所産とみられる。溝 16 の 520、検出面の 564 の菊花文の碗も同様の年代と考えられる。溝 4 の 481 は磁器のカキタテである。溝 16 の 521、瓦集中部の 541 は筒形碗で、18 世紀後半～ 19 世紀初頭の所産である。溝 4 の 476 の皿・482 の蓋、溝 10 の 500 の鉢、検出面の 568・569 の皿には焼継が施されており、このうち 482 には「×」、500 には「戸」の焼継印が確認できる。一方、焼土 15 から出土した 3 点は様相が異なり、いずれも江戸前期～中期の所産である。532 の碗には漆継痕がみられる。533 の皿は全体的に被熱しており、高台内に銘「2 重角に満福」とハリ支え痕が残る。近代の製品も少量あり、土 35 の 555 は明治以降とみられる段重の蓋である。陶器は 1 点のみで、遺構外から 575 の 17 世紀前半の絵唐津の皿が出土した。

瀬戸・美濃産は 46 点あり、全体の 41.8% を占める。種別内訳は磁器 23 点、陶器 23 点である。江戸後期以降の製品が主体で、うち 15 点は近代の所産である。特に溝 10、瓦集中部からは近代の製品が多く出土した。瓦集中部は明治の火災に伴う廃棄遺構と推察され、出土陶磁器に一括性があるものと考えられる。溝 10 の 498・501・503、瓦集中部の 542 ～ 544 は明治初頭～ 20 年までの所産とみられる。ただし溝 10 には 499 の銅版転写の平碗があり、これはやや下った明治 30 年代の製品と考えられる。溝 4 からは 483 のせんじ・485 の餌猪口など 18 世紀後半の陶磁器が出土した。溝 9 の 492 は美濃の炻器染付の碗である。495 の御深井の向付も美濃産で、こちらはやや年代が古く 18 世紀前半の所産である。溝 16 からは、518・519 の端反碗・526 の灯明受皿など幕末～明治にかけての製品が出土した。水路 1 の 530 は 19 世紀前半～幕末にかけての梅文の碗である。土 9 の 552 は明治の型紙摺絵の蓋で、前述した瓦集中部の陶磁器と同様の年代である。一方で、これら江戸後期～近代の遺物群とは年代観の異なる陶磁器が、焼土 15、土 5 からまとまって出土している。焼土 15 からは 535 の天目茶碗・536 の白天目・537 の輪禿皿など 17 世紀の陶磁器が出土した。土 5 の 548 の黄瀬戸鉢は大窯第 4 段階まで遡り、549 の向付は 17 世紀後半の所産とみられる。また、遺構外では 17 世紀～近代まで幅広い年代の陶磁器を検出した。561 の小杯・563

のゴム印判の碗などが最も新しく、昭和まで下る可能性がある。明治の製品は 565 の型紙摺絵の碗・566 の銅版転写の皿がある。近世では、18 世紀後半の製品に 573 の腰錆湯呑、17 世紀の製品に 574 の天目茶碗・576 の長石釉丸皿などがみられる。

在地産は 14 点あり、全体の 12.7% を占める。種別内訳は陶器 2 点、瓦器 1 点、土器 11 点である。陶器 2 点は溝 10 の 507 の灯明受皿と土 82 の 558 の行平鍋で、橙褐色の胎土や灰釉の釉調から洗馬焼和兵衛窯で焼かれた可能性が高い。土器は、灯明皿として使用したとみられるかわらけや、焙烙、五徳がある。

その他の産地では、京・信楽産と考えられる陶器が 3 点ある。また、溝 15 の 512 は中国景徳鎮系の青花で、18 世紀～ 19 世紀初頭の所産とみられる。この他、全体の 20% にあたる 22 点を産地不明とした。

陶磁器の製作年代をみると、遺構出土の大半が江戸後期～明治にかけての所産である。その中で、焼土 15・土 5 の出土遺物だけが 17 世紀の年代観を示している。これら 2 遺構はなんらかの要因で Ⅰ 検に混入したものと考えられ、而全体の年代観を判断するための資料からは除外したい。また出土磁器の点数をみると、肥前産と瀬戸・美濃産が同数程度出土しており、近世でも特に幕末に近い段階であると考えられる。以上のことから、Ⅰ 検の推定年代観は幕末～明治と推察される。

(2) 大名町 3　Ⅱ 検

Ⅱ 検から出土した資料のうち 312 点を図示した。種別内訳は、磁器 93 点、陶器 153 点、土器 50 点、土製品 16 点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、備前、堺、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は 82 点あり、全体の 26.3% を占める。種別内訳は磁器 72 点、陶器 7 点、土製品 3 点である。溝 7 からは 591・592 の 17 世紀前半の絵唐津の皿が出土した。溝 31 の 615・616 は見込みに五弁花文、高台内に銘「大明年製」・「2 重角に渦福」をもつ 17 世紀末～ 18 世紀の皿である。土 113 の 635 は焼継の施された染付輪花皿で、高台内に朱書きで「へ」の焼継印がある。土 123 からは陶磁器が大量に出土し、磁器は 27 点を図示したがこのうちの 25 点が肥前産であった。645 はコンニャク印判で主文様を描いた碗で、17 世紀末～ 18 世紀前半の所産である。647 は 17 世紀後半の色絵の碗とみられる。650 ～ 654 の 5 点はそれぞれ文様の異なる筒形碗で、18 世紀後半～ 19 世紀初頭の所産である。658・660 の皿の底面にはハリ支え痕が残ることから、17 世紀末～ 18 世紀前半の製品とみられる。659 の糸切細工の皿も同様の年代である。また、649・650・655・662・663 には漆継の痕跡が確認された。一方、焼継の施された製品はみられなかった。土 123 から出土したこれらの磁器は、Ⅳ～Ⅴ期の製品が中心で、点数ではⅤ期がやや多い。後述するが、土 123 は瀬戸・美濃産磁器をほとんど伴わず、19 世紀の早い段階で廃絶を迎えた遺構であると推察される。土 142 からも 780 の筒形碗が出土しているが、781 の広東碗、782 の端反碗を伴う段階のため、土 123 よりもやや新しい年代観をもつ遺構と考えられる。また、土 143 にもやはり 792 の筒形碗がある。796 ～ 798 は蛇の目凹型高台の皿で、18 世紀後半以降の所産である。795 の糸切細工の摺絵皿・799 の皿は 17 世紀末～ 18 世紀前半の所産とみられ、漆継が施されている。土 143 は瀬戸・美濃産磁器を伴わないことから、土 123 と同様の年代観をもつ遺構と考えられる。土 169 の 828 は 17 世紀中葉の波佐見産青磁とみられ、内面をヘラ彫りし、高台内に錆釉を塗っている。土 196 の 851 は底面のハリ支え痕及び銘から、17 世紀第 4 四半期頃の所産と考えられる。土 196 は、年代の推定が困難な個体もあるものの、概ね 17 世紀後半～ 18 世紀前半の年代観を示している。土 197 の 857 は 17 世紀第 3 四半期の所産とみられる輪花の皿である。土 201 の 866 は、17 世紀後半に焼かれた京焼風肥前の陶器の碗で、外面に楼閣山水文、高台内に銘「清水」が確認できる。畝状遺構の 876 は 18 世紀前半の碗とみられるが、焼継の上にさらに漆継を施した痕跡があるため、最終的な廃棄は 19 世紀以降と考えられる。遺構外からは 883 の色絵の皿が出土した。釉調から初期の色絵の可能性もあるが、市内出土の類例が少なく詳細は不明である。

瀬戸・美濃産は128点あり、全体の41.0%を占める。種別内訳は磁器13点、陶器114点、土製品1点である。このうち溝7の586が最も古く、大窯第3段階後半とみられる天目茶碗である。溝7の大窯製品は他に587の天目茶碗・589の志野丸皿がある。一方で588の天目茶碗・590の鉄絵皿は17世紀前半の連房式登窯のものである。溝7の年代観は16世紀後半～17世紀前半とみられ、Ⅱ検の遺構の中では古い様相を示す。大窯はこの他に、溝8から597の皿、溝25から607の志野の碗が出土している。溝16の603は18世紀後半～19世紀初頭のせんじである。溝23の604は白天目で17世紀前半の所産である。溝31の609の碗には高台内に銘「1重角に里」がみられ、美濃産と推察される。611は、Ⅰ検の水路1出土の530と同種の梅文の碗である。溝31からは他にも幕末～明治の所産とみられる陶磁器がまとまって出土した。土114の637の天目茶碗・638の丸碗・639の輪禿皿は17世紀前半の所産である。土123からは大量の陶磁器が出土しており、図示した陶器82点のうち63点が瀬戸・美濃産であった。大半は近世の陶器で、このうちの約半数が18世紀後半～19世紀初頭の所産である。679・680の鎧茶碗・681のせんじ・684～686の拳骨茶碗・706の袋皿・707の陶胎染付皿・719の輪禿鉢・744・745の灯明受皿などがある。678の炻器染付の碗や714の石皿などやや年代が下る製品もあるが、いずれにしても近世の所産といえる。なかには年代の古い遺物も一定数あり、692～694は17世紀の天目茶碗で、691の天目茶碗・708の志野丸皿などは大窯末まで遡る。また721・722の練鉢、736の尾呂徳利などは江戸中期の所産である。土123は出土陶器の年代幅が広いが、特に江戸前期の遺物群などは別の遺構からの混入である可能性が高い。また、土123には底部に墨書をもつ陶磁器が複数あり、699・700には筆致のよく似た猪の目文、704の仏飯器には「東西南北」の文字が確認できる。土125からは、777の掻き落しの磁器の端反碗が出土した。土142の785は美濃の炻器染付の碗である。土143からは、808のせんじ・809の拳骨茶碗が出土しており、これは土123の器種の組み合わせと類似することから同様の年代観をもつ遺構と推察される。また、遺構外には892の有耳壺があるが、内面に黒色付着物が確認できることから、鉄漿壺として使用された可能性が考えられる。

京・信楽産は15点あり、全体の4.8%を占める。このうち2点は土製品の人形と狛犬で、他はすべて陶器である。溝23の605、土143の804～806は小杉碗で、18世紀中葉の所産とみられる。土123の677の碗の高台内には「寶山」の刻印がみられる。土198の859は薬茶碗である。

在地産は49点あり、全体の15.7%を占める。種別内訳は陶器2点、瓦器6点、土器41点である。陶器は溝31の623と土124の775で、いずれも行平鍋である。このうち775の釉調は洗馬焼和兵衛窯の製品と似ている。瓦器は主に硬質瓦質の焜炉や火鉢であり、土123・土143・土160から出土した。土器はかわらけ、焙烙、内耳鍋がある。在地のかわらけは、時期が新しくなるにつれ法量が小型化する傾向にあり、16世紀末段階では口径10.5cm前後、器高2.9cm前後だったものが、19世紀中葉～後半には口径9.6cm前後、器高2.0cm前後まで変化することがこれまでの調査で指摘されている[文献6]。溝7・土202のかわらけは器高が平均して3.2cmを超える大振りなつくりで、16世紀末～17世紀前半の様相を呈しているといえる。また、土201・土202からは、底部に墨書されたかわらけが複数出土している。土201の868・869の底面には「○」、870には「二」の墨書が確認できる。土202の874の墨書は「御」と読める。鍋は近世の焙烙が主体だが、溝7の596と土53の631は中世の内耳鍋と考えられる。

その他国内の産地は、備前焼と思われる炻器質の灯明皿・灯明受皿を各1点ずつ、堺の擂鉢を2点、近畿産の焼塩壺1点を図示した。628の焼塩壺は、輪積み成形でつくられていることから17世紀の製品とみられる。これまでに松本城下で焼塩壺が出土した地点は4か所のみであり、それぞれの出土点数は以下の通りである。松本城二の丸御殿跡で59点、松本城下町跡本町2次(推定塩問屋跡)で1点、同8次(推定御使者宿跡)で1点、松本城三の丸跡土居尻11次(未報告、推定塩蔵跡)で2点確認されている。外国産

は中国の白磁１点と青花２点を図示した。溝７の585は16世紀の白磁の端反皿で、口縁が輪花を呈している。溝10の598、土169の827は中国漳州窯系の青花である。この他、全体の9.6%にあたる30点を産地不明とした。

Ⅱ検からは16世紀後半～近代までの陶磁器が幅広く出土しているため、面全体の年代観を限定することは困難である。しかしながら、遺構別にみれば製作年代には差があり、幾つかの時期の遺構が同一面に混在しているものと考えられる。そこで陶磁器の出土点数が多く信頼度の高い遺構を中心として、年代別に以下の４つの段階に分類した。ただし、前述したⅠ検の年代観が幕末～明治であることから、近代の遺物は上層からの混入とみなし、年代観の判別対象からは除外した。

陶磁器の出土状況からは、このように少なくとも４つの段階を捉えることができる。

16世紀末～17世紀前半　：溝７・土114など

17世紀後半～18世紀前半：土169・土196・土201など

18世紀後半～19世紀初頭：溝31・土123・土143など

19世紀前半～幕末　　：土124・土142・畝状遺構など

(3) 大名町３　Ⅲ検

Ⅲ検から出土した資料のうち13点を図示した。種別内訳は、磁器２点、陶器９点、土器２点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は２点あり、全体の15.4%を占める。902は18世紀後半～19世紀初頭の筒形碗で、909は17世紀前半とみられる陶器の鉢である。

瀬戸・美濃産は８点あり、全体の61.5%を占める。すべて陶器である。土112の899・900は長石釉丸皿で、17世紀前半の所産である。土180の901は大窯の灰志野の鉢と考えられる。遺構外には、904・905の天目茶碗や906の掛け分けの碗といった17世紀の製品と共に、907の内禿皿・908の折縁皿などの大窯製品がある。

在地産は２点あり、全体の15.4%を占める。溝９の897は９世紀前半～中葉の黒色土器Ａの鉢と考えられる。土87の898は近世のかわらけとみられる。

この他に中国産の白磁が１点出土した。903は15世紀第４四半期～16世紀前半の端反の皿で、漆継が施されており、伝世品とみられる。

Ⅲ検は総じて陶磁器の出土量が少なく、年代決定のできない遺構が多い。よって面全体の年代観を陶磁器から判断することは難しいが、出土した陶磁器の製作年代は16世紀末～17世紀中葉に集中している。これは、前述したⅡ検の溝７・土114などと近い年代観であり、当該遺構との関連性を示唆するものである。また、溝９からは９世紀の土器が出土しており、古代に何らかの土地利用があった可能性も否定できない。

注１）外傾指数は、$\frac{(口径 - 底径)}{2}$ ÷器高× 100で求めた。

〈参考・引用文献〉

文献１　江戸遺跡研究会　2001『図説　江戸考古学研究事典』柏書房

文献２　九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年　－九州近世陶磁学会１０周年記念－』

文献３　塩尻市教育委員会　1996『洗馬焼・和兵衛窯』

文献４　瀬戸市史編纂委員会　1993『瀬戸市史　陶磁史篇五』

文献５　瀬戸市史編纂委員会　1998『瀬戸市史　陶磁史篇六』

文献６　竹内靖長　2002「４章１節　土器・陶磁器」『松本城下町跡六九第４次発掘調査報告書』松本市教育委員会

表 6　土居尻 1　土器・陶磁器観察表

集	整理番号	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
1	1	1-建 1-1	建物 1	磁器	碗	10.2	3.4	4.9	外面に雲文，縁内に 2 重圏線，見込み 1 重圏線内に寿字文	白	染付	明治 10 年代	瀬戸・美濃
2	1	1-建 1-3	建物 1	磁器	皿	(10.7)	(6.6)	2.05	外面に雲文，口縁，見込み内に染付・ダミで牡丹餅子文	白	染付・口錆	幕末～明治初頃	美濃か
3	1	1-建 1-2	建物 1	磁器	皿	(12.8)	(7.2)	2.0	内面に圏線転写，高台内に 1 重圏線	白	染付	明治 20 後半～ 30 年代	瀬戸・美濃
4	1	1-建 1-4	建物 1	陶器	小杯	5.4	2.3	2.65	外面に上絵（赤）で「坪庵透徹会開祖 玉田 」，内面に上絵（黒・赤・緑）で水・山・水，高台内に上絵（赤）で銘「二創造」	黄白	透明釉・上絵	近代	瀬戸・美濃か
5	1	1-建 1-5	建物 1	炻器	植木鉢	-	(6.8)	-	鉄釉流し掛け か，高台に水切溝 3 単位か	暗灰	鉄釉	18c 後半～	不明
6	1	1-建 1-6	建物 1	陶器	擂鉢	25.4	12.2	12.2	片口，内面に刷毛 2，高台に刻印「尾州品野当麻窯銘」，高台内に墨書「守 ヨ」もしくは「打 ヨ」	淡黄褐	鉄釉	19c ～	瀬戸
7	1	1-建 2-1	建物 2	磁器	碗	(10.8)	(3.9)	5.5	外面に格子文，内面に付着物（漆か）	白	染付	明治	瀬戸・美濃
8	1	1-建 2-2	建物 2	磁器	皿	(8.0)	(3.8)	2.3	型打方形皿，内面に陽刻・ダミで花文，高台方形	白	染付	幕末～明治初頃	瀬戸・美濃
9	1	1-建 2-5	建物 2	陶器	擂鉢	27.4	14.2	12.2	片口	褐	鉄釉	近代	不明
10	1	1-建 2-3	建物 2	陶器	鍋蓋	-	-	6.0	外径 (22.0)，摘み径 (7.6)，両気抜き孔 1，外面に鉄釉・内面に灰釉，11 とセット	淡黄	鉄釉・灰釉	近代	不明
11	1	1-建 2-4	建物 2	陶器	鍋	(22.8)	11.4	10.0	鍋状双口に竹管状工具で印刷，外面に鉄釉・内面に灰釉，蓋鍋蓋付着，10 とセット	淡黄	鉄釉・灰釉	近代	不明
12	1	1-建 3-1	建物 3	磁器	皿	(9.7)	(5.7)	1.55	見込みに染付・ダミで牡丹餅子文か	白	染付	明治初頃～ 10 年代	美濃か
13	1	1-建 3-2	建物 3	磁器	鉢	10.4	3.85	-	輪花，ゴム印刷，外面に唐草文，縁内に 1 重圏線，内面に雲紋唐草文，見込み 2 重圏線内に十字花文，機械ロクロか	白	染付	昭和か	瀬戸・美濃か
14	1	1-建 3-3	建物 3	磁器	鉢	(13.2)	9.9	5.7	内外面に花唐草文，胴部帯状に鉄釉，蛇の目状高台	白	染付・鉄釉	19c(1820 ～ 60 年代)	肥前か
15	1	1-建 3-4	建物 3	陶器	片口	-	7.1	-		淡黄白	灰釉	近代か	不明
16	1	1-建 4-1	建物 4	磁器	碗	(11.4)	4.0	4.8	外面に圏線転写（青・緑）で花文，高台内面に砂付着	白	染付	大正か	瀬戸・美濃
17	1	1-建 4-2	建物 4	磁器	皿	(23.8)	10.6	4.0	輪花，外面に圏線転写で雲文，縁内に 1 重圏線，内面に上絵（赤・黄・緑・紫・藍等）で花蝶文	白	染付・上絵	明治後半～大正	瀬戸・美濃
18	1	1-建 4-4	建物 4	土器	目皿	-	-	1.1	縁入径 10.5，円形の孔 7，縁無	橙褐	-	不明	在地か
19	1	1-建 4-3	建物 4	土器	五徳	(27.0)	(23.4)	7.7	縁内に沒線 1 条，内外面に煤付着，被熱	橙褐	-	不明	在地か
20	1	1-建 6-1	建物 6	磁器	皿	22.2 ～ 25.8	10.6	3.9	型打皿，圏線転写，外面に雷紋文，内面に風景	白	染付	明治後半	瀬戸・美濃
21	1	1-石垣 A-1	石列 A	磁器	碗	(7.4)	(3.1)	3.45	型紙摺絵，外面に唐子遊び・青海波文，縁内に雷紋文	白	染付	明治 10 年代	美濃
22	1	1-石垣 A-2	石列 A	磁器	碗	(6.9)	(4.3)	7.2	筒型湯呑，外面に上絵（赤）で花文・雲文，縁内に雷紋文	白	透明釉・上絵	明治 20 ～ 30 年代	瀬戸・美濃
23	1	1-石垣 A-3	石列 A	磁器	蓋	-	-	1.55	外径 5.3，返り径 4.25，合子蓋か，圏線転写か，外面に花弁文	不明	染付	明治	不明
24	1	1-石垣 A-4	石列 A	陶器	合子か	5.95	2.85	3.0		暗褐	灰釉	不明	不明
25	1	1-石垣 A-5	石列 A	炻器	急須蓋	-	-	1.5	外径 5.65，摘み径 (0.95)，両気抜き孔 1	暗灰	-	幕末～	不明
26	1	1-石垣 F-1	石列 F	磁器	皿	9.65	4.9	2.5	縁内に 2 重圏線，見込みに陽刻・ダミで松鶴文	白	染付	幕末	美濃か
27	1	1-石垣 F-2	石列 F	磁器	皿	17.35	10.2	2.9	輪花，型打成形，外面に唐草文，内面に霞連四草文，見込みに環状松竹梅文	白	染付	18c 末～幕末	肥前
28	1	1-貴 7-1	貴 7	磁器	碗	-	(4.3)	-	内外面に圏線転写で亀甲文・縞	白	染付	明治 20 ～ 30 年代	美濃か
29	1	1-貴 8・9-1	貴 8・9	磁器	小杯	3.8	2.85	4.3	外面に圏線転写で松竹梅文	不明	染付	明治 30 年代～大正	瀬戸・美濃か
30	1	1-貴 8・9-2	貴 8・9	磁器	碗	5.4	3.4	6.25	筒香碗，外面に金彩で草田・桜・「隆子」	不明	透明釉・上絵	明治後半～大正	美濃か
31	1	1-貴 9-1	貴 9	磁器	鉢	15.1	7.2	7.0	器付鉢，外面に花蝶手，高台内に 1 重圏線	白	染付・鉄釉	大正～昭和	瀬戸・美濃か
32	1	1-貴 9-2	貴 9	磁器	施利	2.9	-	-	高台縁内周，外面に鉄釉で屋号「 」，側面に四溝掘	灰	灰釉・鉄釉	大正～昭和	美濃
33	1	1-P16-1	ピット 16	磁器	皿	-	(6.0)	-	内面に型紙摺絵	白	染付	明治 10 年代	美濃
34	1	1-P16-2	ピット 16	磁器	碗	(6.5)	-	-		淡灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
35	1	1-検 -1	検出面	磁器	碗	7.4	3.25	3.9	外面に雲文，縁内 1 重圏線，見込み 2 重圏線内に文様，巻 10 小後	白	染付	19c 前半 (1830 年代)	瀬戸・美濃
36	1	1-検 -2	検出面	磁器	碗	8.1	3.0	4.8	外面に圏線転写で忘られて文，高台内に 1 重圏線	白	染付	明治後半	瀬戸・美濃
37	1	1-検 -3	検出面	磁器	紅皿	4.4	0.8	1.25	型押成形，内面無絵毛塗	白灰	透明釉か	明治か	美濃
38	1	1-検 -4	検出面	磁器	仏飯器	(6.8)	3.9	7.3	外面に圏線転・縁外～内面に透明釉を掛け分け	白	瑠璃釉・透明釉	明治か	瀬戸・美濃か
39	1	1-検 -5	検出面	磁器	皿	9.0	4.4	2.4	型打輪花，内面に陽刻で蝶文，見込みに環状松竹梅文	白	染付	幕末～明治初頃	瀬戸・美濃
40	1	1-検 -6	検出面	磁器	皿	(8.5)	3.7	2.45	型打皿，見込みに陽刻で蝶文	白	染付	幕末～明治初頃	瀬戸・美濃
41	1	1-検 -7	検出面	磁器	皿	(12.7)	6.2	2.7	外面に唐草文，内面に型紙摺絵で花鳥文，見込み 1 重圏線内に雲文・環状松竹梅文，蛇の目状高台	白	染付	明治 10 年代	美濃
42	1	1-検 -8	検出面	磁器	皿	21.3	14.0	2.6	イヲ皿，口縁刻み・口錆，内面に圏線転写で竹文，高台内に銘印「城穴」	白	染付・口錆	近代	肥前
43	1	1-検 -9	検出面	磁器	銘皿	4.0	3.8	2.8	外面に判読不身	白	染付	明治	瀬戸・美濃
44	1	1-検 -10	検出面	磁器	香炉	(9.6)	(7.0)	8.0	外面に透明釉の ち に縁～胴部に鉄釉流し掛け，内面無絵，見込みに陽付着	白	透明釉・鉄釉	近代	瀬戸・美濃か
45	1	1-検 -11	検出面	青磁	火入れ	-	(7.6)	-	胴部に沒線 1，蛇の目状高台，見込みに陽付着	白灰	青磁釉	17c 後半～ 18c 前半	肥前
46	1	1-検 -12	検出面	磁器	灰落し	(10.5)	-	-	縁内に 2 条 1 単位の沒線 2，外面～縁内に透明釉，上端に蔦行程	白	透明釉	近代	瀬戸・美濃か
47	1	1-検 -13	検出面	青磁	植木鉢	-	6.5	-	外面に上絵（緑・黒・茶）で草花文・「 」，三足，底裏に墨書「 」	白	青磁釉・上絵	明治 10 ～ 20 年代	瀬戸
48	1	1-検 -14	検出面	磁器	著立てか	-	-	-	型押成形，透孔，陽刻・ダミで草花文	白	染付	幕末	瀬戸・美濃
49	1	1-検 -15	検出面	磁器	碗手か	-	-	3.0	幅 2.6，厚行 2.5，型抜成形，外面に「 」・「 」・「 」	白	染付	近代	不明
50	1	1-検 -18	検出面	陶器	碗	6.35	2.45	2.7	口外に漆付着	白灰	灰釉	幕末	瀬戸か
51	1	1-検 -19	検出面	陶器	碗	(7.25)	(2.8)	5.25	全面施釉の ち 高台輪拭き取り	暗赤灰	灰釉	17c 前半	肥前
52	1	1-検 -17	検出面	陶器	碗	11.5	3.8	7.2	全面施釉の ち 高台輪拭き取り	灰白	灰釉	18c 後半～幕末	美濃

版	時期	実測番号	遺構	種別	器形	法量(cm) 口径	底径	最高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
53	Ⅰ	Ⅰ-検-20	検出面	焙器	皿	(9.0)	(1.8)	1.9	打刃技か。口縁部内外面にタール付着	赤褐	-	17c～18c 初頭	瀬戸か
54	Ⅰ	Ⅰ-検-21	検出面	陶器	猿鉢	(13.6)	6.6	5.0	-	赤褐	鉄釉	19c～	在地か
55	Ⅰ	Ⅰ-検-22	検出面	陶器	植木鉢	-	8.8	-	底面中央に孔あり。高台に水切溝3、内面に重ね焼き痕	黄灰白	灰釉・うの糸釉	幕末～	不明
56	Ⅰ	Ⅰ-検-23	検出面	陶器	徳利	-	12.3	-	底印徳利型。内面に鉄絵で屏り	灰	灰釉・鉄絵	天正・昭和	美濃か
57	Ⅰ	Ⅰ-検-24	検出面	陶器	急須	5.9	5.45	5.7	型づくり。外面に帆の船花文3、外面に灰釉の ち1面・(注1・船花文に鉄絵	灰	灰釉・鉄釉	近代	万古焼か
58	Ⅰ	Ⅰ-検-25	検出面	土器	壺か	14.8	-	-	内面煤付着	褐	-	不明	在地か
59	Ⅰ	Ⅰ-検-16	検出面	土製品	動物	-	-	-	犬か、猫か、型抜成形、中実	白	透明釉・青	近代	瀬戸・美濃か
60	Ⅰ	Ⅰ-検-26	検出面	土製品	動物	-	-	-	亀、陶器、型づくり	黄白	緑・黄	不明	京か
61	Ⅰ	Ⅰ-検-27	検出面	土製品	箱庭遺具	-	-	-	幅3.6、行灯、陶器、型押成形、中実	黄白	緑・黄	不明	不明
62	Ⅰ	Ⅰ-検-28	検出面	土製品	ミニチュア	-	-	2.8	幅7.3、厚行5.9、ままごと道具、鍋か、型押成形	褐	-	19c 前半	不明
63	Ⅱ	Ⅱ-井戸4-1	井戸4	土器	皿	8.8	5.1	2.1	打刃技か。ロクロ成形。内面煤付着	灰褐	-	19c か	在地か
64	Ⅱ	Ⅱ-井戸4-3	井戸4	土器	皿	8.35	6.3	2.25	打刃技か。ロクロ成形。口縁に打芯痕	淡褐	-	19c か	在地か
65	Ⅱ	Ⅱ-井戸4-2	井戸4	土器	皿	(10.2)	-	-	ロクロ成形	暗灰褐	-	不明	在地か
66	Ⅱ	Ⅱ-井戸8-1	井戸8	磁器	碗	7.6	3.4	4.3	外面に絵(茶・金・黒・赤・他)で人物、高台内に銘「九谷窯」	白	透明釉・上絵	近代	九谷
67	Ⅱ	Ⅱ-井戸8-2	井戸8	磁器	皿	8.7	5.2	1.6	見込みに御紋瓦写(黒・赤印子)で花鳥文、機械ロクロ	不明	透明釉・釉下彩	大正か	瀬戸・美濃か
68	Ⅱ	Ⅱ-井戸8-4	井戸8	陶器	鉢皿	-	-	2.2	幅13.6、明石か、型押成形、内面強釉、外面に布目痕。口縁に白色付着物(アルミニウム か)	不明	鉄釉	幕末～	益子か
69	Ⅱ	Ⅱ-井戸8-3	井戸8	陶器	急須	6.2	5.0	5.75	外面に手描き(緑・黒)で蔦文・**武**水流	白	透明釉・釉下彩	近代	不明
70	Ⅱ	Ⅱ-T-1	トレンチ	陶器	皿	9.1	3.6	2.3	打刃技か。口縁に煤付着、被熱	淡黄白	灰釉	18c 後半～幕末	瀬戸か
71	Ⅱ	Ⅱ-T-2	トレンチ	土器	皿	10.15	6.5	2.7	ロクロ成形	淡褐褐	-	不明	在地か
72	Ⅱ	Ⅱ-検-1	検出面	磁器	小杯	(5.8)	2.7	4.2	外面に鹿風文、高台に藤唐文、高台内に銘	白	染付	明治初頭～10 年代	瀬戸・美濃か
73	Ⅱ	Ⅱ-検-2	検出面	磁器	小杯	(6.0)	2.6	4.1	外面に牡丹唐子文、高台内に銘「六窓」	白	染付	明治初頭～10 年代	瀬戸・美濃か
74	Ⅱ	Ⅱ-検-6	検出面	磁器	小杯	6.3	2.6	4.2	外面に蔦・酒詩、高台内に文様	白	染付	明治初頭～10 年代	瀬戸・美濃か
75	Ⅱ	Ⅱ-検-4	検出面	磁器	小杯	(6.1)	(2.1)	3.1	縦内1重圏線、見込みに上絵(赤・金)で「星」と「鍋」、高台内1重圏線内に銘「武」	白	染付・上絵	明治初頭～10 年代	瀬戸・美濃か
76	Ⅱ	Ⅱ-検-3	検出面	磁器	小杯	(6.5)	(2.7)	4.2	外面に人物、高台内1重圏線内に銘「二 鬼」	白	染付	19c	三田か
77	Ⅱ	Ⅱ-検-8	検出面	磁器	小杯	6.4	(3.7)	4.5	広東形。外面に風景	白	染付	18c 末～19c 前	肥前
78	Ⅱ	Ⅱ-検-5	検出面	磁器	碗	(7.1)	3.5	4.9	外面に人物、高台内に銘	白	染付	19c 中葉	三田か
79	Ⅱ	Ⅱ-検-9	検出面	磁器	碗	(8.7)	(3.4)	4.7	端反碗。外面に松芝取寿文、縦内に雷紋・雷紋、見込み2重圏線内に文様、漆釉掛、登 10 小前	白	染付	19c 前半(1820 年代)	瀬戸・美濃
80	Ⅱ	Ⅱ-検-10	検出面	磁器	碗	(9.3)	(4.0)	4.9	端反碗。外面に風景、縦内に雷紋、見込み1重圏線内に文様、登 9 小後	白	染付	19c 前半(1810 年代)	瀬戸
81	Ⅱ	Ⅱ-検-11	検出面	磁器	碗	(9.3)	3.6	5.25	端反碗。外面に馬文、縦内に馬文・庄文、見込みに馬文	白	染付	19c 前半～幕末	肥前
82	Ⅱ	Ⅱ-検-12	検出面	磁器	碗	(8.3)	3.3	5.3	外面に見出文、見込みに宮波文	白	染付	18c 末～19c 前半	肥前
83	Ⅱ	Ⅱ-検-13	検出面	磁器	碗	(8.1)	(2.8)	5.4	外面に矢羽根文、縦内に2重圏線、見込みに1重圏線、高台に砂付着	白	染付	18c 末～幕末	肥前
84	Ⅱ	Ⅱ-検-17	検出面	磁器	碗	-	(3.7)	-	外面にコンニャク印押で若松文、高台に砂付着	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
85	Ⅱ	Ⅱ-検-18	検出面	磁器	碗	-	3.7	-	筒形碗。高台脇に文様、見込み1重圏線内にコンニャク印押で五弁花文	白	染付	18c 後半	肥前
86	Ⅱ	Ⅱ-検-14	検出面	磁器	碗	-	4.0	-	外面に草花文、高台内に1重圏線、高台に砂付着	白	染付	18c 後半	肥前
87	Ⅱ	Ⅱ-検-15	検出面	磁器	碗	(11.3)	4.4	6.0	外面に唐草花文、高台内2重圏線内に銘「大明年製」、くらわんか碗	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
88	Ⅱ	Ⅱ-検-16	検出面	磁器	碗	-	3.6	-	外面に文様、見込み蛇の目釉剥ぎ、高台内に1重圏線、くらわんか碗	白	染付	18c 前半～19c 後半	肥前
89	Ⅱ	Ⅱ-検-19	検出面	青磁	碗	-	4.2	-	外面に櫛目、内面に竹葉か文様、見込みに文字か文、高台内に目跡か、龍泉窯系	灰	青磁釉	15c 後半～16c 前半	中国
90	Ⅱ	Ⅱ-検-28	検出面	磁器	皿	7.85	3.6	2.2	型打皿。内面に隅折で蜻蛉形文、見込みに花文、高台方形。登 10・11 小	白	透明釉	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
91	Ⅱ	Ⅱ-検-29	検出面	磁器	皿	8.2	3.6	2.45	型打皿。内面に隅折・ダミで花唐草文、見込みに花文、高台方形。登 10・11 小	白	染付	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
92	Ⅱ	Ⅱ-検-25	検出面	磁器	皿	9.4	5.0	2.6	型打輪花皿。内面に隅折で蜻蛉形文、見込みに三方銭銭内文	白	透明釉	幕末	瀬戸・美濃
93	Ⅱ	Ⅱ-検-24	検出面	磁器	皿	9.2	4.8	2.0	寿文皿。見込みに隅折で蔦文	白	透明釉	幕末	美濃
94	Ⅱ	Ⅱ-検-22	検出面	磁器	皿	(10.2)	5.3	2.4	内面に隅折・ダミで牡丹獅子文	白	染付	明治初頭	美濃
95	Ⅱ	Ⅱ-検-27	検出面	磁器	皿	(10.5)	5.4	2.9	輪花。外面に唐草文、内面に鹿踊唐草文、見込みに環状松竹梅文、高台内に銘「成化年製」、高台に砂付着	白	染付	19c ～幕末	肥前
96	Ⅱ	Ⅱ-検-26	検出面	磁器	皿	10.45	6.5	2.3	輪花。側面に唐草か、口縁、内面に櫛隅山水文、高台内1重圏線内に銘「成化年製」、高台脇に漁綾か	白	染付・口錆	18c 後半	肥前
97	Ⅱ	Ⅱ-検-23	検出面	磁器	皿	(13.2)	(8.5)	2.9	外面に唐草文、口縁、内面に雷紋か、見込みに獅子文、高台内に八ツ文字か	白	染付・口錆	17c 後半	肥前
98	Ⅱ	Ⅱ-検-31	検出面	磁器	皿	16.4	6.4	2.6	口縁が蹄状に外反、内面に風景	白	染付	17c 前半～中葉	肥前
99	Ⅱ	Ⅱ-検-32	検出面	磁器	皿	-	9.4	-	口縁が蹄状に外反、内面に菊唐草文、内面に雷紋か・四方雷文・蜻蛉、高台内に銘「大明成化年製」か	白	染付	17c 中葉～後半	肥前
100	Ⅱ	Ⅱ-検-30	検出面	磁器	皿	(22.6)	(14.6)	3.2	内外面に唐草文、見込みに環状松竹梅文、高台内に1重圏線・ハリ支え痕	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
101	Ⅱ	Ⅱ-検-34	検出面	青花	皿	-	(12.8)	-	型打成形。外面に渦文、見込み2重圏線内に草花文、高台に砂付、底裏に鼓輪状の削り痕	白	染付	17c 中葉	中国
102	Ⅱ	Ⅱ-検-33	検出面	青花	皿	-	(17.4)	-	内面に植物文、高台に砂付、神州窯系	灰	染付	16c 末～17c 初頭	中国
103	Ⅱ	Ⅱ-検-36	検出面	青磁	皿	(33.5)	-	-	折縁形に陽、内面に片切り彫りで文様、見込みに隅切で雲木文、高台足	淡灰	青磁釉	17c 後半	肥前
104	Ⅱ	Ⅱ-検-21	検出面	磁器	猪口	-	(4.3)	-	外面に広葉的葉文、高台内1重圏線、高台に銘か	白	染付	18c 前半	肥前
105	Ⅱ	Ⅱ-検-20	検出面	磁器	猪口	(6.7)	5.0	6.1	外面に明特唐・雪輪文	白	染付	18c 中葉～後半	肥前
106	Ⅱ	Ⅱ-検-39	検出面	磁器	器物	(6.7)	(4.5)	3.65	外面に馬文、口唇部鋸輪	白	染付	幕末か	肥前か
107	Ⅱ	Ⅱ-検-38	検出面	磁器	段重	(8.7)	(5.2)	4.4	外面に梅枝文、口唇部鋸輪、蜻蛉痕	白	染付	18c ～幕末	肥前
108	Ⅱ	Ⅱ-検-40	検出面	磁器	段重	15.0	10.9	5.55	外面に蜻蛉草文、口唇部鋸輪	白	染付	18c 末～幕末	肥前

No.	時期	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
109	Ⅱ	Ⅱ-機-7	横出面	磁器	合子か	(5.1)	3.0	2.5	外面に花文、口押部無釉、底裏無	白	染付	18c ～幕末	肥前
110	Ⅱ	Ⅱ-機-37	横出面	青磁	植木鉢	(21.7)	-	-	鉄絵植形、鉄部に魚の泳ぐ文 (8 単位 か)、胴部に花唐草の連続文	白	青磁釉	幕末～明治初頃	瀬戸・美濃
111	Ⅱ	Ⅱ-機-41	横出面	磁器	鉢神酒徳利	1.45	2.35	6.5	外面に五弁花文・笹文	不明	染付	幕末～明治初頃	瀬戸・美濃
112	Ⅱ	Ⅱ-機-42	横出面	磁器	線香筒	-	6.0	-	竹筒型、外面に竹文	白	染付	19c 前半	肥前
113	Ⅱ	Ⅱ-機-43	横出面	磁器	水滴	-	-	-	型押成形、外面にコンニャク印判で縦 筋文、漆継跡	淡灰	染付	18c	肥前
114	Ⅱ	Ⅱ-機-44	横出面	磁器	水滴	-	-	-	型押成形、上面に隔刻・ダミで菊文、 内面指押さえ痕、側面に染付着か	白	染付	近世	肥前
115	Ⅱ	Ⅱ-機-45	横出面	磁器	散蓮華	-	-	-	現存 4.6、布目圏工、内面に花束付文、 底面に漆継目「松岡」、漆継痕	白	染付	19c	肥前
116	Ⅱ	Ⅱ-機-48	横出面	磁器	蓋	-	-	2.5	外径 (9.7)、摘み径 4.0、外面に印章文、 縁内に圏口文、蓋に銘「嘉永年製」	白	染付	19c 中葉 (嘉永年間)	不明
117	Ⅱ	Ⅱ-機-47	横出面	磁器	蓋	-	-	2.4	外径 9.45、摘み径 3.5、外面に河骨文、 縁内に渦文、天井 1 重圏線内に柿手文	不明	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃
118	Ⅱ	Ⅱ-機-50	横出面	磁器	蓋	-	-	2.5	外径 9.4、摘み径 3.8、外面に花文、筒 に蔦「1 重内に青」か、縁内に四方襷文、 天井 1 重圏線内に花文	白	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃か
119	Ⅱ	Ⅱ-機-49	横出面	磁器	蓋	-	-	2.2	外径 9.0、摘み径 3.8、外面に花蝶文、 筒に草文、縁内 2 重圏線、天井 1 重圏 線内に渦文	白	染付	19c ～幕末	肥前
120	Ⅱ	Ⅱ-機-46	横出面	磁器	蓋	-	-	2.55	外径 10.4、摘み径 4.4、外面に草花文、 筒に蔦「2 重内に青」、縁内に四方襷文、 天井 2 重圏線内に花文	白	染付	18c 後半～ 19c 前半	肥前
121	Ⅱ	Ⅱ-機-52	横出面	磁器	合子蓋	-	-	0.75	外径 4.2、六角形、外面に鳳文、外側 面に格子文	白	染付	近代	瀬戸・美濃
122	Ⅱ	Ⅱ-機-51	横出面	磁器	合子蓋	-	-	0.7	外径 5.6、返り径 4.2、外面に梅木鶯文	不明	染付	18c ～幕末	肥前
123	Ⅱ	Ⅱ-機-53	横出面	磁器	不明	-	-	1.8	底面無釉	白	透明釉	近代か	瀬戸・美濃
124	Ⅱ	Ⅱ-機-57	横出面	陶器	碗	-	4.8	-	小石碗、外面に鼎紋で石松文	黄白	透明釉	18c 中葉	信楽
125	Ⅱ	Ⅱ-機-56	横出面	陶器	碗	-	2.8	-	外面にイッチン白描・鉄絵で梅文、内 面に白釉の弓灰釉、内面に漆多量付着	暗灰	白灰・灰釉・イッチン・鉄絵	19c か	不明
126	Ⅱ	Ⅱ-機-55	横出面	陶器	碗	10.3	3.65	6.5	内外面に白化による赤絵七日	褐	透明釉・白泥	17c 末～ 18c 前半	肥前
127	Ⅱ	Ⅱ-機-54	横出面	陶器	碗	(11.4)	-	-	天目茶碗、畳 3 小	灰白	鉄釉	17c 後半	瀬戸・美濃
128	Ⅱ	Ⅱ-機-58	横出面	陶器	仏飯器	8.55	4.8	6.8	口縁うのふ釉流し掛け、鄙部貼付、畳 3 小	淡黄灰	灰釉・うのふ釉	17c 末	瀬戸・美濃
129	Ⅱ	Ⅱ-機-67	横出面	陶器	皿	7.0	2.05	1.5	口縁～内面に鉄釉、見込みに目跡 3	灰白	鉄釉	18c 後半～幕末	美濃
130	Ⅱ	Ⅱ-機-68	横出面	陶器	皿	9.55	3.45	2.0	口縁～内面に灰釉、見込みに目跡 3	淡灰	灰釉	18c 後半～幕末	美濃か
131	Ⅱ	Ⅱ-機-59	横出面	陶器	皿	11.05	5.65	2.05	灰釉掛、内側面にソギ、見込みと高台 内に目跡 (輪トチ)、大窯 4 期	淡黄灰	灰釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
132	Ⅱ	Ⅱ-機-60	横出面	陶器	皿	-	18.6	-	石皿、見込みに目跡 4、漆継、畳 10・11 小	淡黄白	灰釉	19c 前半～幕末	瀬戸
133	Ⅱ	Ⅱ-機-61	横出面	陶器	鉢鉢	(31.9)	(12.9)	10.75	胴目 22 本 1 単位、畳 11 小	黄灰白	鉄釉	19c 中葉	瀬戸
134	Ⅱ	Ⅱ-機-62	横出面	陶器	鉢蓋か	4.6	4.9	2.55	環状の摘み 1、指痕時の指痕 2	灰白	長石釉	18c 後半～幕末	美濃
135	Ⅱ	Ⅱ-機-63	横出面	陶器	鉢蓋か	(6.55)	7.0	3.6	天目茶碗	淡黄白	灰釉	不明	不明
136	Ⅱ	Ⅱ-機-69	横出面	陶器	植木鉢	(16.1)	(9.6)	13.7	外面に白泥のち上絵 (緑・黒・黄・紫・ 橙・青) で鳥・蓮坪文、口縁に蓮坪文、 三足	暗褐	白泥・透明釉・上絵	19c ～	九谷
137	Ⅱ	Ⅱ-機-70	横出面	陶器	脇鉢	(19.6)	-	-	鉢部に丸ノミによる画花文、頸部に沼 花文、畳 9 小	灰白	鉄釉・鉄釉	19c 前半	瀬戸
138	Ⅱ	Ⅱ-機-73	横出面	陶器	火鉢か	(30.8)	-	-	胴部上半に浮孔 1	赤褐	長石釉	不明	在地か
139	Ⅱ	Ⅱ-機-64	横出面	陶器	平瓶	-	-	(12.7)	見込み・口縁 2、高台内に墨書「老作」	黄灰白	長石釉	18c 後半～幕末	瀬戸
140	Ⅱ	Ⅱ-機-65	横出面	陶器	小瓶	-	2.7	-	底面	淡黄白	灰釉	18c 後半～幕末	瀬戸・美濃
141	Ⅱ	Ⅱ-機-71	横出面	陶器	行平鍋	13.7	5.8	8.15	外面に鳳凰文、把手上面に隔刻型押で「本中」、内外面に煤付着	暗褐	鉄釉	幕末～	洗馬か
142	Ⅱ	Ⅱ-機-72	横出面	陶器	要瓶	(4.1)	2.4	2.0	口縁～内面に灰釉、畳 10・11 小	灰白	灰釉	19 前半～幕末	瀬戸
143	Ⅱ	Ⅱ-機-66	横出面	陶器	蓋	-	-	1.4	外径 3.3、返り径 2.4、摘み径 6.0、外 面に隠刻で沓草文、切ライ ケ	灰白	長石釉	不明	不明
144	Ⅱ	Ⅱ-機-74	横出面	瓦器	火鉢	(16.1)	(11.2)	7.9	破風瓦質、口縁沈線 1 条、三足	灰	-	18c 後半～	在地か
145	Ⅱ	Ⅱ-機-76	横出面	土器	皿	8.0	5.95	2.2	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付 着	不明	-	19c か	在地か
146	Ⅱ	Ⅱ-機-78	横出面	土器	皿	9.6	6.65	2.05	ロクロ成形	暗褐	-	19c か	在地か
147	Ⅱ	Ⅱ-機-80	横出面	土器	皿	9.2	6.45	1.9	ロクロ成形	淡暗褐	-	19c か	在地か
148	Ⅱ	Ⅱ-機-81	横出面	土器	皿	9.35	5.9	2.9	ロクロ成形	淡暗褐	-	不明	在地か
149	Ⅱ	Ⅱ-機-83	横出面	土器	皿	(9.9)	6.2	2.45	ロクロ成形	黒褐	-	不明	在地か
150	Ⅱ	Ⅱ-機-77	横出面	土器	皿	8.65	5.3	1.95	灯明皿か、ロクロ成形、底部回転糸切 のち手持ちヘラ削り、口縁部内外面に 煤付着	不明	-	不明	非在地系か
151	Ⅱ	Ⅱ-機-82	横出面	土器	皿	(9.2)	(6.4)	1.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面 に煤付着、底部回転糸切のち手持ちヘ ラ削り	淡暗褐	-	不明	非在地系か
152	Ⅱ	Ⅱ-機-79	横出面	土器	皿	8.75	5.7	1.7	ロクロ成形、底部回転糸切後に手持ち ヘラ削り、見込み・底部に煤付着	淡灰褐	-	不明	非在地系か
153	Ⅱ	Ⅱ-機-85	横出面	土器	植木鉢	-	(7.7)	-	-	暗褐	-	18c 後半～	在地か
154	Ⅱ	Ⅱ-機-91 ＋ 92 ＋ 93	横出面	土器	壺か壺か	(19.4)	18.2	-	粘土紐巻き上げ成形、外面に隔刻で「大 作」、口縁転文字、内面丸ネラ痕か、底 部内面に指頭圧痕、内面及び口縁部被 熱	褐	-	不明	不明
155	Ⅱ	Ⅱ-機-89 ＋ 90	横出面	土器	壺か壺か	-	16.3	-	ロクロ成形、円形孔 8 現存、底部透孔 3 単位、内面上半被熱	淡褐	-	不明	不明
156	Ⅱ	Ⅱ-機-86	横出面	土器	五徳	(27.7)	(23.0)	7.2	-	暗褐	-	不明	在地か
157	Ⅱ	Ⅱ-機-84	横出面	土器	焙烙	-	-	-	豆部のみ	淡灰褐	-	19c か	在地か
158	Ⅱ	Ⅱ-機-75	横出面	土器	蓋	-	-	-	外径 (18.0)、返り径 (14.4)、天消し盲 の蓋、内面被熱	淡灰	-	不明	不明
159	Ⅱ	Ⅱ-機-88	横出面	土製品	人形	-	-	-	人物座像、胸部、手約ね成形	淡灰	透明釉・緑・茶	不明	京
160	Ⅱ	Ⅱ-機-87	横出面	土製品	ミニチュア	(6.3)	(4.6)	2.0	最大幅 (7.3)、跳ずか、型押成形、三足、ヨウ残存	淡褐	-	不明	非在地系か
161	Ⅲ	Ⅲ-溝 301-5	溝 301	陶器	碗	(9.3)	-	-	長石釉小碗、畳 1・2 小	淡灰	長石釉	17c 初頭	美濃
162	Ⅲ	Ⅲ-溝 301-1	溝 301	陶器	碗	10.5	4.6	5.35	長石釉丸碗、内面に目跡 3、畳 1 小	淡黄灰	長石釉	17c 前半	美濃
163	Ⅲ	Ⅲ-溝 301-6	溝 301	陶器	碗	(10.4)	-	-	鉄絵丸碗、外面に木瓜文	淡灰白	長石釉	17c 前頭	美濃
164	Ⅲ	Ⅲ-溝 301-4	溝 301	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、入窯 1・2	淡黄白	鉄釉	15c 末～ 16c 前半	瀬戸・美濃
165	Ⅲ	Ⅲ-溝 301-3	溝 301	陶器	碗	(10.7)	-	-	天目茶碗、入窯 4 期	淡灰	鉄釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
166	Ⅲ	Ⅲ-溝 301-2	溝 301	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、畳 1 小	淡黄灰	鉄釉	17c 前半	瀬戸・美濃
167	Ⅲ	Ⅲ-溝 301-11	溝 301	陶器	皿	(10.6)	(6.6)	1.6	内禿皿、大窯 3 後	淡黄白	灰釉	16c 後半	美濃
168	Ⅲ	Ⅲ-溝 301-8	溝 301	陶器	皿	11.8	5.8	2.65	長石釉丸皿、大窯 4 後	淡褐白	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃

図版	遺物番号	実測番号	遺構	種別	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
169	Ⅲ	第・溝 301-10	溝 301	陶器	皿	(12.0)	-	-	鉄絵皿、内面に圏線、畳 2 小	淡灰	長石釉・鉄絵	17c 前半	瀬戸・美濃
170	Ⅲ	第・溝 301-9	溝 301	陶器	皿	(12.6)	(6.5)	2.9	反り皿、畳 1・2 小	淡灰白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
171	Ⅲ	第・溝 301-7	溝 301	陶器	皿	12.5	5.0	3.4	縁内に鉄絵、見込みに目跡 4	灰	灰釉・鉄絵	17c 前半	肥前
172	Ⅲ	第・溝 301-12	溝 301	陶器	鉢	(16.2)	9.4	4.85	高圏口、刻線で縁内に花唐草文・内側に草文、見込みに草花文、内面に鉄彩・明勝、漆継痕、大須 4 前	淡黄白	灰釉・鉄彩・銅彩	16c 末	美濃
173	Ⅲ	第・溝 301-13	溝 301	陶器	擂鉢	(35.0)	-	-	片口、畳 1 小	淡黄白	鉄釉	17c 前半	瀬戸・美濃
174	Ⅲ	第・溝 301-19	溝 301	土器	皿	(9.2)	(6.0)	2.2	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	17c か	在地か
175	Ⅲ	第・溝 301-18	溝 301	土器	皿	9.3	5.6	2.5	ロクロ成形	黒	-	17c か	在地か
176	Ⅲ	第・溝 301-17	溝 301	土器	皿	9.6	6.2	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤・タール付着	不明	-	17c か	在地か
177	Ⅲ	第・溝 301-16	溝 301	土器	皿	10.3	5.9	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、外面に煤付着	暗褐	-	17c か	在地か
178	Ⅲ	第・溝 301-15	溝 301	土器	焙烙	(34.6)	-	-	体部内湾	暗灰褐	-	近世	津在地系
179	Ⅲ	第・溝 302-1	溝 302	土器	皿	10.0	5.95	2.5	ロクロ成形	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か
180	Ⅲ	第・溝 310-1	溝 310	土器	皿	10.1	5.8	2.5	灯明皿か、ロクロ成形、縁内全体に煤・タール付着	黒褐	-	17c ～ 18c か	在地か
181	Ⅲ	第・溝 310-2	溝 310	土器	皿	11.2	6.4	2.75	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗橙褐	-	17c ～ 18c か	在地か
182	第	第・池状-1	池状遺構	陶器	小杯	(7.5)	(2.55)	3.05	透明釉と	淡黄白	灰釉	18c 後半	美濃
183	第	第・池状-2	池状遺構	陶器	皿	(21.3)	8.2	5.6	輪花、底釉・鉄釉掛け分け	灰黄白	鉄釉・灰釉	18c 後半	美濃
184	第	第・池状-3	池状遺構	陶器	広茶碗	-	7.8	-	灰釉・鉄釉上下掛け分け、透明釉 c	灰	鉄釉・灰釉	18c 後半	美濃
185	Ⅲ	竹・竹 302-1	竹竹 302	土器	皿	9.6	6.0	2.8	灯明皿か、ロクロ成形、口内付ち欠き、口縁部内外面に煤・タール付着	暗灰褐	-	17c ～ 18c か	在地か
186	第	第・南東柱-1	木柱 303	陶器	碗	(10.6)	-	-	外面に鉄絵で植葉文、畳 1 小	淡灰褐	長石釉・鉄絵	17c 前半	美濃
187	第	第・南東柱-2	木柱 303	陶器	皿	(11.0)	-	-	長石釉丸皿、大須 4 後	白	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
188	第	第・南東柱-3	木柱 303	土製品	土錘	-	-	-	長さ 3.1、幅 0.9、厚さ 0.75	淡灰褐	-	不明	在地か
189	Ⅲ	第・井 F-306-1	井 F 306	陶器	皿	(12.8)	-	-	丸皿、大須 4 末・整形	灰	灰釉	17c 初頭	美濃
190	Ⅲ	第・井 F-306-2	井 F 306	陶器	鉢	-	8.0	-	志野、見込みに目跡 3(円錐ピン)、大須 4 後・末	淡灰	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
191	Ⅲ	第・井 F-308-1	井 F 308	磁器	小杯	(5.6)	(2.5)	3.6	外面に瓢か、貫付に印付者	白	染付	近世	肥前
192	Ⅲ	第・井 F-308-2	井 F 308	磁器	碗	8.65	4.3	6.7	-	淡黄白	透明釉	不明	肥前か
193	Ⅲ	第・井 F-309-1	井 F 309	磁器	小杯	(5.6)	2.7	3.85	外面に風景、高台内に銘「青風」	白	染付	明治前半	瀬戸・美濃
194	Ⅲ	第・井 F-309-2	井 F 309	磁器	小杯	(6.3)	(2.9)	4.35	外面に青磁釉の毛上絵(緑・黒・橙・イッチン)①、1 縁～内面に透明釉	白	青磁釉・透明釉・上絵	明治 10 年代～中葉	瀬戸
195	Ⅲ	第・井 F-309-3	井 F 309	磁器	皿	(8.3)	(3.5)	2.3	型打皿、内側面に四角に七宝文・麻の葉文・唐草文、見込みに文様、方形の付け高台	白	透明釉	幕末～明治	瀬戸・美濃
196	Ⅲ	第・井 F-309-4	井 F 309	磁器	皿	(9.2)	5.4	1.85	布文皿、型打ち、見込みに隠蔽で謝字文	白	透明釉	幕末～明治初	美濃
197	Ⅲ	第・Ⅱ-柱 -35	井 F 309	青磁	鉢	(17.5)	-	-	波状口縁	白	青磁釉	不明	肥前
198	Ⅲ	第・井 F-309-5	井 F 309	陶器	鉢	(28.2)	-	-	内面に縁銅輪花し掛け、漆継	淡灰	灰釉・銅緑釉	17c 前半	瀬戸・美濃
199	Ⅲ	第・井 F-309-6	井 F 309	土器	浅炉か	(17.7)	-	19.5	口縁部に突起 1 残存、胴部に連弧(11、二)、底部外面に指頭圧痕	褐	-	19c ～大正	在地か
200	Ⅲ	第・井 F-309-7	井 F 309	土製品	人形	-	-	-	大男大、琴伸成形	褐	-	不明	不明
201	Ⅲ	第・土 -301-1	土 301	磁器	碗	-	(4.2)	-	外面に上絵(黒・赤・緑・黄)で梅文、口縁	白	透明釉・上絵・口縁	17c 後半	肥前
202	Ⅲ	第・土 -301-2	土 301	陶器	碗	10.65	5.2	7.2	口縁部内外面に生漆付着	黄灰	鉄釉	17c 中葉	瀬戸・美濃
203	Ⅲ	第・土 -301-3	土 301	陶器	擂鉢	(29.5)	-	-	口縁部に粉止金具用孔 2	淡灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃か
204	Ⅲ	第・土 -302-2	土 302	陶器	皿	(11.0)	(6.5)	1.95	長石釉丸皿、畳 2 小	黄白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
205	Ⅲ	第・土 -302-4	土 302	土製品	ミニチュア	2.5	1.1	1.65	碗、徳利、型打成形、外面に上絵(赤)で人物・竹	白	透明釉・上絵	明治	瀬戸・美濃
206	Ⅲ	第・土 -313-1	土 313	土器	皿	9.5	4.45	1.95	ロクロ成形	不明	-	19c か	在地か
207	Ⅲ	第・土 -318-1	土 318	陶器	皿	(11.2)	-	-	丸皿	淡灰	灰釉	16c 後半～	瀬戸・美濃
208	Ⅲ	第・土 -326-1	土 326	土器	皿	16.1	8.8	3.85	中皿、ロクロ成形、底部回転糸切後に手持ちヘラ削り、内外面に煤付着	褐	-	不明	在地か
209	第	第・土 -327-1	土 327	陶器	瓶	2.1	-	-	口縁部に粉止金具用孔 2	淡灰	灰釉	明治～	美濃
210	Ⅲ	第・土 -330-1	土 330	土器	皿	(11.0)	(6.85)	2.75	ロクロ成形、内面に煤付着	暗灰褐	-	17c ～ 18c か	在地か
211	Ⅲ	第・土 -336-3	土 336	磁器	小杯	-	2.6	-	外面に鳳文、端反口縁、高台無釉	白	透明釉	17c 中葉	肥前
212	Ⅲ	第・土 -336-2	土 336	青花	碗	(8.15)	-	-	縁内に 1 重圏線、見込みに圏線	白	染付	17c 前半	中国か
213	Ⅲ	第・土 -336-1	土 336	磁器	碗	(10.9)	4.5	6.0	外面に草文	白	染付	17c 後半～ 18c 前半	肥前
214	Ⅲ	第・土 -336-4	土 336	陶器	皿	(19.7)	-	-	折縁皿	黄白	長石釉	17c 前半	美濃
215	Ⅲ	第・土 -336-5	土 336	土器	皿	8.7	6.5	2.35	ロクロ成形、内外面に煤付着	不明	-	19c か	在地か
216	Ⅲ	第・土 -340-1	土 340	土器	皿	9.6	5.65	2.8	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着	不明	-	17c ～ 18c か	在地か
217	Ⅲ	第・土 -341-1	土 341	磁器	碗	(10.4)	-	-	外面に上絵(緑・赤・金か)で折枝梅・草紋文	白	透明釉・上絵	17c 後半か	肥前
218	Ⅲ	第・土 -341-2	土 341	陶器	碗	(11.7)	(5.2)	7.6	外面に兵頭絵	淡灰	灰釉・兵頭絵	18c	瀬戸・美濃か
219	Ⅲ	第・土 -341-3	土 341	陶器	擂鉢	(36.8)	-	-	櫛目 12 本 1 単位、畳 1 小	淡黄灰	鉄釉	17c 前半	瀬戸・美濃
220	Ⅲ	第・土 -341-4	土 341	瓦器	火鉢	(39.2)	-	-	外面ミガキ、軟質瓦質	暗灰	-	17c ～ 18c 初頭	在地か
221	Ⅲ	第・土 -342-1	土 342	磁器	碗	(11.2)	-	-	外面にコンニャク印判で菊文・手書き で蝶文	白	染付	17c 末～ 18c 前半	肥前
222	Ⅲ	第・土 -342-2	土 342	陶器	碗	(7.3)	3.4	3.3	-	淡黄	鉄釉	17c 中葉～後半	美濃
223	Ⅲ	第・土 -342-3	土 342	陶器	碗	(12.2)	5.0	8.1	-	淡黄	灰釉	18c	瀬戸か
224	Ⅲ	第・土 -345-1	土 345	陶器	皿	(11.2)	-	-	長石釉丸皿、大須 4 後半	淡黄	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
225	Ⅲ	第・土 -351-1	土 351	陶器	皿	(11.7)	-	-	長石釉丸皿、大須 4 後半	淡灰	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
226	Ⅲ	第・土 -352-1	土 352	陶器	碗	(10.5)	4.9	7.6	丸碗、内面に灰釉流し掛け	淡灰	鉄釉・灰釉	17c 前半	美濃
227	Ⅲ	第・土 -352-2	土 352	陶器	皿	(11.4)	-	-	丸皿、大須 3・4	白	灰釉	16c 後～ 17c 初頭	瀬戸・美濃
228	Ⅲ	第・土 -352-3	土 352	土器	皿	9.6	6.3	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17c ～ 18c か	在地か
229	Ⅲ	第・土 -352-4	土 352	土器	皿	10.4	6.4	2.7	灯明皿か、ロクロ成形、口縁・見込みの一部に煤付着	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か

番号	時代区分	実測番号	遺構	種別	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
230	Ⅲ	Ⅲ-3-352-5	土-352	土器	皿	10.75	7.7	3.1	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤・タール付着	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か
231	Ⅲ	Ⅲ-3-362-2	土-362	陶器	碗	(10.4)	-	-	天目茶碗、内外面に鉄釉、2 次 3 前半	淡黄白	鉄釉	16c 後半	瀬戸・美濃
232	Ⅲ	Ⅲ-3-362-1	土-362	陶器	碗	(12.8)	-	-	黒織部、青茶碗	灰	鉄釉・長石釉	17c 初頭	美濃
233	Ⅲ	Ⅲ-3-362-3	土-362	陶器	皿か	-	(4.3)	-	内面に鉄絵、雲イカに目跡	暗褐	透明釉・鉄絵	17c 前半	肥前
234	Ⅲ	Ⅲ-3-364-1	土-364	陶器	皿	(11.4)	(7.5)	2.1	長石釉丸皿、壁 2 小	灰白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
235	Ⅲ	Ⅲ-3-364-2	土-364	土器	皿	(9.9)	(6.0)	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁にタール付着、内外面に煤付着	黒	-	17c ～ 18c か	在地か
236	Ⅲ	Ⅲ-3-364-3	土-364	土器	皿	10.6	5.5	2.6	ロクロ成形	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か
237	Ⅲ	Ⅲ-3-368-1	土-368	青磁	碗	-	-	-	外面に龍連弁文、龍泉窯系か	灰	青磁釉	13 ～ 14c	中国
238	Ⅲ	Ⅲ-3-368-3	土-368	陶器	徳利	(33.2)	-	-	徳利 14 本 1 単位、壁 1 小	淡灰	鉄釉	17c 前半	瀬戸・美濃
239	Ⅲ	Ⅲ-3-368-2	土-368	焙烙	蓋	-	-	1.7	外径 7.0、摘み径 1.3、口受部に重焼痕	暗灰	鉄釉	不明	不明
240	Ⅲ	Ⅲ-3-376-1	土-376	陶器	茶入	-	(2.7)	-	-	灰	鉄釉	17c	瀬戸・美濃
241	Ⅲ	Ⅲ-3-376-2	土-376	陶器	水滴	-	-	-	蓋か	淡灰	鉄釉	17c	美濃
242	Ⅲ	Ⅲ-3-377-1	土-377	土器	皿	(9.8)	(6.0)	2.2	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	18c 後半～ 19c 初頭か	在地か
243	Ⅲ	Ⅲ-3-385-1	土-385	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、壁 1 小	灰	鉄釉・灰釉	17c 前半	美濃
244	Ⅲ	Ⅲ-3-394-1	土-394	土器	皿	9.8	7.0	2.75	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	褐	-	17c ～ 18c か	在地か
245	Ⅲ	Ⅲ-3-395-1	土-395	陶器	碗	(11.0)	(4.2)	7.3	端反碗	淡灰	鉄釉	17c 前半	美濃
246	Ⅲ	Ⅲ-3-399-1	土-399	土器	皿	10.4	6.6	2.75	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か
247	Ⅲ	Ⅲ-3-400-1	土-400	陶器	碗	-	4.8	-	天目茶碗、見込み部被熱か	淡灰	鉄釉	17c 前半	瀬戸
248	Ⅲ	Ⅲ-3-400-2	土-400	陶器	皿	-	6.2	-	輪花皿、見込みに印花文	淡灰	鉄釉	17c 前半	瀬戸・美濃
249	Ⅲ	Ⅲ-3-400-3	土-400	陶器	皿	(12.3)	5.5	3.8	輪花皿、見込みに印花文、灰釉柚流し掛け	淡白	灰釉・銅緑釉	17c 前半	美濃
250	Ⅲ	Ⅲ-3-400-4	土-400	陶器	皿	-	(5.8)	-	輪花皿、見込みに印花文、灰釉柚流し掛け、被熱	淡白	灰釉・銅緑釉	17c 前半	瀬戸・美濃
251	Ⅲ	Ⅲ-3-400-5	土-400	陶器	鉢	(27.0)	16.0	7.6	鉄絵鉢、内面に草花文、見込みに目跡 2、漆継痕、壁 4 小	淡灰	灰釉・銅緑釉・鉄絵	17c 後半	瀬戸・美濃
252	Ⅲ	Ⅲ-3-400-6	土-400	陶器	小瓶	-	(3.6)	-	-	淡灰	灰釉	18c ～幕末	瀬戸・美濃
253	Ⅲ	Ⅲ-3-400-7	土-400	陶器	壺・甕か	-	17.2	-	写き成形、全面施釉、内面に指頭圧痕、底面に目跡 1	淡茶	灰釉	17c	福岡または肥前
254	Ⅲ	Ⅲ-3-400-8	土-400	土器	皿	9.75	5.9	2.2	ロクロ成形	褐	-	17c か	在地か
255	Ⅲ	Ⅲ-3-400-9	土-400	土器	皿	13.0	5.8	2.3	灯明皿か、ロクロ成形、口縁に煤・タール付着	褐	-	17c か	在地か
256	Ⅲ	Ⅲ-3-400-10	土-400	土器	皿	(9.6)	6.6	2.65	ロクロ成形	褐	-	17c か	在地か
257	Ⅲ	Ⅲ-3-404-1	土-404	陶器	皿	(12.0)	(7.4)	(2.4)	長石釉丸皿、見込みに目跡 1、高台内に目跡 1、壁 1 小	淡灰	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
258	Ⅲ	Ⅲ-3-404-2	土-404	陶器	皿	(12.7)	-	-	長石釉丸皿、大窯 4 後半	淡褐	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
259	Ⅲ	Ⅲ-3-407-1	土-407	陶器	碗	-	(3.4)	-	全面施釉、壁 1 小補	淡灰	長石釉	17c 前半	美濃
260	Ⅲ	Ⅲ-3-407-2	土-407	土器	皿	10.4	6.0	3.0	ロクロ成形	褐	-	17c ～ 18c か	在地か
261	Ⅲ	Ⅲ-3-407-3	土-407	土器	皿	10.1	5.1	3.0	ロクロ成形	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か
262	Ⅲ	Ⅲ-3-408-1	土-408	磁器	小杯	(6.8)	2.6	4.5	外面に文様、高台に砂付着	白	染付	17c 中葉	肥前
263	Ⅲ	Ⅲ-3-408-2	土-408	磁器	仏飯器	-	(4.0)	-	外面に文様	淡灰	染付	17c 後半	肥前
264	Ⅲ	Ⅲ-3-408-3	土-408	陶器	碗	(8.15)	3.0	4.2	外面に兵頭絵	黄白	灰釉・鉄釉	18c 前半～中葉	美濃
265	Ⅲ	Ⅲ-3-408-4	土-408	陶器	碗	(10.5)	4.6	6.9	天目茶碗、内面に灰釉流し掛け、壁 3 小	淡黄灰	鉄釉	17c 中葉	瀬戸
266	Ⅲ	Ⅲ-3-408-5	土-408	陶器	鉢	(15.8)	-	-	外面鉄釉・灰釉掛け分け、池附並 c	灰	灰釉・鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
267	Ⅲ	Ⅲ-3-408-6	土-408	陶器	片口	16.3	5.5	9.15	見込みに目跡 2	灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
268	Ⅲ	Ⅲ-3-408-7	土-408	陶器	不明	-	(5.8)	-	-	灰	透明釉	不明	肥前
269	Ⅲ	Ⅲ-3-410-1	土-410	陶器	皿	(14.4)	-	-	折縁皿	淡灰	長石釉	17c 前半	美濃
270	Ⅲ	Ⅲ-3-414-1	土-414	土器	皿	(9.9)	-	-	縁内に反化物付着	灰	-	不明	在地か
271	Ⅲ	Ⅲ-3-415-1	土-415	磁器	鉢	(16.2)	-	-	外面に風景、縁内に列点文	白	染付	17c か	肥前
272	Ⅲ	Ⅲ-3-415-3	土-415	陶器	鉢	-	(8.0)	-	御深井、外面に線刻、内面型打ち	灰	御深井釉	17c 前半	美濃
273	Ⅲ	Ⅲ-3-415-2	土-415	陶器	鉢	(25.4)	-	-	鉄絵鉢	灰	灰釉	17c 中葉	瀬戸・美濃
274	Ⅲ	Ⅲ-3-416-4	土-416	陶器	碗	-	4.2	-	天目茶碗、壁 2 小	淡黄白	鉄釉	17c 前半	瀬戸・美濃
275	Ⅲ	Ⅲ-3-416-5	土-416	陶器	碗	-	4.8	-	天目茶碗、内面に灰釉流し掛け、高台内に墨書「冠型」	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	美濃
276	Ⅲ	Ⅲ-3-416-1	土-416	陶器	皿	(12.7)	(9.2)	2.5	丸皿、大窯 3 後・4 前	暗灰	灰釉	16c 後半	美濃
277	Ⅲ	Ⅲ-3-416-2	土-416	陶器	皿	-	(6.2)	-	丸皿、見込みに輪の沓圧文・目跡 11 (鼎ビン)、高台内に目跡 2、大窯 4 後・末	黄白	灰釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
278	Ⅲ	Ⅲ-3-416-3	土-416	陶器	鉢	-	-	-	鉢か、大窯 4 後・末	淡黄灰	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
279	Ⅲ	Ⅲ-3-416-8	土-416	土器	皿	(8.85)	(5.2)	2.1	灯明皿か、ロクロ成形、内面に煤付着	灰褐	-	17c か	在地か
280	Ⅲ	Ⅲ-3-416-6	土-416	土器	皿	10.3	7.0	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	褐	-	17c か	在地か
281	Ⅲ	Ⅲ-3-416-7	土-416	土器	皿	10.5	5.8	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、内面に煤・タール付着	暗褐	-	17c か	在地か
282	Ⅲ	Ⅲ-3-415・416-1	土-415・416	土器	皿	(11.6)	-	-	輪花皿か	淡黄灰	灰釉	17c 前半	瀬戸・美濃
283	Ⅲ	Ⅲ-3-417-1	土-417	土器	皿	9.75	5.5	3.1	灯明皿か、ロクロ成形、見込みに煤・タール付着	不明	-	17c ～ 18c か	在地か
284	Ⅲ	Ⅲ-3-418-1	土-418	磁器	瓶	-	(5.35)	-	外面に上絵（赤・緑・黒）で区画文	白	透明釉・上絵	17c 中葉	肥前
285	Ⅲ	Ⅲ-3-418-2	土-418	陶器	碗	(10.8)	-	-	外面に鉄絵・白泥で草花文	黄白	透明釉・鉄絵・白泥	18c 前半～中葉	京・信楽
286	Ⅲ	Ⅲ-3-418-3	土-418	陶器	皿	(12.2)	-	-	長石釉丸皿、壁 1・2 小	淡黄灰	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
287	Ⅲ	Ⅲ-3-418-4	土-418	陶器	茶壺	-	-	-	刻付壺か、胴部に沈線 2 条、肥手 1 残存	灰	鉄釉	不明	瀬戸
288	Ⅲ	Ⅲ-3-418-5	土-418	土器	皿	9.3	4.6	2.45	灯明皿か、ロクロ成形、縁内に煤・タール付着	淡褐	-	17c ～ 18c か	在地か
289	Ⅲ	Ⅲ-3-424-1	土-424	磁器	碗	(12.3)	(5.8)	6.3	外面に梁付の ち上絵（赤・黒・緑・黄）で牡丹文、縁内に 1 重圏線、見込みに重圏線内に上絵（黒・黄・緑）、古九谷様式	白	染付・上絵	17c 中葉	肥前
290	Ⅲ	Ⅲ-3-424-2	土-424	青花	皿	(25.8)	14.0	3.5	外面に圏線、縁内に唐草文・雲に花文、見込みに兵庫文・牡丹文・笹文、底付に砂付着多、漳州窯系	淡黄白	染付	16c 末～ 17c 初頭	中国
291	Ⅲ	Ⅲ-3-424-3	土-424	陶器	碗	6.9	3.2	3.8	-	灰	灰釉	18c	美濃
292	Ⅲ	Ⅲ-3-425-1	土-425	陶器	碗	(11.6)	-	-	外面に千鳥文、鉄絵丸湯	淡灰白	長石釉	17c 初頭	美濃
293	Ⅲ	Ⅲ-3-430-1	土-430	青磁	碗	-	(3.4)	-	高台畳に砂付着	灰	青磁釉	不明	中国か

塩	絵巻番号	実測番号	遺構	種別	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
294	Ⅲ	Ⅲ-上430-4	土430	陶器	碗	6.1	3.0	3.3	長石釉小碗、登1小胴	淡黄灰	長石釉	17c前半	美濃
295	Ⅲ	Ⅲ-上430-3	土430	陶器	碗	(10.9)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登1・2小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c前半	美濃
296	Ⅲ	Ⅲ-上430-2	土430	陶器	碗	(10.7)	-	-	-	淡黄灰	灰釉	17c	瀬戸・美濃
297	Ⅲ	Ⅲ-上430-5	土430	陶器	皿	13.8	6.6	3.5	反り皿、登1・2小	淡灰	長石釉	17c前半	瀬戸
298	Ⅲ	Ⅲ-上430-6	土430	陶器	皿	(14.1)	6.0	3.4	反り皿、登1・2小	淡黄灰	長石釉	17c前半	瀬戸
299	Ⅲ	Ⅲ-上430-7	土430	陶器	鉢	(27.2)	(12.9)	8.2	外面に櫛状・鋸刷毛痕し掛け	淡灰	灰釉・銅緑釉	17c前半	瀬戸・美濃
300	Ⅲ	Ⅳ-上560-1	土430	陶器	鉢	(28.8)	-	-	銅緑釉流し掛け、登1・2小	白	灰釉・銅緑釉	17c前半	瀬戸・美濃
301	Ⅲ	Ⅲ-上430-9	土430	土器	皿	10.3	6.5	2.7	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	17c か	在地か
302	Ⅲ	Ⅲ-上430-10	土430	土器	皿	10.2	6.4	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17c か	在地か
303	Ⅲ	Ⅲ-上430-11	土430	土器	皿	10.2	5.6	3.15	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17c か	在地か
304	Ⅲ	Ⅲ-上430-12	土430	土器	皿	10.0	6.4	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17c か	在地か
305	Ⅲ	Ⅲ-上430-13	土430	土器	皿	9.8	5.4	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	暗褐	-	17c か	在地か
306	Ⅲ	Ⅲ-上430-14	土430	土器	皿	10.3	5.9	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	暗褐	-	17c か	在地か
307	Ⅲ	Ⅲ-上430-15	土430	土器	皿	9.75	5.8	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	不明	-	17c か	在地か
308	Ⅲ	Ⅲ-上430-16	土430	土器	皿	10.2	6.3	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17c か	在地か
309	Ⅲ	Ⅲ-上430-17	土430	土器	皿	10.3	6.2	3.15	ロクロ成形	不明	-	17c か	在地か
310	Ⅲ	Ⅲ-上430-18	土430	土器	皿	10.3	6.6	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17c か	在地か
311	Ⅲ	Ⅳ-上560-2	土430	土器	皿	10.7	6.6	2.65	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
312	Ⅲ	Ⅳ-上560-3	土430	土器	皿	10.3	6.6	2.95	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
313	Ⅲ	Ⅲ-横-1	横出面	磁器	小杯	-	3.4	-	外面にコンニャク印判で紅葉文	白	染付	17c末～18c前半	肥前
314	Ⅲ	Ⅲ-横-2	横出面	磁器	碗	7.2	3.1	4.35	外面に松竹梅文、縁内1重圏線、高台内に銘	白	染付	明治	瀬戸・美濃か
315	Ⅲ	Ⅲ-横-3	横出面	磁器	碗	8.75	3.5	4.4	外面に唐草・雲内に染付で風景、口縁一内面に透明釉、明釉、高台に陶片（呉釉）を呼接	白	鉄釉・染付	明治	瀬戸・美濃
316	Ⅲ	Ⅲ-横-4	横出面	磁器	碗	9.4	3.8	5.0	外面に松梅文・雲、縁内に渦文、見込み2重圏線内に花文	白	染付	18c末～幕末	肥前
317	Ⅲ	Ⅲ-横-5	横出面	磁器	碗	-	4.2	-	外面に十重圏目文に魚か	白	染付	17c後半	肥前
318	Ⅲ	Ⅲ-横-6	横出面	磁器	碗	(11.5)	-	-	外面にコンニャク印判で菊文	白	染付	17c末～18c前半	肥前
319	Ⅲ	Ⅲ-横-7	横出面	磁器	碗	-	4.4	-	外面に上絵（赤）で圏線、登付に砂付着	白	透明釉・上絵	17c後半	肥前
320	Ⅲ	Ⅲ-横-8	横出面	磁器	碗	-	3.8	-	外面に上絵（赤・黄・緑・黒）で唐草・青海波文、見込み1重圏線（赤）内に松梅（赤・緑）か、高台内に1重圏線（赤）	白	透明釉・上絵	17c中葉(1650年～60年代)	肥前
321	Ⅲ	Ⅲ-横-16	横出面	磁器	紅皿	(6.1)	2.8	1.8	糸切離工、外面に唐草文	白	透明釉	幕末～明治	肥前
322	Ⅲ	Ⅲ-横-17	横出面	磁器	仏飯器	(5.4)	4.2	5.15	外面に上絵（赤・黒・緑）	白	透明釉・上絵	幕末～明治	瀬戸・美濃
323	Ⅲ	Ⅲ-横-13	横出面	磁器	皿	(8.05)	3.6	2.4	型打皿、内側面区画内に七宝文・麻の葉文・青海波文、見込み6に文様、方形の付け高台	白	透明釉	幕末～明治	瀬戸・美濃
324	Ⅲ	Ⅲ-横-9	横出面	磁器	皿	(14.2)	(7.8)	3.55	輪花、外面に唐草文、内面に牡丹唐草文、見込み6に五弁花文、高台内に1重圏線・銘「之重内に渦福」	白	染付	17c末～18c中葉	肥前
325	Ⅲ	Ⅲ-横-12	横出面	青花	皿	-	(13.7)	-	型打成形、高台脇に連続文、見込み2重圏線内に草花文、高台に砂付着、高台内全面施釉・蛇目状の工具痕	白	染付	17c前半	中国
326	Ⅲ	Ⅲ-横-10	横出面	磁器	皿	-	(12.4.5)	-	内面に牡丹唐草文、見込みに上絵（緑・赤）で四隅文、高台内に1重圏線・銘「之重内に貝殻子」、高台内にハリ支え痕	白	染付	17c後半	肥前
327	Ⅲ	Ⅲ-横-11	横出面	磁器	皿か	-	(11.8)	-	外面に上絵（緑・黄）で唐文、内面に染付で唐草文、上絵（赤・桃・緑・金）で蝶形・七宝文、高台内に1重圏線	白	染付・上絵	18c後半	肥前
328	Ⅲ	Ⅲ-横-14	横出面	青磁	皿	(12.8)	(5.2)	3.2	青磁輪花皿、内面に櫛歯状・片歯ヘラで文様、見込みにスタンプで花文、漆継痕、重焼痕	灰	青磁釉	15c	中国
329	Ⅲ	Ⅲ-横-15	横出面	青磁	鉢	(23.2)	-	-	輪花、内面に片切り櫛りによる放射文	淡灰	青磁釉	17c後半	肥前
330	Ⅲ	Ⅲ-横-18	横出面	磁器	御神酒徳利	-	4.5	-	外面に雲文、高台に砂付着	白	染付	近世	肥前
331	Ⅲ	Ⅲ-横-19	横出面	青磁	御神酒徳利	-	-	-	-	灰	青磁釉	近代か	不明
332	Ⅲ	Ⅲ-横-22	横出面	青磁	花生	8.0	-	-	-	白	青磁釉	近世	肥前
333	Ⅲ	Ⅲ-横-20	横出面	磁器	蓋	-	-	-	外径9.7、外面に染付の ち上絵（赤・黒）で竹文		染付・上絵	18c後半～幕末	肥前
334	Ⅲ	Ⅲ-横-21	横出面	磁器	風鈴	-	-	3.2	幅3.6、外面に風景・文字「真人道人」もしくは「看人道人」	白	染付	明治	瀬戸・美濃
335	Ⅲ	Ⅲ-横-23	横出面	陶器	碗	(7.4)	1.8	4.0	外面に上絵（緑・赤）で唐文	淡黄白	灰釉・上絵	18c後半	瀬戸・美濃
336	Ⅲ	Ⅲ-横-24	横出面	陶器	碗	(8.0)	3.6	4.0	-	淡黄白	灰釉	17c前半	美濃
337	Ⅲ	Ⅲ-横-25	横出面	陶器	碗	(8.2)	4.0	3.55	見込みに目跡1	淡黄灰	鉄釉	17c前半	美濃
338	Ⅲ	Ⅲ-横-26	横出面	陶器	碗	(8.0)	4.3	5.95	-	淡黄白	灰釉	17c前半	瀬戸・美濃
339	Ⅲ	Ⅲ-建-2	横出面	陶器	碗	(10.1)	(4.6)	-	天目茶碗、大窯4末	淡灰	鉄釉	16c末～17c初頭	美濃
340	Ⅲ	Ⅲ-横-30	横出面	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、大窯3後	淡黄白	鉄釉	16c後半	美濃
341	Ⅲ	Ⅲ-横-27	横出面	陶器	碗	(11.8)	4.0	6.3	天目茶碗、大窯3後	不明	鉄釉	16c後半	美濃
342	Ⅲ	Ⅲ-横-28	横出面	陶器	碗	(10.7)	5.0	7.45	浄付天目、内外面に灰釉流し掛け、登1小	不明	鉄釉・灰釉	17c前半	美濃
343	Ⅲ	Ⅲ-横-29	横出面	陶器	碗	(11.4)	5.0	6.75	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登2小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c前半	美濃
344	Ⅲ	Ⅲ-横-32	横出面	陶器	碗	(11.8)	-	-	瀬戸黒もしくは織部黒、大窯4	暗灰	鉄釉	16c末～17c初頭	美濃
345	Ⅲ	Ⅲ-横-33	横出面	陶器	碗	(10.2)	-	-	外面に鉄絵で草花文	暗灰	灰釉・鉄絵	17c前半	肥前
346	Ⅲ	Ⅲ-横-58	横出面	陶器	碗		(3.2)	-	内外面に白化による打ち刷毛目、高台内に黒田か、現川か	灰	透明釉・白泥	17c末～18c前半	肥前
347	Ⅲ	Ⅲ-横-36	横出面	陶器	碗	10.1	5.5	6.1	登5・6小	淡灰	灰釉	17c末～18c前半	美濃
348	Ⅲ	Ⅲ-横-35	横出面	陶器	碗	(11.5)	4.4	7.1	-	淡灰	灰釉	18c	瀬戸・美濃
349	Ⅲ	Ⅲ-横-31	横出面	陶器	碗	(10.9)	6.2	7.1	瀬戸IV	淡黄	陽釉	18c後半～19c前半	美濃
350	Ⅲ	Ⅲ-横-37	横出面	陶器	碗	(10.8)	(4.4)	7.1	登8・9小	淡黄白	灰釉	18c後半～19c前半	瀬戸・美濃

塩	絵巻番号	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
351	図	図・横・34	横出面	陶器	碗	(12.2)	5.8	6.5	広東形、外面に鉄絵・イッチン白掻き で折枝梅、内面に白泥、登 10・11 小	淡黄褐	白泥・灰釉・透明釉・鉄絵・イッチン	19c 前半～幕末	瀬戸
352	図	図・横・59	横出面	陶器	広鉢	(6.0)	(4.0)	5.4	外面に葉回文、胴部染付、登 9・10 小	淡黄	染付	19c 前半	瀬戸
353	図	図・横・38	横出面	陶器	皿か	9.05	4.4	3.15	うのふ鉢底ト掛け、内側面～見込み無 釉	淡黄灰	飴釉・うのふ釉	18c	美濃か
354	図	図・横・41	横出面	陶器	皿	9.0	3.9	2.05	打明底か	暗灰	藁釉	不明	志戸呂か
355	図	図・横・40	横出面	陶器	皿	(12.0)	(9.8)	1.8	打明底か、全面強釉	暗灰褐	灰釉	19c	瀬戸・美濃か
356	図	図・横・42	横出面	陶器	皿	(10.2)	5.6	2.15	内黒品、高台内に目跡（輪トチ）、大第 4 皮	淡黄白	灰釉	16c 末	美濃
357	図	図・横・43	横出面	陶器	皿	(10.5)	(6.2)	1.6	内黒品、高台内に目跡（輪トチ）、大第 4 皮	淡灰白	灰釉	16c 末～17c 初頭	美濃
358	図	図・横・39	横出面	陶器	皿	(12.0)	-	-	折縁皿、大第 4 皮	灰	鉄釉	16c 末～17c 初頭	美濃
359	図	図・建・3	横出面	陶器	皿	(11.6)	-	-	折縁皿、内面にソギ、大第 4 皮	淡黄白	灰釉	16c 末～17c 初頭	美濃
360	図	図・横・45	横出面	陶器	皿	(10.1)	4.9	1.45	折縁皿、内側面にソギ、高台内に目跡（輪トチ）、大第 4 皮	淡黄灰	灰釉	16c 末～17c 初頭	美濃
361	図	図・横・44	横出面	陶器	皿	(10.2)	5.0	1.6	折縁皿、内側面にソギ、高台内に目跡（輪トチ）、大第 4 皮	淡灰	灰釉	16c 末～17c 初頭	美濃
362	図	図・横・46	横出面	陶器	皿	(13.2)	6.1	4.0	輪花皿、内面に銅緑釉流し掛け	淡灰	灰釉・銅緑釉	17c 前半	美濃
363	図	図・横・47	横出面	陶器	皿	(12.9)	(5.7)	3.8	輪花皿、見込みに印花文、内面に銅緑釉流し掛け	淡黄白	灰釉・銅緑釉	17c 前半	美濃
364	図	図・横・51	横出面	陶器	皿	14.35	6.6	4.0	菊縁皿、見込に鉄絵で蓮文、内面に銅緑釉流し掛け、見込みに重ね焼き痕、側面に溶着痕、登 1 小、大半溶か	淡黄白	灰釉・銅緑釉・鉄絵	17c 初頭	美濃
365	図	図・横・52	横出面	陶器	皿	12.1	6.8	3.25	鉄絵皿、内面に銅緑・唐草文、登 1 小	淡黄白	長石釉・鉄絵	17c 前半	美濃
366	図	図・横・53	横出面	陶器	皿	(12.1)	(7.6)	2.3	鉄絵皿、内面に銅緑・蘭竹文、登 2 小	淡黄白	長石釉・鉄絵	17c 前半	瀬戸・美濃
367	図	図・横・48	横出面	陶器	皿	(11.1)	5.8	2.7	長石釉皿、口縁に優付着、打明底に転用か、登 2 小	白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
368	図	図・横・49	横出面	陶器	皿	12.25	7.2	2.5	長石釉皿、全面強釉、見込みに目跡 3、外面に溶着痕、登 1 小	淡灰	長石釉	17c 前半	美濃
369	図	図・横・50	横出面	陶器	皿	-	7.0	-	長石釉皿、登 1 小	淡灰	長石釉	17c 前半	美濃
370	図	図・横・56	横出面	陶器	皿	(14.2)	(6.0)	3.5	反り皿、登 1・2 小	淡灰	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
371	図	図・横・57	横出面	陶器	皿	(16.8)	5.0	4.7	全面強釉、見込みに目跡 4 残存、高台脇に目跡 1	淡褐	透明釉	17c 前半	肥前
372	図	図・横・55	横出面	陶器	皿	(15.9)	5.4	4.0	見込みに目跡 4（漆付着痕跡）、内外面に一部溶付着、高台に砂付着	淡灰	灰釉	17c 初頭	肥前
373	図	図・横・60	横出面	陶器	皿	-	4.15	-	内面に鉄絵で草文、裏付に目跡	褐	長石釉・鉄絵	17c 前半	肥前
374	図	図・横・54	横出面	陶器	皿	-	4.4	-	外面に灰釉、内面に銅緑釉、見込み蛇の目釉剥ぎ、突中高台、内野山北窯	淡灰	灰釉・銅緑釉	17c 後半	肥前
375	図	図・横・62	横出面	陶器	鉢	-	(9.2)	-	銅鍋か、見込みに刺線で唐草文・目跡 1、器形歪、大第 4 皮	淡灰	灰釉	16c 末	美濃
376	図	図・横・63	横出面	陶器	鉢	(29.35)	-	-	内面に銅緑釉流し掛け、登 1・2 小	淡灰	灰釉	17c 前半	瀬戸・美濃
377	図	図・横・84	横出面	陶器	片口か	(26.4)	(13.6)	10.3	見込みに目跡 2	淡黄白	鉄釉	18c	瀬戸・美濃
378	図	図・横・64	横出面	陶器	片口	(16.7)	-	-	-	淡灰	鉄釉	18c 前半	美濃
379	図	図・横・85	横出面	陶器	筒鉢	(32.2)	8.4	11.9	筒目 16 本 1 単位、使用による埋滅跡著、登 1 小	淡黄灰	藁釉	17c 前半	瀬戸・美濃
380	図	図・横・86	横出面	陶器	筒鉢	-	10.4	-	筒目 16 本 2 単位、底面に目跡 3、底面焼成後穿孔、鉢不調か、転用か	淡灰	藁釉	18c	瀬戸・美濃
381	図	図・横・66	横出面	陶器	開口	(5.5)	(4.6)	2.8	外面に型紙摺絵（鉄）で紅葉文、漆用か	淡黄灰	灰釉	18c 後半～幕末	瀬戸・美濃
382	図	図・横・65	横出面	陶器	餐水入れ	-	-	4.4	外面に型紙摺絵（鉄）で紅葉文、漆用か	淡灰	灰釉・鉄絵	17c 後半～18c 前半	美濃
383	図	図・横・67	横出面	陶器	茶入	-	3.2	-	-	灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃か
384	図	図・横・68	横出面	陶器	御神酒徳利	1.15	2.15	4.1	胴部捻じれ、底面に粘土溶着	淡灰	灰釉	18c 後半～幕末	瀬戸・美濃
385	図	図・横・69	横出面	陶器	御神酒徳利	-	1.95	-	-	淡黄白	灰釉	18c 後半～幕末	瀬戸・美濃
386	図	図・横・70	横出面	陶器	御神酒徳利	(1.1)	2.5	5.35	胴部に上絵（赤）で唐縄、被熱	淡黄白	不明・上絵	18c 後半～幕末	不明
387	図	図・横・71	横出面	瓦器	小瓶	1.85	(4.2)	9.25	-	暗赤褐	-	不明	不明
388	図	図・横・72	横出面	陶器	小瓶	2.3	4.0	11.2	底面に墨書「ア（部）もしくは「や」	淡黄灰	灰釉	18c 中葉	美濃
389	図	図・横・73	横出面	陶器	花生か	-	(6.6)	-	腰1 残存、外面に鉄釉の与透明釉、腰部に白泥の与透明釉、内面鉄釉、底面に鉄「鉄九」か、赤色漆による漆繕痕	橙褐	鉄釉・透明釉・白泥	不明	京
390	図	図・横・75	横出面	陶器	水滴	2.75	4.0	1.65	大第 4 前か	淡灰	鉄釉	16c 後半	美濃
391	図	図・横・74	横出面	陶器	鍋	(15.5)	-	-	把手 2、三脚鍋	淡黄白	柿釉	18c 後半～近代	瀬戸
392	図	図・横・76	横出面	陶器	乗燭	4.2	1.8	2.0	灯芯受部にタール付着、登 10・11 小	不明	灰釉	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
393	図	図・横・61	横出面	陶器	灯明受皿	(9.7)	(3.7)	2.05	登 10・11 小	淡灰	灰釉	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
394	図	図・横・83	横出面	陶器	カキタタか	-	-	-	壁立 1.0	暗灰	鉄釉	不明	不明
395	図	図・横・77	横出面	陶器	蓋	-	-	2.1	外径 3.7、掴み径 1.0、返り径 2.0、志野、外面に鉄絵で雨線、大第 4 皮	淡黄灰	長石釉・鉄絵	16c 末～17c 初頭	美濃
396	図	図・横・87	横出面	瓦器	壺か	(19.0)	(24.0)	25.4	硬質瓦質	淡灰	-	18c 後半～	在地か
397	図	図・横・99	横出面	土器	皿	7.7	5.6	1.85	ロクロ成形、外面～底面に被熱による黒変	暗褐	-	不明	在地か
398	図	図・横・98	横出面	土器	皿	8.8	5.3	2.35	打明底か、ロクロ成形、口縁一部に煤付着、内面炭化・剥落・煤付着	不明	-	不明	在地か
399	図	図・横・100	横出面	土器	皿	9.2	5.3	1.9	ロクロ成形、見込み黒炭色に変色部分あり	不明	-	不明	在地か
400	図	図・横・90	横出面	土器	皿	8.95	6.5	2.25	ロクロ成形、口縁全周に煤・タール付着	不明	-	17c ～ 18c か	在地か
401	図	図・横・102	横出面	土器	皿	(8.6)	(6.6)	2.4	ロクロ成形、外面に墨書「工工工」	暗褐	-	不明	在地か
402	図	図・横・101	横出面	土器	皿	9.2	5.6	2.2	ロクロ成形、外面に墨書「工之可り」	暗褐	-	不明	在地か
403	図	図・横・92	横出面	土器	皿	9.9	6.0	2.3	ロクロ成形、外面に墨書「御土や水」、底面に被熱による黒変	不明	-	不明	在地か
404	図	図・横・93	横出面	土器	皿	9.95	6.0	2.05	ロクロ成形、外面に墨書「や水」、縁外・底部に硬燒焼、外面～底面に被熱による黒変・剥落か	暗褐	-	不明	在地か
405	図	図・横・89	横出面	土器	皿	9.4	7.0	2.0	ロクロ成形、底部中央に焼成後穿孔、内面立ち上がり部に強いタデ	淡暗褐	-	不明	在地か
406	図	図・横・95	横出面	土器	皿	10.8	6.8	2.6	打明底か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着、内面に墨書	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か
407	図	図・横・94	横出面	土器	皿	9.7	6.0	2.85	打明底か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着、外面に墨書で唐草文、内面に墨書「花鳥月」	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か
408	図	図・横・91	横出面	土器	皿	10.3	5.9	2.75	ロクロ成形	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か
409	図	図・横・96	横出面	土器	皿	10.5	6.0	2.95	内面全体に黒色付着物、外面に黒色の液体が垂れた痕	暗褐	-	17c ～ 18c か	在地か
410	図	図・横・97	横出面	土器	皿	10.4	6.0	3.15	ロクロ成形、内外面一部に煤付着か	暗灰褐	-	17c ～ 18c か	在地か

No.	遺構番号	実測番号	遺構	種別	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
411	Ⅲ	Ⅲ - 晩 - 103	横出面	土器	皿	(11.8)	(9.2)	2.7	ロクロ成形、底面に墨書「あ」	暗灰褐	-	不明	在地か
412	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -88	横出面	土器	皿	(14.2)	8.2	2.8	中底、ロクロ成形、内外面一部に煤付着	暗橙褐	-	不明	在地か
413	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -107	横出面	土器	皿	(10.7)	-	-	ロクロ成形、黒漆による総金箔貼り、口縁部内外面に煤・タール付着、蛇腔か	淡褐灰褐	-	不明	非在地系か
414	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -105	横出面	土器	植木鉢	-	8.0	-	底部中央に穿孔 1	淡灰褐	-	18c 後半~	在地か
415	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -104	横出面	土器	五徳	-	(19.2)	-	脚	暗黄褐	-	不明	在地か
416	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -82	横出面	土製品	飾り	-	-	-	長さ 8.8, 幅 10.1, 陶器, 葉形	淡灰	銹釉	不明	瀬戸・美濃か
417	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -79	横出面	土製品	ミニチュア	2.4	0.9	1.18	碗, 陶器	淡黄白	緑	不明	京
418	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -80	横出面	土製品	ミニチュア	2.9	1.5	1.4	片口か、陶器	淡黄灰	不明	不明	京
419	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -81	横出面	土製品	人形か	-	-	-	長さ 2.1, 幅 2.1, 厚さ 0.75, 空か, 陶器, 土面に顔巻文	淡灰白	透明釉・茶	不明	京
420	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -78	横出面	土製品	土錘	-	-	-	長さ 4.55, 幅 1.0, 厚さ 0.4	淡灰褐	-	不明	在地か
421	Ⅲ	Ⅲ - 晩 -106	横出面	土製品	土錘	-	-	-	長さ 4.4, 幅 2.0, 厚さ 0.65	淡褐	-	不明	在地か
422	Ⅳ	Ⅳ - 溝 502-1	溝 502	陶器	皿	9.6	4.8	1.6	折縁皿、内側面二方にソギ、大堂 4 末	不明	灰褐	16c 末~ 17c 初頭	美濃
423	Ⅳ	Ⅳ - 溝 503-1	溝 503	青磁	碗	(13.5)	-	-	外面に蓮弁文、龍泉窯系	灰	青磁釉	13 ~ 14c	中国
424	Ⅳ	Ⅳ - 溝 503-2	溝 503	陶器	皿	(10.2)	(5.4)	2.0	内黒皿、高台内に目跡 (輪ト チ)、見込みに漆付着、大堂 4 前	淡黄白	灰褐	16c 末	美濃
425	Ⅳ	Ⅳ - 溝 504-2	溝 504	陶器	皿	(11.0)	(5.6)	2.3	長石釉丸皿、登 2 小	淡灰白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
426	Ⅳ	Ⅳ - 溝 504-1	溝 504	陶器	皿	(12.9)	(6.6)	3.0	内面に銅緑釉流し掛け、登 1・2 小	淡灰白	灰褐・銅緑釉	17c 前半	瀬戸・美濃
427	Ⅳ	Ⅳ - 溝 505-1	溝 505	陶器	皿	8.8	4.9	2.4	端反皿、打印技転用か、口縁に タール付着、高台内に目跡 (輪ト チ)、大堂 1	淡灰白	灰褐	15c 末~ 16c 前半	瀬戸・美濃
428	Ⅳ	Ⅳ - 材木下 -1	材木下	土器	皿	9.6	6.4	2.8	打明底か、ロクロ成形、縁内に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
429	Ⅳ	Ⅳ - 土 543-1	井戸 502	陶器	碗	12.2	5.2	7.45	外面に鉄絵で折枝模文、見込みに目跡 足付パマ)	淡黄白	灰褐か・鉄絵	18c か	不明
430	Ⅳ	Ⅳ - 土 543-2	井戸 502	陶器	碗	-	(3.9)	-	内外面に白泥による行り刷毛目、現用	暗褐	透明釉・白泥	17c 末~ 18c 前半	肥前
431	Ⅳ	Ⅳ - 土 521-1	土 521	陶器	碗	(11.45)	-	-	天目茶碗、大堂 4 前	淡黄白	鉄釉	16c 末	美濃
432	Ⅳ	Ⅳ - 土 545-1	土 545	陶器	碗	(10.2)	-	-	天目茶碗、大堂 3 後	淡黄白	鉄釉	16c 後半	美濃
433	Ⅳ	Ⅳ - 土 558-1	土 558	土器	皿	10.4	6.6	2.4	ロクロ成形、口縁一部と見込みに黒色付着物	暗褐	-	不明	在地か
434	Ⅳ	Ⅳ - 土 566-1	土 566	土器	皿	(9.4)	6.8	2.6	ロクロ成形、底部中央に穿孔 1	暗褐	-	不明	在地か
435	Ⅳ	Ⅳ - 土 579-1	土 579	陶器	碗	(10.3)	-	-	天目茶碗、大堂 4 前	淡黄白	鉄釉	16c 末	美濃
436	Ⅳ	Ⅳ - 土 582-1	土 582	青磁	碗	-	-	-	外面に蓮弁文、龍泉窯系	灰	青磁釉	13 ~ 14c	中国
437	Ⅳ	Ⅳ - 土 587-1	土 587	陶器	碗	(9.9)	-	-	天目茶碗、外面に灰釉流し掛け、大堂 3 後	灰	鉄釉	16c 後半	美濃
438	Ⅳ	Ⅳ - 土 591-1	土 591	土器	皿	10.6	6.8	2.45	ロクロ成形	暗褐	-	不明	在地か
439	Ⅳ	Ⅳ - 検 -2	横出面	青磁	碗	-	5.3	-	外面に蓮弁文、龍泉窯系	灰	青磁釉	13 ~ 14c	中国
440	Ⅳ	Ⅳ - 検 -1	横出面	青磁	碗	(16.0)	-	-	外面に蓮弁文、内面に文様、龍泉窯系	灰	青磁釉	13 ~ 14c	中国
441	Ⅳ	Ⅳ - 検 -3	横出面	青磁	盤か	-	-	-	見込みに目跡 1	灰	青磁釉	13 ~ 14c	中国
442	Ⅳ	Ⅳ - 検 -5	横出面	青花	皿	(39.6)	-	-	縁内に如意雲文、内面に風景、漳州窯系	淡灰	染付	16c 後半~ 17c 初頭	中国
443	Ⅳ	Ⅳ - 検 -13	横出面	陶器	碗	(11.0)	-	-	天目茶碗、内外面に漆付着、大堂 3 後	淡灰白	鉄釉	16c 後半	美濃
444	Ⅳ	Ⅳ - 検 -10	横出面	陶器	碗	(11.2)	-	-	天目茶碗、大堂 3 後~ 4 前	淡黄灰	鉄釉	16c 後半	美濃
445	Ⅳ	Ⅳ - 検 -12	横出面	陶器	碗	(11.1)	-	-	天目茶碗、大堂 4 前	灰	鉄釉	16c 末	美濃
446	Ⅳ	Ⅳ - 検 -9	横出面	陶器	碗	(11.2)	-	-	天目茶碗、大堂 4 後	淡黄	鉄釉	16c 末~ 17c 初頭	美濃
447	Ⅳ	Ⅳ - 検 -11	横出面	陶器	碗	-	4.9	-	天目茶碗、灰釉流し掛け、高台内に墨書「十月」、登 2・3 小前	淡黄白	鉄釉	17c 中葉	瀬戸・美濃
448	Ⅳ	Ⅳ - 検 -8	横出面	陶器	碗	(11.9)	-	-	天目茶碗	黄褐	長石釉	17c	瀬戸・美濃
449	Ⅳ	Ⅳ - 検 -6	横出面	陶器	碗	(10.8)	-	-	漳州窯か、外面に漆付着	褐	長石釉	18c 中葉~幕末	瀬戸
450	Ⅳ	Ⅳ - 検 -14	横出面	陶器	皿	(10.4)	(6.2)	2.4	丸皿、高台内に目跡、内面に漆付着か、大堂 3 後	灰	灰釉	16c 後半	美濃
451	Ⅳ	Ⅳ - 検 -17	横出面	陶器	皿	(9.2)	(5.5)	1.6	内黒皿、大堂 4 前	淡黄白	灰釉	16c 末	美濃
452	Ⅳ	Ⅳ - 検 -16	横出面	陶器	皿	(10.1)	(5.5)	1.9	折縁皿、内側面にソギ、見込み・高台内に目跡 (輪ト チ)、大堂 4 後	褐	灰釉	16c 末~ 17c 初頭	美濃
453	Ⅳ	Ⅳ - 検 -15	横出面	陶器	皿	11.7	7.0	2.5	長石釉丸皿、見込み・高台内に目跡、大堂 4 後、口縁に煤付着か	淡褐	長石釉	16c 末~ 17c 初頭	美濃
454	Ⅳ	Ⅳ - 検 -18	横出面	陶器	皿	-	(5.8)	-	長石釉丸皿、見込み・高台内に目跡、登 1・2 小	灰	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
455	Ⅳ	Ⅳ - 検 -20	横出面	陶器	皿	(12.5)	6.9	2.8	長石釉丸皿、高台内に目跡 2, 登 1 小	淡灰白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
456	Ⅳ	Ⅳ - 検 -19	横出面	陶器	皿	-	(4.9)	4.2	内面に鉄絵で草文	灰褐	長石釉	17c 前半	肥前
457	Ⅳ	Ⅳ - 検 -7	横出面	陶器	鉢	-	(7.6)	-	志野、高台内に目跡 11 (円盤ビン)、大堂 4 後	灰	長石釉	16c 末~ 17c 初頭	美濃
458	Ⅳ	Ⅳ - 検 -22	横出面	陶器	鉢	(28.8)	-	-	内面に銅緑釉流し掛け、登 1・2	淡灰白	灰釉・銅緑釉	17c 前半	瀬戸・美濃
459	Ⅳ	Ⅳ - 検 -21	横出面	陶器	鉢	(27.6)	(14.6)	6.7	内面に刷毛・印花文、見込みに目跡 1, 漳州窯か、登 1・2	淡黄灰	灰釉	17c 前半	瀬戸・美濃
460	Ⅳ	Ⅳ - 検 -23	横出面	陶器	銅鍋口	5.8	4.0	3.0	環状把手 1, 底部煤付着	淡黄白	灰釉	18c 後半~幕末	瀬戸・美濃
461	Ⅳ	Ⅳ - 検 -24	横出面	陶器	壺	(4.7)	5.0	6.45	石見か、	褐	鉄釉	18c	瀬戸・美濃
462	Ⅳ	Ⅳ - 検 -25	横出面	陶器	水注か	-	-	-	胴軸時の指痕残存、大堂 4 か	灰	長石釉	16c 末~ 17c 初頭	美濃
463	Ⅳ	Ⅳ - 検 -28	横出面	土器	皿	9.3	5.8	2.4	ロクロ成形	不明	-	不明	在地か
464	Ⅳ	Ⅳ - 検 -29	横出面	土器	皿	9.35	6.0	2.9	打明底か、ロクロ成形、口縁一部に煤付着	不明	-	不明	在地か
465	Ⅳ	Ⅳ - 検 -30	横出面	土器	皿	10.0	5.6	2.8	打明底か、ロクロ成形、口縁一部に煤付着	暗灰褐	-	不明	在地か
466	Ⅳ	Ⅳ - 検 -33	横出面	土器	皿	10.7	7.05	1.95	打明底か、ロクロ成形、口縁一部に煤付着	不明	-	不明	在地か
467	Ⅳ	Ⅳ - 検 -31	横出面	土器	皿	9.5	6.75	2.3	ロクロ成形	暗褐	-	不明	在地か
468	Ⅳ	Ⅳ - 検 -32	横出面	土器	皿	9.5	5.2	2.9	打明底か、ロクロ成形、底面中央に未焼成痕あり、口縁に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
469	Ⅳ	Ⅳ - 検 -35	横出面	土器	目皿	-	-	-	縁大径 (8.0), 孔 3 残存, 上面煤付着, 蛇腔	淡褐	-	不明	不明
470	Ⅳ	Ⅳ - 検 -34	横出面	土器	内耳鍋	(34.2)	(27.0)	15.0	把手 1 残存、内外面に煤付着	暗灰褐	-	16c ~ 17c	在地か
471	Ⅳ	Ⅳ - 検 -26	横出面	土製品	土錘	-	-	-	長さ 4.1, 幅 1.1, 厚さ 0.4	淡褐白	-	不明	在地か
472	Ⅳ	Ⅳ - 検 -27	横出面	土製品	土錘	-	-	-	長さ 3.2, 幅 1.1, 厚さ 0.5	淡灰褐	-	不明	在地か
473	-	Ⅳ - 排土 -1	排土	磁器	小杯	(5.7)	2.4	3.1	上面に冠 (小円子)、内面に染付・上絵 (金・赤) で四隅・十無絵「近衛電信第一部隊」、機械ロクロか	白	染付・上絵	大正~	瀬戸・美濃
474	-	Ⅰ - 排 -1	排土	陶器	仏花瓶	-	5.2	-	瓶子丸耳形、外面に灰釉・鉄釉上下掛け分け、漳州窯か	灰	灰釉・鉄釉	18c 後半	美濃

※ ( ) 内数値は、推定値を表す。

表 7　大名町 3　土器・陶磁器観察表

地区	地点区分	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
475	1	1 - 溝 4-1	溝 4	磁器	碗	(6.4)	2.9	4.3	外面に区画文・蓮弁文、胴中高台	白	染付	幕末～	不明
476	1	1 - 溝 4-3	溝 4	磁器	皿	(20.6)	(12.9)	3.0	外面に文様か、縁内に墨弾き、見込み 2 重圏線内に環状松竹梅文か、高台内に八リ文入り、焼継痕	白	染付	18c 前半	肥前
477	1	1 - 溝 4-2	溝 4	磁器	猪口	-	5.4	-	外面に矢羽根文、見込み 1 重圏線内に五弁花文、蛇の目凹型高台、焼成不良	白	染付	18c 末～ 19c 初頭	肥前
478	1	1 - 溝 4-5	溝 4	磁器	段重	(12.4)	(11.8)	7.3	外面に格子文、口縁部釉はぎ取り、漆継痕	淡灰白	染付	18c 末～幕末	肥前
479	1	1 - 溝 4-6	溝 4	磁器	花瓶	-	5.0	-	外面に草文・蝶文、瓶状高台	淡灰白	染付	19c ～	不明
480	1	1 - 溝 4-7	溝 4	磁器	水滴	-	-	2.7	型押成形、上面に蕨様・ガエ、内面指押さえ痕、底面に布目圧痕、側面に墨付着	白	染付	近世	肥前
481	1	1 - 溝 4-8	溝 4	磁器	ケキタテ	-	-	3.7	上面に文様	白	染付	幕末～明治	肥前
482	1	1 - 溝 4-4	溝 4	磁器	蓋	-	-	-	摘み径 4.2、外面に壁草文、頂 1 重圏線内に鶴 2 重角に乾と・焼継痕「×」、焼成不	白	染付	18c 末～幕末	肥前か
483	1	1 - 溝 4-9	溝 4	陶器	碗	(9.2)	-	-	せんじ、登 7 小	淡黄褐	灰釉	18c 後半	瀬戸
484	1	1 - 溝 4-10	溝 4	陶器	鉢	(18.4)	-	-	白泥のち鉄絵で圏線・文様	淡黄白	白泥・鉄絵・透明釉	幕末	瀬戸
485	1	1 - 溝 4-13	溝 4	陶器	御猪口	3.4	3.2	1.85	-	淡黄白	灰釉	18c 後半	美濃
486	1	1 - 溝 4-11	溝 4	陶器	有耳壺	(6.5)	-	-	外面に方西の貼花文、口縁部・内面無釉	淡灰	透明釉・鉄絵	近代	不明
487	1	1 - 溝 4-12	溝 4	陶器	鍋	(18.0)	(6.2)	-	-	暗褐灰	長石釉	18c 後半～	不明
488	1	1 - 溝 4-16	溝 4	瓦器	甕	(16.0)	-	-	-	黒	-	18c 後半～	在地か
489	1	1 - 溝 4-14	溝 4	土器	焙烙	(10.7)	(6.2)	4.3	外面に把手 1、見込みに煤付着	暗褐	-	幕末～か	在地か
490	1	1 - 溝 4-15	溝 4	土器	焙烙	(37.8)	(31.0)	8.2	外面に把手 1 残存	暗褐	-	幕末～	在地か
491	1	1 - 溝 7-1	溝 7	磁器	碗	-	4.7	-	外面に文様、見込み 2 重圏線内に環状松竹梅文	白	染付	18c 末～幕末	肥前
492	1	1 - 溝 9-3	溝 9	炻器	碗	(7.8)	(3.4)	5.3	外面に柳文、縁内に 1 重圏線、見込み 1 重圏線内に五弁花文、焼継痕付、登 10・11 小	淡黄灰	染付	19c 前半～幕末	美濃
493	1	1 - 溝 9-1	溝 9	磁器	猪口	7.3	5.6	5.3	外面に矢羽根文、縁内に 2 重圏線、見込み 1 重圏線内に五弁花文、蛇の目凹型高台、漆継痕	白	染付	18c 末～ 19c 初頭	肥前
494	1	1 - 溝 9-2	溝 9	磁器	仏花瓶	-	4.8	-	外面に土絵（赤・黄・緑・黒）で花唐草文・唐文	白	透明釉・上絵	幕末か	瀬戸・美濃
495	1	1 - 溝 9-4	溝 9	陶器	向付	-	5.4	4.0	口縁短縁（12 辺）、胴渦目、木瓜形、ロクロの型切り ち成形	黄白	御深井釉	18c 前半	美濃
496	1	1 - 溝 9-5	溝 9	陶器	徳利	≥1	-	-	べこかん形	淡灰	灰釉	幕末	美濃
497	1	1 - 溝 9-6	溝 9	土製品	動物	-	-	-	鳥、胸部、左右型合せ、中空	淡黄	鉄釉	不明	不明
498	1	1 - 溝 10-1	溝 10	磁器	碗	6.1	(2.25)	4.45	外面に手描き（青・緑）で草文・蓮詩	白	染付	明治初頭～ 20 年	瀬戸・美濃
499	1	1 - 溝 10-2	溝 10	磁器	碗	(12.0)	-	-	外面に銅版転写で花札	白	染付	明治 30 年代か	瀬戸・美濃
500	1	1 - 溝 10-3	溝 10	磁器	鉢か	-	(7.3)	-	見込みに文様、焼継痕、高台内に丸書き で焼継印「戸」	白	染付	19c	肥前か
501	1	1 - 溝 10-4	溝 10	磁器	鉢	16.3	9.4	5.7	外面に巡り文、内面に草花文、蛇の目凹形高台	白	染付	明治初頭～ 20 年	瀬戸・美濃
502	1	1 - 溝 10-5	溝 10	磁器	御神酒徳利	-	2.6	-	外面に五弁花文・唐文	白	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃
503	1	1 - 溝 10-6	溝 10	磁器	蓋	-	-	2.65	外径 9.2、摘み径 4.0、外面に唐文、頂に鶴、縁内に四方神文、天井 1 重圏線内に寿字文	白	染付	明治初頭～ 20 年	瀬戸・美濃
504	1	1 - 溝 10-9	溝 10	陶器	薬味入れ	(3.7)	-	-	鹿	暗赤褐	鉄釉	不明	不明
505	1	1 - 溝 10-10	溝 10	陶器	小瓶	-	2.4	-	-	淡黄白	灰釉	幕末～明治	瀬戸
506	1	1 - 溝 10-7	溝 10	陶器	灯明受皿	8.8	3.15	1.65	-	淡灰	灰釉	幕末～明治	美濃
507	1	1 - 溝 10-8	溝 10	陶器	灯明受皿	(8.2)	(3.1)	1.8	-	淡橙褐	灰釉	幕末～明治か	洗馬か
508	1	1 - 溝 10-11	溝 10	土製品	箱庭道具	-	-	-	幅 3.1、奥行 2.5、屋根、陶器、中実	橙褐	透明釉・白泥・緑	不明	不明
509	1	1 - 溝 11-1	溝 11	磁器	碗	(10.4)	-	-	外面に文様	白	染付	明治前半	瀬戸・美濃
510	1	1 - 溝 11-2	溝 11	磁器	急須	-	-	1.05	幅 7.7、奥行 5.3、外面に柳文・七宝文、矢入れ	白	染付	近代か	不明
511	1	1 - 溝 12-1	溝 12	陶器	小杯	(6.8)	(3.0)	3.0	内面に土絵（金・黄・緑・橙・黒）で蒲公英文	淡黄白	透明釉・上絵	近代か	京・信楽か
512	1	1 - 溝 15-1	溝 15	青花	碗	(8.3)	(3.0)	4.5	外面に花唐草文、縁内に調整文、見込み 2 重圏線内に文様、高台内に 1 重圏線、銀彩銘系	白	染付	18c ～ 19c 初頭	中国
513	1	1 - 溝 15-2	溝 15	磁器	皿	-	(5.8)	-	内面に撃鉢模様	淡灰白	染付	近代	不明
514	1	1 - 溝 15-3	溝 15	陶器	小杯	(6.0)	(3.5)	3.4	-	淡黄白	灰釉	幕末～明治	瀬戸・美濃
515	1	1 - 溝 15-4	溝 15	陶器	蓋	-	-	-	外径 3.0、外面に銀文、516 とセット	灰	鉄釉	不明	不明
516	1	1 - 溝 15-5	溝 15	陶器	水滴か	3.3	3.0	-	胴部下半に銀文、施釉時の指痕残存、515 とセット	暗灰	鉄釉	不明	不明
517	1	1 - 溝 15-6	溝 15	土製品	人形	-	-	-	型押成形、中空、帽子 1、大黒天	褐	-	不明	不明
518	1	1 - 溝 16-1	溝 16	磁器	碗	(6.4)	(2.25)	3.05	端反碗、外面に花文・雷文文、見込みに梵字か、登 10・11 小	白	染付	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
519	1	1 - 溝 16-2	溝 16	磁器	碗	(10.25)	(4.0)	5.8	端反碗、外面に唐草文、縁内に雷紋、見込み 2 重圏線内に寿字文、登 11 小	白	染付	幕末	瀬戸・美濃
520	1	1 - 溝 16-3	溝 16	磁器	碗	(8.7)	3.2	5.3	外面鉄格子地に菊花文、縁内に 2 重圏線、見込み 1 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 末～ 19c 初頭	肥前
521	1	1 - 溝 16-4	溝 16	磁器	碗	(6.9/5)	(3.5)	5.3	筒形碗、外面に柳文、縁内に 2 重圏線、見込み 1 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
522	1	1 - 溝 16-5	溝 16	磁器	蓋	-	-	2.0	外径 (9.1)、摘み径 (4.0)、外面に絵文秋香文、縁内に柳文、天井 2 重圏線内に環状松竹梅文	白	染付	近代か	瀬戸・美濃
523	1	1 - 溝 16-6	溝 16	陶器	皿	9.5	2.5	2.1	灯明皿か、見込みに目跡 1	淡黄灰	鉄釉	幕末～明治	美濃か
524	1	1 - 溝 16-8	溝 16	陶器	獅子	(33.4)	-	-	-	赤褐	鉄釉	近代か	不明
525	1	1 - 溝 16-9	溝 16	陶器	香炉か	-	(6.0)	-	高台内に墨書、内面無釉	淡黄白	透明釉	不明	京・信楽
526	1	1 - 溝 16-7	溝 16	陶器	灯明受皿	(9.4)	-	-	外面に墨書「三」	淡黄灰	灰釉	幕末～明治	美濃か
527	1	1 - 溝 16-10	溝 16	土器	皿	10.2	5.75	2.4	ロクロ成形	褐	-	不明	在地か

版	図版番号	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
528	1	1 - 水路 3-1	水路 1	磁器	小杯	(5.7)	(2.8)	4.35	外面に線条・蓮弁文、縁内に連弧文	白	染付	近代	不明
529	1	1 - 水路 3-2	水路 1	磁器	碗	(8.4)	3.4	4.9	端反碗、外面に草花文	白	染付	19c ～幕末	肥前
530	1	1 - 水路 3-3	水路 1	磁器	碗	(7.6)	(3.0)	5.1	外面・見込みに梅文、登 10・11 小	白	染付	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
531	1	1 - 焼土 15-1	焼土 15	磁器	小杯	-	2.7	-	外面に草文、高台に砂付着	淡灰	染付	17c ～ 18c	肥前
532	1	1 - 焼土 15-2	焼土 15	磁器	碗	(11.0)	-	-	外面に鳥文、縁内 1 重圏線、漆継痕	白	染付	17c 後半～ 18c	肥前
533	1	1 - 焼土 15-3	焼土 15	磁器	皿	24.1	15.3	4.1	櫛花、外面に唐草文、内面に牡丹唐草文、高台内に 1 重圏線・鉄 / 2 重角に渦紋・ハリ支え痕、被熱	白	染付	17c 末～ 18c 前半	肥前
534	1	1 - 焼土 15-4	焼土 15	陶器	碗	(7.0)	(4.2)	5.2	暦筒底、全面施釉	淡褐	灰釉	17c	美濃
535	1	1 - 焼土 15-5	焼土 15	陶器	碗	(11.9)	-	-	天目茶碗、漆継痕、登 3 小	淡黄白	鉄釉	17c 中葉	瀬戸・美濃
536	1	1 - 焼土 15-6	焼土 15	陶器	碗	-	(4.9)	-	白天目	淡黄褐	長石釉	17c	瀬戸・美濃
537	1	1 - 焼土 15-7	焼土 15	陶器	皿	13.3	6.35	3.75	輪禿皿、見込みに印花文、登 2・3 小	淡灰褐	灰釉	17c 前半	瀬戸・美濃
538	1	1 - 焼土 15-10	焼土 15	土器	皿	8.7	5.3	2.3	打明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	黒褐	-	19c か	在地か
539	1	1 - 焼土 15-9	焼土 15	土器	皿	9.8	6.5	2.5	打明皿か、ロクロ成形、口縁・見込みに煤・タール付着	不明	-	不明	在地か
540	1	1 - 焼土 15-8	焼土 15	土器	皿	(10.4)	(6.1)	(2.8)	打明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	灰褐	-	不明	在地か
541	1	1 - 瓦集中 -4	瓦集中部	磁器	碗	-	-	-	筒形碗、外面に稲文、縁内に四方襷文	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
542	1	1 - 瓦集中 -1	瓦集中部	磁器	碗	(10.8)	(3.7)	5.85	外面に植文、縁内に四方襷文、見込み 1 重圏線内に文様	白	染付	明治初頭～ 20 年	瀬戸・美濃
543	1	1 - 瓦集中 -2	瓦集中部	磁器	碗	(11.85)	4.2	4.8	型紙摺絵、外面に花文、縁内に襷状文、高台内 1 重圏線	白	染付	明治初頭～ 20 年	美濃
544	1	1 - 瓦集中 -3	瓦集中部	磁器	皿	(10.1)	(4.8)	2.2	内外面に仙芝紋有文、高台内 1 重圏線	白	染付	明治初頭～ 20 年	瀬戸・美濃
545	1	1 - 瓦集中 -5	瓦集中部	陶器	小杯	(6.3)	2.8	4.45	高台内に刻印「飛龍」	淡灰	透明釉	近代	不明
546	1	1 - 瓦集中 -6	瓦集中部	陶器	水注	(6.6)	-	-	外面に銅緑釉、内面に長石釉	黄白	銅緑釉・長石釉	18c 後半～	瀬戸
547	1	1 - 瓦集中 -7	瓦集中部	土器	五徳	-	-	-		赤褐	-	不明	在地か
548	1	1 - 土 5-1	土 5	陶器	鉢	(10.6)	(6.1)	2.7	黄瀬戸、暦筒底、大窯 4 段	淡黄白	灰釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
549	1	1 - 土 5-2	土 5	陶器	向付	(12.3)	5.3	2.8	内面に鉄絵、暦筒底	淡灰白	透明釉・鉄絵	17c 後半	瀬戸・美濃
550	1	1 - 土 5-4	土 5	土器	皿	8.9	5.4	2.15	打明皿か、ロクロ成形、口縁全周にタール付着	黒褐	-	不明	在地か
551	1	1 - 土 5-3	土 5	土器	皿	9.65	5.5	2.85	打明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
552	1	1 - 土 9-1	土 9	磁器	蓋	-	-	2.7	外径 (10.8)、摘み部 (4.2)、型紙摺絵、外面に幾何唐草文、頂に 1 重圏線、縁内に雷紋文	白	染付	明治初頭～ 20 年	美濃
553	1	1 - 土 9-2	土 9	土器	皿	8.75	6.8	2.21	打明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	黒褐		19c か	在地か
554	1	1 - 土 35-1	土 35	磁器	御神酒徳利	(2.0)	2.8	6.7	外面に笹文・五弁花文	白	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃
555	1	1 - 土 35-2	土 35	磁器	段重蓋	-	-	3.7	外径 13.2、最大径 11.0、摘み径 4.5、外面に染付・上絵 (赤・金・緑・黒) で登絵・縁寿文	白	染付・上絵	近代	肥前か
556	1	1 - 土 47-1	土 47	磁器	小杯	(6.3)	-	-	内面に上絵 (青・黒・金・赤) で文様、焼継痕、登 10・11 小	白	透明釉・上絵	幕末	瀬戸・美濃
557	1	1 - 土 59-1	土 59	磁器	碗	(7.6)	(2.6)	4.5	外面に ゴム印刷で唐草文・蓮弁文、高台内 1 重圏線	白	染付	20c 前半	不明
558	1	1 - 土 82-1	土 82	陶器	鍋	(17.6)	-	-	行平鍋、外面に飛龍文、外面に煤付着	暗橙褐	灰釉	幕末～	洗馬か
559	1	1 - 土 84-1	土 84	磁器	御神酒徳利	1.6	-	-	外面に五弁花文・笹文	白	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃
560	1	1 - 土 84-2	土 84	陶器	灯明受皿	9.5	3.6	1.9	-	淡黄灰	鉄釉	幕末～明治	不明
561	1	1 - 検 -1	検出面	磁器	小杯	(6.2)	2.9	5.3	外面に植物文、高台内 1 重圏線内に銘「清氏」	白	染付	大正～昭和	瀬戸・美濃
562	1	1 - 検 -3	検出面	磁器	碗	(7.8)	3.8	4.2	銅板転写、外面に建物、高台内 1 重圏線内に銅板転写で銘「成化年製」、高台に砂付着	白	染付	明治～大正	瀬戸・美濃
563	1	1 - 検 -2	検出面	磁器	碗	(8.0)	(2.8)	5.0	外面にゴム印刷で花唐草文、高台に砂付着	白	染付	昭和	瀬戸・美濃
564	1	1 - 検 -4	検出面	磁器	碗	(8.4)	3.2	5.0	外面鉄絵子持に菊花文、縁内 2 重圏線、見込み 1 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 末～ 19c 初頭	肥前
565	1	1 - 検 -5	検出面	磁器	碗	11.6	3.5	4.85	型紙摺絵、外面に幾何唐草文・蓮弁文、縁内に雷紋文	白	染付	明治初頭～ 20 年	美濃
566	1	1 - 検 -6	検出面	磁器	皿	9.2	5.5	1.65	内面に銅板転写	白	染付	明治後半	瀬戸・美濃
567	1	1 - 検 -7	検出面	磁器	皿	(13.9)	(8.3)	3.95	輪花、口縁、内外面に唐草文、高台内 1 重圏線	白	染付・口縁	17c 末～ 18c 前半	肥前
568	1	1 - 検 -8	検出面	磁器	皿	(17.3)	(11.1)	2.7	外面に唐草文、口縁、内面に菊唐草文、高台内 1 重圏線内に銘・ハリ支え痕 2、焼継痕	白	染付・口縁	17c 末～ 18c 前半	肥前
569	1	1 - 検 -9	検出面	磁器	皿	-	9.2	-	外面に文様、高台に櫛歯文、内面に陰刻・青磁釉、見込みや中心に梁付で菊文、焼継痕、高台内煙かに焼継痕か	白	染付・青磁釉	幕末～明治か	肥前
570	1	1 - 検 -10	検出面	青磁	香炉	(7.0)	-	-	外面に沈線 3 残存、内面無釉	淡灰白	青磁釉	17c 中葉～ 18c 前半	肥前
571	1	1 - 検 -11	検出面	磁器	線香筒	(2.9)	-	-	外面に竹文、内面無釉	淡灰白	染付	19c 前半か	肥前
572	1	1 - 検 -12	検出面	磁器	蓋	-	-	2.3	外径 8.4、摘み径 3.4、外面に牡丹唐草文、頂 1 重圏線内に蓮 / 2 重角に 縁内に渦文、天井 1 重圏線内に見込花弁梅文	白	染付	幕末～明治か	不明
573	1	1 - 検 -13	検出面	陶器	碗	(9.1)	-	-	黒織高台、外面に沈線 4、外面に鉄絵、縁外～内面に灰釉、登 8 小	淡黄白	灰釉・鉄釉	18c 後半	瀬戸
574	1	1 - 検 -14	検出面	陶器	碗	(11.5)	-	-	天目茶碗、登 3・4 小	淡黄白	鉄釉	17c 後半	瀬戸・美濃
575	1	1 - 検 -16	検出面	陶器	皿	(14.4)	-	-	内面に鉄絵	暗灰	鉄釉・長石釉	17c 前半	肥前
576	1	1 - 検 -18	検出面	陶器	皿	10.1	6.0	1.8	長石釉丸皿、登 3 小	淡灰白	長石釉	17c 中葉	瀬戸・美濃
577	1	1 - 検 -19	検出面	陶器	皿	10.1	3.8	1.85	打明皿か、見込みに目跡 3	淡褐白	灰釉	18c 後半～	京・信楽か
578	1	1 - 検 -17	検出面	陶器	皿	9.3	3.4	2.3	打明皿か、見込みに目跡 3	淡黄白	灰釉	幕末～明治	瀬戸・美濃
579	1	1 - 検 -15	検出面	陶器	火入れ	(10.2)	-	-	灰落としに転用か、外面～縁内に白泥、口縁部外面に銅緑釉、内面無釉、口縁に鉄打痕、内面に煤付着	褐	白泥・銅緑釉・透明釉	18c 後半～幕末か	不明
580	1	1 - 検 -20	検出面	土器	皿	10.05	6.2	2.6	ロクロ成形	暗褐	-	19c か	在地か

版	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
581	Ⅰ	Ⅰ-検-21	検出面	土器	民俗しか	(10.0)	(8.4)	(8.8)	外面に沈線 4、縦筋痕、口縁に銀行板	灰褐	-	不明	不明
582	Ⅰ	Ⅰ-検-23	検出面	土製品	ミニチュア	-	-	6.0	幅 2.1、窺、型押成形、キラ残存	黒褐	-	不明	不明
583	Ⅰ	Ⅰ-検-22	検出面	土製品	玩具	-	-	-	長 2.0、幅 2.0、厚 0.6、暮石形土製品、手捏ね成形	暗褐	-	不明	不明
584	Ⅰ	Ⅰ-tr1-1	トレンチ1	陶器	皿	9.75	3.8	2.1	灯明皿か、見込み に輪トチ痕	不明	鉄釉	16c 後半～幕末	美濃
585	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-1	溝 7	白磁	皿	(14.6)	-	-	端反、輪花、玉都	淡黄灰	白磁釉	16c	中国
586	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-4	溝 7	陶器	碗	(11.2)	3.0	6.25	天目茶碗、内面に漆塗か、大窯 3 期	淡黄白	鉄釉	16c 後半	美濃
587	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-3	溝 7	陶器	碗	(11.2)	-	-	天目茶碗、大窯 4 前	淡黄白	鉄釉	16c 末	美濃
588	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-2	溝 7	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登 1・2 小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	美濃
589	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-6	溝 7	陶器	皿	(11.3)	(6.2)	2.2	土野丸底、高台内に目跡 4、口縁に煤付着、大窯 4	淡黄白	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
590	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-5	溝 7	陶器	皿	11.4	6.2	2.65	鉄絵皿、内面に櫛線・紅葉唐草文、見込みに目跡 2、登 1・2 小	淡黄白	長石釉・鉄絵	17c 前半	美濃
591	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-8	溝 7	陶器	皿	(14.7)	(4.4)	(5.1)	内面に鉄絵、見込みに 2 重花線	褐	灰釉・鉄絵	17c 前半	肥前
592	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-7	溝 7	陶器	皿	-	4.4	-	内面に鉄絵	灰褐	灰釉・鉄絵	17c 前半	肥前
593	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-9	溝 7	土器	皿	10.3	7.0	3.1	ロクロ成形	淡褐	-	16c 末～ 17c 前半か	在地か
594	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-10	溝 7	土器	皿	9.6	5.6	3.19	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	16c 末～ 17c 前半か	在地か
595	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-11	溝 7	土器	皿	(10.2)	(5.3)	3.3	灯明皿か、ロクロ成形、口唇打ち欠き、内外面に煤付着	暗褐	-	16c 末～ 17c 前半か	在地か
596	Ⅱ	Ⅱ-溝 7-12	溝 7	土器	内耳鍋	(25.3)	(20.3)	11.25	内耳 1 残存、内外面に煤付着	暗褐	-	16c 中葉～後半	在地か
597	Ⅱ	Ⅱ-溝 8-1	溝 8	陶器	皿	(9.4)	(6.2)	2.0	鉄絵皿、底面に目跡、内外面に漆付着、大窯 4	淡褐	灰釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
598	Ⅱ	Ⅱ-溝 10-1	溝 10	青花	皿	-	(10.4)	-	見込みに文様、底部に砂付着多、唐草か	灰白	染付	16c 末～ 17c 初頭	中国
599	Ⅱ	Ⅱ-溝 10-2	溝 10	土器	皿	(10.7)	(6.6)	2.8	ロクロ成形	灰褐	-	17c か	在地か
600	Ⅱ	Ⅱ-溝 11-1	溝 11	磁器	小杯	(7.1)	(3.4)	3.4	外面に煤付着、被熱か	淡黄白	透明釉	近世	不明
601	Ⅱ	Ⅱ-溝 11-2	溝 11	磁器	合子蓋	-	-	1.25	外径 (5.0)、外面に松文	白	染付	17c 中葉～ 18c	肥前
602	Ⅱ	Ⅱ-溝 15-1	溝 15	陶器	碗	(9.0)	-	-	端反碗、外面に踏輪の毛白足・鉄絵文様、緑内～内面に白足の ち透明釉	淡灰	踏輪・透明釉・白足・鉄絵	近代か	不明
603	Ⅱ	Ⅱ-溝 16-1	溝 16	陶器	碗	(10.5)	-	-	せんじ、登 8・9 小	淡黄白	灰釉	18c 後半～ 19c 初頭	瀬戸
604	Ⅱ	Ⅱ-溝 23-2	溝 23	陶器	碗	(10.4)	-	-	白天目、縦熱か、登 1・2 小	淡黄白	長石釉	17c 前半	瀬戸
605	Ⅱ	Ⅱ-溝 23-3	溝 23	陶器	碗	(10.4)	(3.7)	5.5	小杉碗、外面に鉄絵で若松文か	淡黄白	透明釉・鉄絵	18c 中葉	京・信楽
606	Ⅱ	Ⅱ-溝 23-1	溝 23	土製品	ミニチュア	(4.1)	(1.8)	1.4	碗、磁器、型押成形か	白	透明釉	不明	肥前
607	Ⅱ	Ⅱ-溝 25-1	溝 25	陶器	碗	(7.6)	-	-	志野、大窯 4	淡黄白	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
608	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-1	溝 31	磁器	小杯	(4.7)	(3.2)	3.2	外面に唐文、箱形	白	染付	幕末	不明
609	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-3	溝 31	磁器	碗	7.0	4.25	4.5	外面に幾何文・盛作文、縁内に雷文、高台内に銘「重角に雷」	白	染付	幕末～明治初	美濃
610	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-4	溝 31	磁器	碗	(9.0)	(3.6)	5.9	外面に若松文	白	染付	18c 後半	肥前
611	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-2	溝 31	磁器	碗	(7.5)	(3.2)	5.2	外面・見込みに梅文、登 10・11 小	白	染付	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
612	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-5	溝 31	磁器	碗	(10.1)	(3.8)	5.25	端反碗、外面に帆掛け舟・菊水文、縁内に 2 重圏線、見込み 1 重圏線内に文様	白	染付	幕末	瀬戸・美濃
613	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-6	溝 31	磁器	碗	(14.6)	(6.0)	6.75	外面に菊文、縁内に四方襷文、見込み 2 重圏線内に菊文	白	染付	18c 後半	肥前
614	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-7	溝 31	磁器	皿	10.7	6.35	2.25	外面に唐草文、内面に銀文	白	染付	19c	不明
615	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-8	溝 31	磁器	皿	(10.4)	(6.0)	2.85	輪花、外面に唐草文、内面に花唐草文、見込み 2 重圏線内に五弁花文、高台内に銘「大明年製」か	白	染付	17c 末～ 18c	肥前
616	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-9	溝 31	磁器	皿	13.8	8.1	3.95	輪花、外面に唐草文、内面に花唐草文、見込み 2 重圏線内に五弁花文、高台内に銘「2 重角に鶴龍」	白	染付	17c 末～ 18c	肥前
617	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-10	溝 31	磁器	御神酒徳利	1.75	3.45	12.1	外面に松竹梅文、胴部に桜唐	白	染付	幕末	瀬戸・美濃
618	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-11	溝 31	磁器	散蓮華	-	-	-	未切離工、内面に文様	白	染付	18c 末～幕末か	肥前
619	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-12	溝 31	陶器	碗	(6.25)	2.8	4.6	外面に花鳥文	白	透明釉・上絵	近代	瀬戸
620	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-13	溝 31	陶器	皿	(10.0)	2.5	2.1	灯明皿、口縁に煤付着	淡黄白	灰釉	幕末～明治	瀬戸
621	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-18	溝 31	焙烙	鍋耳	(8.0)	3.4	2.4	鍋目 11 本 1 単位	赤褐	-	18c 後半～	不明
622	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-17	溝 31	陶器	蓋(?)	(8.9)	(5.4)	4.8	内面に鉄絵で櫛線、柄状定用の孔 1	灰	透明釉・鉄絵	18c 後半～幕末	美濃か
623	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-14	溝 31	陶器	鉢	18.1	7.8	8.65	行平鍋、腰下に煤付着	褐	鉄釉	18c 末～	在地か
624	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-15	溝 31	陶器	灯明受皿	10.0	3.8	2.35	-	淡褐	鉄釉	幕末～明治	美濃
625	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-16	溝 31	陶器	灯明受皿	(10.4)	4.6	2.65	登 7 小	黄褐	鉄釉	18c 中葉	美濃
626	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-19	溝 31	土器	皿	(8.0)	(4.6)	2.0	ロクロ成形	褐	-	19c か	在地か
627	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-20	溝 31	土器	皿	10.8	6.3	3.05	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着、口縁にタール付着	不明	-	17c か	在地か
628	Ⅱ	Ⅱ-溝 31-21	溝 31	土器	焙烙壺	-	-	-	輪植み成形 (1 箇)	淡赤褐	-	17c	近畿
629	Ⅱ	Ⅱ-土 52-1	土 52	磁器	碗	6.25	2.8	4.25	外面に蝶・花文・竹粉文・雷盛文、高台内 1 重圏線内に銘	白	染付	明治前半	瀬戸・美濃
630	Ⅱ	Ⅱ-土 52-2	土 52	土製品	玩具	-	-	-	長 2.0、幅 2.0、厚 0.7、暮石形土製品、手捏ね成形	暗褐	-	不明	不明
631	Ⅱ	Ⅱ-土 53-1	土 53	土器	内耳鍋	(32.8)	(27.0)	17.3	内外面に炭化物付着	暗褐	-	15c 後半～ 16c 前半	在地か
632	Ⅱ	Ⅱ-土 54-1	土 54	磁器	小杯	(5.5)	(1.9)	2.9	外面に手描き 1 線で櫛線文	白	染付	明治後半	瀬戸・美濃
633	Ⅱ	Ⅱ-土 75-1	土 75	土器	皿	10.5	6.5	2.8	灯明皿か、ロクロ成形、口縁全周に煤・タール付着	暗褐	-	17c 後半か	在地か
634	Ⅱ	Ⅱ-土 85-1	土 85	土器	皿	(10.4)	(6.2)	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁・内面に煤付着	暗褐	-	17c 前半か	在地か
635	Ⅱ	Ⅱ-土 113-1	土 113	磁器	皿	(10.4)	(5.4)	2.4	輪花、口縁、内面に白水文、高台内に矢書きで横線印「へ」	白	染付・口縁	18c 後半	肥前
636	Ⅱ	Ⅱ-土 114-1	土 114	磁器	御神酒徳利	-	2.9	-	外面に五弁花文・熨文	白	染付	19c	肥前か
637	Ⅱ	Ⅱ-土 114-2	土 114	陶器	碗	(9.7)	-	-	天目茶碗、外面に灰釉流し掛けか、登 1 小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	瀬戸・美濃
638	Ⅱ	Ⅱ-土 114-3	土 114	陶器	碗	-	5.0	-	丸碗、内外面に灰釉流し掛け	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	美濃
639	Ⅱ	Ⅱ-土 114-4	土 114	陶器	皿	(12.8)	-	-	輪弋痕	淡灰	鉄釉	17c 前半	美濃
640	Ⅱ	Ⅱ-土 119-2	土 119	土器	皿	(9.9)	5.4	2.25	ロクロ成形	暗褐	-	不明	在地か
641	Ⅱ	Ⅱ-土 119-1	土 119	土器	皿	(10.5)	5.4	3.05	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	暗褐	-	17c 前半か	在地か
642	Ⅱ	Ⅱ-土 123-1	土 123	磁器	小杯	(5.2)	1.7	2.45	外面に上絵 (赤) で文様	白	透明釉・上絵	18c 末～幕末	肥前
643	Ⅱ	Ⅱ-土 123-2	土 123	磁器	小杯	(6.6)	2.7	2.65	外面に折松葉文・若葉文	白	染付	近世	肥前
644	Ⅱ	Ⅱ-土 123-3	土 123	磁器	碗	(6.8)	2.7	3.85	外面に竹文、高台内に砂付着	白	染付	17c	肥前

版	図版番号	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
645	Ⅱ	Ⅱ-土123-4	±123	磁器	碗	7.1	2.4	3.65	外面にコンニャク印刷で紅葉文、内外面に玉滴付着	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
646	Ⅱ	Ⅱ-土123-8	±123	磁器	碗	-	3.8	-	くらわんか碗、外面に文様、高台内1重圏線内に判読不能な銘、貫付に砂付着	淡灰	染付	18c	肥前
647	Ⅱ	Ⅱ-土123-6	±123	磁器	碗	(10.8)	-	-	外面に上絵（赤・緑・黒・黄）で花文	白	透明釉・上絵	17c 後半	肥前
648	Ⅱ	Ⅱ-土123-5	±123	磁器	碗	(9.8)	3.5	5.0	内外面に斜格子地・菊花文	白	染付	18c 後半～19c 前半	肥前
649	Ⅱ	Ⅱ-土123-7	±123	磁器	碗	(9.1)	3.2	5.7	外面に雲文、縁内に四方襷文、見込み2重圏線内に五弁花文、漆継痕	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
650	Ⅱ	Ⅱ-土123-11	±123	磁器	碗	7.9	3.9	6.4	筒形碗、外面に木目文、縁内に四方襷文、見込み2重圏線内に五弁花文、漆継痕	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
651	Ⅱ	Ⅱ-土123-14	±123	磁器	碗	(7.4)	-	-	筒形碗、外面に輪宝文、縁内に稲妻、見込み内に2重圏線	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
652	Ⅱ	Ⅱ-土123-9	±123	磁器	碗	7.5	3.8	6.05	筒形碗、外面に草花文、縁内に四方襷文、見込み2重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
653	Ⅱ	Ⅱ-土123-12	±123	磁器	碗	7.8	3.6	6.05	筒形碗、外面に松竹梅文、縁内に四方襷文、見込み2重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
654	Ⅱ	Ⅱ-土123-13	±123	磁器	碗	(8.0)	3.8	6.05	筒形碗、外面鉄格子地に稲花文、縁内に2重圏線、見込み2重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
655	Ⅱ	Ⅱ-土123-16	±123	磁器	皿	(9.8)	5.8	2.5	輪花、外面に唐草文、内面に菊紋・梅文、高台内1重圏線内に銘「嘉」、漆継痕	白	染付	19c	肥前
656	Ⅱ	Ⅱ-土123-17	±123	磁器	皿	(14.5)	(6.4)	2.7	縁内に波文・見込みに文様、漆継	淡灰	染付	不明	不明
657	Ⅱ	Ⅱ-土123-19	±123	磁器	皿	(15.0)	(8.8)	2.3	内面に唐草文・格文、高台内に1重圏線	白	染付	17c 後半	肥前
658	Ⅱ	Ⅱ-土123-18	±123	磁器	皿	(20.2)	(11.8)	2.7	内面に陽刻・ダミ、高台内にハリ文大脚	白	染付	17 後半～18c 前半	肥前
659	Ⅱ	Ⅱ-土123-21	±123	磁器	皿	-	-	3.3	方形、角切縁工、外面に唐草文、高台に雷文、内面に蝶唐草文、見込み2重圏線内に梅鉢文、高台内に銘「2重内に□」、被熱	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
660	Ⅱ	Ⅱ-土123-20	±123	磁器	皿	(14.1)	7.4	4.9	輪花、内外面に唐草文、見込み2重圏線内に五弁花文、高台内1重圏線内に銘「2重内に鶴丸」・ハリ文大脚	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
661	Ⅱ	Ⅱ-土123-15	±123	磁器	猪口	-	(6.6)	-	外面に染付・上絵（金）で水草文・松葉文・蓮弁文・蛇の目円型高台	白	染付	18c 後半～幕末	肥前
662	Ⅱ	Ⅱ-土123-10	±123	磁器	器付鉢	(9.0)	5.0	8.5	筒形、外面に草花文、縁内に四方襷文、口唇無釉、漆継痕	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
663	Ⅱ	Ⅱ-土123-22	±123	磁器	段重	8.1	6.2	4.2	外面に如意雲・蓮弁文、受部無釉、蛇の目円型高台、漆継痕	白	染付	18c 後半～幕末	肥前
664	Ⅱ	Ⅱ-土123-23	±123	磁器	香炉	-	4.6	-	有三足、内面無釉	白	透明釉	近代	瀬戸・美濃
665	Ⅱ	Ⅱ-土123-24	±123	磁器	瓶	-	6.0	-	外面に社月唐草文、内面無釉	白	染付	18c 後半か	肥前か
666	Ⅱ	Ⅱ-土123-25	±123	青磁	花生か	(6.6)	5.9	8.7	内面下半無釉、底面に墨書「戊」、漆継痕	淡灰	青磁釉	17c 中葉～18c 前半	肥前
667	Ⅱ	Ⅱ-土123-27	±123	青磁	蓋	-	-	-	外径（11.0）、稜径 3.6、透彫、口唇部無釉、被熱	白	青磁釉	17c 中葉～18c 前半	肥前
668	Ⅱ	Ⅱ-土123-26	±123	磁器	蓋	-	-	3.0	外径（10.2）、稜径 3.6、外面に青磁釉、頂に銘「2重内に鶴丸」、縁内に四方襷文、天井 2 重圏線内に五弁花文	白	染付・青磁釉	18c 中葉～後半	肥前
669	Ⅱ	Ⅱ-土123-30	±123	陶器	碗	7.9	3.95	3.0	被熱	淡黄灰	灰釉	19c	瀬戸・美濃
670	Ⅱ	Ⅱ-土123-31	±123	陶器	碗	(6.9/5)	1.8	4.1	外面に上絵（赤・緑）、内面に黒色付着物（使用痕か）、登 8・9 小	淡灰	透明釉・上絵	18c 後半～19c 初頭	美濃
671	Ⅱ	Ⅱ-土123-32	±123	陶器	碗	8.4	2.7	5.2	外面に鉄絵で唐草文、被熱、漆継有り	淡灰	灰釉・鉄絵	19c 前半	美濃
672	Ⅱ	Ⅱ-土123-33	±123	陶器	碗	(8.7)	-	-	外面に鉄絵で唐草文	淡黄白	透明釉・鉄絵	19c 前半	瀬戸・美濃
673	Ⅱ	Ⅱ-土123-35	±123	陶器	碗	(8.8)	-	-	外面に上絵（緑）で唐文、登 8・9 小	淡黄白	透明釉・上絵	18c 後半～19c 初頭	瀬戸
674	Ⅱ	Ⅱ-土123-36	±123	陶器	碗	-	2.9	-	外面に上絵（緑）で草文	淡灰	透明釉・上絵	18c か	京・信楽か
675	Ⅱ	Ⅱ-土123-34	±123	陶器	碗	(10.8)	-	-	外面に上絵で四唐文、内面に上絵で梅花文、被熱	淡黄白	透明釉・上絵	18c か	京・信楽
676	Ⅱ	Ⅱ-土123-37	±123	陶器	碗	(8.8)	(4.85)	5.2	外面に鉄絵で渦詩、口縁	淡灰	透明釉・鉄絵	19c か	京・信楽か
677	Ⅱ	Ⅱ-土123-38	±123	陶器	碗	-	3.3	-	外面に上絵（緑）、高台内に刻印「雲山」	淡黄白	透明釉・上絵	17c 中葉～	京・信楽
678	Ⅱ	Ⅱ-土123-116	±123	炻器	碗	(7.8)	4.0	5.9	外面に草文、炻器焼成、登 10・11 小	灰	染付	19c	美濃
679	Ⅱ	Ⅱ-土123-44	±123	陶器	碗	7.9	3.7	5.9	胴系碗、胴部に回転彫文による廻子文、外面釉掛け分け	淡灰	鉄釉・飴釉	18c 後半	美濃
680	Ⅱ	Ⅱ-土123-45	±123	陶器	碗	(8.0)	(4.1)	5.95	胴系碗、胴部に回転彫文による廻子文、外面釉掛け分け、登 8・9・10 小頭	淡灰	鉄釉・飴釉	18c 後半～19c 前半	美濃
681	Ⅱ	Ⅱ-土123-47	±123	陶器	碗	(9.55)	3.9	4.85	せんじ、外面に銅緑釉	淡黄灰	灰釉・銅緑釉	18c 後半	瀬戸
682	Ⅱ	Ⅱ-土123-48	±123	陶器	碗	(10.7)	-	-	外面に草文	淡黄白	灰釉	18c 後半	瀬戸
683	Ⅱ	Ⅱ-土123-46	±123	陶器	碗	(10.3)	-	-		灰	灰釉	不明	美濃
684	Ⅱ	Ⅱ-土123-58	±123	陶器	碗	11.2	5.2	7.55	象谷茶碗、鉄釉の乃外面にうのふ釉、象谷編 6 残存、高台に刻印「○」、登 7・8 小頭	淡灰	鉄釉・うのふ釉	18c 後半	瀬戸・美濃
685	Ⅱ	Ⅱ-土123-59	±123	陶器	碗	11.6	5.2	7.95	象谷茶碗、鉄釉の乃外面にうのふ釉、象谷編 7 残存、高台に刻印	淡灰	鉄釉・うのふ釉	18c 後半	美濃
686	Ⅱ	Ⅱ-土123-57	±123	陶器	碗	-	5.0	-	象谷茶碗、高台に刻印「⊗」	淡黄灰	鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
687	Ⅱ	Ⅱ-土123-60	±123	陶器	碗	(11.3)	4.7	6.95	外面に沈版 2	淡灰	鉄釉	18c 後半	美濃
688	Ⅱ	Ⅱ-土123-61	±123	陶器	碗	10.95	4.9	7.3	外面に沈版 4	淡灰	鉄釉	18c 後半	美濃
689	Ⅱ	Ⅱ-土123-83	±123	陶器	碗	-	-	-	鎬部か、胴形碗、外面に鉄絵で開版文	淡灰褐	長石釉・鉄絵	17c 前半	美濃
690	Ⅱ	Ⅱ-土123-53	±123	陶器	碗	(11.1)	-	-	天目茶碗	淡灰	鉄釉	不明	不明
691	Ⅱ	Ⅱ-土123-50	±123	陶器	碗	(10.7)	-	-	天目茶碗、大脚 4	淡黄灰	鉄釉	16c 末～17c 初頭	美濃
692	Ⅱ	Ⅱ-土123-49	±123	陶器	碗	(10.5)	5.0	6.65	天目茶碗、登 2 小後半	淡灰	鉄釉	17c 中葉	瀬戸
693	Ⅱ	Ⅱ-土123-51	±123	陶器	碗	(11.1)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登 1 小	淡黄白	鉄釉	17c 前半	美濃
694	Ⅱ	Ⅱ-土123-52	±123	陶器	碗	(11.8)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登 2 小	黄灰	鉄釉	17c 前半	美濃
695	Ⅱ	Ⅱ-土123-54	±123	陶器	碗	(11.2)	4.8	7.0	見込みに重ね焼き痕	淡褐	灰釉	17c 末～18c 後半	肥前

図	時期区分	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
696	Ⅱ	Ⅱ-土123-55	土123	陶器	碗	(10.7)	-	-	漆継痕	淡黄白	透明釉	17c 末～18c 後半	肥前
697	Ⅱ	Ⅱ-土123-56	土123	陶器	碗	-	4.7	-		黄白	灰釉	17c 末～18c 後半	肥前
698	Ⅱ	Ⅱ-土123-80	土123	陶器	碗	(13.4)	5.7	11.0	連房蕾 b	灰	灰釉	18c 前半	美濃
699	Ⅱ	Ⅱ-土123-42	土123	陶器	碗	(9.1)	3.0	5.25	高台内に墨書で銘目文、登 8・9 小	淡黄白	灰釉	18c 後半～19c 初頭	瀬戸
700	Ⅱ	Ⅱ-土123-43	土123	陶器	碗	-	3.2	-	高台内に墨書で銘目文、登 8・9 小	淡灰	灰釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
701	Ⅱ	Ⅱ-土123-39	土123	陶器	碗	-	3.1	-	高台内に墨書「近」	淡灰白	灰釉	18c 後半～19c 初頭 か	京・信楽
702	Ⅱ	Ⅱ-土123-40	土123	陶器	碗	-	4.4	-	高台内に墨書「所」	淡黄白	灰釉	17c 末～18c 中葉か	瀬戸
703	Ⅱ	Ⅱ-土123-41	土123	陶器	碗	-	3.9	-	高台内に墨書「連」か	淡黄白	灰釉	17c 末～18c 中葉か	瀬戸
704	Ⅱ	Ⅱ-土123-62	土123	陶器	仏飯器	-	4.3	-	底部に墨書「東西南北」、登 9・10 小	淡黄白	灰釉	19c 前半	瀬戸
705	Ⅱ	Ⅱ-土123-63	土123	陶器	皿	(8.9)	-	-	見込み白抜のち鉄絵	淡黄白	透明釉・白尻・鉄絵	17c 中葉～	京・信楽
706	Ⅱ	Ⅱ-土123-64	土123	陶器	皿	(9.1)	4.3	2.4	鋸歯、被熱、連房蕾 c	淡灰白	灰釉	18c 後半	美濃
707	Ⅱ	Ⅱ-土123-68	土123	陶器	皿	(11.75)	4.8	3.05	内面に唐草花文、見込みに花文、陶器染付、登 9 小	淡黄白	染付	19c 初頭	瀬戸
708	Ⅱ	Ⅱ-土123-67	土123	陶器	皿	(11.45)	(6.65)	2.35	志野丸皿、煤付着、大窯 4 末	灰白	長石釉	16c 末～17c 初頭	美濃
709	Ⅱ	Ⅱ-土123-70	土123	陶器	皿	10.0	3.9	1.95	灯明皿か、暮明底、見込みに目跡 3、登 8・9 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
710	Ⅱ	Ⅱ-土123-69	土123	陶器	皿	7.1	2.3	1.25	灯明皿か、登 8・9 小	淡褐	鉄釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
711	Ⅱ	Ⅱ-土123-71	土123	陶器	皿	9.5	3.0	2.4	灯明皿か、見込みに目跡 3、登 8・9 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
712	Ⅱ	Ⅱ-土123-73	土123	陶器	皿	9.5	3.4	2.2	灯明皿か、外面に煤付着、登 8・9 小	不明	鉄釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
713	Ⅱ	Ⅱ-土123-72	土123	瓦器	皿	10.9	-	1.95	灯明皿か、口縁部内外面に煤・タール付着	赤褐	-	18c ～	備前か
714	Ⅱ	Ⅱ-土123-77	土123	陶器	皿	(24.1)	(12.5)	4.8	行燈、内面に呉須絵・鉄絵で蔦唐文、見込み に目跡、被熱、登 10 小	淡黄褐	灰釉・呉須絵・鉄絵	19c 前半	瀬戸
715	Ⅱ	Ⅱ-土123-78	土123	陶器	水盤	(22.2)	(15.7)	13.4	外面に沈線 4・隆帯・灰釉のちうの ふ釉、三足、漆継痕、登 8 小	淡灰	灰釉・うのふ釉	18c 後半	瀬戸
716	Ⅱ	Ⅱ-土123-82	土123	陶器	鉢	(17.6)	-	-	内外面に白泥のち鉄絵で菊花文	赤褐	白尻・鉄絵	17c 中葉	肥前
717	Ⅱ	Ⅱ-土123-79	土123	陶器	鉢	(14.8)	6.7	8.4	外面鉄釉・灰釉掛け分け、見込み に目跡	黄白	灰釉・鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
718	Ⅱ	Ⅱ-土123-86	土123	陶器	鉢	-	7.4	-	見込みに目跡 3、高台内に墨書「カリ」か	淡黄白	鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
719	Ⅱ	Ⅱ-土123-85	土123	陶器	鉢	(20.3)	7.7	5.9	輪花鉢	淡灰	灰釉	18c 後半	美濃
720	Ⅱ	Ⅱ-土123-89	土123	陶器	鉢	24.0	11.0	6.7	内面に刷毛で文様、全面施釉	淡黄白	錆釉	17c 前半か	瀬戸
721	Ⅱ	Ⅱ-土123-88	土123	陶器	鉢	(22.6)	-	-	練鉢	淡黄白	灰釉	18c 中葉	瀬戸・美濃
722	Ⅱ	Ⅱ-土123-87	土123	陶器	鉢	(26.0)	-	-	練鉢、登 7 小	淡灰白	灰釉	18c 中葉	瀬戸
723	Ⅱ	Ⅱ-土123-81	土123	陶器	片口	(15.8)	(8.8)	7.7	内面灰釉のち銅緑釉流し掛け、登 8 小	淡灰	灰釉・銅緑釉	18c 後半	瀬戸
724	Ⅱ	Ⅱ-土123-93	土123	陶器	擂鉢	-	-	-	片口	淡灰白	鉄釉	不明	美濃
725	Ⅱ	Ⅱ-土123-92	土123	陶器	擂鉢	33.4	(13.2)	14.25	櫛目 18.6 1 単位、登 8 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半	瀬戸
726	Ⅱ	Ⅱ-土123-117	土123	瓦器	擂鉢	(23.4)	-	-		赤褐	-	18c 前半～中葉	堺
727	Ⅱ	Ⅱ-土123-94	土123	陶器	擂鉢(口	(4.7)	4.6	2.55	連房蕾 c	淡灰白	灰釉	18c 後半	美濃
728	Ⅱ	Ⅱ-土123-91	土123	陶器	植木鉢	(24.0)	(15.6)	14.6	外面に唐子の浮出文、口縁～側面に灰釉、底部～腰部に鉄釉、三足、見込み・底部に鉄釉	淡黄灰	灰釉・鉄釉	幕末	瀬戸
729	Ⅱ	Ⅱ-土123-84	土123	陶器	香炉か	(16.0)	-	-	内面施釉	淡褐	鉄釉	17c 前半	美濃
730	Ⅱ	Ⅱ-土123-96	土123	瓦器	灰落し	(4.2)	(5.9)	7.9	外面に土絵(緑・黒・赤)で文様、三足	淡黄白	透明釉・上絵	18c 後半	瀬戸・美濃
731	Ⅱ	Ⅱ-土123-101	土123	陶器	火入れ	(8.0)	4.7	6.1	輪花、暮明底、外面に鉄絵で蝶・折松葉文、外面～縁内に白泥のち灰釉、縁内に指頭圧痕、見込及び底面被熱	淡灰	白尻・灰釉・鉄絵	不明	京・信楽か
732	Ⅱ	Ⅱ-土123-90	土123	陶器	瓶	(25.6)	-	-	灰釉のちうのふ釉流し掛け	赤褐	灰釉・うのふ釉	19c ～	不明
733	Ⅱ	Ⅱ-土123-95	土123	陶器	瓶	(26.6)	(15.6)	21.5	外面胴部に沈線文、外面～縁内に鉄釉、内面に灰釉、高台内に墨書「酒」か、漆継痕	淡褐～淡灰	鉄釉・灰釉	19c ～	不明
734	Ⅱ	Ⅱ-土123-119	土123	瓦器	瓶	1.3	(2.2)	5.8	ロクロ成形の弓変形	暗灰	-	不明	不明
735	Ⅱ	Ⅱ-土123-97	土123	陶器	瓶	(2.7)	-	-	外面に呉須絵で文様	淡灰白	透明釉・呉須絵	18c 中葉	美濃
736	Ⅱ	Ⅱ-土123-98	土123	陶器	徳利	(3.25)	-	-	口石徳利、外面に柚釉のちうのふ釉流し掛け、登 5・6 小	黄白	飴釉・うのふ釉	17c 末～18c 初頭	瀬戸・美濃
737	Ⅱ	Ⅱ-土123-118	土123	瓦器	鍋か	-	(7.8)	-	底部に切目「ム」、切目内に朱か	暗灰	-	不明	不明
738	Ⅱ	Ⅱ-土123-99	土123	瓦器	仏花瓶	-	(5.6)	-	鳥子を耳板、外面に灰釉・鉄釉上下掛け分け、連房蕾 c	灰	灰釉・鉄釉	18c 後半	美濃
739	Ⅱ	Ⅱ-土123-100	土123	陶器	水注	-	9.0	-	無釉、注口・把手剥落	淡灰	-	不明	不明
740	Ⅱ	Ⅱ-土123-102	土123	陶器	土瓶	(11.0)	-	-	外面に鉄絵で折松葉文、登 8 小～	淡黄	透明釉・鉄絵	18c 後半～	瀬戸・美濃か
741	Ⅱ	Ⅱ-土123-108	土123	陶器	水滴	-	-	(3.3)	銅深井、連房蕾 a	淡灰白	銅深井釉	17c 後半	美濃
742	Ⅱ	Ⅱ-土123-103	土123	陶器	土鈴	20.2	8.0	10.7	内 1 と 2 穿孔の転状双耳、見込み 輪前景、外面煤付着	淡黄白	鉄釉	18c 後半か	瀬戸
743	Ⅱ	Ⅱ-土123-109	土123	陶器	乗燭	3.85	2.2	2.0	登 10・11 小	淡黄白	灰釉	19c	瀬戸
744	Ⅱ	Ⅱ-土123-74	土123	陶器	灯明受皿	10.1	3.7	1.9	消耗、外面に煤付着、登 8 小	不明	鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
745	Ⅱ	Ⅱ-土123-75	土123	陶器	灯明受皿	10.0	3.01	2.3	消耗、外面に煤付着、登 8 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
746	Ⅱ	Ⅱ-土123-76	土123	瓦器	灯明受皿	10.8	2.2	2.35	油溝アーチ状 3、内外面に煤・タール付着	赤褐	-	18c ～	備前か
747	Ⅱ	Ⅱ-土123-104	土123	陶器	蓋	-	-	1.45	外径 6.0、摘み径 3.1、煤付着	淡灰	灰釉	17c 末～18c 中葉	瀬戸・美濃
748	Ⅱ	Ⅱ-土123-107	土123	陶器	蓋	-	-	-	外径 (7.5)、返り径 (6.2)、外面に上絵(緑・黒)で文様	淡黄白	透明釉・上絵	18c 後半	瀬戸・美濃
749	Ⅱ	Ⅱ-土123-106	土123	陶器	蓋	-	-	2.35	外径 8.9、返り径 6.8、外面に上絵(赤・緑)で押文、被熱	淡灰褐	透明釉・上絵	18c 後半	美濃か
750	Ⅱ	Ⅱ-土123-105	土123	陶器	蓋	-	-	-	外径 9.4、返り径 7.2、外面にイッチン白描・鉄絵・呉須絵で梅文	淡灰白	透明釉・イッチン・鉄絵・呉須絵	18c 中葉	京・信楽
751	Ⅱ	Ⅱ-土123-121	土123	瓦器	火鉢	(14.8)	-	-	外面に回転沖刷、ミガキのち沈線、硬質瓦質、内面煤付着、口縁に最打痕か	暗灰	-	18c 後半～	在地か
752	Ⅱ	Ⅱ-土123-122	土123	瓦器	擂か	(25.2)	-	-	内面に接着用の溝、硬質瓦質	灰	-	18c 後半～	在地か
753	Ⅱ	Ⅱ-土123-123	土123	瓦器	擂か	-	(19.2)	-	三足、硬質瓦質	灰～淡褐	-	18c 後半～	在地か
754	Ⅱ	Ⅱ-土123-120	土123	瓦器	火鉢	(24.0)	-	-	口縁に別み、外面ヘラ削りのちミガキ、軟質瓦質	淡褐～淡灰	-	17c ～ 18c 初頭	在地か
755	Ⅱ	Ⅱ-土123-127	土123	土器	皿	8.6	5.6	1.75	ロクロ成形	暗灰褐	-	不明	在地か